芽室西中学校校舎屋上外壁・体育館屋根外壁改修工事ーＲ２繰越

図面リスト

（建築主体）				（校門解体）			
番号	図面名称	１期工事（本工事）	２期工事（次年度以降）	番号	図面名称	本工事	
A－1	配置図・案内図	●	●	B－1	校門構造図	●	
－2	仕上表1（既存・改修後校舎棟）	●	●				
－3	仕上表2（既存・改修後校舎棟）		●				
－4	仕上表3（既存・改修後校舎棟）		●				
－5	仕上表4（既存・改修後屋内体育館棟）	●	●				
－6	既存・撤去1階平面図	●	●				
－7	改修後1階平面図	●	●				
－8	既存・撤去2階平面図	●	●				
－9	改修後2階平面図	●	●				
－10	既存・撤去屋根伏図	●					
－11	改修後屋根伏図	●					
－12	既存・撤去立面図	●					
－13	改修後立面図	●					
－14	既存 外壁フード撤去立面図	●					
－15	外壁フード改修立面図	●					
－16	既存・撤去矩計図（校舎棟）	●	●				
－17	改修後矩計図（校舎棟）	●	●				
－18	既存・撤去矩計図（屋内体育館棟）	●	●				
－19	改修後矩計図（屋内体育館棟）	●	●				
－20	既存・撤去・改修建具表	●					
－21	弱電設備1階平面図（電気錠改修）	●					
－22	弱電設備2階平面図（電気錠改修）	●					
－23	部分詳細図(1)	●					
－24	部分詳細図(2)	●					
－25	家庭科・準備室 調理台撤去・改修詳細図		●				
－26	既存家庭科・準備室 設備撤去図		●				
－27	家庭科・準備室 設備改修図		●				
－28	既存・撤去1階天井伏図		●				
－29	改修後1階天井伏図		●				
－30	既存・撤去2階天井伏図		●				
－31	改修後2階天井伏図		●				
－32	エレベーター新設部 平面詳細図		●				
－33	エレベーター新設部 断面図		●				
－34	エレベーター詳細図(1)（本体・取付は昇降設備工事）		●				
－35	エレベーター詳細図(2)（本体・取付は昇降設備工事）		●				
－36	エレベーター詳細図(3)（本体・取付は昇降設備工事）		●				
－37	エレベーター詳細図(4)（本体・取付は昇降設備工事）		●				
－38	エレベーター新設 構造図		●				
－39	既存1階建具キープラン(窓枠改修用)	●					
－40	既存2階建具キープラン(窓枠改修用)	●					
－41	既存建具表(1)(窓枠改修用)	●					
－42	既存建具表(2)(窓枠改修用)	●					
－43	既存建具表(3)(窓枠改修用)	●					
－44	屋体 既存建具キープラン（外壁改修面積算定用参考図）	●					
－45	屋体 既存建具表（外壁改修面積算定用参考図）	●					
－46	校舎 屋外鉄骨階段詳細図（外壁改修面積算定用参考図）	●					

株式会社 創造設計舎　　2018.11

工事番号	

西中学校屋上外壁改修工事－R2

特記仕様書

共通事項特記仕様書
　Ⅰ　工事概要及び範囲
　Ⅱ　各　工　事
　Ⅲ　総合評価方式による必要事項
　第１章　一般共通事項

改修工事特記仕様書
　第２章　仮　設　工　事
　第３章　防水改修工事
　第４章　外壁改修工事
　第５章　建具改修工事
　第６章　内装改修工事
　第７章　塗装改修工事
　第８章　耐震改修工事
　第９章　環境配慮改修工事
　第10章　屋　根　工　事
　第11章　そ　の　他

電気設備工事特記仕様書
　工　事　概　要
　電気設備共通事項
　電力設備工事
　発電設備工事
　通信・情報設備工事
　構内配電線路設備・構内通信線路設備
　機器取り付け高さ

機械設備工事特記仕様書
　工　事　概　要
　機械設備共通事項
　空気調和設備
　暖　房　設　備
　冷　房　設　備
　換　気　設　備
　排　煙　設　備
　給　油　設　備
　自動制御設備
　給　水　設　備
　排　水　設　備
　給　湯　設　備
　衛　生　器　具
　消　火　設　備
　ガ　ス　設　備
　厨　房　機　器
　環境配慮改修工事
　そ　の　他

Ⅰ　工事概要及び範囲

1.　工 事 場 所　　河西都芽室町芽室南2線30番地3
2.　工 事 範 囲　　※　下記●は、工事対象範囲を示す。

	名　称	構造種別・階数	数　量	単位	備　考
●	校舎棟	RC造・2階建	4,100.43	㎡	
●	屋内体育館棟	RC造・2階建	1,484.63	㎡	
○					
○					

内訳

	名　称	構造	階数	型別	戸　数	延べ面積(㎡)	備　考
○				2DK	戸	㎡	
				2LDK	戸	㎡	
				3LDK	戸	㎡	
				住戸部計	0 戸	㎡	
○				2DK	戸	㎡	
				2LDK	戸	㎡	
				3LDK	戸	㎡	
				住戸部計	0 戸	㎡	
○				2DK	戸	㎡	
				2LDK	戸	㎡	
				3LDK	戸	㎡	
				住戸部計	0 戸	㎡	

3.　建設工事に係る資材の再資源化に関する法律の対象の有無　　●　有　　○　無
4.　指定部分工事
(1)　工事範囲
(2)　指定工期　　契約日より　平成　　年　　月　　日 まで
5.　別 途 工 事
6.　施 工 区 分（分離発注の場合のみ記入）
　　※　下記●は、工事対象範囲を示す。

項　目 ＼ 工　種	建築	電気	暖房	衛生	備　考
躯体の設備配管用のｽﾘｰﾌﾞ、箱抜等及びﾓﾙﾀﾙ等の充填	○	○	○	○	補強は建築
上記の補強	○				
設備機器用天井、壁、床下地の開口及び開口補強	○				埋込電灯、ｽﾋﾟｰｶｰ、ﾌｧﾝ等
設備機器用天井、壁、床仕上材の切込		○	○	○	補強は建築
設備用天井、床点検口	○				
防火戸用煙感知器、自動閉鎖装置		○			
設備機器用基礎	○	○	○	○	
ﾄｰﾝﾄﾞﾚｲ排水金物	○			○	配管は衛生
流し台、ユニットバスの排水トラップ	○				接続は衛生
木製建具枠の取付け	○				木製建具枠のﾚｰﾙの欠込は建築
換気扇等取付枠	○	○	○	○	
同上　防雪フード	○		○		
外壁面入排気ガラリ及び防虫板	○		○		
水道検針盤		○	○	○	
灯油集中盤への配線接続		○	○	○	

Ⅱ　各　工　事

1.　図面（工事数量総括表を含む）及び、この特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書　平成28年版（各工事編）」（以下「標準仕様書」という）、「公共建築改修工事標準仕様書　平成28年版（各工事編）」（以下、改修標準仕様書という）、「建築物解体工事共通仕様書　平成24年版」（以下「解体共通仕様書」という）及び、「北海道建設部土木工事共通仕様書（平成28年10月版）」による。

2.　特記事項の適用については次による。
　ｲ.章は○印を、項目は ▷ 印を塗りつぶしたものを適用する。
　ﾛ.特記事項は○印を塗りつぶしたものを適用し、塗りつぶしのない場合は ＊ 印をつけたものを適用する。
　ﾊ.特記事項で○印を塗りつぶしたものと、◎ 印のつけたものがある場合は、共に適用する。
　ﾆ.特記事項に記載の（　）内表示番号は、標準仕様書の該当項目。該当図又は該当表を示す。
3.　この特記仕様書に施工部位の記載のないものは図面によるものとする。
4.　本工事における工事監理業務委託の有無　＊ 有　　○ 無
5.　次の場合に該当し、発注者が必要と認める場合は、設計変更する。
　ただし、概数の確定による変更は除く。
(1)　設計図書間に不一致等がある場合
ｱ.　設計図書に記載されている内容が数量総括表等と一致しない、又は脱漏している場合等
(2)　設計図書と現場の状態とに不一致等がある場合
ｱ.　設計図書により示した条件と現場の状態が一致しないことにより施工方法・範囲の変更を必要とする場合等
ｲ.　設計図書のとおり施工することにより施設利用者又は使用者の利便性、安全性を損わることが判明した場合等
ｳ.　受注者からの提案に基づく施工方法が設計図書のとおり施工することより経済性、工法的に合理性があると判明した場合等
(3)　関係機関等との協議結果による工法変更及び仮設工変更等がある場合
　なお、大空間等の仮設工事において施工条件に変更が生じた場合や受注者からの提案がより経済性や工法的な合理性に優れていると認められる場合は、原則として設計変更の対象とする。
6.　工期前に工事が完成する場合の、共通仮設費等の減額分の合計額が工事費の１／１００を超える場合は、発注者と受注者が協議し工事請負額を減額でき ることとする。
7.　工事に係る留意事項及び施工条件は、次のとおりとする。
・工事工程は、工事監督員及び学校側との十分な調整を図ること。
・学校を運営しながらの工事となるため、施工にあたっては工法を検討すると共に十分に安全管理に留意すること。
・着工に先立ち、監督職員に「総合施工計画書」を提出して承認を得ること。
・建物及び敷地の状況等の事前調査を行い、所要の施工計画書を作成すること。
・重機、資材等の搬出入は、事前に監督員及び学校関係者と打合せを行い、通学時間を避けるとともに生徒、通行人の安全確保に留意すること。

Ⅲ　総合評価方式による必要事項

○ 標準型総合評価方式
　技術提案について

1.　技術提案の保護
　　技術提案については、その後の工事において、その内容が一般的に使用されている状態となった場合は、北海道が無償で使用できるものとする。ただし、工業所有権等の排他的権利を有する事項が含まれる提案については、この限りではない。
2.　責任の所在
　　発注者が技術提案等を適正と認めることにより、設計図書において施工方法等を指定しない部分の工事に関する落札者の責任が軽減されるものではない。

3.　技術提案に係る履行確認及びペナルティ

○ 簡易型総合評価方式（施工計画審査タイプ）
　技術評価項目について
1.　責任の所在
　　発注者が技術評価項目申請を適正と認めた場合においても、技術評価項目に係る施工に関する受注者の責任は軽減されるものではない。
2.　技術評価項目に係る履行確認
　　簡易な施工計画、配置予定技術者、担い手の育成・確保、地域の守り手確保に係る技術評価項目については、工事施工中又は工事完了時において履行状況について確認を行う。
3.　「地域の技能士等の活用」の履行確認
　　当該工事施工中に、監督員が施工の立会時に合わせて、技能士等の資格、居住地及び作業状況を確認し、その確認状況を受注者が写真撮影することを原則とし、技術士選定通知書に添付するものとする。
4.　技術評価項目に係るペナルティ
　　加点評価した技術評価項目を受注者の責により履行できない場合は、工事施行成績評定評点採点表の評定点合計から減点するものとし、その内訳は次のとおりとする。
　　但し、自然災害など受注者の責によらない場合はこの限りでない。
(1)　簡易な施工計画
ｱ.　入札時に加点評価した簡易な施工計画について、不履行が発生し、入札時の評価が下がる場合に減点する。
ｲ.　減点は、１項目当たり最大５点とする。
(2)　主任（監理）技術者
ｱ.　主任（監理）技術者が交代し、新しく配置された技術者の資格、継続教育の評価の合計点が、入札時の評価より下がる場合に減点する。
　　なお、技術者の交代の理由が、死亡や健康上の理由、退職等、やむを得ない場合においても評価が下がれば減点する。
ｲ.　減点は、評価が下がる項目の組合せに応じて、最大４点とする。
(3)　追加配置した技術者
　　追加配置した技術者が交代し、新しく配置された技術者が評価基準に該当しない場合は、５点減点する。
(4)　地域の技能士の活用、地域企業の活用、地域資材の活用、その他の評価項目の不履行による減点
ｱ.　申請のあった計画に対して、明らかに不履行が認められ、入札時の評価が下がる場合に減点する
ｲ.　減点は、１項目当たり一律５点とする。
ｳ.　その他の評価項目については、履行確認が必要となる場合のみに適用する。

○ 簡易型総合評価方式（施工実績審査タイプ）
　技術評価項目について
1.　責任の所在
　　発注者が技術評価項目申請を適正と認めた場合においても、技術評価項目に係る施工に関する受注者の責任は軽減されるものではない。
2.　技術評価項目に係る履行確認
　　簡易な施工計画、配置予定技術者、担い手の育成・確保、地域の守り手確保に係る技術評価項目については、工事施工中又は工事完了時において履行状況について確認を行う。

3.　「地域の技能士等の活用」の履行確認
　　当該工事施工中に、監督員が施工の立会時に合わせて、技能士等の資格、居住地及び作業状況を確認し、その確認状況を受注者が写真撮影することを原則とし、技能士選定通知書に添付するものとする。
4.　技術評価項目に係るペナルティ
　　加点評価した技術評価項目を受注者の責により履行できない場合は、工事施行成績評定評点採点表の評定点合計から減点するものとし、その内訳は次のとおりとする。
　　但し、自然災害など受注者の責によらない場合はこの限りでない。
(1)　主任（監理）技術者
ｱ.　主任（監理）技術者が交代し、新しく配置された技術者の資格、継続教育の評価の合計点が、入札時の評価より下がる場合に減点する。
　　なお、技術者の交代の理由が、死亡や健康上の理由、退職等、やむを得ない場合においても評価が下がれば減点する。
ｲ.　減点は、評価が下がる項目の組合せに応じて、最大４点とする。
(2)　追加配置した技術者
　　追加配置した技術者が交代し、新しく配置された技術者が評価基準に該当しない場合は、５点減点する。
(3)　地域の技能士の活用、地域企業の活用、地域資材の活用、その他の評価項目の不履行による減点
ｱ.　申請のあった計画に対して、明らかに不履行が認められ、入札時の評価が下がる場合に減点する。
ｲ.　減点は、１項目当たり一律５点とする。
ｳ.　その他の評価項目については、履行確認が必要となる場合のみに適用する。

●　第 1 章　一般共通事項

項　目	特　記　事　項
▶　1. 道産材等の優先使用	本工事に使用する主要資材は、道産資材及び北海道認定リサイクル製品を使用するよう努めること。（木材及び木材製品は除く。）
▶　2. 環境への配慮	受注者は本工事において、次の(1)から(4)を順守するとともに、北海道公共建築工事シックハウス対策マニュアルに基づき工事を行うこと。 (1)　化学物質を放散させる建築材料等（※１） 　本工事に使用する建築材料等は、測定対象化学物質を含有していないものを基本とし、安全データシート（ＳＤＳ）や成分組成表により確認を行う ほか、次の１）から３）を満たすものとする。 １）　ホルムアルデヒド放散建築材料に指定されている材料は、ＪＩＳ又はＪＡＳに定められたＦ☆☆☆☆を使用する。ただし、Ｆ☆☆☆☆材がない場合は監督職員と協議すること。 ２）　接着剤は、フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用している環境対応型（配慮型）のものとする。 ３）　家具、建具類及び二次製品は、測定対象化学物質を含有しないか含有が極めて少ないものとする。 ※１　化学物質を放散する建築材料等 合板／木質系フローリング／構造用パネル／集成材／単板積層材／ＭＤＦ／パーティクルボード／その他の木質建材／ユリア樹脂板／壁紙／保温材／緩衝材／断熱材／接着剤／塗料／仕上材料／表面処理用木材保存（防腐・防蟻）剤 (2)　環境物品等の調達 　本工事の資材等に係る環境物品等の調達は、北海道グリーン購入基本方針に基づく現行の環境物品等調達方針により行うよう努める。 　上記における同調達方針として、資材（材料及び機材を含む）の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷軽減に配慮した物品を積極的に使用するように努めること。

項　目	特　記　事　項
▶　3. 地域材の優先使用	本工事に使用する木材または木材を原料とする資材を使用する場合は、地域材を優先的に使用することとし、使用した材料の種別、産地等を監督員に報告すること。 　地域材とは、道内の森林で産出され、道内で加工された木材をいう。
▶　4. 合法木材の使用	木材又は、木材を原料とする資材を使用する場合は、関伐材や合法性の証明された材を使用すること。 　また、木材の合法性の証明は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（平成１８年２月林野庁）に準拠し、資材納入業者から証明を受けるとともに、証明書類を工事完了年度から起算して５年間保存すること。
▶　5. 特別な材料の工法	設計図書等に指定されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。
▶　6. 品質計画	建築基準法に定められた区分等 ・風　　速（Ｖｏ＝　30　ｍ／ｓ） ・地表面粗度区分（　○Ⅰ　　●Ⅱ　　○Ⅲ　　○Ⅳ　） ・垂直積雪量（　130　cm）
▶　7. 工事写真	工程写真及び完成写真は、北海道建設部監修営繕工事記録写真撮影要領による。 　本工事でデジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督員の承諾を得たうえで デジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事とすることができる。この場合は、営繕工事記録写真撮影要領別添「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」によるものとする。

▶ 8. 技能士

(1) 技能士の適用は次の職種とし、従事する技能士の氏名・職種及び資格を記載した書面により監督職員に報告する。

ただし、作業の軽微なものは、監督職員との協議により省略することができる。

＜職種＞

型枠施工・鉄筋施工・防水施工・内装仕上施工・サッシ施工・ガラス施工・表装・塗装・建築板金・スレート施工・石材施工・建築大工・とび・左官・ブロック建築・タイル張・ＡＬＣパネル施工・カーテンウォール施工・法面・根脚接着剤注入施工・コンクリート圧送施工・れんが積み施工・冷凍空気調和機器施工・建築配管・熱絶縁施工・建築板金（ダクト板金）

(2) 技能士は、職業能力開発促進法による１級、２級若しくは単一等級の資格を有し、地域技能士会の発行する資格証明書又は、技能検定合格書の写し或いは、技能士手帳の写しを上記（１）の書面に添付する。

(3) 技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業するとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行う。

▶ 9. 施工中の安全確保及び環境保全等

受注者は、標準仕様書に定められた安全確保及び環境保全等のほか、特に次の事項に留意し、工事現場の事故防止に努める。

(1) 労働者の安全衛生教育の徹底を行う。

(2) 工事現場の安全パトロールの励行を行う。

(3) 建設機械器具などの危害防止処置の徹底を行う。

(4) 第三者に災害を及ぼしてはならない。

(5) 公害防止に努める。

(6) 公道の汚染防止に努める。

(7) 善良な管理者の注意をもってしても、災害又は公害の発生の恐れがある場合の処置は、監督職員と協議する。

▶ 10. 交通安全管理

受注者は、工事の施工中の交通事故防止のため交通安全管理に努め、次の事項を遵守する。

(1) 工事着工するに当たり、出来るだけ速やかに工事の施工中の交通安全管理計画を策定し監督職員に提出する。

なお、計画の策定は資材搬出入運行路線・点検体制・その他車両運行に係る安全対策等について道路管理者等関係機関と十分な事前協議を行い、以後も常に連絡を密にとりながら適切な処置を講じるものとする。

(2) 常に下請負人も含め工事施工中の交通安全管理状況の把握に努め、管理状況を適宜監督職員に報告する。

(3) 工事に関連して交通事故が発生したときは速やかに書面により監督職員に報告する。

(4) 運搬には、許可業者を選定するなどして、過積載又は過労運転等に伴う交通事故防止に努める。

(5) 建設機械（ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞｰ､ﾊﾞｯｸﾎｳ等）は、排出ガス対策型を使用し、かつ、低騒音・低振動型の車両を使用すること。

▶ 11. 工事完成時の提出図書等

工事完成時の提出図書等は、次により監督職員に提出する。

(1) 完成図関係

・ 完成の八ッ折

・ 教育庁物件及び道営住宅物件　　１部

・ その他の物件　　２部

○ 新営工事　（位置図・配置図・面積表・平面図）

● 改修工事　（位置図・配置図・面積表・改修概要表・改修後平面図・立面図等）

・ 完成図を製本したもの　　１部

・ 完成図をＡ３版に縮小し製本したもの　　３部

＊ 道営住宅物件は表紙をﾗﾐﾈｰﾄ加工とする

・ 設計原図の貸与　＊ 有り　○ 無し

・ ＣＡＤデータの貸与　＊ 有り　○ 無し

・ ＣＡＤデータの貸与有りの場合

＊ 完成図のＣＡＤデータ及びＰＤＦデータ　ＣＤ－Ｒによる

(2) 保全に関する資料（提出部数　＊ １部　○ ＿＿部）

(3) 保守に関する指導案内書（機器取扱説明書）

＊ 道営住宅物件に適用

各設備の機能が十分発揮しうるよう、主要機器を含めた装置の取扱説明及び保守についての事項を記載したものとする。

指導案内書　Ａ４判カラーを標準とする　建設戸数＋１部

同上データ　ＣＤ－Ｒによる　１式

(4) その他、必要とする書類については、監督職員の指示による。

▶ 12. 工事特性・創意工夫・社会性等

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や社会性等及び技術力に関する事項について工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

▷ 13. 電力基本料金

本受電から引渡しまでの電力基本料金　○ 本工事　○ 別途

▶ 14. 発生材の処理等

発生材の処理等は次により、「建設工事に係る資材の再資源化に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という）、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（以下「リサイクル法」という）、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令及び「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理する。

明示している処分場所については、受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設としているが、処理施設場所を指定するものではない。

受注者の提示する処理施設と積算上の処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、異なる処理施設となった理由が受注者の責によるものでないと判断される場合は、設計変更の対象として扱う。

なお、下記の内容を変更する場合は、別途、監督職員と協議をする。

(1) 発生材のうち、引き渡しを要する範囲は次により、監督職員の指示する方法及び位置に堆積、整理し所定の発生材報告書により監督職員に報告する。

引き渡しを要する範囲：

(2) 受注者が処分する有価物の範囲は次による。

有価物の範囲：

なお、有価物は、次の登録又は許可業者で処分すること。

① 廃棄物再生事業者登録（知事登録）

② 金属くず商許可業者（警察許可）

また、処分を行った場合は、その施設の許可書（写し）と受入伝表又はマニュフェスト伝票等、及び許可書等の写しを監督職員に提出すること。

(3) 特別管理型産業廃棄物

種　類	
処理方法	
処分場所	【　　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　　km）
種　類	
処理方法	
処分場所	【　　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　　km）

(4) 再資源化を図るもの（特定建設資材廃棄物）

種　類	コンクリート塊（有筋）
処分場所	【　十勝　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　3　km）
種　類	建設発生木材
処分場所	【　十勝　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　15　km）
種　類	
処分場所	【　　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　　km）

※ 設計上、特定建設資材廃棄物は発生しない場合で、受注者の都合により実際に特定建設資材を発生させ、廃棄物として処分する場合は、当該特定建設資材廃棄物の再資源化等実施方法の確定後に、工事監督員の確認を受けること。

(5) 再資源化を図るもの（特定建設資材廃棄物以外）

種　類	
処分場所	【　　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　　km）
種　類	
処分場所	【　　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　　km）

(6) その他の発生材

種　類	廃プラスチック類
処理区分	○ 中間処理　● 最終処分
処分場所	【　十勝　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　24　km）
種　類	金属くず
処理区分	● 中間処理　○ 最終処分
処分場所	【　十勝　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　11　km）
種　類	ガラス・陶磁器くず
処理区分	○ 中間処理　● 最終処分
処分場所	【　十勝　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　24　km）
種　類	廃石膏ボード
処理区分	● 中間処理　○ 最終処分
処分場所	【　十勝　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　15　km）
種　類	混合廃棄物
処理区分	● 中間処理　○ 最終処分
処分場所	【　　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　11　km）
種　類	がれき類（モルタルくず他）
処理区分	○ 中間処理　● 最終処分
処分場所	【　十勝　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　24　km）
種　類	
処理区分	○ 中間処理　○ 最終処分
処分場所	【　　】総合振興局（振興局）管内 片道運搬距離　（　　km）

(7) 建設廃棄物の収集・運搬は、産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた者とする。

当該運搬車には、次に掲げる表示を行い、建設省令で定める書面を備え付けること。

産業廃棄物収集運搬車	
業 者 名	（ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ）
許可番号	× × × × ×

(8) 「建設リサイクル法」対象工事及び「リサイクル法」で定められた次の資材の搬入、副産物の搬出がある工事は、工事着手時に再生資源利用・利用促進計画書を提出し、また、工事完了時に再生資源利用・利用促進実施書を提出すること。

リサイクル法で定められた一定規模以上の工事

（次表の一つでも該当するもの）

・ 再生資源利用計画書

次のような建築資材を搬入する工事

土　砂	１，０００ ㎥以上
砕　石	５００ｔ 以上
加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	２００ｔ 以上

・ 再生資源利用促進計画書

次のような指定副資産物を搬出する建設工事

土　砂	１，０００ ㎥以上
コンクリート塊	合計
ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ塊	２００ｔ 以上
建設発生木材	

▶ 15. 北海道循環資源利用促進税

本工事で発生する産業廃棄物が、道内の最終処分場に直接搬入される場合、又は中間処理場に搬入される場合でも残さ等が発生し、最終処分場に搬出される場合は、循環税が課税されるので適正に処理する。

▷ 16. 自主施工期間の施工条件

自主施工期間中は、低温時施工により品質管理上支障の起こす恐れのない工種は、これを積極的に活用できる。

ただし、支障の起こす恐れのある次の工種は、工法等を監督職員と十分協議の上、施工するものとする。

＜工種＞　コンクリート・屋外防水・屋上防水・タイル・左官・塗装・緑化工事その他これに類する工事

▶ 17. 季節労働者などの雇用

工事施工に際しては、職業安定機関と密接な連携を図り、季節労働者などの雇用の拡大に努める。

▶ 18. 下請負人等への支払いの適正化

下請負人等への支払いは現金払いとし、やむを得ず手形払いとする時は、当該手形期間を短く（９０日以内）するよう努める。

▶ 19. 火災保険等

工事着手から完成引渡までの間を契約金額に相当する保険等に加入するものとし、取扱は次による。

(1) 付保する保険

工事の内容により、火災保険、建設工事保険、組立保険等の１以上の保険を付保する。

なお、受注者自ら上記の保険に追加して付する特約等については、これを妨げるものではない。

(2) 保険金

原則として請負代金額とする。

(3) 保険の期間

保険の加入期間は原則として工事着手日から完成引渡しまでの間とする。

工事着手日　～　実際の工事のための準備工事（現場事務所等の建設又は測量を開始すること）の初日をいう。

完成引渡し　～　工期に１４日追加した日とする。

(4) 対象外工事

次に掲げる工事は、対象外工事として保険を付さない事ができる。

① 解体、撤去、分解又は片づけ工事

② 外構工事

(5) 保険契約の変更

保険契約締結後に請負代金額の変更又は工期延長等があった場合は、相応の保険契約を変更しなければならない。

(6) 保険証券等の提出

保険契約を締結（変更も含む）した場合は、当該保険証券等の写しを提出しなければならない。

(7) 協議

この取扱いにより難い事項については、必要に応じて受注者は、発注者と協議するものとする。

▶ 20. 現場環境改善

魅力ある建設工事を推進するため、工事現場の環境改善に努める。

▷ 21. 快適トイレの設置

本工事は、「快適トイレ設置工事」の対象工事である。

(1) 受注者が当該工事の現場に仮設トイレを設置する場合は、建設現場を男女ともに働きやすい職場環境へと改善することを目的に、快適トイレの設置を検討すること。

(2) 快適トイレとは、次の１）及び２）の各項目を全て満たすものとする。３）については、必須ではないが、装備していればより快適になると思われる項目なので、設置を検討すること。

1) 快適トイレに求める標準仕様

① 洋式便座

② 水洗機能（簡易水洗、し尿処理装置付き含む）

③ 臭い逆流防止機能（フラッパー機能：必要に応じて消臭剤等活用し臭い対策を取ること）

④ 容易に開かない施錠機能（二重ロック等：二重ロックの備えがなくても容易に開かないことを誤認者が説明出来るもの）

⑤ 照明設備（電源がなくても良いもの）

⑥ 衣類掛け等のフック付、又は、荷物置き場設備機能（耐荷重５kg以上）

2) 快適トイレとして活用するために備える付属品

⑦ 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示

⑧ 入口の目隠しの設置（男女別トイレ間も含め入口が直接見えないような配置等）

⑨ サニタリーボックス（女性専用トイレに限る）

⑩ 鏡付きの洗面台

⑪ 便座除菌シート等の衛生用品

3) 推奨する仕様、付属品

⑫ 室内寸法900×900mm 以上（半畳程度以上）

⑬ 擬音装置

⑭ 着替え台

⑮ フラッパー機能の多重化

⑯ 窓など室内温度の調整が可能な設備

⑰ 小物置き場等（トイレットペーパー予備置き場）

(3) 快適トイレの設置にあたっては、以下に留意する。

1) 男女別で各１基ずつ設置することを原則とする。ただし、女性が現場にいない場合はこの限りではない。

2) 具体的な実施内容や設置時期については、施工計画書提出時に、(2)の項目を満たすことを確認できる資料を監督員に提出し、規格・設置基数等の詳細について、協議のうえ決定すること。

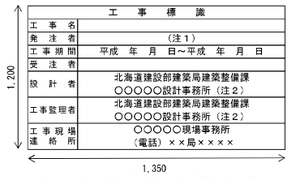
3) 手配が困難な場合は、監督員と協議のうえ設置しないことができる。

▶ 22. 建設業退職金共済制度

工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示する。

▶ 23. 工事標識

受注者は、着工後速やかに公衆の見やすい場所に工事標識を掲示する。



注１ 北海道、北海道教育委員会又は北海道警察本部と記載する。

注２ 設計又は工事監理を設計事務所に委託した場合、事務所名も併せて記載する。

▶ 24. 公共工事労務費調査に対する協力

(1) 本工事が北海道の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合、受注者は、調査票等に必要事項を正確に記入し北海道に提出する等、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。

(2) 調査票等を提出した事業所を北海道が事後に訪問して行う調査・指導の対象に受注者がなった場合、受注者は、その実施に協力しなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。

(3) 公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、受注者は、労働基準法等に従って就業規制を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかなければならない。

(4) 受注者が本工事の一部について下請契約を締結する場合、受注者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前３項と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

▶ 25. 工事実績情報の登録

受注者は、受注時、変更時及び完了時に（１０日以内）工事実績情報システム（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき、「工事カルテ」を作成し、監督職員の確認を受けた後に、（財）日本建設情報総合センターに登録申請しなければならない。

また、同センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督職員に、提出しなければならない。

（対象工事：請負代金額５００万円以上の全工事）

▶ 26. 施工体制台帳の整備

建設業法に基づく施工体制台帳を作成し、施工管理体制に関する事項を監督職員に提出しなければならない。（対象工事：工事１件の請負代金額が２００万以上の工事）ただし、２００万円未満の工事であっても下請契約を締結する場合は、提出すること。

また、公衆の見やすい場所に施工体系図を掲示する。

▷ 27. 中間検査の実施

(1) 中間検査の実施

本工事において、次の段階で中間検査を実施する。

実施対象建物名称	実施部位	実施時期
○ ＿＿＿＿＿	○ 基礎工事	○ 配筋完了時
○ ＿＿＿＿＿	○ ＿＿＿階	○ 躯体完了時
○ ＿＿＿＿＿	○ ＿＿＿階	○ 鉄骨建方　完了時
○ ＿＿＿＿＿	○ ＿＿＿階	○ ＿＿＿＿完了時
○ ＿＿＿＿＿	○ ＿＿＿＿	○ ＿＿＿＿完了時

(2) 上記のほか、発注者が中間検査の実施を必要と認めた場合は、別途文書により通知する。

(3) 受注者は、中間検査実施可能日について、その１４日前までに監督職員に報告し、検査に際して「営繕工事中間検査実施基準」（北海道建設部建築局）に掲げる関係資料を準備する。

▷ 28. 抜き打ち検査の実施

(1) 抜き打ち検査の実施

本工事において、次の段階で抜き打ち検査を実施する。

実施対象建物名称	実施部位	実施時期
○	○ 杭工事	杭工事施工中

▶ 29. 暴力団員等による不当介入を受けた場合の対応

(1) 受注者は、暴力団員等による不当要求又は工事（業務）妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固として これを拒否しなければならない。

また、不当介入があった時点で速やかに警察に通報するとともに、捜査上必要な協力を行わなければならない。

(2) 受注者は、前記により警察へ通報を行った際には、速やかにその内容を監督職員に報告しなければならない。

(3) 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことにより、工程に遅れが生じる等の被害が発生した場合は、監督職員と協議するものとする。

▶ 30. 重点的な監督業務の実施

公共工事の品質確保のために、重点的な監督業務の対象工事に指定された場合は、「建設部建築局営繕工事重点監督実施要領」を適用する。

なお、対象工事に指定した場合は、別途文書により通知する。

▷ 31. 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律への対応

受注者は、「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」に基づき、保険への加入又は保証金の供託を行うこと。

▷ 32. 電子納品

北海道建設部建築局制定の「営繕工事電子納品運用ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）に基づき、工事書類を電子成果品として納品する。

(1) 電子納品の対象書類

電子納品の対象書類は、工事写真及び完成図面を基本とするが、詳細については「ガイドライン」を参考にし、監督職員と協議の上、決定するものとする。

(2) 情報共有

1) 情報共有の対象書類は「ガイドライン」に示すとおりとするが、詳細については監督職員と協議の上、決定する。

2) 本工事における情報共有は、電子メールを利用する。なお、受注者側の通信環境などから、施工・管理する上で効率化が期待できない場合は、監督職員との協議によりデータ授受の方法やデータ種類を決定する。

(3) 要領・基準

電子納品は、「ガイドライン」に基づき実施するほか、特に記載のない限り国土交通省で定めている「営繕工事電子納品要領」及び「官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】」を準用する。

▶ 33. 「営繕工事における地域外（遠隔地）からの建設資材調達に係る設計変更に関する積算方法等」の試行について

地域外（遠隔地）からの建設資材調達に係る設計変更について（試行）

(1) 建設資材の安定的な確保を図るために地域外（遠隔地）から調達せざるを得ない場合には、事前に工事監督員と協議すること。その場合、購入費用及び輸送費等に要した費用について、証明書類（実際の取引伝票等）を工事監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。

(2) 本試行の対象となる建設資材は、生コンクリート・鉄筋・鉄骨・アスファルト合材・石材等（砂、砂利、割栗石等）及び仮設材（運搬に要する費用のみ）とする。

(3) 受注者の責に帰すべき理由による増加費用については、設計変更の対象としない。

(4) 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法の措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。

▶ 34. 「営繕工事における地域外（遠隔地）からの労働者確保に要する費用の積算方法等」の試行について

(1) 本工事は、今後、不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保の方策について変更が生じ、適正な工事の実施が困難となる場合に、必要となる費用について支出実績を踏まえ、設計変更により対応する試行工事である。

なお、当該試行による変更項目は、次による。

（実績変更対象項目）

共通仮設費　共通仮設費率に含まない項目の費用

現場管理費：労務管理費（募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤費等に要する費用）

※労働者確保が出来ず、安易に地域外から確保しても、工事施工箇所の地域において労務のひっ迫状況が確認されなければ、労働者確保に要する費用の設計変更はできません。

(2) 受注者から協議を受け、設計変更が必要と認められる場合は、次のとおりとする。

1) 発注者は、実績変更対象項目について特記仕様書により、積算方法を明確にすることとする。

(4) 電子納品・情報共有実施に伴う環境整備

1) 受注者は、電子納品及び情報共有を行うにあたり、必要なハード環境及びソフト環境を予め保有している、又は手配可能であること。

2) 本工事の契約締結後、受注者は「ガイドライン」に基づき、着手時チェックシートによりインターネット環境や利用ソフト、情報共有対象書類、電子納品対象書類等について監督職員と協議すること。

(5) 電子納品

本工事の電子納品対象書類は、電子媒体（ＣＤ－Ｒ等）により２部を市販ファイル（Ａ４版）に綴じて提出する。

(6) 調査への協力

受注者は、電子納品及び情報共有等に関し、監督職員から調査依頼があった場合、特段の理由がない限りその調査に応じなければならない。

(7) その他

電子納品及び情報共有の遂行にあたり疑義が生じた場合は、監督職員と十分協議すること。

▶ 34. 「営繕工事における地域外（遠隔地）からの労働者確保に要する費用の積算方法等」の試行について

(1) 本工事は、今後、不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保の方策について変更が生じ、適正な工事の実施が困難となる場合に、必要となる費用について支出実績を踏まえ、設計変更により対応する試行工事である。

なお、当該試行による変更項目は、次による。

（実績変更対象項目）

共通仮設費　共通仮設費率に含まない項目の費用

現場管理費：労務管理費（募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤費等に要する費用）

※労働者確保が出来ず、安易に地域外から確保しても、工事施工箇所の地域において労務のひっ迫状況が確認されなければ、労働者確保に要する費用の設計変更はできません。

(2) 受注者から協議を受け、設計変更が必要と認められる場合は、次のとおりとする。

1) 発注者は、実績変更対象項目について特記仕様書により、積算方法を明確にすることとする。

2) 受注者は、労働者確保に要する方策に変更が生じ、北海道建設部営繕工事共通費積算基準等の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終変更時点で設計変更をすることがあるので、受注者は、労働者確保に要する費用の設計変更を希望する場合は、入札時に予定していた労働者確保の方策について、「労働者確保予定表」（様式1-1）に記載し、契約締結後14日以内に、工事打合せ記録簿に添付して工事監督員に提出する。
ただし、労働者確保に要する方策に変更が生じても、設計変更を希望しない場合は、「労働者確保予定表」の提出は不要とし、工事打合せ記録簿で確認を行う。

3) 「労働者確保予定表」を提出した受注者は、工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」（様式1-2）及び「労働者確保に係る実施計画書（詳細内訳）」（様式1-3）を工事施工打ち合わせ簿に添付し工事監督員に提出する。受注者は、「労働者確保に係る実施計画書」等の提出時には、入札時に立案した予算計画における各費用の内訳がわかる資料（見積書等）を整理し保管すること。

4) 工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」等を工事監督員に提出出来ない場合は、原則、労働者確保に要する費用の設計変更は行わない。

5) 工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」等を工事監督員に提出した受注者は、労働者確保に要する方策に変更が生じた場合、速やかに、適正な工事の実施が困難になった理由を工事打合せ記録簿に記載し、工事監督員に提出し協議を行う。

6) 受注者は、工事監督員と協議を行い、労働者確保に要する費用の設計変更が必要と認められた場合、最終精算変更時点において、実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更を請求する際は、実績変更対象費に係る費用の内訳を記載した「労働者確保に係る実績報告書」（様式2-1）、「労働者確保に係る実績報告書（詳細内訳）」（様式2-2）及び実績変更対象費について実際に支払った全ての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など。）を、工期末の30日前までに工事監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。

7) 受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。

8) 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。

費目		実績変更対象項目	当初積算方法
共通仮設費	仮設用借地料（準備費）	（地域外労働者確保に要する）現場事務所（敷地外）、試験室、労働者宿舎、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げに要した地代及び建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げした場合に要した費用	○当初積算では計上していない。
	宿舎費（仮設建物費）	（地域外労働者確保に要する）労働者が、旅館、ホテル等に宿泊した場合に要した費用（労働者送迎費：労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送するために要した費用（運転手賃金、車両損料、燃料費等含む））	○当初積算では計上していない。

現場管理費	募集及び解散に要する費用（労務管理費）	（地域外労働者確保に要する）労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費・手当	○当初積算では計上していない。（地域外労働者以外にかかる募集及び解散に要する費用については現場管理費率に含む）
	賃金以外の食事、通勤等に要する費用（労務管理費）	（地域外労働者確保に要する）労働者の食事補助、交通費の支給	○当初積算では計上していない。（地域外労働者以外にかかる賃金以外の食事、通勤等に要する費用については現場管理費率に含む）

▷ 35. 週休2日モデル工事

本工事は、「週休２日モデル工事」の対象工事である。
(1) 受注者は、週休２日による施工を希望する場合、契約後、監督員に申し出のうえ「週休２日モデル工事」として施工できる。
(2) 週休２日とは、工期内において、土日・祝日に関わらず、週休２日相当の現場閉所を行うことをいう。（年末年始６日間及び夏期休暇３日間は現場閉所日から除く）
(3) 週休２日の確保の取組は、将来の担い手確保、入職しやすい環境づくりを目指すものであることから、週休２日による施工を実施する受注者は、その趣旨 に沿った休日の取得に努めるものとする。
(4) 週休２日の実施の確認方法は、次によるものとする。
1) 受注者は、週休２日の計画工程表を施工計画書に添付し監督員へ提出する。
2) 受注者は、実施結果を工事週報等により定期的に監督員へ報告する。
(5) 週休２日の実施状況について、監督員が必要に応じて聞き取り等の確認を行う場合には、受注者は協力するものとする。
(6) 「週休２日モデル工事」について、受注者を対象としたアンケート調査の依頼があった場合は協力するものとする。

▶ 36. その他

(1) ゴム製品等に係る品質確認について
1) ゴム製品等の品質確認等
受注者は、東洋ゴム化工品(株)、ニッタ化工品(株)で製造された製品や材料（以下、ゴム製品等とする。）を用いる場合には、同社が製造するゴム製品等に対して受注者が指定した第三者（東洋ゴム化工品(株)、ニッタ化工品(株)と資本面・人事面で関係がない者）によって作成された品質を証明する書類を提出し、監督職員の確認を得るものとする。
なお品質証明において、以下の試験及び検査を行う際、製品に応じて必要な規格（計測項目）について取得するものとする。
通常状態での試験（常態試験）～ 硬さ、比重、引張強度、伸び
熱老化試験 ～ 熱老化前後での変化率（硬さ、比重、引張強度、伸び）
圧縮永久ひずみ試験 ～ 圧縮による残留歪み
製品検査 ～ 外観、寸法、性能

2) ゴム製品等の品質確認をした場合における瑕疵担保の取扱い
第三者による品質証明書類を提出し監督職員の確認を得た場合であっても、後に製品不良等が判明した場合に受注者の瑕疵担保責任が免責されるものではない。

● 第 2 章 仮 設 工 事

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 監督職員事務所及び備品等	監督職員事務所 (2.4.1) ○ 設ける ＊ 設けない （ ＊ 10㎡ ○ 20㎡ ○ 35㎡ ○ 65㎡ ○ 100㎡ ）程度 備品は次に掲げるものの中から監督職員との協議による。 机・椅子・書棚・黒板・寒暖計・ゴム長靴・雨合羽・保護帽・懐中電灯・安全帯・受注者加入電話の子機・衣類ロッカー・ 暖房機器・消火器・湯沸器・掃除機等
▶ 2. 工事用便所	＊ 設ける
▶ 3. 工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できる（ ＊ 有償 ○ 無償） ＊ 利用できない
▶ 4. 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できる（ ＊ 有償 ○ 無償） ＊ 利用できない
▶ 5. 指定仮設	＊ 仮設計画図による。
▶ 6. 足場その他	(1) 内部足場： ＊ 脚立足場 ○ 枠組棚足場 (2.2.1) (2) 外部足場： ● 設置する 枠組本足場とする 足場を設ける場合には、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省平成21年4月策定）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。 (3) 災害防止 (2.2.1) ○ ネット状養生シート（ ○ 防炎Ⅰ類 ○ 防炎Ⅱ類） ○ 養生防護棚 ○ 金網張 ○ 金網式養生枠 ○ 養生シート（ ○ 防炎Ⅰ類 ○ 防炎Ⅱ類） (4) 材料の運搬 (表2.2.2) ○ Ａ種(二本構リフト等) ○ Ｂ種(トラッククレーン等) ○ Ｃ種(既存ＥＶ利用) ○ Ｄ種(既存階段) ○ Ｅ種(登り桟橋等)
▶ 7. 養生	(1) 既存部分・既存家具・既存設備等の養生： (2.3.1) ＊ 行わない ○ 行う 養生方法 ＊ ビニルシート ○ ＿＿＿＿ (2) 既存ブラインド、カーテン等の養生及び保管 ＊ 行わない ○ 行う 養生の方法 ＊ ビニルシート ○ ＿＿＿＿ 保管場所 ＿＿＿＿ (3) 固定された備品、机・ロッカー等の移動： ＊ 行わない ○ 行う（図示） (4) 防寒養生は、次の範囲とする。 仮囲 ： ○ 上家仮囲 ○ 側 仮 囲 採暖 ： ○ 外部採暖 ○ 内部採暖
▷ 8. 仮設間仕切り等	(1) 仮設間仕切り等の種別 (2.3.2 表2.3.1)

種別	下 地	材 質	充填材	塗 装
○ Ａ種	○ 木下地	＊ せっこうボード（*9.5 ）	厚さ mm	○ 片面
○ Ｂ種	＊ 軽量鉄骨	○ 合板（*9.0 ）	－	＊ 無し
○ Ｃ種	○ 単管下地	○ 防炎シート	－	－
仮設扉	＊ 木製扉	＊ 合板張り程度	－	＊ 無し
	○ 鋼製扉	＊ 片面フラッシュ程度	－	○ 有り

項 目	特 記 事 項
▶ 9. 交通誘導員	(2) 設置箇所：図面による 建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を図ること。 なお、交通誘導員の区分及び配置位置は、次による。 区分： ○ 交通誘導員A ● 交通誘導員B 位置：図面による。 誘導員詰所：（ ○ 設ける ● 設けない） 表 工事現場の位置と交通誘導員区分の考え方

工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導員区分
市街地（DID）内の路線	交通誘導員A
北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線	交通誘導員A
上記以外の路線	交通誘導員B

▶ 10. 清掃員
建設機械及び車両等の出入りの際には、適宜作業員を配置し、敷地外の道路等を泥等で汚した場合には、速やかに清掃を行うこと。

● 第 3 章 防水改修工事

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 降雨等に対する養生方法	改修工事標準仕様書3.1.3(ｅ)(1)～(3)による。 (3.1.3)
▷ 2. 既存防水層の下地補修材料	アスファルトの種類：３種とする。(JIS K 2207) (3.2.2)
▶ 3. 改修用ドレン	＊ 設ける ○ 設けない (3.2.5) （POAS、POASＩ、POD、PODＩ、POS、POSＩ、POX工法の場合）
▶ 4. 既存下地の補修及び処置	(1) 補修箇所の形状、長さ、数量等 ＊ 図示 (3.2.6) (2) POS工法及びPOSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の補修及び処置 (3.2.6) ＊ 改修標準仕様書 3.2.6(d)(3)(vii)①～③による ○ ＿＿＿＿ (3) 架台回り等の欠損部及び防水層末端部の納まり部： (3.2.6) ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿
▶ 5. 既存防水層表面の仕上げ塗装	＊ 除去する ● 除去しない (3.2.6) （M4AS、M4ASＩ、M4C、M4DＩ、L4X工法の場合）
▷ 6. 断熱材	各断熱工法で使用する断熱材は、ノンフロン仕様とする。
▷ 7. アスファルト防水	(1) 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (3.3.2) ＊ 改修標準仕様書 表3.3.3から表3..3.9による ○ 図示 (2) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (3.3.2) ＊ 改修標準仕様書 表3.3.3から表3..3.9による ○ 図示 (3) 押え金物の材質及び形状寸法： (3.3.2) 材質： ＊ アルミニウム ○ ＿＿＿＿ 形状： ＊ L-30×15×2.0 ○ ＿＿＿＿ (4) 屋根保護防水断熱工法の断熱材の材質及び厚さ： (3.3.2)

断 熱 材	厚 さ
＊ A種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材 保温板３種ｂ（ｽｷﾝあり）（JIS A 9511）	

断 熱 材	厚 さ
○ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材 断熱材３種ｂＡ（ｽｷﾝ層付き）（JIS A 9521）	○ 30 ○ 50 ○ 100
○	

(5) 屋根露出防水断熱工法の断熱材の材質及び厚さ (3.3.2)

断 熱 材	厚 さ
＊ A種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材 保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの（JIS A 9511）	
○ 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材 2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの（JIS A 9521）	○ 30 ○ 50 ○ 100
○	

(6) 屋根保護防水密着工法及び屋根保護防水絶縁工法の絶縁用シート： (3.3.2)
＊ ポリエチレンフィルム 厚0.15mm以上
(7) 屋根保護防水密着断熱工法及び屋根保護防水絶縁断熱工法の絶縁用シート： (3.3.2)
＊ フラットヤーンクロス 70g/㎡程度
(8) 保護コンクリート (3.3.2)
設計基準強度：＊ 18N／㎟ ○ ＿＿＿N／㎟
スランプ： ＊ 15cm ○ 18cm
(9) 立上り部保護：＊ 設けない ○ 設ける → ○ コンクリート ○ 普通れんが及び化粧れんが ○ 乾式 (3.3.2)
(10) 種別及び工程 (3.1.4 表3.1.1 3.3.3 表3.3.3～10)

施工部位	工 法	種 別		立上り部の保護コンクリート
	○ Ｐ１Ｂ	○ Ｂ－１ ○ Ｂ－３	＊ Ｂ－２	適用： ○ 設けない ○ 設ける 工法： ○ 図示 ○ ＿＿＿＿
	○ Ｐ１ＢＩ ○ Ｔ１ＢＩ	○ ＢＩ－１ ○ ＢＩ－３	＊ ＢＩ－２	
	○ Ｐ２ＡＩ	○ ＡＩ－１ ○ ＡＩ－３	＊ ＡＩ－２	
	○ Ｐ２Ａ	○ Ａ－１ ○ Ａ－３	＊ Ａ－２	
施工部位	工 法	種 別		仕上塗料
	○ Ｍ４Ｃ	○ Ｃ－１ ○ Ｃ－３	＊ Ｃ－２ ○ Ｃ－４	種類： ○ ＿＿＿＿ ○ 製造所の指定による 使用量： ○ ＿＿＿＿ ○ 製造所の指定による
	○ Ｍ３Ｄ ○ Ｐ０Ｄ	○ Ｄ－１ ○ Ｄ－３	＊ Ｄ－２ ○ Ｄ－４	
	○ Ｐ０ＤＩ ○ Ｍ３ＤＩ ○ Ｍ４ＤＩ	○ ＤＩ－１	＊ ＤＩ－２	
施工部位	工 法	種 別		保護層
	○ Ｐ１Ｅ ○ Ｐ２Ｅ	○ Ｅ－１	＊ Ｅ－２	○ 設ける ○ 設けない

(11) 既存の保護層並びに防水層の立上り部撤去
＊ 改修標準仕様書 表3.1.1による ○ 行わない

(12) Ｍ３Ｄ、Ｐ０Ｄ、Ｐ０ＤＩ、Ｍ３ＤＩ、Ｍ４ＤＩ工法の脱気装置の種類及び設置数量：
＊ アスファルトルーフィング類製造所の指定による
○ ＿＿＿＿
(13) 屋根露出防水絶縁断熱工法におけるルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置： (3.3.4)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿
(14) 平場の保護コンクリートの厚さ： (3.3.4)
こて仕上げの場合 ＊ 80mm以上 ○ ＿＿＿＿
床タイル張り等の場合 ＊ 80mm以上 ○ ＿＿＿＿
(15) 保護層等の屋上排水溝： (3.3.5)
○ 設けない ○ 設ける（図示）

▷ 8. 改質アスファルトシート防水

(1) 種別及び工程 (3.1.4 表3.1.1 3.4.2～3 表3.4.1～3)

施工部位	工法	種別	材質	仕上塗材
	○ Ｍ４ＡＳ	○ ＡＳ－Ｔ１ ○ ＡＳ－Ｔ２ ○ ＡＳ－Ｊ２	＊ Ｒ種	＊ シルバー
	○ Ｍ３ＡＳ ○ Ｐ０ＡＳ	○ ＡＳ－Ｔ３ ○ ＡＳ－Ｔ４ ○ ＡＳ－Ｊ１ ○ ＡＳ－Ｊ３		
	○ Ｍ３ＡＳＩ ○ Ｍ４ＡＳＩ ○ Ｐ０ＡＳＩ	○ ＡＳＩ－Ｔ１ ○ ＡＳＩ－Ｊ１	○ Ｎ種	○ カラー

(2) 改質アスファルトシートの種類及び厚さ： (3.4.2)
＊ 公共建築改修工事標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
○ ＿＿＿＿
(3) 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ： (3.4.2)
＊ 公共建築改修工事標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
○ ＿＿＿＿
(4) 断熱材 (3.4.2)
材質：
＊ Ａ種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの(JIS A 9511)
○ 硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの(JIS A 9521)
○ ＿＿＿＿
厚さ： ○ 30 ○ 50 ○ 100
(5) 仕上塗料の種類及び使用量
＊ 改質アスファルトシート製造所の指定による
○ ＿＿＿＿
(6) Ｍ３ＡＳ、Ｐ０ＡＳ、Ｍ３ＡＳＩ、Ｍ４ＡＳＩ、Ｐ０ＡＳＩ工法の脱気装置の種類及び設置数量： (3.4.3)
＊ 改質アスファルトシート製造所の指定による
○ ＿＿＿＿
(7) Ｍ３ＡＳＩ、Ｍ４ＡＳＩ、Ｐ０ＡＳＩ工法における防湿層の設置： (3.4.3)
○ 設ける ○ 設けない

▷ 9. 合成高分子系ルーフィングシート防水

(1) 種別及び工程 (3.1.4 表3.1.1 3.5.2～4 表3.5.1～2)

施工部位	工法	種別	厚さmm	仕上塗材
	○ Ｐ０Ｓ	○ Ｓ－Ｆ１	＊ 1.2 ○	＊ シルバー ○ カラー
		○ Ｓ－Ｆ２	＊ 2.0 ○	
	○ Ｓ４Ｓ	○ Ｓ－Ｍ１	＊ 1.5 ○	＊ シルバー ○ カラー
		○ Ｓ－Ｍ２	＊ 1.5 ○	
		○ Ｓ－Ｍ３	＊ 1.2 ○	
	○ Ｐ０ＳＩ	○ ＳＩ－Ｆ１	＊ 1.2 ○	＊ シルバー ○ カラー
		○ ＳＩ－Ｆ２	＊ 2.0 ○	
	○ Ｓ４ＳＩ	○ ＳＩ－Ｍ１	＊ 1.5 ○	＊ シルバー ○ カラー
		○ ＳＩ－Ｍ２	＊ 1.5 ○	
	○ Ｓ３Ｓ	○ Ｓ－Ｆ１	＊ 1.2 ○	＊ シルバー ○ カラー
		○ Ｓ－Ｆ２	＊ 2.0 ○	
	○ Ｓ３ＳＩ	○ ＳＩ－Ｆ１	＊ 1.2 ○	＊ シルバー ○ カラー
		○ ＳＩ－Ｆ２	＊ 2.0 ○	
	○ Ｍ４Ｓ	○ Ｓ－Ｍ１	＊ 1.5 ○	＊ シルバー ○ カラー
		○ Ｓ－Ｍ２	＊ 1.5 ○	
		○ Ｓ－Ｍ３	＊ 1.2 ○	
	○ Ｍ４ＳＩ	○ ＳＩ－Ｍ１	＊ 1.5 ○	＊ シルバー ○ カラー
		○ ＳＩ－Ｍ２	＊ 1.5 ○	
	○ Ｐ１Ｓ	○ Ｓ－Ｃ１	＊ 1.0 ○	

(2) 既存防水層（立上り部等）の撤去（POS（機械），POSI（機械），M4S，M4SI，S4S（機械），S4SI（機械）の場合）： (3.1.4)
＊ ルーフィング類製造所の仕様による ○ 行わない
(3) ルーフィングシート(JIS A 6008)の種類及び厚さ： (3.5.2)
＊ 公共建築改修工事標準仕様書表3.5.1～表3.5.3による
○ ＿＿＿＿
(4) 固定金具の材質及び寸法形状
材質 ＊ 防錆処理した鋼板 ○ ステンレス鋼板
○ 片面又は両面に樹脂を積層加工したもの
○ ＿＿＿＿
寸法形状 ＊ 厚さ0.4mm以上
○ ＿＿＿＿
(5) 絶縁用シートの材質： (3.5.2)
＊ 発泡ポリエチレンシート ○ ＿＿＿＿
(6) 脱気装置の種類及び設置数量： (3.5.3)
＊ ルーフィングシート製造所の指定による
○ ＿＿＿＿
(7) 断熱材の材質及び厚さ： (3.5.2)
材質：
・機械的固定法の場合
＊ JIS A 9511（発泡プラスチック保温材） Ａ種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの若しくはA種押出し法ポリスチレンフォーム保温材の保温板
○ JIS A 9521（建築用断熱材）硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの若しくは押出法ポリエチレンフォーム断熱材の１種ｂ、２種ｂ又は３種ｂ

○ ＿＿＿＿
・接着工法の場合
＊ JIS A 9511（発泡プラスチック保温板） Ａ種ポリエチレンフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの
○ JIS A 9521（建築用断熱材）ポリエチレンフォーム断熱材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの
○ JIS A 9511（発泡プラスチック保温材） Ａ種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの若しくはA種押出し法ポリスチレンフォーム保温材の保温板
○ JIS A 9521（建築用断熱材）硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号又は２号で透湿係数を除く規格に適合するもの若しくは押出法ポリエチレンフォーム断熱材の１種ｂ、２種ｂ又は３種ｂ
○ ＿＿＿＿
厚さ： ○ 30 ○ 50 ○ 100
(8) 仕上塗料の種類及び使用量
＊ 合成高分子系ルーフィングシート防水製造所の指定による
○ ＿＿＿＿
(9) ＰＣコンクリート部材下地及びＡＬＣパネル下地で種別S-C1の目地処理（接着工法及び屋内保護密着工法）： (3.5.4)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿
(10) ＰＣコンクリート部材の入隅部の増張り（S-F1，SI-F1の場合）並びにＡＬＣパネル及びＰＣコンクリート部材の入隅部の増張り（S-C1の場合）： (3.5.4)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿
(11) 一般部のルーフィングシートの張付け（機械式固定工法の場合）： (3.5.4)
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
＊ 適用する
・ 適用しない
(12) 保護層の施工（屋内保護密着工法の場合）
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿

▷ 10. 塗膜防水

(1) ウレタンゴム系塗膜防水の種別及び工程：
(3.1.4 表3.1.1 3.6.3 表3.6.1～2)

施工箇所	工法	種別	脱気装置の種類及び設置数量	仕上塗材
	○ Ｐ０Ｘ	＊ Ｘ－１ ○ Ｘ－２	X-1： ＊ 主材料製造所の指定による ● 改修の為不要	＊ シルバー ○ カラー
図示	● Ｌ４Ｘ	● 超速硬化ｳﾚﾀﾝ		

(2) 仕上塗料の種類及び使用量
＊ 塗膜防水製造所の指定による
○ ＿＿＿＿
※ ウレタンゴム系塗膜防水工事において、特定化学物質含有材料を使用する場合は、「特定化学物質障害予防規則」に基づく措置を適切に講じること。
(3) ゴムアスファルト系塗膜防水の種別及び工程：

施工箇所	工法	種別	保護層
	○ Ｐ１Ｙ ○ Ｐ２Ｙ	＊ Ｙ－２	○ 設ける ○ 設けない

(4) 既存の保護層並びに防水層の立上り部撤去
＊ 改修標準仕様書 表3.1.1による ○ 行わない

▶ 11. シーリング

(1) 改修工法等 (3.1.4 表3.1.2)

施工箇所	改修工法
図示	シーリング充填工法
	シーリング再充填工法
	拡幅シーリング再充填工法
	ブリッジ工法

(2) シーリング材の種類及び施工箇所： (3.7.2)
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による

施工箇所	シーリング材の種類

(3) シーリング材の目地寸法：図示 (3.7.3)
(4) ブリッジ工法 (3.7.7)
ボンドブレーカー： ＊ 適用する ○ 適用しない
エッジング材張り： ＊ 適用する ○ 適用しない
(5) 接着性試験 (3.7.8)
＊ 行う（ ＊ 簡易接着性試験 ○ 引張接着性試験）
○ 行わない

▷ 12. とい

(1) といその他の材種： (3.8.2)
○ 配管用鋼管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管
(2) 防露材のホルムアルデヒド放散量： (3.8.2)
＊ F☆☆☆☆ ○ ＿＿＿＿＿＿
(3) 既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法： (3.8.3)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿
(4) 鎖管製といの防露巻き： (3.8.3)
＊ 改修標準仕様書 表3.8.5による ○ ＿＿＿＿＿＿
(5) たてどい受金物の取付け： ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿ (3.8.3)
(6) ルーフドレンの取付け： (3.8.3)
＊ 水はけよく、床面より下げ、周囲の躯間にモルタルを充填
○ ＿＿＿＿＿＿

▶ 13. アルミニウム製笠木

(1) 部材の種類 (3.9.2 表3.9.1)
○ 250形 ○ 300形 ○ 350形 ● その他（図示）
(2) 表面処理の種別 (3.9.2 表5.2.2)
● A-1種 ○ B-1種 ○ A-2種 ○ B-2種
(3) 既存笠木等の撤去及び新規アルミニウム笠木の下地補修工法 (3.9.3)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿
(4) 板材折曲げ形の取り付け方法： (3.9.3)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿
(5) 笠木の固定金具の工法等： (3.9.3)
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
＊ 適用する
○ 適用しない

▶ 14. 保証

防水工事の保証期間は、（ ＊ １０年 ○ ＿＿年）とする。

● 第 4 章 外壁改修工事

項目	特記事項

▷ 1. ひび割れ部改修

(1) コンクリート打放し仕上げ (4.1.4 4.2.2 4.3.4)

ひび割れの幅	工法	材料	注入（口）間隔	注入量
0.2～1.0mm未満	＊ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂： ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	＊ 200～300 ○	○
1.0mm以上	Uカットシール材充填工法			

(2) モルタル塗り仕上げ (4.1.4 4.2.2 4.4.2 4.4.5)

ひび割れの幅	工法	材料	注入（口）間隔	注入量
0.2～1.0mm未満	＊ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂： ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	＊ 200～300 ○	○
1.0mm以上	Uカットシール材充填工法			

※ ○ モルタルを撤去する ○ モルタルを撤去しない

(3) タイル張り仕上げ (4.1.4 4.2.2 4.5.2 4.5.5)

ひび割れの幅	工法	材料	注入間隔	注入量
0.2～1.0mm未満	＊ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂： ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	＊ 200～300 ○	
1.0mm以上	Uカットシール材充填工法			

※ ○ タイルを撤去する ○ タイルを撤去しない

(4) Uカットシール材充填工法の材料： (4.2.2 4.3.5 4.4.6)
○ 可とう性エポキシ樹脂
○ シーリング材の種別
＊ １成分形又は２成分形ポリウレタン系 ○ ＿＿＿＿＿＿
ポリマーセメントモルタルの充填
○ 行う ○ 行わない
(5) 樹脂注入工法のコア抜取り確認： (4.3.4 4.4.5)
＊ 行わない
○ 行う
抜取り個数 ＊ 長さ500mごと及びその端数につき１個
○ ＿＿＿＿＿＿
補修方法 ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿

▷ 2. 欠損部改修

(1) コンクリート打放し仕上げ (4.1.4 4.2.2 4.3.7)

工法	材料
＊ 充填工法 ○	＊ ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル

(2) モルタル塗り仕上げ (4.1.4 4.2.2 4.4.8～9)

工法	材料
○ 充填工法	＊ ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル
○ モルタル塗替え工法	改修標準仕様書 4.4.9 表4.4.1による

※ 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置： ＊ 図示
※ モルタル塗替え工法の既製目地材： (4.2.2)
○ 使用する（形状 ） ○

▷ 3. 鉄筋露出部の処理

(3) タイル張り仕上げ (4.1.4 4.2.2 4.5.7～8)

工法	材料
○ タイル部分張替え工法 ○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ ー液反応硬化形変成シリコーン樹脂系 ○ ウレタン樹脂系

部分的に露出している鉄筋及びアンカー金物等は、健全部が露出するまでコンクリートをはつり、ワイヤーブラシ等でケレンを行い錆を除去し、鉄筋コンクリート用防錆材等を塗り付け、防錆処理を行う。
防錆処理の仕様については、監督職員と協議する。 (4.3.3)

▷ 4. 浮き部改修

(1) モルタル塗り仕上げ ＊ (4.1.4 4.2.2 4.4.10～15)

	改修工法の種類	アンカーピンの本数（本／㎡） 一般部	アンカーピンの本数（本／㎡） 指定部	注入口の箇所数（箇所／㎡） 一般部	注入口の箇所数（箇所／㎡） 指定部	充填量（mL／箇所）	注入量（mL／箇所）
○	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	＊ 16 ○	＊ 25 ○	―	―	＊ 25 ○	―
○	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	＊ 13 ○	＊ 20 ○	＊ 12 ○	＊ 20 ○	―	＊ 25 ○
○	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	＊ 13 ○	＊ 20 ○	＊ 12 ○	＊ 20 ○	―	＊ 50 ○
○	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	―	―	＊ 25 ○	―
○	注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 25 ○	＊ 25 ○
○	注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 9 ○	＊ 16 ○	―	＊ 50 ○
○	充填工法	＊ ポリマーセメントモルタル		○ エポキシ樹脂モルタル			
○	モルタル塗替え工法	改修標準仕様書 4.4.9 表4.4.1による					

※ アンカーピンの本数について、浮き面積が１㎡以下の場合の本数は、公共建築改修工事標準仕様書による。

(2) タイル張り仕上げ (4.1.4 4.2.2 4.4.10 4.5.9～15)

	改修工法の種類	アンカーピンの本数（本／㎡） 一般部	アンカーピンの本数（本／㎡） 指定部	注入口の箇所数（箇所／㎡） 一般部	注入口の箇所数（箇所／㎡） 指定部	充填量（mL／箇所）	注入量（mL／箇所）
○	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	＊ 16 ○	＊ 25 ○	―	―	＊ 25 ○	―
○	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	＊ 13 ○	＊ 20 ○	＊ 12 ○	＊ 20 ○	―	＊ 25 ○
○	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	＊ 13 ○	＊ 20 ○	＊ 12 ○	＊ 20 ○	―	＊ 50 ○
○	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	―	―	＊ 25 ○	―
○	注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 25 ○	＊ 25 ○
○	注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 9 ○	＊ 16 ○	―	＊ 50 ○
○	注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定法			＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 25 ○	―
○	タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル		○ ウレタン樹脂系			
○	タイル張替え工法	○ ー液反応硬化形変成シリコーン樹脂系					

※ アンカーピンの本数について、浮き面積が１㎡以下の場合の本数は、公共建築改修工事標準仕様書による。

(3) アンカーピンの材質等
＊ ステンレス鋼（SUS304） 呼び径４mm（丸棒） 全ネジ切り加工
○ ＿＿＿＿＿＿
(4) 注入口付アンカーピンの材質等：
＊ ステンレス鋼（SUS304） 外径６mm
○ ＿＿＿＿＿＿
(5) モルタル塗替え工法の既製目地材： (4.2.2)
○ 使用する（形状 ） ○ ＿＿＿＿＿＿

▷ 5. タイル張り仕上げ外壁

(1) 再生材利用タイルの使用：○ 使用する ○ 使用しない
(2) 目地改修工法の種類： (4.1.4)
○ 目地ひび割れ部改修工法 ○ 伸縮調整目地改修工法
(3) タイルの品質・役物： (4.2.2 4.5.8)

形状寸法	き じ	うわぐすり 施釉	うわぐすり 無釉	役物 有	役物 無	色 標	色 特	耐凍害性 有	耐凍害性 無	工法
×		○	○	○	○	○	○	○	○	
×		○	○	○	○	○	○	○	○	
×		○	○	○	○	○	○	○	○	

※ 施工部位は、図示とする。

(4) タイルの試験張り等： (4.2.2 4.5.8)
試験張り ○ 行う ＊ 行わない
見本焼き ○ 行う ＊ 行わない
(5) タイル張替え工法における伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置：図示 (4.5.8)
（図面に明記の無い場合は、公共建築改修工事標準仕様書４，５．８（b）による）
(6) シーリング材の目地寸法：図示 (4.5.8)
(7) 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験： (4.5.8)
＊ 行わない ○ 行う
(8) セメントモルタルによるタイル張りの工法： (4.5.8)
外装タイル
○ 密着張り ○ 改良積上げ張り ○ 改良圧着張り
ユニットタイル
○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
(9) 有機系接着剤による陶磁器質タイル張りのシーリング材： (4.5.8)
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地
＊ ポリウレタン系シーリング材 ○ ＿＿＿＿＿＿
伸縮調整目地その他の目地
＊ 変成シリコーン系シーリング材 ○ ＿＿＿＿＿＿
(10) 伸縮調整目地改修工法における伸縮調整目地の位置及び寸法： (4.5.16)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿

▶ 6. 外壁改修塗り仕上げ

(1) 工程ごとの所要量等の確認： (4.6.2)
＊ 改修標準仕様書表4.6.1による ○ ＿＿＿＿＿＿
(2) 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整の工法： (4.6.3)
＊ 高圧水洗工法
（50MPa程度の温水による洗浄（はく離剤を使わない。））
○ サンダー工法 ○ 水洗い工法
○ 塗膜はく離剤工法後、高圧水洗（10～15MPa）洗浄

(3) 種類及び工法 (4.1.5 4.2.2 表4.2.4 4.6.5)

施工部位	種類	呼び名	仕上げ	工法
屋体壁	複層仕上塗材	E	凸凹模様	吹付

※１ 仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法は、表4.2.4による
※２ 呼び名の凡例

種類	呼び名
薄付け仕上塗材	外 Ｓｉ：外装薄塗材Ｓｉ 可外Ｓｉ：可とう形外装薄塗材Ｓｉ 外 Ｅ：外装薄塗材Ｅ 可 外 Ｅ：可とう形外装薄塗材Ｅ 防 外 Ｅ：防水形外装薄塗材Ｅ 外 Ｓ：外装薄塗材Ｓ
厚付け仕上塗材	外 厚 Ｃ：外装厚塗材 外厚Ｓｉ：外装厚塗材Ｓｉ 外 厚 Ｅ：外装厚塗材Ｅ
複層仕上塗材	Ｃ Ｅ：複層塗材ＣＥ 可 Ｃ Ｅ：可とう形複層塗材ＣＥ Ｓ ｉ：複層塗材Ｓｉ Ｅ ：複層塗材Ｅ Ｒ Ｅ：複層塗材ＲＥ 防 Ｃ Ｅ：防水形複層塗材ＣＥ 防 Ｅ：防水形複層塗材Ｅ 防 Ｒ Ｓ：防水形複層塗材ＲＳ 防 Ｒ Ｅ：防水形複層塗材ＲＥ
可とう形改修用仕上塗材	可 改 Ｅ：可とう形改修塗材Ｅ 可改ＲＥ：可とう形改修塗材ＲＥ 可改ＣＥ：可とう形改修塗材ＣＥ

(4) 複層仕上塗材の耐候性等： (4.2.2)
耐候性 ＊ 耐候形３種 ○ ＿＿＿＿＿＿
触媒 ＊ 水系 ○ ＿＿＿＿＿＿
樹脂 ＊ アクリル系 ○ ＿＿＿＿＿＿
外観 ＊ つやあり ○ ＿＿＿＿＿＿
(5) 下地調整材： ＊ 下地調整塗材 (4.6.3)
○ ポリマーセメントモルタル
○ 防水型仕上塗主材
(6) 処理範囲：図示 (4.6.3)
(7) 下地面の補修 (4.6.3 表4.6.2～4.6.5)
○ ひび割れ部改修工法 ○ 浮き部改修工法
○ 欠損部改修工法

▷ 7. マスチック塗材塗り (4.7.2 表4.7.1)

施工部位	種別	仕上材	下地調整
	○ A種 ○ B種	○ A ○ E	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
	○ A種 ○ B種	○ A ○ E	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種

※ 仕上材の凡例 A：ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ２回塗り
E：つや有り合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ２回塗り

● 第 5 章 建具改修工事

項目	特記事項

▶ 1. 改修工法

(1) ● かぶせ工法 ○ 撤去工法 (5.1.3)
（両方適用の場合の区分は、図示）
(2) 壁部分の開口の開け方、新規建具周囲の補修方法及び範囲は、図示。 (5.1.3)

▷ 2. 防火戸

(1) 防火戸の指定： (5.1.4)
○ 適用する
適用箇所（ ＊ 建具表による ○ ＿＿＿＿＿＿）
○ 適用しない
(2) ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動： (5.1.4)
＊ 建具表による ○ ＿＿＿＿＿＿

▶ 3. 一般事項

(1) 建具見本の製作： (5.1.5)
＊ 行わない
○ 行う（建具表により指定する。）
(2) 特殊な建具の仮組： (5.1.5)
＊ 行わない
○ 行う（建具表により指定する。）
(3) 防犯建物部品： (5.1.7)
＊ 適用する
○ 適用しない

▶ 4. アルミニウム製建具

(1) 外部に面する建具の性能等級 (5.2.2)

種別	＊ A種	○ B種	○ C種
枠の見込寸法（mm）	＊ ７０（注）	○ １００	１００
耐風圧性	S－４	S－５	S－６
気密性	A－３		A－４
水密性	W－４		W－５

（注） 形式が引違い・片引き・上げ下げ窓で複層ガラスを使用する場合のA種、B種の枠の見込みは１００mmとする。
(2) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級は図示
(3) 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合の断熱性の等級は図示
(4) 耐震ドアセットとする場合の面内変形追随性の等級は図示
(5) 外部に面する建具の断熱性能による等級 (5.2.2)

種類	枠見込寸法（mm）	断熱性能による等級	
引き違い	○ ７０	○ H－１	○ H－２（枠絶縁）
引き違い	○ １００	○ H－２（枠絶縁）	○ H－３（枠・障子絶縁）
開き	○ ７０	○ H－１	○ H－２（枠絶縁）
開き	○ １００	○ H－２（枠絶縁）	○ H－３（枠・障子絶縁）
F I X	● ７０ ○ １００	● H－２（枠絶縁）	○ H－３（枠・障子絶縁）

(6) 建具の表面処理 (5.2.4 表5.2.2)

建具部位	種別
外部に面する建具	種別： ＊ B－１種 ○ B－２種 色： ○ ブラウン系 ○ ブラック ○ ステンカラー （ ＊ 標準色 ○ 特注色 ）
屋内の建具	種別： ＊ C－１種 ○ C－２種 色： ○ ブラウン系 ○ ブラック ○ ステンカラー （ ＊ 標準色 ○ 特注色 ）

(7) 結露水の処理方法： ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿ (5.2.4)
(8) 水切り板、ぜん板等： ＊ 図示 ○ (5.2.5)

▷ 5. 網戸

(1) 防虫網の材種： ＊ ガラス繊維入り合成樹脂製 (5.2.3 5.3.3)
○ 合成樹脂製 ○ ステンレス（SUS316）
線径： ＊ 0.25mm以上 ○ ＿＿＿mm以上
網目寸法： ＊ １６～１８ﾒｯｼｭ ○ ＿＿＿

▷ 6. 樹脂製建具

(1) 外部に面する建具の性能等級 (5.3.2 表5.3.1)

種別	○ A種	○ B種	○ C種
耐風圧性	S－４	S－５	S－６
気密性	A－４		
水密性	W－４	W－５	

(2) 枠の見込み寸法： ＊ 建具表による ○ ＿＿＿＿＿＿
(3) 外部に面する建具の遮音性能等級 (5.3.2 表5.3.2)

種別	○ T－A種	○ T－B種
性能等級	T－１	T－２

(4) 外部に面する建具の断熱性能等級 (5.3.2 表5.3.3)
○ 適用する （ ○ H－A種 ○ H－B種 ○ H－C種 ）
○ 適用しない
(5) ガラス： ＊ 複層ガラス ○ 単板ガラス ○ 三重ガラス (5.3.3)
(6) 表面色： ○ 標準色（白） ○ 特注色 ＿＿＿＿＿＿ (5.3.4)
(7) 水切り板、ぜん板等： ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿ (5.3.5)

▷ 7. 鋼製建具

(1) 簡易気密型ドアセット： ○ 適用する (5.4.2 表5.4.1)
○ 適用しない
(2) 耐風圧性（外部）： (5.4.2)
○ S－４ ○ S－５ ○ S－６
(3) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級は図示 (5.4.2)
(4) 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合の断熱性の等級は図示 (5.4.2)
(5) 耐震ドアセットとする場合の面内変形追随性の等級は図示 (5.4.2)
(6) 鋼板： ○ JIS G 3302 ○ JIS G 3317 (5.4.3)
鋼板のめっき付着量：JIS G3302の場合 ＊ Z１２又はF１２
JIS G3317の場合 ＊ Y０８
(7) 鋼板の厚さ： ＊ 表5.4.2による ○ 図面による (5.4.4)

▷ 8. 鋼製軽量建具

(1) 簡易気密型ドアセット： ○ 適用する（A－３） (5.5.2)
(2) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級は図示 (5.5.2)
(3) 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合の断熱性の等級は図示 (5.5.2)
(4) 耐震ドアセットとする場合の面内変形追随性の等級は図示 (5.5.2)
(5) 戸の鋼板： ● 亜鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板 (5.5.3)
○ カラー鋼板
(6) 召合わせ、縦小口色み板等の材種： (5.5.3)
＊ ステンレス ○ 鋼板 ○ アルミニウム合金
(7) 鋼板の厚さ： ＊ 表5.5.1による ○ 図面による (5.5.4)

▷ 9. ステンレス製建具

(1) 簡易気密型ドアセット： ○ 適用する ○ 適用しない (5.6.2)
(2) 耐風圧性（外部）： ○ S－４ ○ S－５ ○ S－６
(3) 鋼板の厚さ： ＊ 表5.5.1による。 (5.6.3)
(4) ステンレス鋼板： (5.6.3)
屋外 ＊ SUS304、SUS430JIL、SUS443JI ○
屋内 ＊ SUS304、SUS430JIL、SUS443JI、SUS430 ○
(5) 表面仕上げ： ＊ ＨＬ ○ 鏡面 (5.6.4)
(6) 曲げ加工： ＊ 普通曲げ ○ 角出し曲げ (5.6.5)

▷ 10. 木製建具

(1) 建具材の含水率の種別： ○ A種 ＊ B種 ○ C種
(2) フラッシュ戸の表面材及び表面厚さ（mm）
＊ 普通合板2.5以上 ○ 天然木化粧合板3.2以上
○ 特殊加工化粧合板2.7以上

(3) かまち戸の材料（樹種）は表16.6.2による。
(4) ふすまの材料、枠及びくつずりの材料は図示
(5) かまち戸、ふすま、戸ぶすま、紙張り障子の見込み寸法
＊ かまち（36mm）、ふすま（19.5mm）、戸ぶすま（30mm）、紙張り障子（30mm）
○ 図面による

▶ 11. 建具用金物

(1) 取付施工 (5.7.3)
取っ手類の取付高さは、床仕上げ面からの高さとし、図示
その他指示のない場合は、建具製作所の仕様による。
(2) マスターキー： ○ 製作する ＊ 製作しない
● 既存のマスターキーに合わせる
(3) 樹脂製建具に使用する丁番： (5.7.2)
＊ 改修標準仕様書表5.7.3による ○ ＿＿＿＿＿＿
(4) 錠： ＊ ３本１組 ○ ＿＿＿＿＿＿ (5.7.4)
(5) 鍵箱： ○ 無し ○ 有り (5.7.4)
(6) 建具表で指示のない建具金物は５章７節による。

▷ 12. 自動ドア開閉装置

(1) スライディングドア用自動ドア開閉装置の性能値： (5.8.2)
＊ 改修標準仕様書表5.8.1による ○ 図示
(2) スイングドア用自動開閉装置の性能値： (5.8.2)
＊ 改修標準仕様書表5.8.2による ○ 図示
(3) 開閉方法は、建具表による。 (5.8.3)
(4) センサの種類： ＊ 光線（反射）スイッチ
○ 熱線スイッチ
○ その他（＿＿＿＿＿＿）
(5) 凍結防止措置： (5.8.3)
○ 行わない ＊ 行う（適用箇所は建具表による）

▷ 13. 自動式上吊り引戸装置

性能： 表5.9.1による。

▷ 14. 重量シャッター

(1) 機能による種類 (5.10.2)
○ 管理用シャッター ○ 外壁用防火シャッター
○ 屋内用防火シャッター ○ 防煙シャッター
(2) 耐風圧強度： (5.10.2)
管理用シャッター ＿＿＿＿N/m²
外壁用防火シャッター ＿＿＿＿N/m²
(3) 危害防止機構 ○ 可動座板式
(4) シャッターケース（防火、防煙以外のもの） ○ 設ける
○ 設けない
(5) 開閉機能による種類 ○ 上部電動式（手動併用）
○ 上部手動式
(6) 注意喚起装置 ○ 音声発生装置 ○ 注意灯の設置
○ シャッターへの危険表示
○ シャッターの下降位置の表示
(7) 吹雪止め 吹き込み防止用サイドシール（３方）を設ける
(8) 鋼板の種類及びめっきの付着量 (5.10.3)
種類：＿＿＿＿＿＿
付着量： ＊ Z12又はF12 ○ ＿＿＿＿＿＿

▷ 15. 軽量シャッター

(1) 開閉形式による種類： ＊ 手動式 (5.11.2)
○ 上部電動式（手動併用）
(2) 耐風圧強度： ＿＿＿＿N/m² (5.11.2)
(3) スラットの材質： (5.11.3)
○ JIS G 3312 めっき付着量： ＊ Z06又はF06 ○ ＿＿＿＿
○ JIS G 3322 めっき付着量： ＊ AZ90 ○ ＿＿＿＿
(4) スラットの形状： ＊ インターロッキング形
○ オーバーラッピング形

(5) 表面塗： ＊ 標準色 ○ 指定色（焼付け塗装）

▷ 16. オーバーヘッドドア (5.12.2)

ｾｸｼｮﾝ材料による区分	耐風圧区分（Pa）	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
○ スチールタイプ	○ 125	＊ バランス式	○ スタンダード	○ 溶融亜鉛めっき鋼板
○ アルミニウムタイプ	○ 100	○ チェーン式	○ ローヘッド	
○ ファイバーグラス	○ 75	○ 電動式	○ ハイリフト	○ ステンレス鋼板
○	○ 50		○ バーチカル	○

▶ 17. ガラス (5.13.2)

(1) 標準仕様書の規定による品質・規格を満たす材料とする。

(2) ガラスの種類及び厚さは建具表による。

ガラス留め材（防火戸以外）

該当	建具の種類	材 種	
●	アルミニウム製	＊ シーリング材	○ ガスケット
○	鋼 製	＊ シーリング材	
○	ステンレス製	＊ シーリング材	
○	鋼製軽量建具	＊ シーリング材	
○	木 製 建 具	＊ 押縁	
○	プラスチック建具	＊ ガスケット	

(3) 板ガラスをはめ込む溝の大きさ：

＊ 表5.13.1による ○ 図面による

(4) 熱線反射ガラスの映像調整： (5.13.4)

○ 行う ○ 行わない

▶ 18. ガラスブロック積み (5.13.5)

(1) 表面形状：図面による

呼び寸法：図面による

厚 さ：図面による

(2) 壁用金属枠、補強材：図面による

(3) 力骨の材質、寸法、形状：

＊ ステンレス鋼（SUS304）、径5.5mmはしご形状複筋及び単筋

○ 図面による

(4) 化粧目地モルタル 色：

(5) シーリングの種類：図面による

(6) 金属製化粧カバー、材質、寸法、形状：図面による

(7) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法： (5.13.5)

＊ 適用する

○ 適用しない

(8) ガラスブロックの目地幅の寸法： (5.13.5)

平積み ＊ 8mm以上15mm以下 ○

曲面積み ＊ 曲率半径をガラスブロックの幅寸法の10倍以上とし、外側15mm以下、内側6mm以上

○

(9) 伸縮調整目地の位置： (5.13.5)

＊ 6m以下ごとに10～25mm ○ 図示

(10) 目地部の力骨の補強方法： (5.13.5)

＊ ガラスブロック製作所の仕様 ○ 図示

● 第 6 章 内装改修工事

項 目	特 記 事 項

▶ 1. 他の部位との取合い等 (6.1.3)

(1) 既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁及び床の改修範囲

＊ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う

○

(2) 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲

＊ 壁面より周側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う

○

(3) 天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修 (6.1.3)

＊ 既存のまま

○

▶ 2. 既存床の撤去並びに下地補修

(1) 浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去： 図示 (6.2.2)

(2) 合成樹脂塗床材の除去等：○ 機械的除去工法 (6.2.2)

○ 目荒し工法

(3) 改修後の床の清掃範囲： ○ 改修端部より１m程度 (6.2.2)

○ 図示

▶ 3. 既存壁の撤去並びに下地補修

(1) 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修

＊ モルタル塗替え工法（改修標準仕様書 4.4.9） (6.3.2)

○

▶ 4. 既存天井の撤去並びに下地補修

既存下地材を再利用： 図示 (6.4.2)

▷ 5. 木下地等

(1) 表面仕上げの程度： (6.5.1)

○ A種 ○ B種 ○ C種 （適用箇所は図示）

(2) 木材の含水率： 製材はＪＡＳ乾燥材とし、現場搬入時の含水率は、次のとおりとする。 (6.5.2)

部位	種 別
下地材	＊ A種（１５%以下） ○ B種（２０%以下）
造作材	＊ A種（１５%以下） ○ B種（１８%以下）

(3) 「製材の日本農林規格」による製材 (6.5.2)

① 下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率
			＊ ２級 ○		
			＊ ２級 ○		
			＊ ２級 ○		

② 造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率

③ 広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率
			＊ １等 ○		＊ 10%以下
			＊ １等 ○		＊ 10%以下
			＊ １等 ○		＊ 10%以下

(4) 「製材の日本農林規格」以外による製材 (6.5.2)

施工箇所	樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率
				○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない	
				○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない	
				○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない	

造作材の材面の品質： ＊ A種 ○ B種

代用樹種を使用できない箇所：

(5) 製材は、ＪＡＳ乾燥認定工場から出荷された木材は、出荷証明書を、その他の工場から出荷された木材は、北海道林産物検査協会が発行する検査証明書を提出すること。

(6) カラマツの使用範囲は、束・母屋・土台・大引きとする。

(7) 造作用集成材 (6.5.2)

① ホルムアルデヒド放散量： ＊ F☆☆☆☆ ○

② 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の等級
			＊ １等 ○ ２等
			＊ １等 ○ ２等
			＊ １等 ○ ２等

③ 「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の等級
	化粧薄板： 芯材：			＊ １等 ○ ２等 ＊ １等 ○ ２等
	化粧薄板： 芯材：			＊ １等 ○ ２等 ＊ １等 ○ ２等
	化粧薄板： 芯材：			＊ １等 ○ ２等 ＊ １等 ○ ２等

④ 「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）
	化粧薄板： 芯材：		
	化粧薄板： 芯材：		
	化粧薄板： 芯材：		

⑤ 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の等級	含水率
			＊	○ 15%以下
			＊	○ 15%以下
			＊	○ 15%以下

⑥ 「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の等級	含水率
	化粧薄板： 芯材：				＊ ○ 15%以下
	化粧薄板： 芯材：				＊ ○ 15%以下
	化粧薄板： 芯材：				＊ ○ 15%以下

⑦ 「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の等級	含水率
	化粧薄板： 芯材：				＊ ○ 15%以下
	化粧薄板： 芯材：				＊ ○ 15%以下
	化粧薄板： 芯材：				＊ ○ 15%以下

(8) 造作用単板積層材 (6.5.2)

ホルムアルデヒド放散量： ＊ F☆☆☆☆ ○

「単板積層材の日本農林規格」の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ（mm）	表面の化粧加工	防虫処理
		○ 有り（加工：○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工） ○ 無し （等級： ）	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 有り（加工：○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工） ○ 無し （等級： ）	○ 適用する ○ 適用しない

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ（mm）	表面の化粧加工	含水率	防虫処理
		○ 有り（加工：○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工） ○ 無し （ ）	＊ 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 有り（加工：○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工） ○ 無し （ ）	＊ 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない

(9) 床張り用合板等 (6.5.2)

ホルムアルデヒド放散量： ＊ F☆☆☆☆ ○

普通合板：

施工箇所	厚さ（mm）	表板の材種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
	＊ 5.5 ○		＊ 1類 ○ 2類	広葉樹 ＊ 2等 ○ 1等 針葉樹 ＊ C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない
	＊ 5.5 ○		＊ 1類 ○ 2類	広葉樹 ＊ 2等 ○ 1等 針葉樹 ＊ C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない

構造用合板：

施工箇所	等級	表板の材種名	接着の程度	板面の品質	厚さ（mm）	防虫処理	強度等級
	＊ 2級 ○ 1級		＊ 1類 ○ 2類	＊ C-D ○	＊ 12 ○	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する（ ） ○ 適用しない
	＊ 2級 ○ 1級		＊ 1類 ○ 2類	＊ C-D ○	＊ 12 ○	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する（ ） ○ 適用しない

パーティクルボード：

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ（mm）
		＊ 13タイプ ○	＊ P又はM ○		＊ 15 ○
		＊ 13タイプ ○	＊ P又はM ○		＊ 15 ○

構造用パネル：

施工箇所	等級	厚さ（mm）
	○ 1級 ○ 2級 ○ 3級 ○ 4級	
	○ 1級 ○ 2級 ○ 3級 ○ 4級	

(10) 接合具等の接着剤： (6.5.3)

ホルムアルデヒド放散量： ＊ F☆☆☆☆ ○

(11) 木れんがの接着工法に使用する接着剤： (6.5.4)

ホルムアルデヒド放散量： ＊ F☆☆☆☆ ○

(12) 防腐・防蟻処理： (6.5.5)

① 表面処理用防腐剤は監督職員の承諾するものとする。

② 防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材

適用部位 （ ）

③ 薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	○ K２ ○ K３ ○ K４
	○ K２ ○ K３ ○ K４

④ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	＊ 改修標準仕様書6.5.5(a)(ⅲ)②ｱ～ｴによる ○
	＊ 改修標準仕様書6.5.5(a)(ⅲ)②ｱ～ｴによる ○

⑤ ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理：

適用部位 （ ）

▶ 6. 軽量鉄骨天井下地 (6.6.2)

(1) 野縁等の種類

施工部位		野縁等の種類	補強等
屋内	天井	＊ １９形 ○ ２５形	屋外の軒天井、ピロティ天井等 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔、周辺部の端からの間隔並びに野縁の間隔は図示による (6.6.3)
屋外		○ １９形 ＊ ２５形	

(2) 既存埋込みインサートを使用する場合の耐力の確認 (6.6.4)

＊ 引張試験機による引張試験 ○ 監督職員の承諾を得て省略

(3) あと施工アンカーの引き抜き試験： (6.6.4)

○ 行う（屋外の場合の方法： ）

○ 行わない

(4) 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合： (6.6.4)

補強方法 ＊ 図示 ○

(5) 天井ふところが1.5m以上3.0m以下の場合： (6.6.4)

補強方法 ＊ 改修標準仕様書6.6.4(h)(1)(2)による ○ 図示

(6) 天井ふところが3.0mを超える場合： (6.6.4)

補強方法 ＊ 図示

(7) 天井下地における耐震性を考慮した補強 (6.6.4)

補強箇所 ＊ 図示

補強方法 ＊ 図示

▶ 7. 軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)

(1) スタッド、ランナーの種類：

施工部位	スタッドの高さ	スタッド、ランナーの種類
間仕切り壁		○ ５０形 ● ６５形 ○ ９０形 ○ １００形
片側壁（PS等）		● ５０形 ○ ６５形 ○ ９０形 ○ １００形

(2) スタッドの高さが5mを超える場合： ＊ 図示 (6.7.3)

▶ 8. ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (6.8.2)

(1) ビニル床シート（JIS A 5705）

施工部位	種 類	色柄	厚さ（mm）	エ 法
図示	＊ FS ○	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ○ ﾌﾞﾚｰﾝ	＊ 2.0 ○ ~~2.5~~	○ 突付け ○ 熱溶接
	＊ FS ○	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ○ ﾌﾞﾚｰﾝ	＊ 2.0 ○ ~~2.5~~	○ 突付け ○ 熱溶接
	＊ FS ○	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ○ ﾌﾞﾚｰﾝ	＊ 2.0 ○ ~~2.5~~	○ 突付け ○ 熱溶接

(2) ビニル床タイル（JIS A 5705） (6.8.2)

施工部位	種 類	色柄	硬さの種類	厚さ（mm）
	ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ○ ﾌﾞﾚｰﾝ	＊ 半硬質 ○ 軟質	○ 2.5 ＊ 2.0
	ﾎﾓｼﾞﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ○ ﾌﾞﾚｰﾝ		○ 2.5 ＊ 2.0
図示	複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	● ﾏｰﾌﾞﾙ ○ ﾌﾞﾚｰﾝ	＊ 半硬質 ○ 軟質	● 3.0 ＊ 2.0

(3) 特殊機能床材 (6.8.2)

① 帯電防止床シート、床タイル

施工部位	種 類	性 能	厚さ（mm）
	帯電防止床シート	体積抵抗値（ ）Ω以下	
	帯電防止床タイル	○	

② 誘導用、注意喚起用床材（JIS T 9251） (6.8.2)

区分	施工部位	種 類	寸 法（mm）
屋外		○ 塩化ビニル系 ○ レジンコンクリート系 ○ 磁器質タイル	○ 300×300 ○
屋内		○ 塩化ビニル系 ○ 磁器質タイル	○ 300×300 ○

※ 色は周囲の床材と識別しやすいものとする。

③ 防滑性床シート、床タイル (6.8.2)

施工部位	種 類	厚さ（mm）

④ その他 (6.8.2)

施工部位	種 類	厚さ（mm）	備考

(4) ビニル幅木： (6.8.2)

厚さ（mm） ＊ 1.5以上 ○

高さ（mm） ＊ 60 ○

(5) ゴム床タイル： (6.8.2)

種類 ○

厚さ（mm） ○

(6) 接着剤： (6.8.2)

ホルムアルデヒド放散量 ＊ F☆☆☆☆ ○

(7) 施工箇所の下地がセメント系及び木質系以外の場合の接着剤の種別と施工箇所

種別 ○

施工箇所 ○

▶ 9. カーペット敷き

(1) 織じゅうたん (6.9.3)

該当	種 別	織り方	パイルの形状	帯電性
○	○ A種 ○ B種 ＊ C種	○	○ ループ ○ カット	○ 適用する（性能：＊ 人体耐電圧3kv以下 ○） ○ 適用しない

(2) タフテッドカーペット (6.9.3 6.9.4)

該当	パイルの形状	パイル長	帯電性	工 法
○	○ ループ ○ カット		○ 適用する（性能：＊ 人体耐電圧3kv以下 ○） ○ 適用しない	○ グリッパー ＊ 全面接着

(3) ニードルパンチカーペット (6.9.3)

厚さ（mm） ○

帯電性 ○ 適用する（性能： ＊ 人体耐電圧3kv以下 ○）

○ 適用しない

(4) タイルカーペット (6.9.3)

該当	種類	パイルの形状	寸法	総厚さ
●	＊ 第一種 ● 第二種	＊ ループ ● カット	＊ 500mm角 ○	＊ 6.5mm ○

(5) 下敷き材： ＊ 第２種２号 ○

＊ 呼び厚さ8mm ○

(6) 見切、押さえ金物の材質、種類、形状：図面による (6.9.3)

(7) 接着剤： (6.9.3)

ホルムアルデヒド放散量 ＊ F☆☆☆☆ ○

(8) タイルカーペット全面接着工法の敷き方： (6.9.4)

平場 ＊ 市松敷き ○ 模様流し ○

階段部分 ＊ 模様流し ○ 市松敷き ○

▷ 10. 合成樹脂塗床 (6.10.3)

(1) 弾性ウレタン樹脂系塗床

施 工 部 位	区分	仕上げの種類	厚さ
家庭総合科調理・製菓実習室、多目的実習室4	＊ 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	＊ 平滑 ○ 防滑 ○ つや消	2
	＊ 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	＊ 平滑 ○ 防滑 ○ つや消	

(2) エポキシ樹脂系塗床 (6.10.3)

施 工 部 位	区分	工法	仕上げの種類	厚さ
	＊ 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	○ 薄膜流し展べ ○ 厚膜流し展べ ○ 樹脂ﾓﾙﾀﾙ	○ 平滑 ○ 防滑	
	＊ 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	○ 薄膜流し展べ ○ 厚膜流し展べ ○ 樹脂ﾓﾙﾀﾙ	○ 平滑 ○ 防滑	

(3) 塗料のホルムアルデヒド放散量： (6.10.2)

＊ F☆☆☆☆ ○

▶ 11. フローリング張り (6.11.2～8)

(1) 単層フローリング

品名	表面材の材種	工法	仕上げ塗装
○ フローリングボード１等	＊ なら ○	○ 釘留め（根太張り） ○ 釘留め（直張り） ○ 接着	○ 塗装品 ○ 無塗装品
○ フローリングブロック１等	＊ なら ○	○ 接着	○ 塗装品 ○ 無塗装品
○ モザイクパーケット１等	＊ なら ○	○ 接着	○ 塗装品 ○ 無塗装品

(2) 複合フローリング (6.11.2～8)

表面材の材種	種別	工法	防湿処理	仕上げ塗装
＊ なら ○ さくら ○ ひのき、まつ	○ A種 ○ B種 ＊ C種	○ 釘留め（根太張り） ○ 釘留め（直張り） ○ 接着	○ 適用する ○ 適用しない	○ 塗装品 ○ 無塗装品

※ 厚さは図示

(3) 特殊フローリング (6.11.2～8)

品 名	表面材の材種	仕上げ塗装
● 屋内体育館アリーナ床（JIS A 6519）	＊ なら	
○ 柔剣道場の床（JIS A 6519）	＊ なら	

※ 塗装の凡例

素 地 ： 素地のまま W ： 生地のまま、ワックス塗り

OSW ： オイルステンレスワックス塗り（ｵｲﾙｽﾃﾝ２回、ﾜｯｸｽ１回）

UCB ： ウレタン樹脂ワニス塗り B種（２回塗り）

WUC ： 水性反応硬化形ウレタン（クリア）

WUP ： 水性反応硬化形ウレタン４回塗り

(4) フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量： (6.11.2)

＊ F☆☆☆☆ ○

(5) 接着工法におけるフローリング裏面の緩衝材： (6.11.5)

＊ 合成樹脂発泡シート ○

▷ 12. 畳敷き

(1) 普通畳の種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種 ＊ D種

D種の場合の畳床 ○ KT－Ⅰ種 ○ KT－Ⅱ種

＊ KT－Ⅲ種

原材料は公共建築工事標準仕様書19.6.2「材料」による。

(2) 柔道畳

畳床は、JIS A 5901（畳床）の２級品とし、畳表は、柔道用レザー表地（裏地ビニロン使用）とする。

▶ 13. せっこうボード及び その他のボード張り

(1) せっこうボード及びその他のボードの規格は下表による。 (6.13.2～3)

該当	規格番号	規格名称	種類の記号
○	JIS A 5404	木質系セメント板	HM, MW, MM, MF, NF
○	JIS A 5430	繊維強化セメント板	0.8FK, 1.0FK
○	JIS A 5905	繊維板	HB, MDF, IB
○	JIS A 5908	パーティクルボード	RS, VS, DV, DO, DC
●	JIS A 6301	吸音材料	RW-F, RW-B, RW-BL, GW-F, GW-B, DR, IB, WWCB, GB-P, HB-P
○			
●	JIS A 6901	せっこうボード製品	GB-R, GB-S, GB-F, GB-L, GB-D, GB-NC

※ 各ボード類の種類、厚さ及び下地の種類は、図示

(2) せっこうボードの目地工法： ＊ 突付け工法 (6.13.3)
○ 継目処理工法
○ 目透し工法

(3) 下地の種類：図示 (6.13.3)

(4) 普通合板の種類等 (6.13.2)

表板の樹種	板面の品質	厚さ (mm)	接着の程度	処理
生地、透明塗料塗り ＊ ラワン程度 ○ 不透明塗料塗り ＊ しな程度 ○	○	○	室内の湿潤状態となる場所 ＊ １類 ○	○ 防虫処理

(5) 天然木化粧合板の規格 (6.13.2)

化粧板の樹種	接着の程度	厚さ (mm)	処理
○	○	○	○ 防虫処理

(6) 特殊加工化粧合板の規格 (6.13.2)

化粧加工の方法	表面性能	接着の程度	厚さ (mm)	処理
○ オーバーレイ ○ プリント ○ 塗装	○	○	○	○ 防虫処理

(7) 合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量： (6.13.2)
＊ F☆☆☆☆ ○

(8) 遮音シール材： (6.13.2)
＊ 適用する（ ○ シーリング材 ○ ジョイントコンパウンド ）
○ 適用しない

(9) 合板類の強付けの種別： ＊ Ｂ種 ○ Ａ種 (6.13.3)

▷ 14. 壁紙張り

(1) 壁紙の品質等： (6.14.2)

施工部位	防火種別	種類
	＊ １ ― １ ○ ―	○ 紙・布 ○ ビニールクロス
	＊ １ ― １ ○ ―	○ 紙・布 ○ ビニールクロス

個別認定の一例

防火種別	不燃下地	不燃石膏ボード	準不燃下地	金属下地
１－１	不燃	不燃	準不燃	準不燃
１－２	不燃	準不燃	準不燃	難燃
１－３	不燃	準不燃	準不燃	
２－１	準不燃	準不燃	準不燃	準不燃
２－２	準不燃	準不燃	準不燃	難燃
２－３	準不燃	準不燃	準不燃	

防火種別 左の数字は、旧通則認定における検定級に基づく区分

(2) ホルムアルデヒド放散量： ＊ Ｆ☆☆☆☆ ○

(3) 下地調整の種別： (6.14.3)
モルタル・プラスター面 ＊ ＲＢ種 ○
コンクリート・ＡＬＣ面 ＊ ＲＢ種 ○
せっこうボード面 ＊ ＲＢ種 ○

▷ 15. モルタル塗り

(1) 既製目地材： (6.15.3)
○ 設ける
施工箇所（ ） 形状（ ＊ 図示 ○ ）
○ 設けない

(2) 床目地： (6.15.6)
○ 設ける（工法 ＊ 押し目地 ○ ）
○ 設けない

▷ 16. タイル張り

(1) 伸縮調整目地の位置 (6.16.2)
床タイル ＊ 縦・横とも4m以内ごと ○ 図示
床タイル以外 ＊ 図示 ○

(2) セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り (6.16.3)
再生材利用タイルの使用 ＊ 使用する ○ 使用しない

施工箇所	用途による区分	形状寸法	きじ	うわぐすり 施釉	うわぐすり 無釉	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐滑り性
		×		○	○	○	○	○	○	○	○	○
		×		○	○	○	○	○	○	○	○	○
		×		○	○	○	○	○	○	○	○	○

試験張り ○ 行う ○ 行わない
見本焼き ○ 行う ○ 行わない

(3) 接着剤による陶磁器質タイル張り (6.16.4)
再生材利用タイルの使用 ＊ 使用する ○ 使用しない

施工箇所	用途による区分	形状寸法	きじ	うわぐすり 施釉	うわぐすり 無釉	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無
		×		○	○	○	○	○	○	○	○
		×		○	○	○	○	○	○	○	○
		×		○	○	○	○	○	○	○	○

試験張り ○ 行う ○ 行わない
見本焼き ○ 行う ○ 行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量
＊ Ｆ☆☆☆☆ ○

▷ 17. セルフレベリング材塗り (6.17.2) (6.17.3)

施工部位	材 料	塗 厚
	○ 石こう系	○ 10 mm
	○ セメント系	○ mm
	○ 石こう系	○ 10 mm
	○ セメント系	○ mm

○	耐候性塗料塗り（DP） 屋外	新規 ＊ Ａ種			＊ RA種
		塗替 ○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種			○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○					

(3) 鋼製建具面

該当	塗装の種類	塗り種別	錆止塗り種別	錆止塗料種別	下地調整
○	合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) 塗料の種別 ＊ １種 ○ ２種	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	＊ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種	屋内 ＊ Ａ種 ○ Ｂ種 屋外 ＊ Ａ種 ○ Ｂ種	＊ RC種
		塗替 ＊ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ Ａ種 ○ Ｂ種 ＊ Ｃ種 ○ 無し		○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	フタル酸樹脂エナメル塗り (FE) 屋内		＊ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ 屋内外共Ａ種 ○ 屋内Ｂ種 屋外Ａ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
			○ Ａ種 ○ Ｂ種 ＊ Ｃ種 ○ 無し		○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	耐候性塗料塗り（DP） 屋外	新規 ＊ Ａ種			＊ RA種
		塗替 ○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種			○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○					

▷ 5. モルタル面及び プラスター面の塗装 （７章各節）

該当	塗装の種類	種別（塗り回数）	下地調整
○	アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り (NAD)	○ Ａ種 ＊ Ｂ種	乾燥、汚れ、付着物の除去 モルタル面 ： ＊ RB種
○	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP-G)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルションペイント塗り (EP)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルション模様塗料塗り (EP-T)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○			

(1) つや有合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場 (7.9.2)
合のしみ止め：
＊ 改修標準仕様書表7.9.1の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする
○

(2) 合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のし (7.10.2)
み止め：
＊ 改修標準仕様書7.9.2(b)による
○

▷ 6. コンクリート及び ＡＬＣパネルの塗装 （７章各節）

該当	塗装の種類	種別（塗り回数）	下地調整
○	アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り (NAD)	○ Ａ種 ＊ Ｂ種	乾燥、汚れ、付着物の除去 コンクリート面 ： ＊ RB種 押出成形セメント板 ： ＊ RB種
○	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP-G)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルションペイント塗り (EP)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルション模様塗料塗り (EP-T)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	耐候性塗料塗り（DP）	○ A-1種 ○ B-1種 ○ C-1種	＊ RB種
		○ A-2種 ○ B-2種 ○ C-2種	＊ RC種
○			

(1) つや有合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場 (7.9.2)
合のしみ止め：
＊ 改修標準仕様書表7.9.1の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする
○

(2) 合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のし (7.10.2)
み止め：
＊ 改修標準仕様書7.9.2(b)による
○

● 第 7 章 塗装改修工事

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 材料	(1) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量： (7.1.3) ＊ Ｆ☆☆☆☆ ○ (2) 防火材料： (7.1.3) ＊ 防火材料の指定は図面による ○
▷ 2. 既存塗膜の除去範囲	(1) 各面の下地調整がＲＢ種の場合、既存塗膜の除去範囲は次のとおりとする。 （ただし、木部の透明塗料塗りの場合は、「全面除去とする。」） ○ 塗替え面積の３０％ ○ 劣化部分、脆弱な部分及び損面は請等を除去するものとし、割合は状況による

▶ 3. 木部塗装 （７章各節）

該当	塗 装 の 種 類	塗り種別（塗り回数）	下地調整
○	合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) 塗料の種別 ＊ １種 ○ ２種	新規(屋外) ＊ Ａ種 ○ Ｂ種 新規(屋内) ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	不透明塗料塗り ＊ RA種 ○ RB種 透明塗料塗り ○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	フタル酸樹脂エナメル塗り (FE)		＊ RC種
○	ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
●	クリヤーラッカー塗り (CL)	○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
●	オイルステイン塗り (OS)		汚れ、付着物除去
○	つや有り合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP-G)	新規 ＊ Ａ種 ○ Ｂ種	＊ RA種 ○ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	水性ステイン塗り (WSV)	ｼｰﾗｰ ： ○ あり ○ なし 塗回数： ○ ２回 ○ ３回	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	水性反応硬化形ウレタン塗り (WUP)	ｼｰﾗｰ ： ○ あり ○ なし 塗回数： ○ ２回 ○ ３回	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	水性反応硬化形ウレタンクリア塗り (WUC)	ｼｰﾗｰ ： ○ あり ○ なし 塗回数： ○ ２回 ○ ３回 ○ ４回	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	木材保護塗料塗り (WP) 屋外	○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	ラッカーエナメル塗り (LE)	○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○			

▷ 4. 鉄部塗装 （７章各節）

(1) 鉄鋼面

該当	塗装の種類	塗り種別	錆止塗り種別	錆止塗料種別	下地調整
○	合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) 塗料の種別 ＊ １種 ○ ２種	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	見え掛り ＊ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種	＊ Ａ種	＊ RA種 ○ RB種
			見え隠れ ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種		
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ Ａ種 ○ Ｂ種 ＊ Ｃ種 ○ 無し		○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	フタル酸樹脂エナメル塗 (FE)				＊ RC種
○	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP-G) 屋内	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	見え掛り ＊ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種	＊ Ｂ種	＊ RA種 ○ RB種 ○ RC種
			見え隠れ ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種		＊ RA種 ○ RB種 ○ RC種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ Ａ種 ○ Ｂ種 ＊ Ｃ種 ○ 無し		○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	耐候性塗料塗り（DP） 屋外	新規 ＊ Ａ種			＊ RA種
		塗替 ○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種			○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○					

(2) 亜鉛めっき鋼面 （７章各節）

該当	塗装の種類	塗り種別	錆止塗り種別	錆止塗料種別	下地調整
○	合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) 塗料の種別 ＊ １種 ○ ２種	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	屋内 ＊ Ａ種 ○ Ｂ種	＊ RA種 ○ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ Ａ種 ○ Ｂ種 ＊ Ｃ種 ○ 無し	屋外 ＊ Ａ種 ○ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	フタル酸樹脂エナメル塗 (FE)				＊ RC種
○	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP-G) 屋内	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種	＊ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ Ａ種 ○ Ｂ種 ＊ Ｃ種 ○ 無し		○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種

▷ 7. 石こうボード面及び その他のボード面の 塗装 （７章各節）

該当	塗装の種類	種別（塗り回数）	下地調整
○	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り (EP-G)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルションペイント塗り (EP)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルション模様塗料塗り (EP-T)	新規 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種	○ RA種 ＊ RB種
		塗替 ○ Ａ種 ＊ Ｂ種 ○ Ｃ種	○ RA種 ＊ RB種 ○ RC種
○			

(1) つや有合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め： (7.9.2)
＊ 改修標準仕様書表7.9.1の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする
○

(2) 合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のし (7.10.2)
み止め：
＊ 改修標準仕様書7.9.2(b)による
○ _____

○ 第 8 章 耐震改修工事

項 目	特 記 事 項
▷ 1. 鉄筋の種類	(8.2.1) 該当 ○ 鉄筋の種別 異形鉄筋 適用径 D16以下 種類の記号 ＊ SD295A ○ SD345 該当 ○ 鉄筋の種別 異形鉄筋 適用径 D19以上 種類の記号 ○ SD295A ＊ SD345 該当 ○ 鉄筋の種別 小形丸鋼 種類の記号 ＊ SR235 該当 ○
▷ 2. 溶接金網	網目形状及び寸法 100×100mm 鉄線の径 6mm (8.2.2)
▷ 3. 鉄筋の加工及び組立	(1) 鉄筋の継手 (8.3.4) 適用径 (mm)：D16以下 接合方法：＊ 重ね継手 ○ ガス圧接継手 ○ 機械式継手 ○ 溶接継手 適用径 (mm)：D19以上 接合方法：○ 重ね継手 ＊ ガス圧接継手 ○ 機械式継手 (2) 鉄筋の継手の位置：図面による (8.3.4) (3) 柱及び梁の主筋並びに壁力壁の鉄筋の重ね継手の長さ： (8.3.4) ○ 図示 ○ _____ (4) 鉄筋の定着の長さ： (8.3.4) ○ 図示 ○ _____ (5) 帯筋組立の形：図面による (8.3.4)

▷ 4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

(1) 軽量コンクリートで土に接する部分 (8.3.5)
○ なし
○ 有り 適用箇所 _____
最小かぶり厚さに加える厚さ ＿＿ mm

(2) 耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
○ なし
○ 有り 適用箇所 _____ (8.3.5)
最小かぶり厚さに加える厚さ ＿＿ mm

(3) 鉄筋相互のあき（機械式継手及び溶接継手の場合） (8.3.5)
＊ 図示 ○ _____

▷ 5. 機械式継手

(1) 機械式継手の種類及び工法 (8.4.2)
○ _____

(2) 品質の確認方法 (8.4.2)
＊ 図示 ○ _____

(3) 不良となった継手の修正方法等 (8.4.2)
＊ 図示 ○ _____

▷ 6. 溶接継手

(1) 溶接継手の工法 (8.4.2)
○ _____

(2) 品質の確認方法 (8.4.2)
＊ 図示 ○

(3) 不良となった継手の修正方法等 (8.4.2)
＊ 図示 ○ _____

▷ 7. 壁の配筋

(1) 配筋の種別：図面による (8.3.4)
定着長さ： ○ Ｌ１ ＊ Ｌ２

(2) 壁の配筋及び壁開口部の補強：図面による (8.3.5)

▷ 8. 圧接完了後の試験 超音波探傷試験： ＊ 行う ○ 行わない (8.3.9)

▷ 9. レディミクストコンクリートの種別
＊ Ⅰ類 ○ Ⅱ類 (表6.1.1)
※ JIS認定表示工場で、かつ、（社）コンクリート工学協会から認定されたコンクリート主任技士又はコンクリート技士あるいはこれらと同等以上の技術者が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国品質管理監査会議の常定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定することとし、これにより難い場合は監督職員と協議すること。

▷ 10. セメント

(1) セメントの種類 (8.2.5)
＊ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
○ セメント名 _____

(2) 高炉セメントＢ種の使用部位： ○ _____ (8.2.5)

(3) フライアッシュセメントＢ種の使用部位： ○ _____

▷ 11. 骨材

(1) 砂利及び砂のアルカリシリカ反応性区分： ＊ Ａ ○ Ｂ

(2) 砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性区分 ＊ Ａ ○ Ｂ

※ 試験機関は、公的機関又はこれに準ずる機関（大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、中小企業近代化促進法又は中小企業近代化資金助成法に基づく構造改善計画等によって設立された共同試験場、その他信頼に値する機関）であること。

(3) 骨材の最大寸法： ＊ ２５mm ○ ２０mm

▷ 12. 混和材料

混和剤の種類及び適用： (8.2.5)
○ 混和剤
種類
＊ 改修標準仕様書8.2.5(d)(1)による ○ _____
○ 混和材
種類
＊ 改修標準仕様書8.2.5(d)(1)による ○ _____

▷ 13. 構造体用モルタル

(1) モルタルの圧縮強度 ○ _____ (8.2.6)

(2) モルタルのフロー値 ○

▷ 14. 型枠
(1) せき板の材料　＊ 合板　○ ＿＿＿＿ (8.2.7)
(2) 合板の厚さ　＊ 12mm　○ ＿＿＿＿
(3) スリーブの材種及び規格： (8.2.7)
＊ 改修標準仕様書8,2,7(f)(2)(ⅰ)又は(ⅱ)による
○ ＿＿＿＿
(4) 外部に面するコンクリート打ち放し仕上げの打増し厚さ (8.7.8)
＊ 図示　○ ＿＿＿＿
(5) セパレーターをシアコネクタとして使用 (8.7.8)
適用箇所　○ 図示　○

▷ 15. 普通コンクリート
(1) 設計基準強度Ｆｃ（Ｎ／mm²）の値は次のとおりとする。 (8.1.4)
○ １８Ｎ／mm²　施工部位：＿＿＿＿
○ ２１Ｎ／mm²　施工部位：＿＿＿＿
○ ＿＿ Ｎ／mm²　施工部位：＿＿＿＿
(2) 所要スランプ：基礎、地中ばり　＊ １８cm　○ １５cm
柱、はり、床、壁　＊ １８cm
(3) コンクリートの気乾単位容積質量による種別 (8.1.3)
＊ Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
○ Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

▷ 16. 軽量コンクリート
(1) 設計基準強度Ｆｃ（Ｎ／mm²）の値は次のとおりとする。 (8.1.4)
○ １８Ｎ／mm²　施工部位：＿＿＿＿
○ ２１Ｎ／mm²　施工部位：＿＿＿＿
○ ＿＿ Ｎ／mm²　施工部位：＿＿＿＿
(2) スランプ：　＊ 21cm　○ ＿＿＿＿ (8.9.2)
(3) コンクリートの種別 (8.1.3)
＊ Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
○ Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート） (8.1.4)
(4) 適用箇所：　○ 図示　○ ＿＿＿＿ (8.9.1)
常時土又は水に直接接する部分：
○ 図示　○ ＿＿＿＿
(5) 種類：　○ １類　○ ２類 (8.9.1)
(6) 気乾単位容積質量：　○ ＿＿＿＿ (8.9.1)

▷ 17. 暑中コンクリート
構造体強度補正値：　＊ 6N/mm²　○ ＿＿＿＿ (8.10.2)

▷ 18. 無筋コンクリート
(1) 設計基準強度Ｆｃ（Ｎ／mm²）の値は次のとおりとする。 (8.11.1)
＊ １８Ｎ／mm²　施工部位：＿＿＿＿
○ ＿＿ Ｎ／mm²　施工部位：＿＿＿＿
(2) スランプ：　○ 15cm　○ 18cm　○ ＿＿＿＿ (8.11.1)

▷ 19. 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ
○ Ａ種　＊ Ｂ種　○ Ｃ種 (8.1.4)

▷ 20. あと施工アンカー
(1) あと施工アンカーの材料 (8.2.4)
○ 金属系アンカー
アンカー本体の径及び埋込み長さ：図示
接合筋の種類、径及び長さ：　図示
セット方法　＊ 本体打込み式皿良型
＊ 接着系アンカー
アンカー筋の径及び埋込み長さ：　図示
アンカーの種類：　＊ カプセル形回転・打撃式　○ 注入形
接着剤の品質：　＊ 有機系　○ 無機系
アンカー筋の種類：　○ ＿＿＿＿
アンカー筋の新設壁内への定着の長さ：図面による
(2) あと施工アンカーの耐力　引張り耐力＿＿＿kN　せん断耐力＿＿＿kN (8.2.4)

(3) 穿孔筋の埋込み配管等の探査方法：＿＿＿＿ (8.12.2)
○ 鉄筋探査器による　○ はつりによる　○ ＿＿＿＿

▷ 21. あと施工アンカーの試験
(1) 性能確認試験　○ 行う　＊ 行わない (8.2.4)
(2) 施工確認試験　＊ 行う（確認強度＿＿＿KN） (8.12.5)
○ 行わない

▷ 22. 埋込配管等の探査
(1) 範囲：　＊ あと施工アンカー施工部分全体 (8.12.2)
○ 図面による
(2) 方法：　＊ 探査器により調査し、墨出しを行う
○ はつり出しによる

▷ 23. 施工管理技術者
＊ 適用する　○ 適用しない (8.1.5)

▷ 24. 鉄骨製作工場
鉄骨加工業者の資格 (8.1.5)
建築基準法第７７条の５６に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（株）全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鋼構工業会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める下記のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場
○ Ｓ　○ Ｈ　○ Ｍ　○ Ｒ　○ Ｊ 以上とする

▷ 25. 鋼材
(1) 鋼材の種類は次による。 (8.2.8)

該当	JIS規格番号	規 格 名 称 等	種類の記号
○			
○			
○			
○			

(2) 板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験： (8.2.13)
＊ 行わない　○ 行う

▷ 26. 高力ボルト
(1) 種類 (8.2.9)
＊ トルシア形高力ボルト
セットの種類は２種（S10T）とする。
○ JIS形高力ボルト
セットの種類は２種（F10T）とする。
○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト
セットの種類は１種（F8T相当）とする。
(2) 高力ボルトの径：図面による (8.2.9)
(3) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等： (8.1.6)
○ 図示　○ ＿＿＿＿
(4) すべり係数試験： (8.14.2)
＊ 行わない
○ 行う
試験方法等　○ 図示　○ ＿＿＿＿
(5) ボルトの長さがねじの呼びの５倍を超える場合のナット回転量
○ 図示　○ (8.14.7)

▷ 27. 普通ボルト
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等： (8.1.6)
○ 図示　○

▷ 28. アンカーボルト
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等： (8.1.6)
○ 図示　○ ＿＿＿＿

▷ 29. 鉄骨の仮組
＊ 行わない　○ 行う (8.13.9)

▷ 30. 溶接
(1) 溶接棒等及びガス以外の溶接材料：図示 (8.2.10)
(2) 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験： (8.15.11)
＊ 行う　○ 行わない
(3) 開先及びスカーラップの形状：図示 (8.15.4 8.15.7)
(4) 溶接作業者の技量付加試験： (8.15.3)
○ 行わない
○ 行う
試験要領　○ 図示　○

(5) エンドタブを切断する場合の適用箇所：＿＿＿＿ (8.15.7)
○ 有り　○ 図示　○ ＿＿＿＿
○ 無し

▷ 31. 柱底均しモルタル
モルタルの種別：　＊ 無収縮モルタル　○ ＿＿＿＿ (8.2.11)

▷ 32. 鉄骨の錆止め塗料の種別
(1) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側 (8.17.3)
＊ 改修標準仕様書 7.3.2 表7.3.1 Ａ種　○ ＿＿＿＿
(2) 耐火被覆材の接着する面への塗装 (8.17.3)
○ 行わない
○ 行う
施工部位　○ 図示　○ ＿＿＿＿
塗料の種別　○ ＿＿＿＿

▷ 33. 耐火被覆
(1) 種　別　＊ 耐火材吹付け　○ 耐火板張り (8.18.2)
○ 耐火材巻付け　○ ラス張りモルタル塗り
(2) 所要性能　○ 30分耐火　○ １時間耐火　○ ２時間耐火

▷ 34. 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合
溶融亜鉛めっき高力ボルトを使用する場合の摩擦面の処理： (8.20.4)
＊ 改修標準仕様書8.20.4(a)(1)による
○ ＿＿＿＿

▷ 35. 既存部分の撤去等
(1) 既存仕上げの撤去範囲 (8.21.2 8.22.2 8.23.2)
○ 最小限の範囲　○ 図示
(2) 設備機器、配管等の撤去、移設：　図示
(3) 既存構造体の撤去範囲、鉄筋及び鉄骨の処置：　図示

▷ 36. 既存部分の処理
目荒らしの程度： (8.21.3 8.22.3 8.23.3)
○ 平均深さ5mm　○ 平均深さ10mm　○ 図示
目荒らしの範囲　柱、梁：　○ 打継ぎ面の30%
○ 打継ぎ面の75%
○ 図示
壁面：　○ 打継ぎ面の15%
○ 打継ぎ面の30%
○ 図示

▷ 37. 割裂補強筋
○ スパイラル筋　○ はしご筋 (8.21.6 8.22.7 8.23.8)
○ 図示

▷ 38. コンクリートの打込み
打込み工法の種類：　○ 流込み工法 (8.21.8 8.23.5)
○ 圧入工法
各工事後の仕上げ：　図示 (8.21.10 8.22.9 8.23.7 8.24.5)
コンクリート及び構造体モルタルの打込み (8.23.5)
○ 流込み工法
○ 圧入工法
柱頭柱脚の隙間寸法：○ 図示　○ ＿＿＿＿ (8.23.6)

▷ 39. 仕上げ

▷ 40. 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法の型枠等
材料：　○ 炭素繊維　○ アラミド繊維 (8.2.12)
○ ガラス繊維　○ ＿＿＿＿
材質（含浸硬化後）：　引張強度＿＿＿＿Ｎ／mm² (8.2.12)
ヤング係数＿＿＿＿Ｎ／mm²
工法：　○ シート工法　○ テープ工法 (8.2.12)
○ ストランド工法　○ ＿＿＿＿
ひび割れ部の改修：　＊ 行う　○ 行わない (8.24.4)

▷ 41. 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法
柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ：　図示 (8.24.4)

▷ 42. 連続繊維補強工法
連続繊維補強材の強度試験： (8.24.4)
○ 行う（試験数量　　）　＊ 行わない

▷ 43. 耐震スリット新設工事
スリットの幅及び深さ、耐火材の仕様箇所及び仕様、遮音材の仕様箇所及び仕様、既存部分の撤去部の補修は、図示とする。 (8.25.2)

▷ 44. 免震改修・制振改修・基礎工事
２６節、２７節及び２８節に係る特記事項は、すべて図示とする。

○ 第９章 環境配慮改修工事

項　目	特　記　事　項
▷ 1. アスベスト含有建材の処理工事	施工調査 建材のアスベスト含有調査は、次による。 施工調査の結果を書面により監督員へ報告する。 施工調査の結果、設計図書等と異なる場合は、監督員と協議する。 ○ 分析調査：＿＿＿ヶ所（調査部位：＿＿＿＿） ○ 分析調査済：含有建材等は、図示とする。 分析結果　○ 石綿含有　○ 石綿非含有 分析方法は、JIS A 1481「建材製品中のアスベスト含有率測定法」とする。 アスベスト除去後の仕上げ　図示 (9.1.1) アスベスト粉じん濃度測定　＊ 行う　○ 行わない (9.1.1)
▷ 2. 除去工事共通事項	(1) 石綿作業主任者 アスベスト含有建材の除去は、石綿作業主任者技能講習又は、平成１８年３月以前の特定化学物質等作業主任者の資格者のうちから、石綿作業主任者を選任し、必要な管理を行わせる。 (2) 除去作業者 アスベスト含有建材の除去に従事する作業者（以下「除去作業者」という）は、石綿障害予防規則に基づく特別教育を受けた者とする。 また、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断及びじん肺健康診断を受診した者で、肺機能に異常がない者とする。 (3) 特別管理産業廃棄物管理責任者 特別管理産業廃棄物を排出するとき、配置する。 (4) 表示及び掲示 ①事前調査結果の掲示　石綿無い場合も必要 ②作業方法の掲示 ③関係者または作業者以外立ち入り禁止 ④石綿作業主任者の選任・職務 ⑤喫煙・飲食の禁止 ⑥石綿取扱い注意事項 ※ ①、②を兼用してもよい。 一般社団法人　日本建設業連合会作成様式「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ」を参考に作成すること。 (5) 保護具・保護衣等 除去作業者は、作業内容に応じた呼吸用保護具を使用する。なお、隔離された作業場所の内部で除去作業をする場合は、電動ファン付き呼吸器保護具はこれと同等以上の性能を有する呼吸用保護具を使用する。 作業者は必要に応じて保護めがねを使用する。

(6) 保護衣、作業衣
作業者は、隔離空間内で作業する場合は、保護衣を使用し、それ以外は作業衣を使用する。
作業衣はアスベストが付着しにくく、付着したアスベストが容易に除去できるものとする。
(7) 除去したアスベスト等の保管及び運搬
除去したアスベスト含有建材を搬出するまでの間、現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の建設副産物等と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止措置を講ずる
また、保管場所には、アスベスト等の保管場所であることの表示を行う。
(8) 確認及び後片付け
除去作業が終了後、高性能真空掃除機で、床等を清掃する
また、工事監督員の立会の上で、除去が十分行われていることを目視確認を受ける

▷ 3. アスベスト含有吹付け材の除去等
(1) 処理を行う吹付け材の種類及び処理方法 (9.1.1 9.1.3)
種類：
処理方法：　＊ 除去　○ 封じ込め　○ 囲い込み
種類：
処理方法：　＊ 除去　○ 封じ込め　○ 囲い込み
（処理を行う範囲は図示）
除去したアスベスト含有吹付け材等の処理は、次による。 (9.1.3)
＊ 密封処理（二重袋梱包）　○ セメント固化

▷ 4. アスベスト含有保温材等の除去
(1) 除去する保温材等の種類及び処理方法 (9.1.4)
種類：
処理方法：　○ 掻き落し　○ 破砕　○ 切断
種類：
処理方法：　○ 掻き落し　○ 破砕　○ 切断
作業場の隔離　＊ 行う　○ 行わない (9.1.4)
(2) アスベスト含有保温材の除去は、粉じん飛散防止抑制剤により湿潤化した後に、手ばらしとする。

▷ 5. アスベスト含有成形板の除去
(1) 除去する成形板の種類 (9.1.5)
種類：＿＿＿＿
種類：＿＿＿＿
種類：＿＿＿＿
(2) 除去したアスベスト含有成形板の集積及び積み込みに当たっては、高所より投下しないこととのほか、粉じんの飛散防止に努める。
(3) 破砕されたアスベスト含有成形板は、湿潤化の上、丈夫なプラスチック袋に入れる等飛散防止の措置を講ずる。

▷ 6. 断熱アスファルト防水改修
工法の種類： (9.2.3)
○ Ｐ１Ｂ Ⅰ　○ Ｐ２Ａ Ⅰ　○ Ｐ０Ｄ Ⅰ
○ Ｔ１Ｂ Ⅰ　○ Ｍ３Ｄ Ⅰ　○ Ｍ４Ｄ Ⅰ

▷ 7. 外断熱改修工事及び断熱・防露改修工事
(1) 共通事項：断熱材はノンフロン仕様とする。
(2) 断熱材 (9.3.2)

該当	保温材料の種類	材料の類別及び品質	厚さ(mm)
○	ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	Ａ種：　○ 特号　○ １号　○ ２号 ○ ３号　○ ４号	
○	押出法ポリスチレンフォーム保温材（スキンなし）	Ａ種：　○ １種：○ a　○ b ○ ２種：○ a　○ b ○ ３種：○ a　○ b	
○	A種硬質ウレタンフォーム保温材	Ａ種：　○ １種 ○ ２種：○ １号　○ ２号 ○ ３号　○ ４号	
○	フェノールフォーム保温材（３種２号を除く・F☆☆☆☆）	Ａ種：　○ １種：○ １号　○ ２号 ○ ２種：○ １号　○ ２号 ○ ３号	

(3) 外断熱改修 (9.3.2 9.3.3 9.3.4)
外装材の種類、防火性能、通気層の有無及び厚さ：図示
既存外壁の処置　仕上げ材撤去　○ 行う
○ 行わない
下地面の清掃　○ 行う（＿＿＿＿）
○ 行わない
欠損分の改修　○ 行う
○ 行わない
断熱材の施工：　＊ 断熱材製造所の仕様による　○ ＿＿＿＿
建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法：
＊ 適用する
○ 適用しない
外装材の施工：　＊ 外装材製造所の仕様による　○ ＿＿＿＿
(4) 断熱・防露改修
施工部位及び部位毎の厚さについては図示とする。 (9.5.3)
(5) 張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量：　(9.5.2 9.5.4)
＊ F☆☆☆☆　○
(6) 断熱材現場発泡工法に使用する断熱材： (9.5.3)
断熱材の種類：　＊ Ａ種１　○ ＿＿＿＿
厚さ（mm）：　○ ＿＿＿＿

▷ 8. ガラス改修工事
(1) 材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ： (9.4.2)
＊ 図示　○ ＿＿＿＿
(2) 複層ガラスの厚さ：　＊ 図示　○ ＿＿＿＿ (9.4.2)
(3) 複層ガラスの断熱性・日射遮へい性による区分： (9.4.2)
＊ Ｕ３－１　○ Ｕ３－２

▷ 9. 屋上緑化改修工事
(1) 見切り材、鎺装材、排水孔、マルチング材等： (9.6.2)
＊ 図示　○ ＿＿＿＿
(2) 建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法： (9.6.3)
＊ 適用する
○ 適用しない
(3) かん水装置： (9.6.3)
○ 設置しない　○ 設置する（種類　＿＿＿＿）
(4) 既存保護層の撤去：　○ 行う　○ 行わない (9.6.3)
(5) 新植芝及び地被類の枯補償の期間： (9.6.4)
＊ 引渡しの日から１年　○ ＿＿＿＿

○ 第１０章 屋 根 工 事

項　目	特　記　事　項
▷ 1. 長尺金属板の種類	施工部位 ／ 規格名称（規格番号） ／ 厚さ(mm) 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（JIS G 3322） ／ ○ 0.4　○ 0.35
▷ 2. 長尺金属板の葺き工法等	(1) 形式　＊ 縦掛葺き　○ 横葺き　○ 瓦棒葺き (2) 工法　＊ 立ち巻きはぜ工法　○ 平巻きはぜ ○ 溶接　○ その他（　　）
▷ 3. 既存撤去範囲	○ 既存長尺カラー鉄板 ○ アスファルトルーフィング ○ ＿＿＿＿ ○ ＿＿＿＿
▷ 4. 折板葺き	(1) 折板の材料：　＊ JIS G 3312　○ ＿＿＿＿ (2) 形式：　＊ 重ね形(K)　○ はぜ締め形(H)　○ かん合形(G) (3) 山高：　○ 150mm　厚0.5mm　○ 175mm　厚1.0mm ○ ＿＿＿＿　ピッチ＿＿＿mm (4) 軒先面戸板：　＊ 有り　○ 無し (5) 塗装：　＊ 片面　○ 両面 (6) 断熱材：　○ 有り（種類：　　）　○ 無し 耐火性能：○ 耐火30分　○ 不燃

● 第１１章 そ の 他

項　目	特　記　事　項
▷ 1. 埋戻し及び盛土	○ Ａ種　＊ Ｂ種　○ Ｃ種　○ Ｄ種 (3.2.3)(表3.2.1) Ｃ種の場合　（建設発生土受入量：＿＿＿＿㎥ （発生場所：　　）
▷ 2. 建設発生土等の処理	○ 場外搬出　（約＿＿＿km （ 捨て場所住所：＿＿＿＿） （ 管　理　者：＿＿＿＿） 捨て土均し（ ○ 有り　○ 無し　） (3.2.5) ○ 構内敷均し　○ 構内指示の場所に堆積（図示による）
▷ 3. 棟番号	図面図示の箇所に（　＊ 設置　○ 記入　）
▷ 4. 換気口	室内：プラスチック製　寸法φ１５０ 床下：＊ 鋳鉄製　寸法１６０×３７５ ○ 樹脂製
▷ 5. バルコニー排水、ドレンパイプ	排水ドレイン：φ５０（BOLA） 白ガス管　：φ５０
▷ 6. 連絡板	Ｂ Ｌ規格品　○ ６戸用　○　　戸用

▷ 7. 家屋段階調査
○ 次のそれぞれの工事終了後、家屋の調査を行うこと。
○ 杭工事　○ 基礎工事　○ 躯体工事
＊ 調査は「補償コンサルタント登録規定（昭和59年9月21日建設省告示第１３４１号）」による事業損失部門に登録している業者に調査させること。
＊ 調査箇所は、当該敷地に隣接する敷地の家屋とする。
調査戸数　＿＿戸
＊ 調査内容は、監督職員と協議すること。

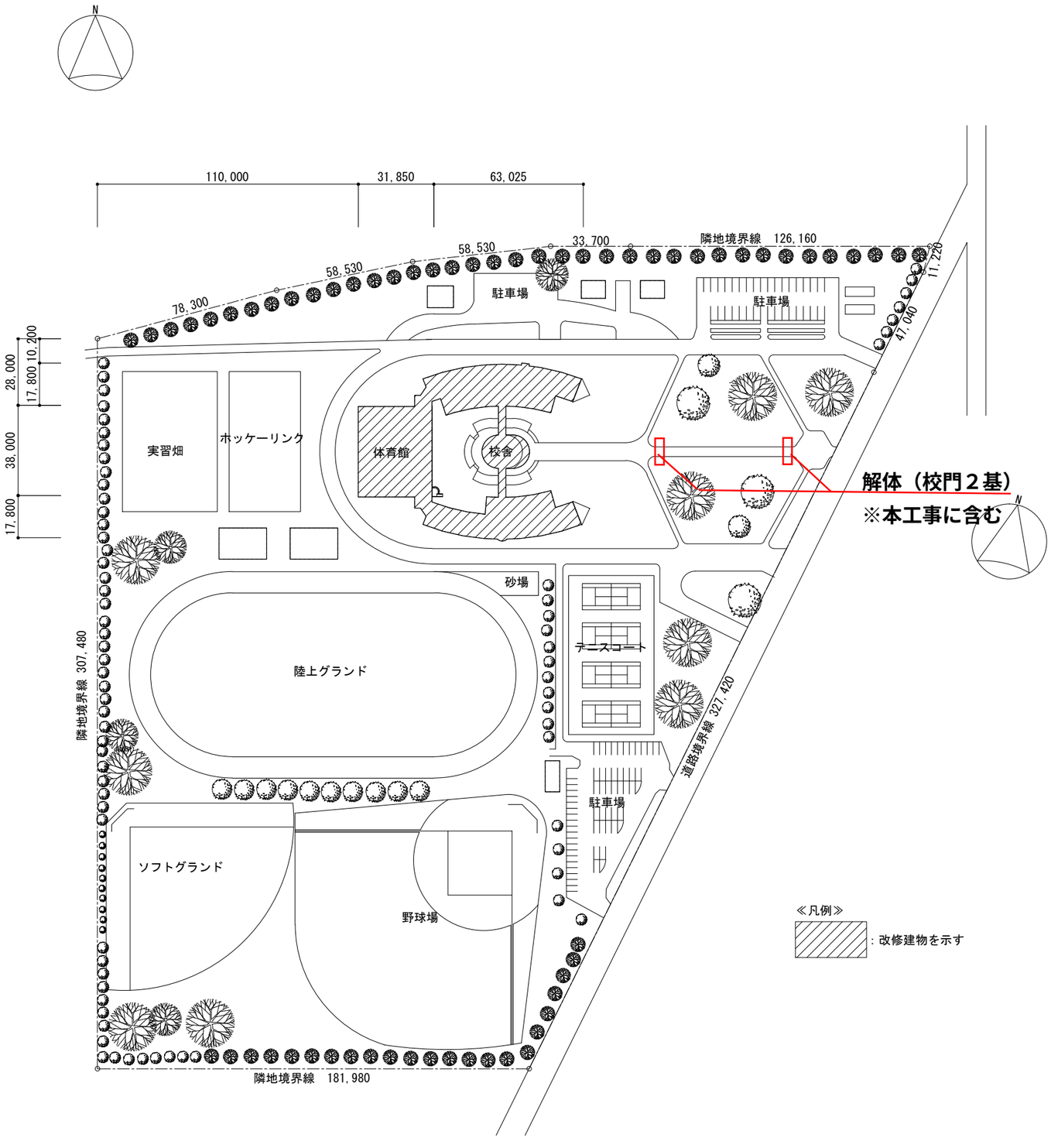
計画地：河西郡芽室町芽室南2線30番地3

案内図

面積表（㎡）			
敷地面積	87,076.00		
建物	校舎棟	屋内体育館棟	合　計
地階床面積	—	48.08	48.08
１階床面積	2,067.28	1,191.18	3,258.46
２階床面積	2,033.15	245.37	2,278.52
延床面積	4,100.43	1,484.63	5,585.06
建築面積	2,309.48	1,209.83	3,519.31

改修計画概要表

工期	番号	改修概要	関係図面番号
1	1	建物外装の改修 ・既存外壁の上 鋼製壁下地+乾式通気板金にて改修 ・既存外壁下地処理の上 再度吹付タイル・塗装等にて改修 ・上記改修に伴う開口枠、見切り、フード等の改修	A-2,5～19,23,24,39～46
	2	屋上防水・屋根材の改修 ・既存防水下地処理の上 新規防水にて改修 ・既存板金屋根の上 塗装改修 ・既存板金屋根の上 防水改修 ・上記改修に伴う笠木等の改修	A-2,5,8～11,16～19
	3	建具の改修 ・部品の取替え又は新規建具にて改修、破損部分を類似品で取替え ・電気錠改修に伴う電気設備改修	A-6～13,16,17,20～22
2	4	中央棟ホール仕上改修 ・タイルカーペット撤去の上新規仕上にて改修	A-2,6～9,16,17
	5	共用廊下床仕上改修 ・長尺塩ビシート撤去の上ビニール床タイル新設	A-2,5～9,16～19
	6	階段ノンスリップ改修 ・既存ノンスリップ撤去の上ノンスリップ新設	A-5～9,16,17
	7	家庭科・準備室改修 ・既存調理実習台撤去・新設、改修に伴う設備改修	A-6,7,25,26,27
	8	エレベーター新設(昇降機設備工事) ・屋体内部にエレベーターを新設、躯体改修、電気改修、設備改修	A-6～9,18,19,28～38,E-8,9,M-2～10
	9	LED改修(電気設備工事) ・LED改修、天井改修（雨漏れ跡改修含む）	A-2～5,28～31,E-2～7



記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 配置図・案内図	縮尺 A1 1/1000 A3 1/2000 / 図面番号 A－1

外部仕上表（校舎棟）　（1期工事）

	屋上	外壁	基礎	ポーチ1	ポーチ2・3	通路	プラットホーム・エプロン	煙突
既存	ステンレス露出防水 t=0.4 下地:アスファルトルーフィング 22kg品 硬質ウレタンボード t=25 合成樹脂発泡板 t=30 ドーム屋根:ガルバリウム鋼板t=0.4 横葺 下地:アスファルトルーフィング 22kg品 笠木:アルミ笠木 w=325（既製品）取外し カラーアルミ化粧笠木	普通合板型枠コンクリート打放しの上 外断熱パネル t=86貼 吹付タイル 廊下部:合板型枠コンクリート打放し 一部特殊型枠コンクリート打放しの上 中性化防止剤+透湿防水型外壁仕上材 ステンレス製タラップ （L=4,050×2 取外し） （L=9,500×1 取外し）	合板型枠コンクリート打放しの上 透湿防水型外壁仕上材塗 ピロティー 床:コンクリートコテ押え 柱:合板型枠コンクリート打放しの上 中性化防止剤塗 軒天:フレキシブルボードｔ＝6目透かしVP	床:磁器質タイル 100角 庇:特殊型枠コンクリート打放しの上 中性化防止剤塗 軒天:フレキシブルボードｔ＝6目透かしVP プラントボックス: 合板型枠コンクリート打放しの上 中性化防止剤塗 良土敷詰 t=600	2 床:磁器質タイル 100角 軒天:フレキシブルボードｔ＝6目透かしVP 3 床:コンクリートコテ押え （ステンレス製ノンスリップ w=30） 軒天:合板型枠コンクリート打放しの上 吹付タイル	床:コンクリートコテ押え 軒天:フレキシブルボードｔ＝6 目透かしVP テラス コンクリートコテ押え 一部磁器質タイル 75角・100角	コンクリートコテ押え （ステンレス製ノンスリップ w=30） 屋外ステージ コンクリートコテ押え 一部磁器質タイル 75角・100角 プラントボックス:合成型枠コンクリート 打放しの上中性化防止剤 塗良土敷詰 t=600	合成型枠コンクリート打放しの上吹付タイル ステンレス製笠木 t=1.5 ステンレス製タラップ φ19 w=400 屋外階段 屋根:亜鉛アルミ合板メッキ鋼板 t=0.4 横葺 下地:アスファルトルーフィング 22kg品 :木毛セメント板 t=20 鉄骨:溶融亜鉛メッキの上ウレタン樹脂塗装
改修後	圧縮空気混入低比重超速硬化ｳﾚﾀﾝ防水 t=3 ﾊｾﾞ捨てｼｰﾘﾝｸﾞ@450 ｻﾝﾀﾞｰ研磨・ﾊｾﾞ倒し 既存の上高圧洗浄 ドーム屋根:2液形シリコン樹脂塗装 錆止め塗装 既存の上ケレン・洗浄 笠木:既存アルミ笠木取付け	カラーガルバリウム鋼板 t=0.4 新設 鋼製横胴縁@600 胴縁受け溝形鋼 ﾀﾃ@600 ﾖｺ@900 ｱﾝｶｰM12 ﾀﾃ@600 ﾖｺ@900 (既存)外断熱ﾊﾟﾈﾙ t=86の上吹付ﾀｲﾙ 廊下:複層塗材E 吹付タイル 下地処理 (既存)ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上中性化防止塗材 既存ステンレス製タラップ 再取付	水系アクリルシリコン樹脂塗料 吹付 凹凸状可とう形複層塗材CE ピロティ 既存のまま	既存のまま	既存のまま	通路 既存のまま テラス 既存のまま	プラットホーム・エプロン 既存のまま 屋外ステージ 既存のまま	煙突 既存のまま 屋外階段 ウレタン樹脂塗装 錆止め塗装 下地処理・ケレン

内部仕上表　（2期工事）

室名			床 仕上	床 下地	巾木	壁 仕上（腰壁）	壁 仕上（壁）	壁 下地	天井 仕上	天井 下地	台輪	天井高	備考
校舎棟 各階共通	配膳室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	ラワン OSCL H=300	楢合板 t=5.5目透かしOP	全 左	――	石こう吸音板 t=9	――	塩ビ台輪45号	2,500	
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
	男子便所 女子便所	既存	磁器質モザイクタイル 50角	モルタル下地	磁器質タイル 100角	磁器質タイル 100角	全 左	――	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt=6目透かし	――	塩ビ台輪54号	2,500	
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
	廊下 1 (中央)	既存	長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル金コテ	VP	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上中性化防止剤塗	全 左	――	岩綿吸音板 t=9	石こうボード t=9	塩ビ台輪45号	3,000・3,230 3,460	
		改修後	ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――					
	廊下 2 (南北渡廊下)	既存	長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル金コテ	ラワン OSCL	タモ羽目板 t=15 CL	繊維強化石膏版 t=5+5目透かし ウレタン樹脂塗装	LGS下地	ウレタン樹脂塗装	繊維強化石膏版 t=8 目透かし	――	3,315	
		改修後	ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま			――		
	廊下 3 (南側)	既存	長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル金コテ	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP ﾗﾜﾝ合板t=5.5・ﾗﾜﾝ OSCL	合板型枠ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 ﾗﾜﾝ合板 t=5.5目透し OSCL	合板型枠ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透し OP	――	全 上	繊維強化石膏版 t=5.5 目透かし 石こうボード t=9	塩ビ台輪45号 塩ビ台輪54号	2,500・3,500	
		改修後	ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――					
	廊下 4 (北側)	既存	長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル金コテ	全 上	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ﾗﾜﾝ合板 t=9目透し OSCL ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 ﾗﾜﾝ合板 t=5.5目透し OSCL	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP 楢合板 t=5.5目透し OP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透し OSCL	――	石こう吸音板 t=9 一部撤去	軽天下地 一部撤去	塩ビ台輪45号	2,500	
		改修後	ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
	多目的スペース	既存	フローリングラバー付 t=15（直貼工法）	モルタル金コテ	VP	タモ羽目板 t=15 CL ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上中性化防止剤塗	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上APｸﾘｱｰ	――	岩綿吸音板 t=9 一部撤去 ビニールクロス 一部撤去	石こうボード t=9	全 上	3,000・3,075 3,150	
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	岩綿吸音板 t=9 一部新設 ビニールクロス 一部新設	石こうボード t=9.5 一部新設(軽天下地共)			
	階段 A (南側・北側)	既存	長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル金コテ	全 上	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上中性化防止剤塗	全 左（一部楢ﾍﾞﾆｱ t=5.5 OP）	――	岩綿吸音板 t=9 石こう吸音板 t=9	石こうボード t=9	全 上	――	
		改修後	ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――				――	
	階段 B (中央)	既存	長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル金コテ	全 上	――	――	――	――	――	――	――	
		改修後	ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	――	――	――	――	――	――	――	
	階段 C (西側)	既存	長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル金コテ	VP 一部ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上吹付タイル	全 左（一部楢ﾍﾞﾆｱ t=5.5 OP）	――	石こう吸音板 t=9	――	塩ビ台輪45号	――	
		改修後	ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――		――	
1階	昇降口	既存	磁器質タイル 100角 長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル下地	磁器質タイル 100角 一部ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上吹付ﾀｲﾙ	全 左	――	石こう吸音板 t=9 一部撤去	軽天下地 一部撤去	塩ビ台輪45号	3,000 3,120～3,150	
		改修後	磁器質タイル 100角 既存のまま ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
	ホール	既存	カーペットタイル t=6.5 撤去	豆砂利コンクリート金コテ	VP	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上吹付ﾀｲﾙ	全 左	――	全 上	全 上	全 上	7,550	
		改修後	ビニル床タイル t=3.0 新設	豆砂利コンクリート金コテ	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――					
	普通教室	既存	フローリングラバー付 t=15（直貼タイプ）	モルタル金コテ	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP ﾗﾜﾝ合板t=5.5・ﾗﾜﾝ OSCL	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 ﾗﾜﾝ合板 t=5.5目透し OSCL ﾗﾜﾝ合板 t=9目透し OSCL	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透かしOP 一部吸音壁装材 t=1.6	LGS下地	石こう吸音板 t=9	――	全 上	3,000	
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	――			
	図書準備室	既存	フローリングラバー付 t=15（直貼タイプ）	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	――	全 上	3,000	
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
	特殊教室1	既存	フローリングラバー付 t=15（直貼タイプ）	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	――	全 上	3,000	
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
	教材室1	既存	フローリングラバー付 t=15（直貼タイプ）	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	――	全 上	3,000	
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
	職業教室	既存	フローリングラバー付 t=15（直貼タイプ）	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	――	全 上	3,000	
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			

記事

㈱創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL 0155-24-7668
FAX 0155-21-6603
一級建築士事務所登録（十）第73号
一級建築士登録第216909号
太田 豊

設計年月日	工事名称	総数
2018 ・ 11 ・	芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	
査閲 / 校正 / 担当	図面名称：仕上表1（既存・改修後校舎棟）	縮尺 A1 1/100 A3 1/200 / 図面番号 A ― 2

内部仕上表

室名			床 仕上	床 下地	巾木	壁 仕上（腰壁）	壁 仕上（壁）	壁 下地	天井 仕上	天井 下地	台輪	天井高	備考
校舎棟 1階 配膳室前室	既存	コンクリートコテ押え 防塵処理	――	モルタル金コテ	合板ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上吹付ﾀｲﾙ	全　左	――	全　上	――	全　上	2,500	
	改修後	既存のまま	――	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
教員ステーション	既存	フローリングラバー付 t=15（直貼タイプ）	モルタル金コテ	ラワン OSCL	ラワン合板 t=9目透かしOSCL	楢合板 t=5.5目透かしOP	――	全　上	――	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
放送室	既存	カーペットタイル t=6.5 一部長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ 一部フリーアクセス t=50	全　上	有孔楢合板 t=5.5目透しOP	全　左	―― (ｸﾞﾗｽｳｰﾙt=50充填・寒冷紗裏貼)	岩綿吸音板 t=9	石こう吸音板 t=9 ｸﾞﾗｽｳｰﾙt=100、寒冷紗裏貼	全　上	3,000・2,850	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま					
スタジオ	既存	カーペットタイル t=6.5	モルタル金コテ	全　上	石こうボード t=9の上 有孔無孔交互楢合板 t=5.5 OP	全　左	―― (ｸﾞﾗｽｳｰﾙt=50充填・寒冷紗裏貼)	全　上	全　上	塩ビ台輪54号	2,700	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま					
家庭科室 作法コーナー	既存	長尺塩ビシート t=2.5 一部合成床タタミt=55、縁甲板t=12	モルタル金コテ 一部木下地	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP ﾗﾜﾝ合板t=5.5・ﾗﾜﾝ OSCL	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透し OP	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透し OP	――	石こう吸音板 t=9	――	塩ビ台輪45号	3,000・2,850	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
家庭科準備室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	ビニール巾木	楢合板 t=5.5目透かしOP（吹付）	全　左	LGS下地 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4	石こう吸音板 t=9 一部撤去	軽天下地 一部撤去	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
生徒会室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全　上	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	全　上（吹付無し）	全　左	全　上	全　上	――	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
技術室	既存	コンクリートコテ押え　　防塵処理 フローリングラバー付（直貼りタイプ）	全　上	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP ﾗﾜﾝ合板t=5.5・ﾗﾜﾝ OSCL	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 ﾗﾜﾝ合板 t=5.5目透し OSCL ﾗﾜﾝ合板t=9目透OSCL(一部t=5.5)	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透かしOP	――	石こう吸音板 t=9 一部撤去	軽天下地 一部撤去	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
技術準備室	既存	フローリングラバー付（直貼りタイプ）	全　上	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	ラワン合板 t=5.5目透かしOSCL	全　上	LGS下地 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4	全　上	――	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
用務員室	既存	長尺塩ビシート t=2.5 一部磁器質タイル 100角	全　上	ラワン OSCL	楢合板 t=5.5目透かしOP	楢合板 t=5.5目透かしOP ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=6VP	LGS下地 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4	全　上	――	全　上	2,500・2,620	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
ボイラー室 電気室 消火ポンプ室	既存	コンクリートコテ押え 防塵処理	――	――	木毛板 t=15打込の上 ｸﾞﾗｽｳｰﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=25貼	全　左	――	グラスウールボード t=25	木毛板 t=15打込	――	4,160	
	改修後	既存のまま	――	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――		――	
音楽室	既存	カーペットタイル t=6.5	モルタル金コテ	ラワン OSCL	有孔楢合板 t=5.5目透しOP	全　左（一部吸音壁装材 t=1.6）	―― (ｸﾞﾗｽｳｰﾙt=50充填・寒冷紗裏貼)	岩綿吸音板 t=9 成型立体吸音板	石こうボード t=9 遮音ｼｰﾄ+ﾌﾛｰｲﾝｸﾞ t=200	全　上	3,000・3,300	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま					
音楽準備室	既存	カーペットタイル t=6.5	全　上	ラワン OSCL	全　上	全　左	全　上	岩綿吸音板 t=9	全　上	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま					
美術室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全　上	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP ﾗﾜﾝ合板t=5.5・ﾗﾜﾝ OSCL	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透し OP	楢合板 t=5.5目透かしOP 一部吸音壁装材 t=1.6 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=10目透かしVP	――	石こう吸音板 t=9 一部撤去	軽天下地 一部撤去	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
美術準備室	既存	コンクリートコテ押え 一部モルタル金コテ防塵処理	全　上	ビニール巾木	楢合板 t=5.5目透し OP（吹付）	全　左	LGS下地 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4	石こう吸音板 t=9 一部撤去	軽天下地 一部撤去	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
物品庫1・2	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全　上	コンクリート打放し	コンクリート打放し	全　左	――	全　上	――	――	――	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――	――	――	
2階 図書室	既存	カーペットタイル t=6.5	モルタル金コテ	APクリアー	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上中性化防止剤塗	全　左	――	岩綿吸音板 t=9 ｳﾚﾀﾝ樹脂 石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9　塗装	石こうボード t=9	全　上	3,000～7,650	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――					
普通教室	既存	フローリングラバー付 t=15（直貼タイプ）	全　上	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP ﾗﾜﾝ合板t=5.5・ﾗﾜﾝ OSCL	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 ﾗﾜﾝ合板 t=5.5目透し OSCL ﾗﾜﾝ合板 t=9目透し OSCL	楢合板 t=5.5目透かしOP 一部吸音壁装材 t=1.6	LGS下地 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4	石こう吸音板 t=9 一部撤去	軽天下地 一部撤去	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
教材室2	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全　上	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	一部:ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透し OP（吹付）	全　左	――	全　上	――	全　上	2,500	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
第1・2理科室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全　上	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 VP ﾗﾜﾝ合板t=5.5・ﾗﾜﾝ OSCL	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透し OP	一部吸音壁装材 t=1.6 ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透かしOP	――	石こう吸音板 t=9 一部撤去	軽天下地 一部撤去	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
理科準備室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全　上	ビニール巾木	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透し OP（吹付）	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 楢合板 t=5.5目透かしOP（吹付）	――	全　上	――	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
保健室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全　上	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	楢合板 t=5.5目透し OP（吹付）	全　左 (一部ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=6VP)	木下地 一部:ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4	全　上	――	全　上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			

記事

株式会社 創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL 0155-24-7668
FAX 0155-21-6603
一級建築士事務所登録（＋）第73号
一級建築士登録第216909号
太田　豊

設計年月日	工事名称	総数
2018 . 11 .	芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	
査閲 / 校正 / 担当	図面名称：仕上表2（既存・改修後校舎棟）	縮尺 A1 1/100 A3 1/200
		図面番号 A — 3

内部仕上表

室名		床 仕上	床 下地	巾木	壁 仕上（腰壁）	壁 仕上（壁）	壁 下地	天井 仕上	天井 下地	台輪	天井高	備考
校舎棟 2階 第2会議室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全上	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	全上	全左	全上	全上	――	全上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
男子更衣室 女子更衣室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全上	ビニール巾木	福合板 t=5.50P（吹付）（男子） ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP （女子） ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 福合板 t=5.5 OP	全左	――	全上	――	全上	2,500	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
校長室	既存	カーペットタイル t=6.5	全上	銘木錬付	銘木合板 t=4	全左	木下地 （一部ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板）	岩綿吸音板 t=9	石こうボード t=9	全上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま					
印刷室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	全上	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	福合板 t=5.5目透し OP	全左	全上	石こう吸音板 t=9	――	全上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
会議室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	福合板 t=5.5目透し OP	全左	木下地 （一部ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板）	岩綿吸音板 t=9	石こうボード t=9	塩ビ台輪45号	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま					
湯沸室	既存	長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	ビニール巾木	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=6VP （一部ｽﾃﾝﾚｽ t=0.8貼）	全左	LGS下地	石こう吸音板 t=9	――	全上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま		――			
職員室	既存	フローリングラバー付 t=15 （直貼りタイプ）	モルタル金コテ	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上AEP ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4の上 福合板 t=5.5目透し OP	全左	――	岩綿吸音板 t=9 一部撤去	石こうボード t=9 一部撤去(軽天下地共)	全上	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	岩綿吸音板 t=9 一部新設	石こうボード t=9.5 一部新設(軽天下地共)			
職員男子便所 職員女子便所	既存	磁器質モザイクタイル 50角	モルタル下地	磁器質タイル 100角	磁器質タイル 100角	全左	――	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt=6目透かし	――	塩ビ台輪54号	2,500	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	――		――			
パソコン教室	既存	カーペットタイル t=6.5	フリーアクセス H=50	ラワン OSCL ラワン合板t=5.5 OSCL	有孔福合板 t=5.5目透しOP 福合板 t=5.5目透し OP	全左	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=4 （ｸﾞﾗｽｳｰﾙt=50充填・寒冷紗裏貼）	岩綿吸音板 t=9	石こうボード t=9	塩ビ台輪45号	3,000	
	改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま					

記事

株式会社 創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL 0155-24-7668
FAX 0155-21-6603
一級建築士事務所登録（＋）第73号
一級建築士登録第216909号
太田 豊

設計年月日	工事名称	総数
2018 . 11 .	芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	

査閲	校正	担当	図面名称	縮尺	図面番号
			仕上表3（既存・改修後校舎棟）	A1 1/100 A3 1/200	A ― 4

外部仕上表（屋体棟）

	屋根	軒天	屋上	外壁	基礎	ポーチ	外床1・2	その他
既存	亜鉛アルミ合板メッキ鋼板 t=0.4 横葺 下地:アスファルトルーフィング 22kg品 硬質ウレタンボード t=25 （片面アルミ箔付 凸型ジョイナー使用） 木片化粧木毛板 t=25 （カラー T型ジョイナー使用）	合板型枠コンクリート打放しの上吹付タイル フレキシブルボード t=6 目透し VP （一部有孔ボード目透し VP）	ステンレス露出防水（カラー粉末入）t=0.4 下地:アスファルトルーフィング 22kg品 ステンレス歩行用防水 豆砂利コンクリートコテ押え （伸縮目地60×25・ワイヤーメッシュ 6φ） 下地:ステンレス t=0.4 :アスファルトルーフィング 22kg品 笠木:カラーアルミ笠木（既製品）	合板型枠コンクリート打放しの上吹付タイル （増コン t=20） ALC版 t=50の上吹付タイル(浸湿性防水型) 合板型枠コンクリート打放しの上 着色変性ポリエステル系保護剤	合板型枠コンクリート打放しの上AEP	磁器質タイル 100角 スロープ部 磁器質タイル 100角	1 コンクリートコテ押え （ステンレスノンスリップ W=30） 側面:合板型枠コンクリート打放し 2 磁器質タイル 100角	軒下化粧砂利 t=60 コンクリート製縁石 120×150×600 スチール製立体トラス （溶融亜鉛メッキの上ウレタン樹脂塗装）
改修後	2液形シリコン樹脂塗装 錆止め塗装 既存の上ケレン・洗浄	既存のまま	圧縮空気混入低比重超速硬化ｳﾚﾀﾝ防水 t=3 ﾊﾟ捨てｼｰﾘﾝｸﾞ ｻﾝﾀﾞｰ研磨・ﾊﾟ倒し 既存の上高圧洗浄	複層塗材E 吹付タイル プライマー 下地処理 既存ALC版 t=50 吹付タイル	水系アクリルシリコン樹脂塗料 可とう形複層塗材CE	既存のまま	既存のまま	既存のまま

内部仕上表

室名			床 仕上	床 下地	巾木	壁 仕上（腰壁）	壁 仕上（壁）	壁 下地	天井 仕上	天井 下地	台輪	天井高	備考
屋体棟 1階 玄関	既存		磁器質タイル t=100 長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル下地 モルタル金コテ	テラゾーブロック50×130 ラワン OSCL H=100	――	吹付タイル	ラスモルタル	岩綿吸音板 t=9 一部撤去	石こうボード t=9 一部撤去(軽天下地共)	全上	3,105・2,986	
	改修後		磁器質タイル t=100 既存のまま ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	既存のまま	岩綿吸音板 t=9 一部新設	石こうボード t=9.5 一部新設(軽天下地共)			
ホール	既存		長尺塩ビシート t=2.5 撤去	モルタル金コテ	ラワン OSCL H=100	――	全上	――	石こう吸音板 t=9 一部撤去	――	全上	――	
	改修後		ビニル床タイル t=3.0 新設	既存のまま	既存のまま	――	ｺﾝｸﾘｰﾄ打ち放しの上吹付ﾀｲﾙ (複層塗材E ゆず肌) 一部新設	――	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設		――	
アリーナ	既存		特殊フローリング t=18（ナラ）	型枠用合板 t=12 ユニット床組 H=500	ラワン OSCL H=100	――	ﾗﾜﾝ合板 t=9目透かし貼 OSCL （一部有孔ﾗﾜﾝ合板）	型枠用合板 t=12	木片化粧木毛板 t=25ｶﾗｰ 一部 成型立体吸音板	――	全上	5,900	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	既存のまま		――			
ステージ	既存		特殊フローリング t=18（ナラ）	型枠用合板 t=12	ラワン OSCL H=100	――	ﾗﾜﾝ合板 t=9目透かし貼 OSCL	全上	石こう吸音板 t=9	――	全上	3,000	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	既存のまま		――			
倉庫	既存		長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	青木 OP H=100	――	楢合板 t=5.5目透かし OP	――	全上	――	全上	3,000	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	――		――			
放送室	既存		カーペット t=5	型枠用合板 t=12	青木 OP H=100	――	有孔楢合板 t=5.5目透かし OP	―― (寒冷紗)	全上	――	全上	2,400	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	既存のまま		――			
教官室	既存		長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	青木 OP H=100	――	楢合板 t=5.5目透かし	――	全上	――	全上	3,000	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	――		――			
ミーティングロビー	既存		特殊フローリング t=18（ナラ） カーペットタイル	型枠用合板 t=12 型枠用合板 t=12+ラワン合板 t=5.5	ラワン OSCL H=100	――	ﾗﾜﾝ合板 t=9目透かし OSCL ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上吹付ﾀｲﾙ	――	石こう吸音板 t=9 一部撤去	――	全上	2,977・2,827	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	――	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
男子手洗場 女子手洗場	既存		長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	ラワン OSCL H=100	――	VP	――	VP	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=6目透かし	全上	2,363	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	――					
男子更衣室 女子更衣室	既存		長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	ラワン OSCL H=100	――	ﾗﾜﾝ合板 t=9目透かし OSCL ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上吹付ﾀｲﾙ VP	――	全上	全上	全上	2,363	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	――					
男子便所 女子便所	既存		磁器質モザイクタイル 50角	モルタル下地	――	――	磁器質タイル 50×100	――	全上	全上	全上	2,395	
	改修後		既存のまま	既存のまま	――	――	既存のまま	――					
身障者用便所	既存		磁器質モザイクタイル 50角	モルタル下地	――	――	全上	――	全上	全上	全上	2,380	
	改修後		既存のまま	既存のまま	――	――	既存のまま	――					
器具庫A	既存		長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	青木 OP H=100	――	楢合板 t=5.5目透かし OP	――	石こう吸音板 t=9 一部撤去	――	全上	2,700	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	――	石こう吸音板 t=9.5 一部新設	軽天下地 一部新設			
器具庫B	既存		長尺塩ビシート t=2.5	モルタル金コテ	青木 OP H=100	――	全上	――	全上	――	全上	2,400	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	――		――			
2階 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑA	既存		特殊フローリング t=18（ナラ）一部撤去	型枠用合板 t=12 一部撤去 ユニット床組 H=135 一部撤去	ラワン OSCL H=100 一部撤去	――	ﾗﾜﾝ合板 t=9目透かし OSCL	型枠用合板 t=12	ウレタン発泡t=25の上 不燃コート吹付	――	全上	4,755	
	改修後		特殊フローリング t=18（ナラ）一部新設	構造用合板 t=12 一部新設 ユニット床組 一部新設	ラワン OSCL H=100 一部新設	――	ﾗﾜﾝ合板 t=5.5 OSCL 目透かし貼り 一部新設	石こうﾎﾞｰﾄﾞ t=12.5+12.5 両面貼り(LGS100共) 一部新設	既存のまま	――			
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑB	既存		特殊フローリング t=18（ナラ）	型枠用合板 t=12 ユニット床組 H=135	ラワン OSCL H=100	――	全上	全上	全上	――	全上	4,100	
	改修後		既存のまま	既存のまま	既存のまま	――	既存のまま	既存のまま		――			
地階 物入	既存		防水モルタル t=15	――	――	――	合成型枠コンクリート打放し ラス防水モルタル t=15	――	石こうボード t=9	――	全上	1,945	
	改修後		既存のまま	――	――	――	既存のまま	――		――			

備考

・圧縮空気混入低比重超速硬化ｳﾚﾀﾝ防水 t=3 はダイフレックス GETシステム G-Y-K工法 3mm 又は同等品以上とする
・外壁 カラーガルバリウム鋼板 t=0.4 は栗林商会 イージーバンド工法 チャンネルコンポタイプ 又は同等品以上とする
・可とう形改修塗材CE は菊水化学工業 無機系微弾性フィラー リカバリー 又は同等品以上とする
・水系アクリルシリコン樹脂塗料 は菊水化学工業 水系ファインコートシリコン 又は同等品以上とする
・ビニル床タイル t=3.0 は田島ルーフィング ウッドラインDサイズ 又は同等品以上とする

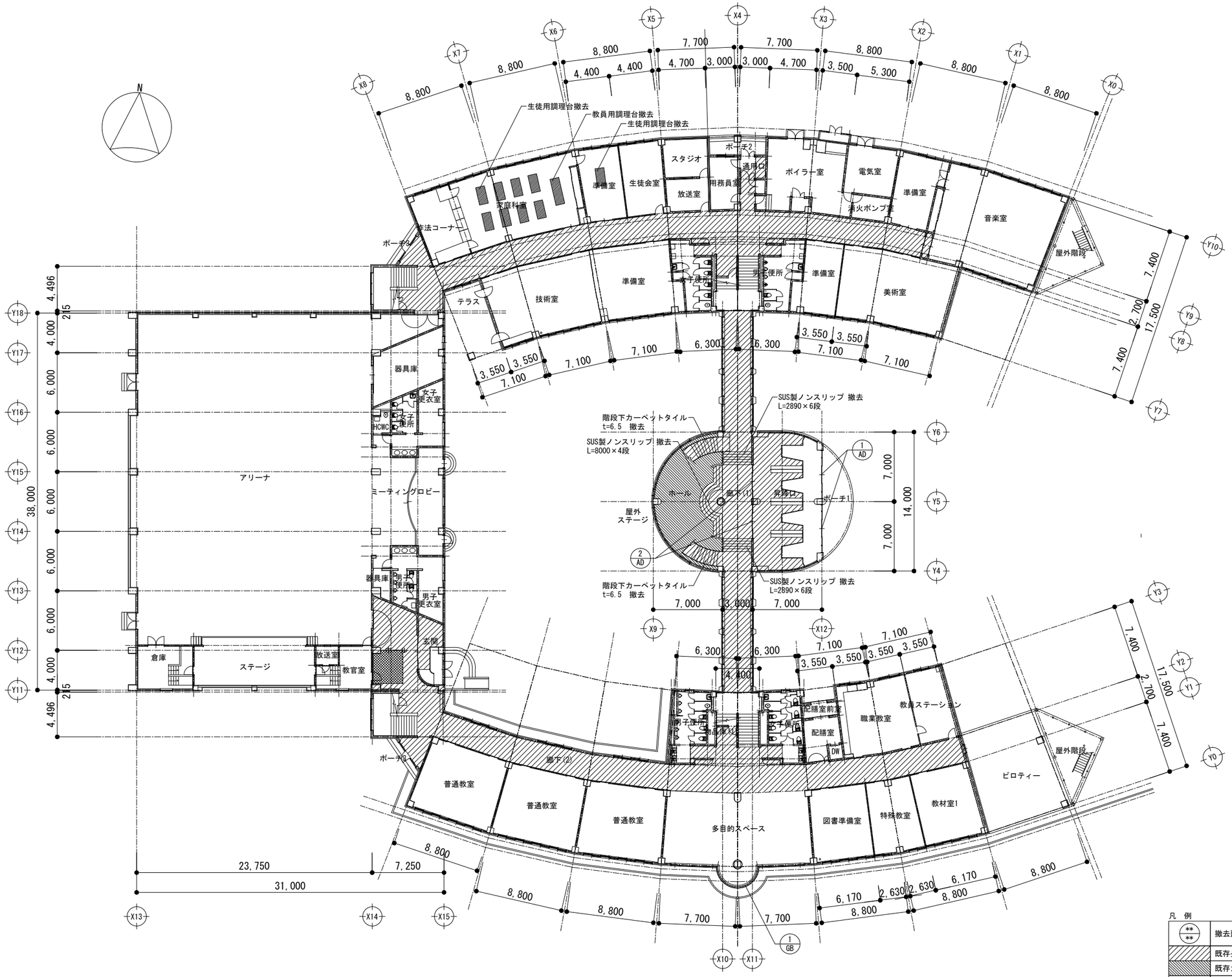
記事

㈱創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL 0155-24-7668
FAX 0155-21-6603
一級建築士事務所登録（＋）第73号
一級建築士登録第216909号
太田 豊

設計年月日	工事名称	総数
2018 . 11 .	芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	

査閲	校正	担当	図面名称	縮尺	図面番号
			仕上表4（既存・改修後屋内体育館）	A1 1/100 A3 1/200	A — 5

既存



凡 例

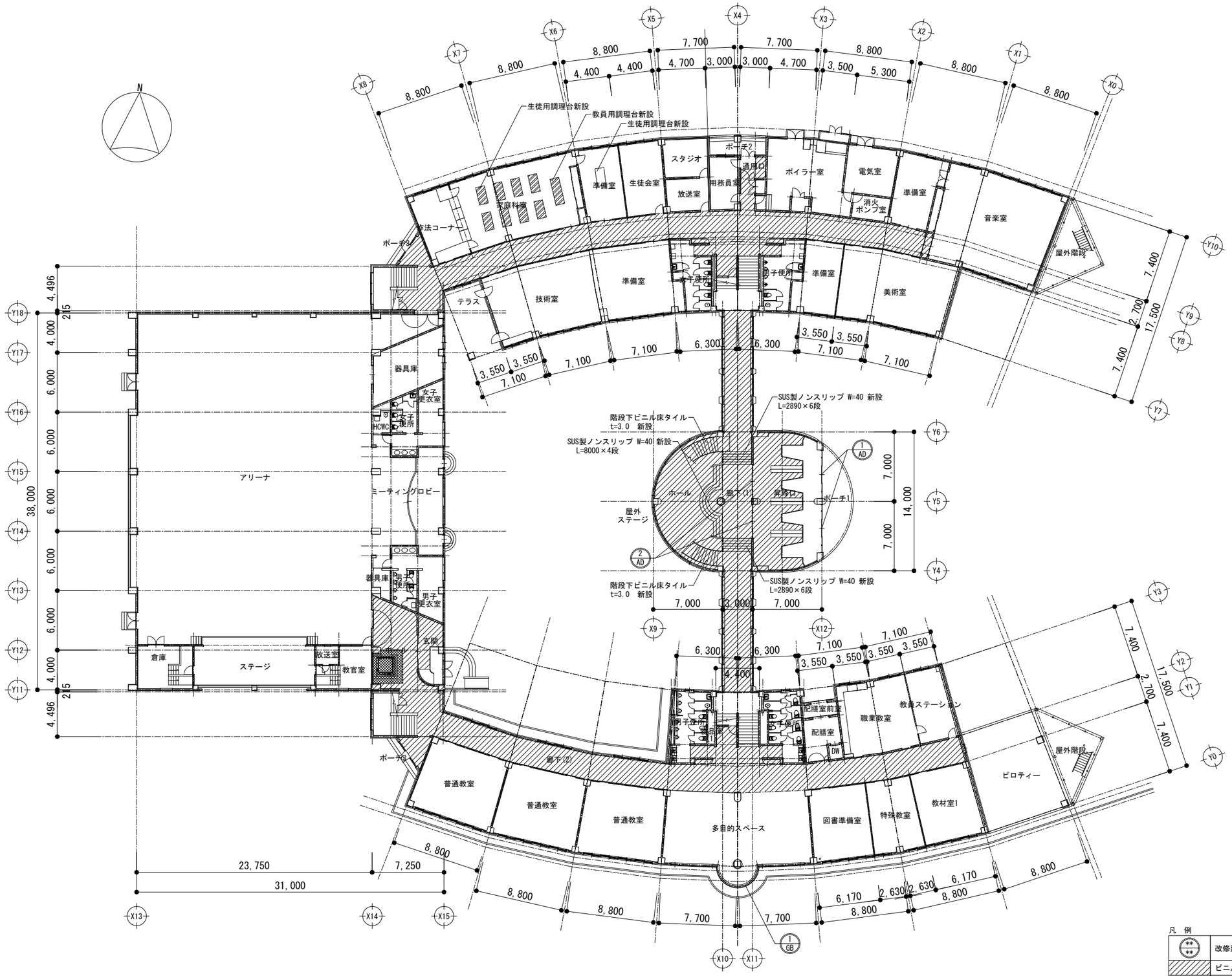
** / **	撤去建具	1期工事
	既存長尺塩ビシート t=2.5 撤去	2期工事
	既存カーペットタイル t=6.5 撤去	2期工事
図 示	調理台撤去	2期工事
	エレベーター改修範囲	2期工事

記 事

株式会社 創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL 0155-24-7668
FAX 0155-21-6603
一級建築士事務所登録（＋）第73号
一級建築士登録第216909号
太田 豊

設計年月日	2018 . 11 .	工事名称	芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	
査 閲	校 正	担 当	図面名称 既存・撤去１階平面図	縮 尺 A1:1/200 A3:1/400 / 図面番号 A — 6

改修後

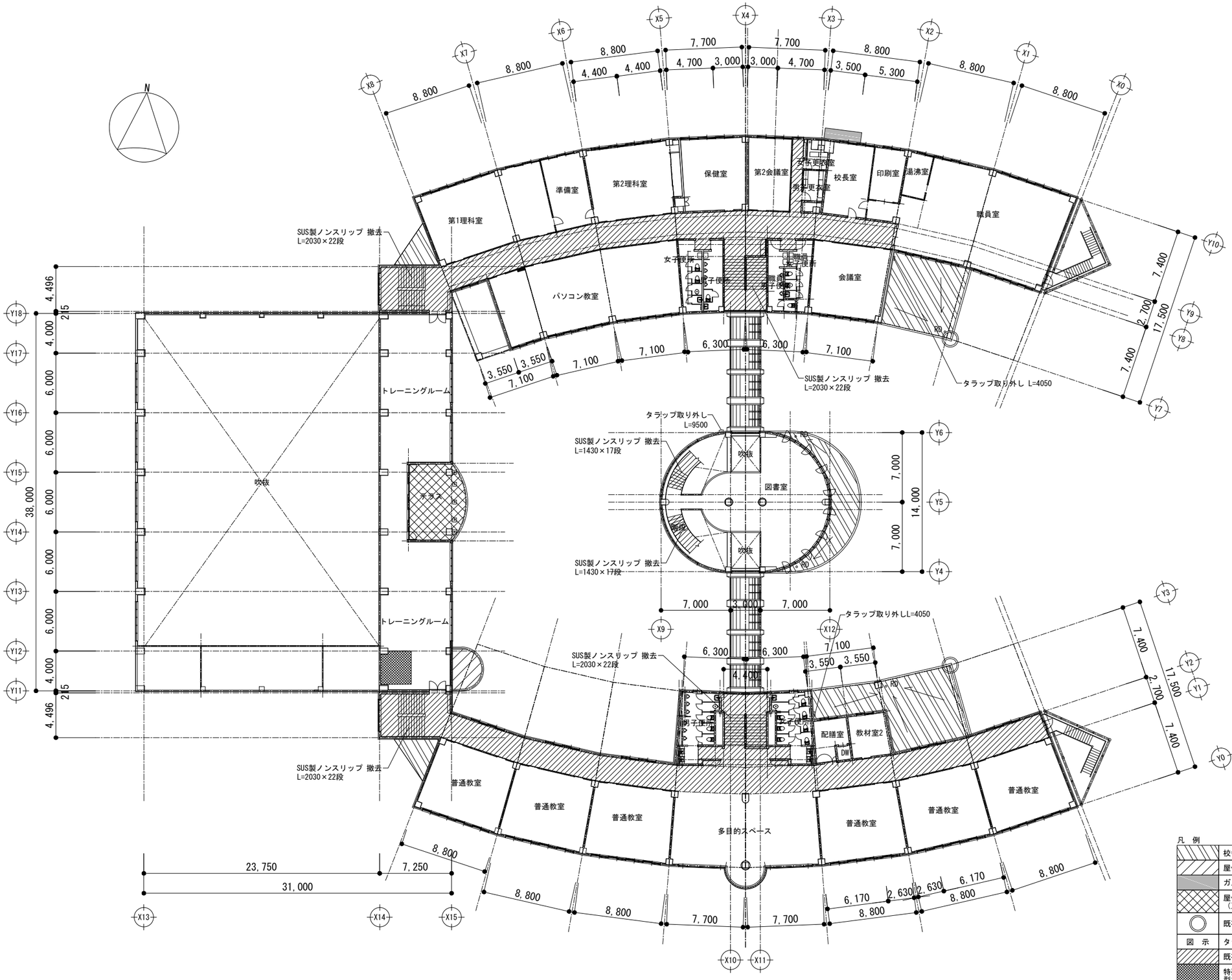


凡 例

** **	改修建具	1期工事
	ビニル床タイル t=3.0 新設	2期工事
図 示	調理台新設	2期工事
	エレベーター改修範囲	2期工事

記 事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）
				査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 改修後１階平面図
				縮 尺 A1:1/200 A3:1/400	図面番号 A － 7

既存

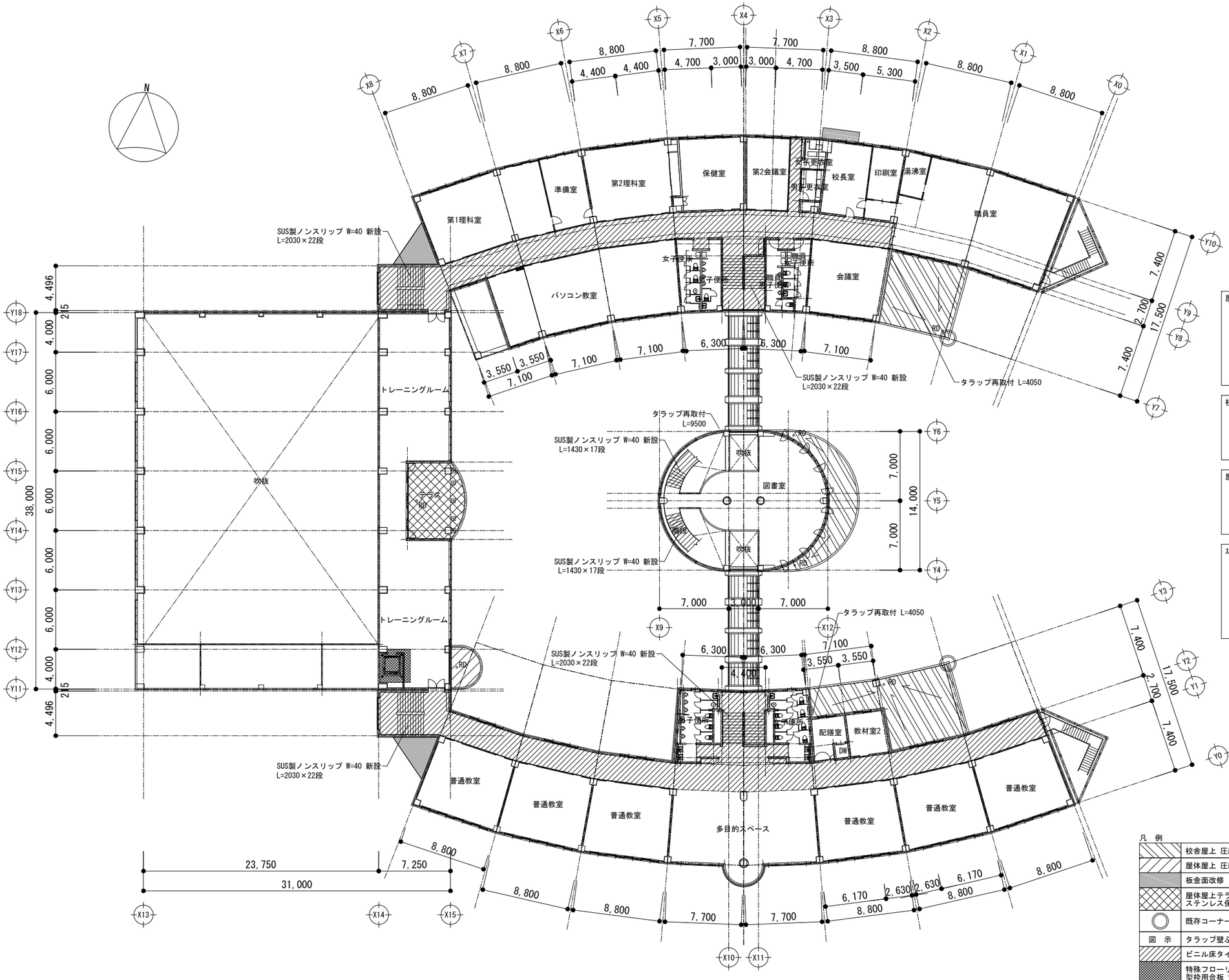


凡 例

	校舎屋上 ステンレス露出防水 t=0.4 既存のまま	1期工事
	屋体屋上 ステンレス露出防水 t=0.4 既存のまま	1期工事
	ガルバリウム鋼板 t=0.4 横葺 既存のまま	1期工事
	屋体屋上テラス ステンレス保護防水 （豆砂利コンクリート仕上）既存のまま	1期工事
	既存コーナーアルミ製笠木 撤去	1期工事
図 示	タラップ取り外し	1期工事
	既存長尺塩ビシート t=2.5 撤去	2期工事
	特殊フローリング t=18（ナラ）撤去 型枠用合板 t=12 撤去 ユニット床組 撤去 コンクリートスラブ t=120 撤去	2期工事
図 示	階段ノンスリップ撤去	2期工事

記 事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	
				査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 既存・撤去２階平面図	縮 尺 A1:1/200 A3:1/400 / 図面番号 A — 8

改修後



屋体屋上テラス改修仕様 既存の上 ①研り・研磨・高圧洗浄 ②左官補修(ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ系) ③圧縮空気混入低比重超速硬化ｳﾚﾀﾝ防水 t=3 (立上がり部はｽﾃﾝﾚｽ露出防水改修と同様の改修) ≪備考≫ 既存ｱﾙﾐ笠木脱着,既存ｺｰﾅｰｱﾙﾐ笠木撤去・新設,ﾄﾞﾚﾝ廻り処理,腰水切り脱着,飛散防止養生	1期工事
校舎棟板金面改修仕様 既存の上 ①ケレン・洗浄 ②錆止め塗装 ③2液形シリコン樹脂塗装	1期工事
屋体棟板金面改修仕様 既存の上 ①ケレン・洗浄 ②錆止め塗装 ③2液形シリコン樹脂塗装	1期工事
ｽﾃﾝﾚｽ露出防水改修仕様 既存の上 ①高圧洗浄 ②ｻﾝﾀﾞｰ研磨・ﾊﾋﾞ倒し ③ﾊﾋﾞ捨てｼｰﾘﾝｸﾞ ④圧縮空気混入低比重超速硬化ｳﾚﾀﾝ防水 t=3 ≪備考≫ 既存ｱﾙﾐ笠木脱着,既存ｺｰﾅｰｱﾙﾐ笠木撤去・新設,ﾄﾞﾚﾝ廻り処理,煙突廻り水切り脱着,飛散防止養生	1期工事

※超速硬化ウレタン防水における留意事項

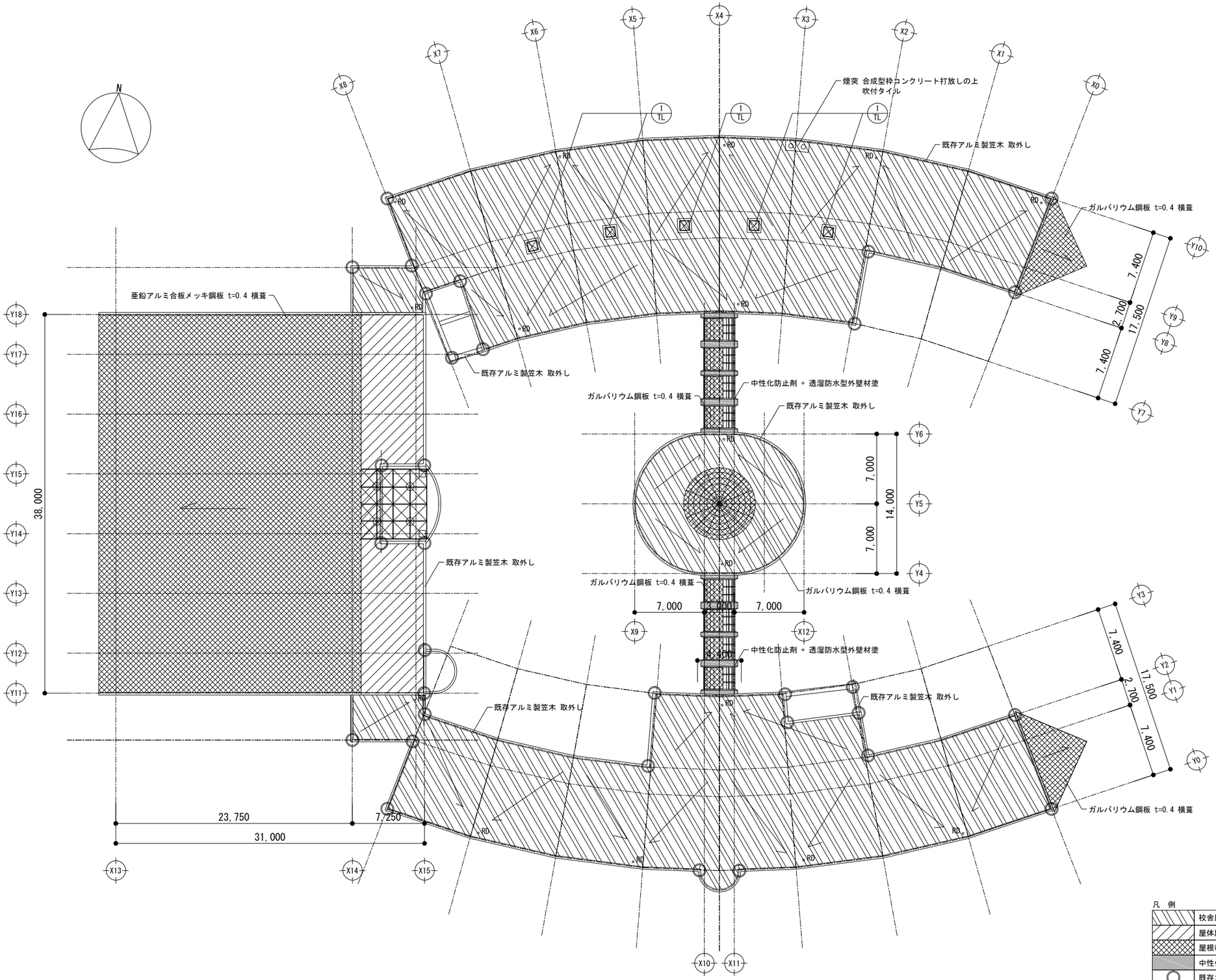
厚生労働省認定 超速硬化ウレタンスプレー施工主任者が吹付を行う事。

凡 例

	校舎屋上 圧縮空気混入低比重超速硬化ウレタン防水 t=3 新設	1期工事
	屋体屋上 圧縮空気混入低比重超速硬化ウレタン防水 t=3 新設	1期工事
	板金面改修	1期工事
	屋体屋上テラス ステンレス保護防水（豆砂利コンクリート仕上）新設	1期工事
	既存コーナーアルミ製笠木 再取付	1期工事
図 示	タラップ壁ふかし分調整後再取付	1期工事
	ビニル床タイル t=3.0 新設	2期工事
	特殊フローリング t=18（ナラ）新設 型枠用合板 t=12 新設 ユニット床組 新設 コンクリートスラブ t=120 新設	2期工事
図 示	階段ノンスリップ 新設	2期工事

記 事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	
			査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 改修後２階平面図	縮 尺 A1:1/200 A3:1/400 / 図面番号 A — 9

既存

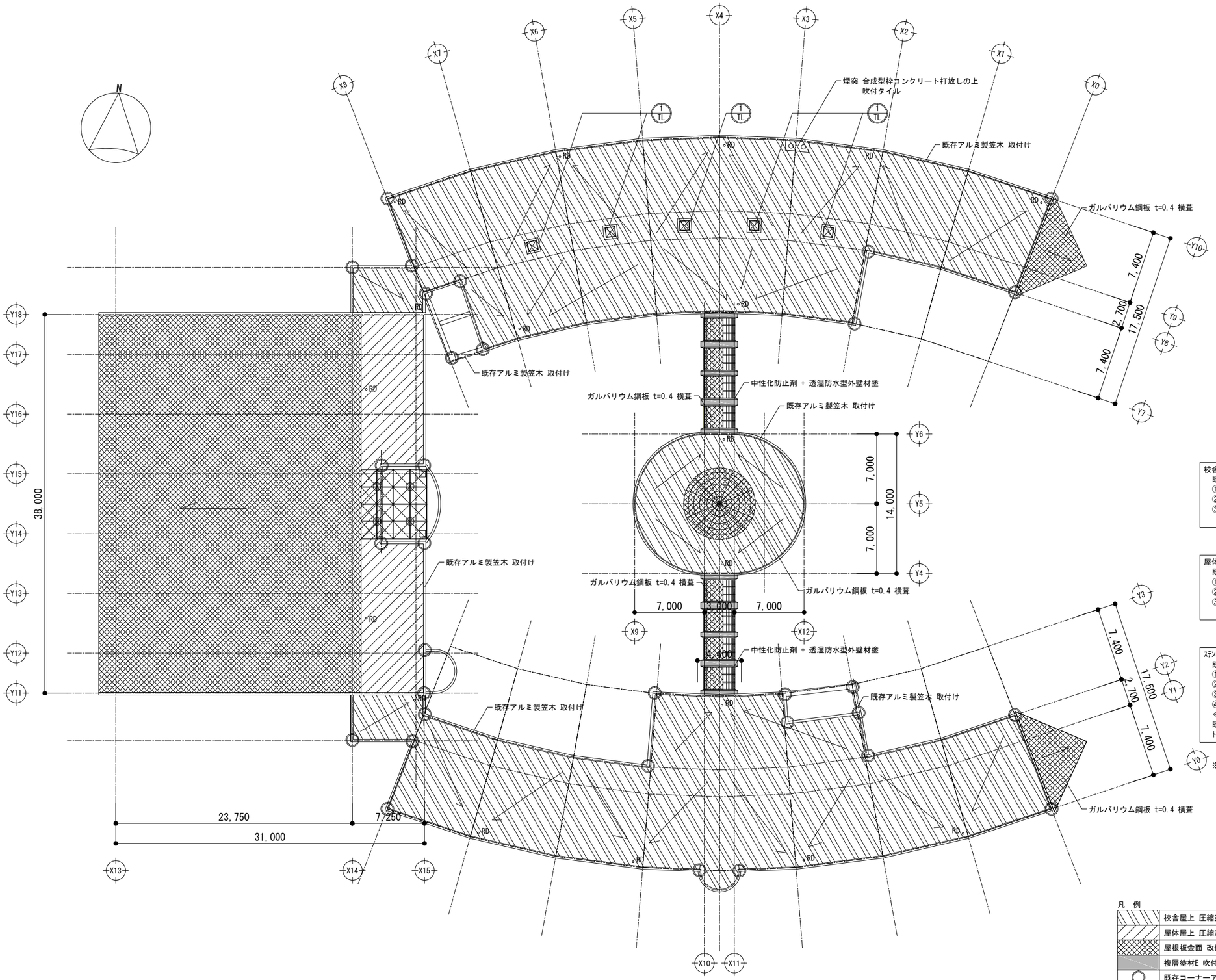


凡 例

	校舎屋上 ステンレス露出防水 t=0.4 既存のまま	1期工事
	屋体屋上 ステンレス露出防水 t=0.4 既存のまま	
	屋根板金面 既存のまま	
	中性化防止剤 + 透湿防水型外壁材塗 既存のまま	
	既存コーナーアルミ製笠木 撤去	
** **	撤去建具	

記 事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		総 数
			査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 既存・撤去屋根伏図	縮 尺 A1 1/200 A3 1/400	図 面 番 号 A － 10

改修後



校舎棟板金面改修仕様 既存の上 ①ケレン・洗浄 ②錆止め塗装 ③2液形シリコン樹脂塗装	1期工事
屋体棟板金面改修仕様 既存の上 ①ケレン・洗浄 ②錆止め塗装 ③2液形シリコン樹脂塗装	1期工事
ｽﾃﾝﾚｽ露出防水改修仕様 既存の上 ①高圧洗浄 ②ｻﾝﾀﾞｰ研磨・ﾊｹﾞ倒し ③ﾊﾞｹﾞ捨てｼｰﾘﾝｸﾞ ④圧縮空気混入低比重超速硬化ｳﾚﾀﾝ防水 t=3 ≪備考≫ 既存ｱﾙﾐ笠木脱着,既存ｺｰﾅｰｱﾙﾐ笠木撤去・新設, ﾄﾞﾚﾝ廻り処理,煙突廻り水切り脱着,飛散防止養生	1期工事

※超速硬化ウレタン防水における留意事項

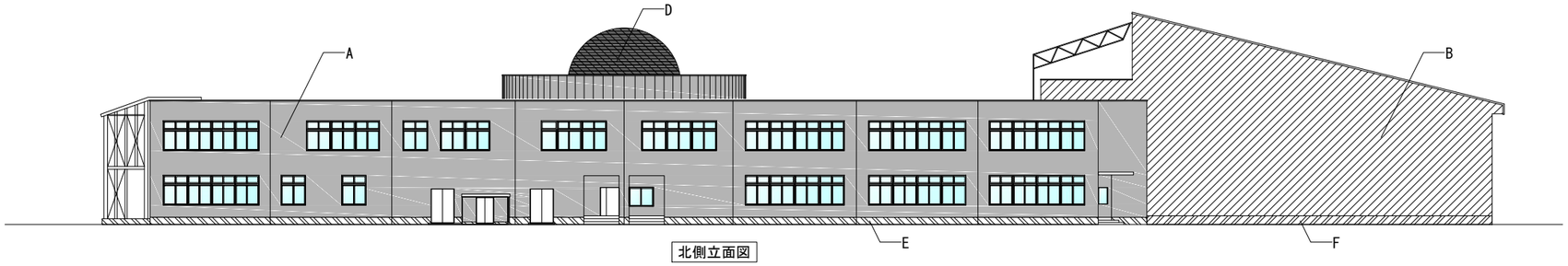
厚生労働省認定 超速硬化ウレタンスプレー施工主任者が吹付を行う事。

凡 例

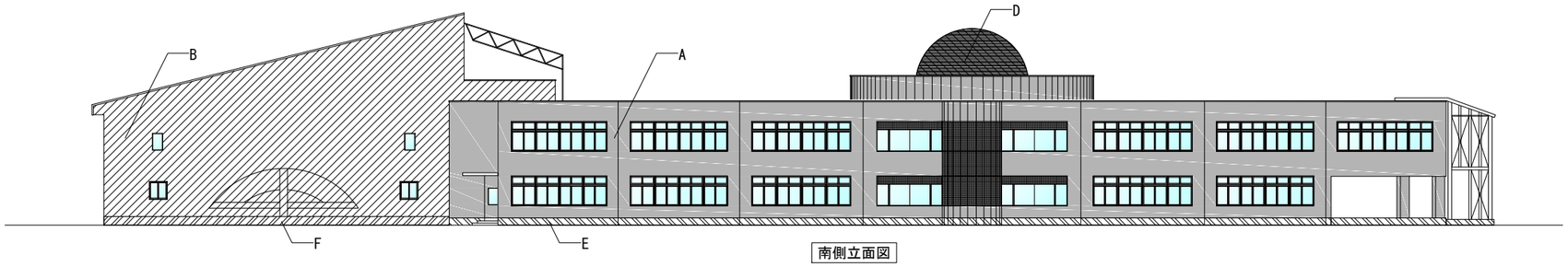
	校舎屋上 圧縮空気混入低比重超速硬化ウレタン防水 t=3 新設	1期工事
	屋体屋上 圧縮空気混入低比重超速硬化ウレタン防水 t=3 新設	
	屋根板金面 改修	
	複層塗材E 吹付タイル(下地処理の上) 新設	
	既存コーナーアルミ製笠木 新設	
	改修建具	

記 事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総 数
			査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 改修後屋根伏図 / 縮 尺 A1 1/200 A3 1/400	図 面 番 号 A － 11

既存



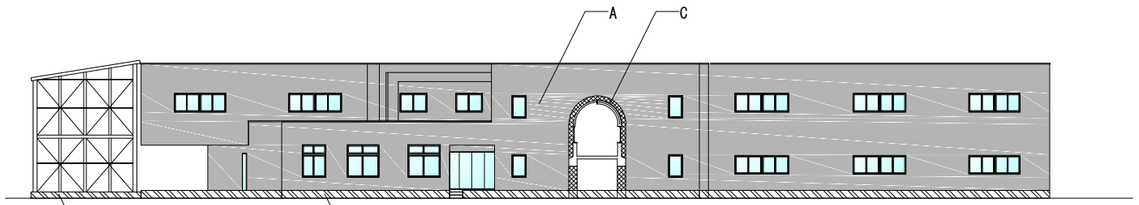
北側立面図



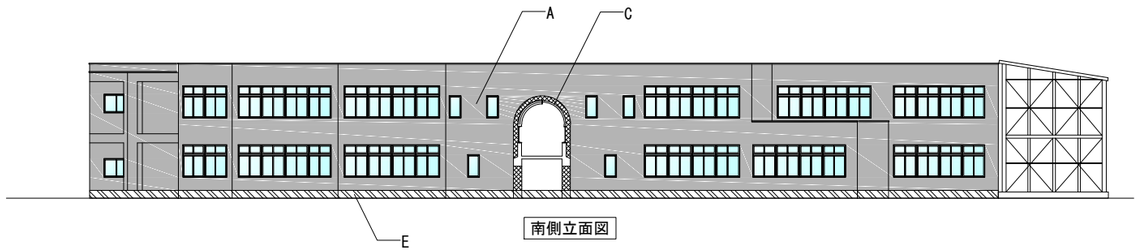
南側立面図

≪凡例≫

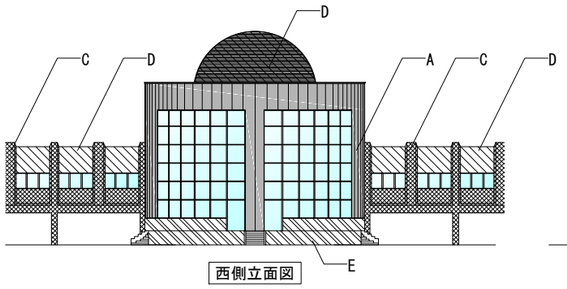
A：断熱パネルの上吹付タイル	1期工事
B：コンクリート,ALC板の上吹付タイル	
C：コンクリート打放しの上中性化防止塗材	
D：屋根(校舎) カラーガルバリウム鋼板 D：屋根(屋体) 亜鉛アルミ合金メッキ鋼板	
E：合板型枠コンクリート打放しの上 透湿防水型外壁仕上塗材	
F：合板型枠コンクリート打放しの上 AEP	



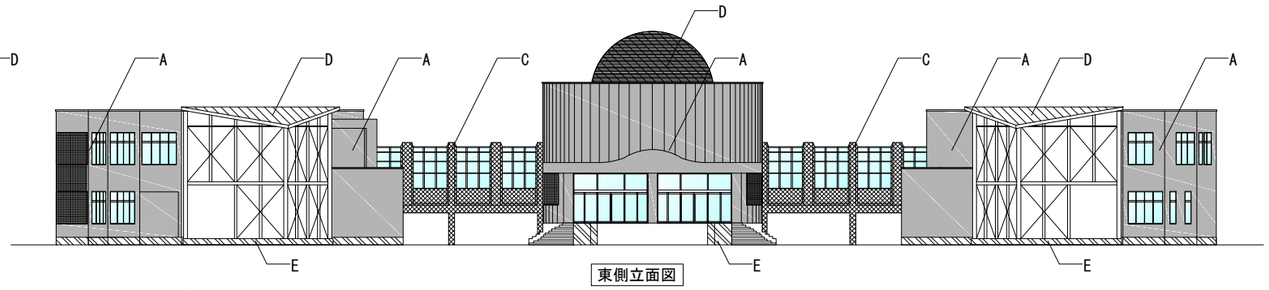
北側立面図



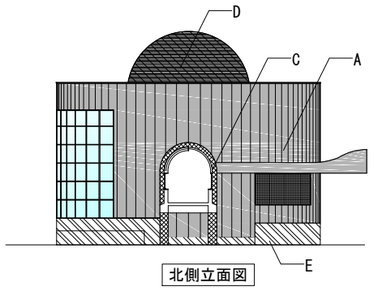
南側立面図



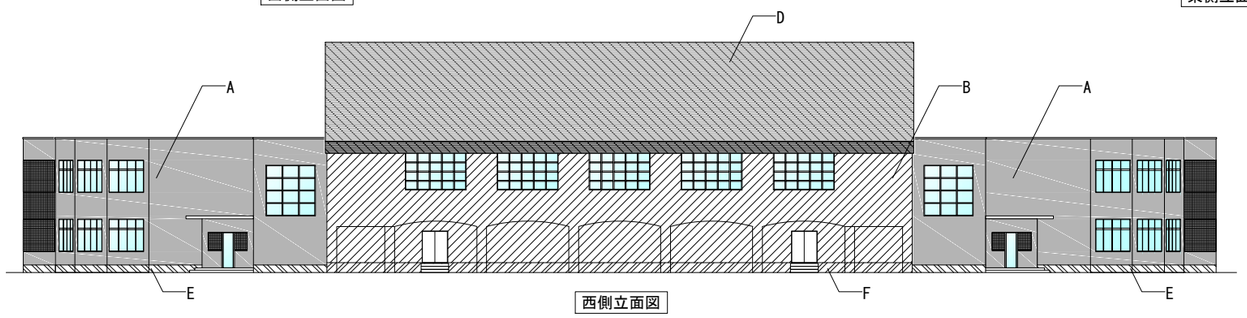
西側立面図



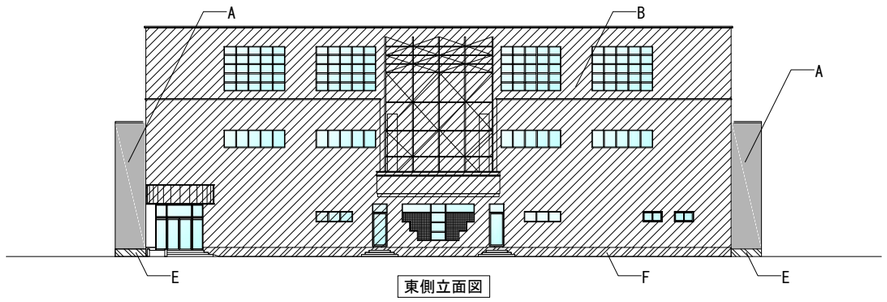
東側立面図



北側立面図



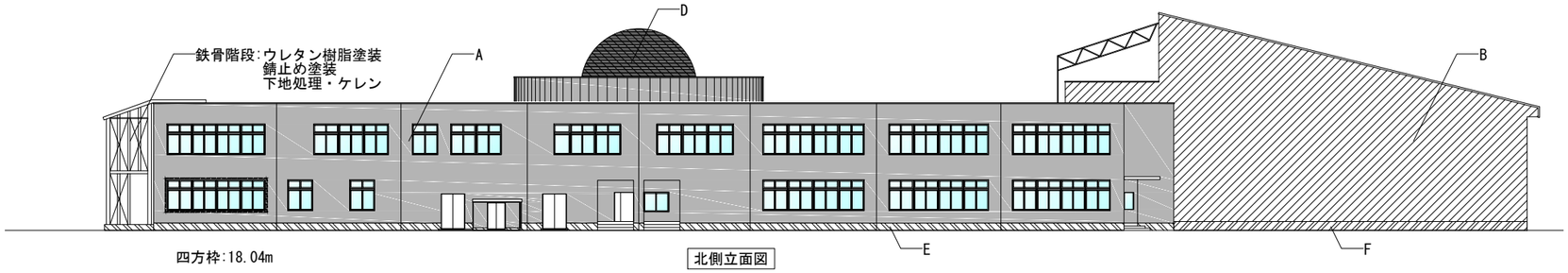
西側立面図



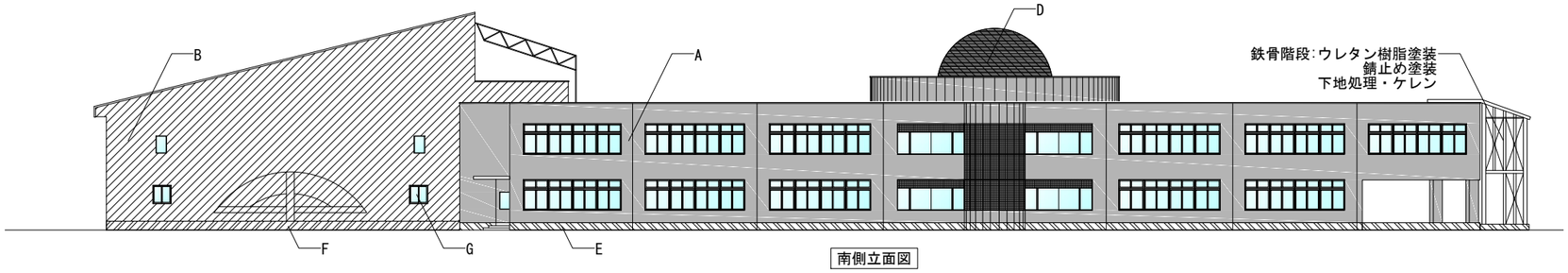
東側立面図

記事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（十）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
			査閲 / 校正 / 担当	図面名称 既存・撤去立面図	縮尺 A1 1/200 A3 1/400
					図面番号 A ― 12

改修後



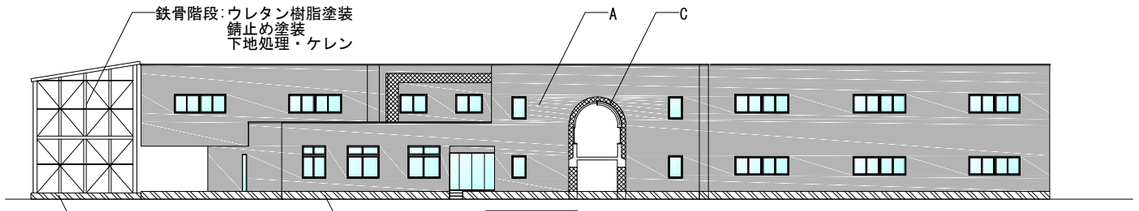
北側立面図



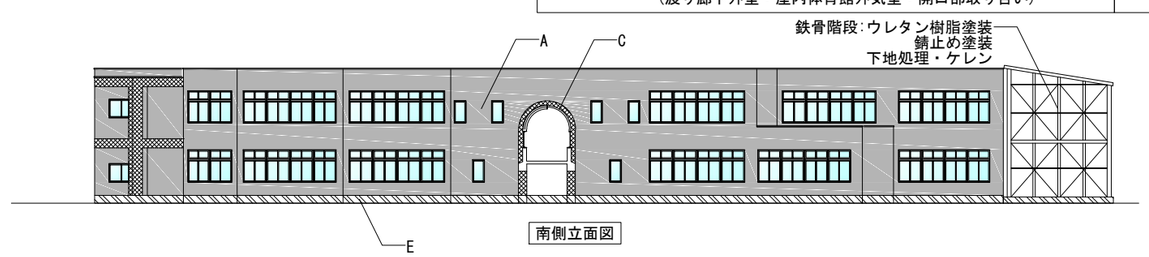
南側立面図

≪凡例≫

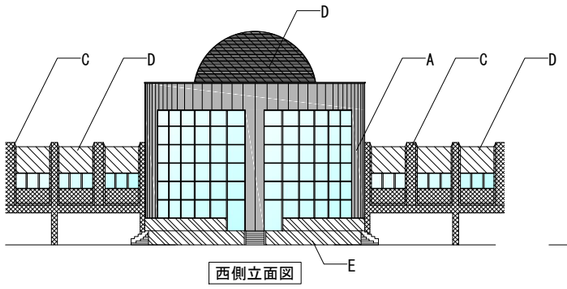
A：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4 新設 鋼製横胴縁@600 胴縁受け溝形鋼 ﾀﾃ@600 ﾖｺ@1000 ｱﾝｶｰM12 ﾀﾃ@600 ﾖｺ@1000 (既存)外断熱ﾊﾟﾈﾙ t=86の上吹付ﾀｲﾙ ※開口部との取り合い（3方板金、下枠アルミ） ※基礎、笠木、ｵｰﾊﾞｰﾊﾝｸﾞとの取り合いには水切りを設ける （ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4 曲げ加工）	1期工事
B：防水形複層塗材吹付 ﾌﾟﾗｲﾏｰ 下地処理 (既存)ALC版 t=50 吹付ﾀｲﾙ	
C：複層塗材E 吹付ﾀｲﾙ 下地処理 (既存)ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上中性化防止塗材	
D：2液形シリコン樹脂塗装 錆止め塗装 ケレン・洗浄	
E：水系アクリルシリコン樹脂塗料 可とう形複層塗材CE (既存)合板型枠コンクリート打放しの上 透湿防水型外壁仕上塗材	
F：水系アクリルシリコン樹脂塗料 可とう形複層塗材CE 合板型枠コンクリート打放しの上 AEP G：シーリング打ち替え(渡り廊下・屋内体育館開口部) （渡り廊下外壁・屋内体育館外気壁・開口部取り合い）	



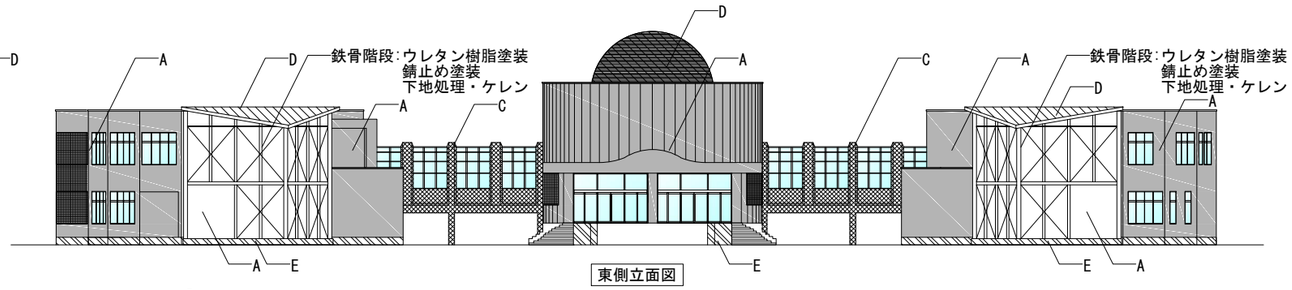
北側立面図



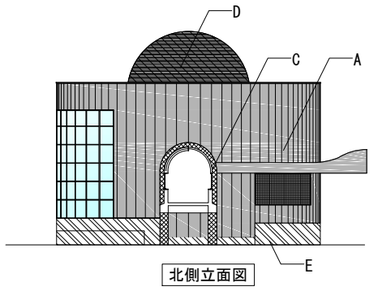
南側立面図



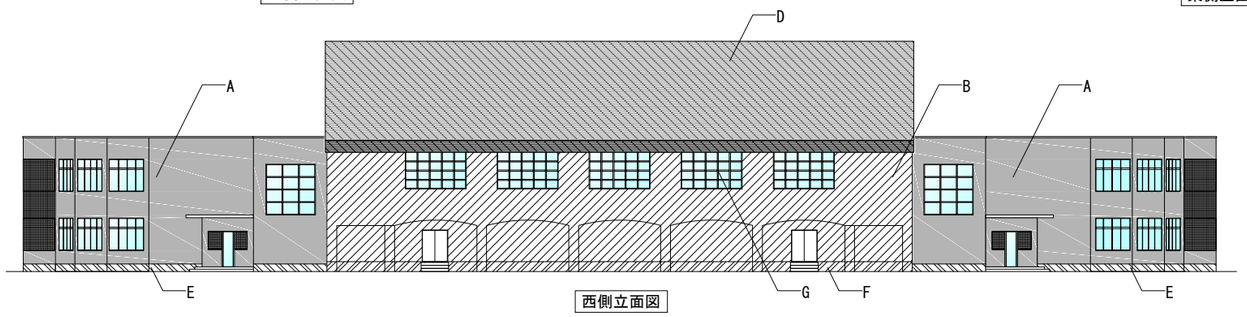
西側立面図



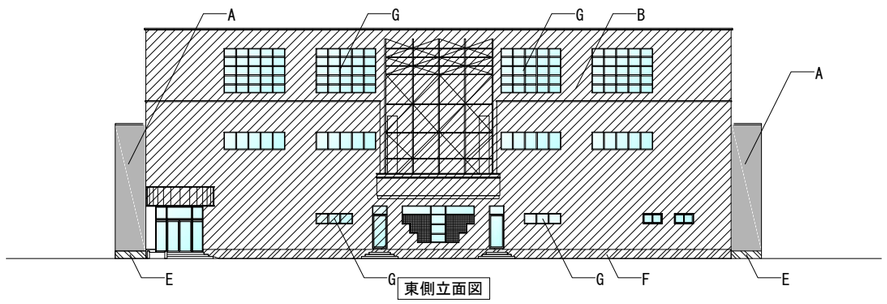
東側立面図



北側立面図

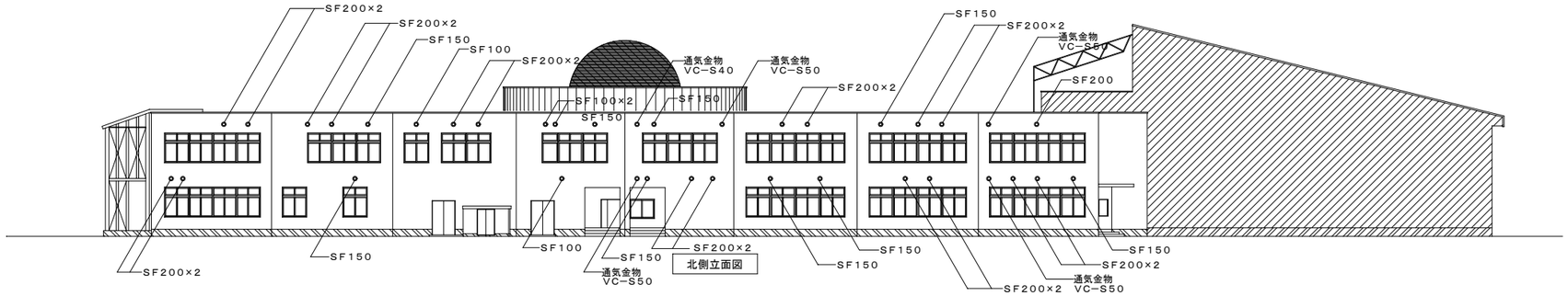


西側立面図

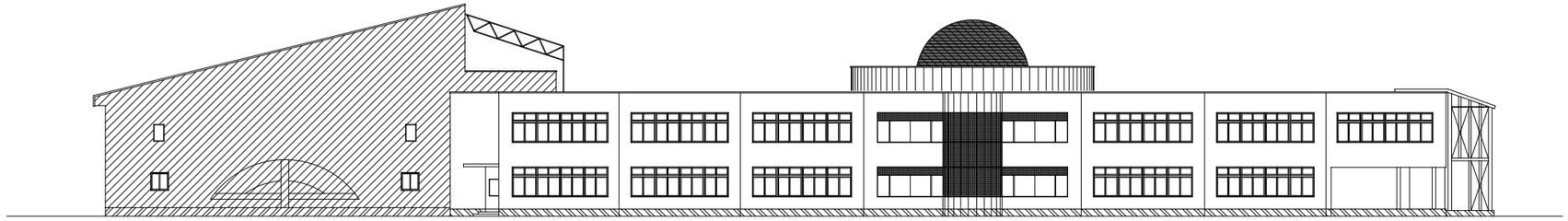


東側立面図

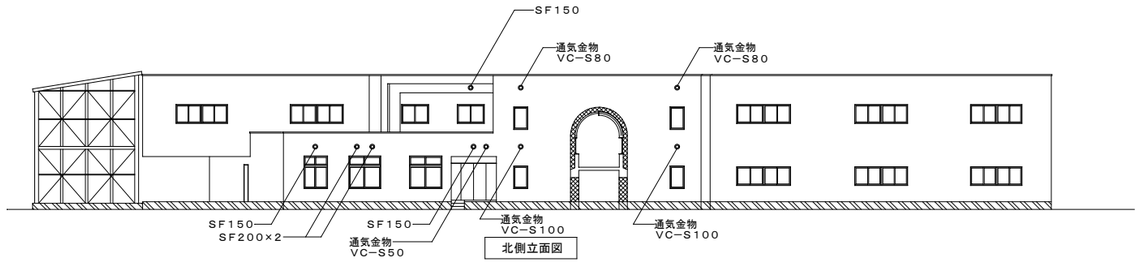
記事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		総数
			査閲 / 校正 / 担当	図面名称 改修後立面図	縮尺 A1 1/200 A3 1/400	図面番号 A ― 13



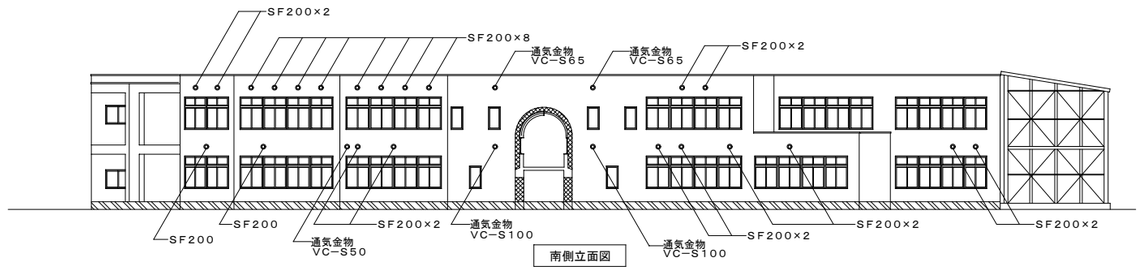
北側立面図



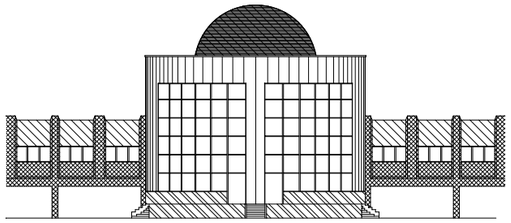
南側立面図



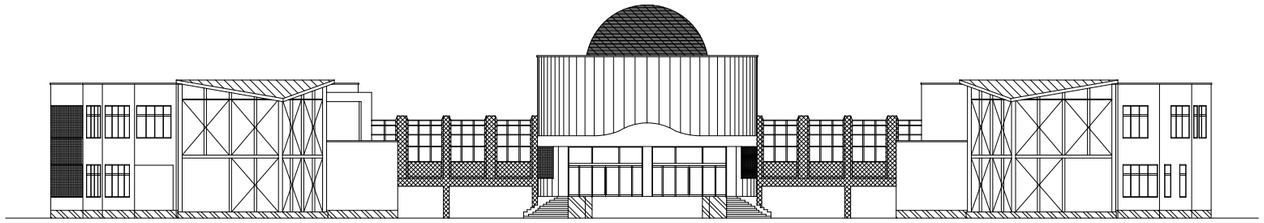
北側立面図



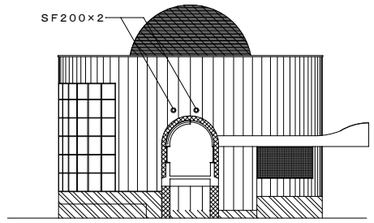
南側立面図



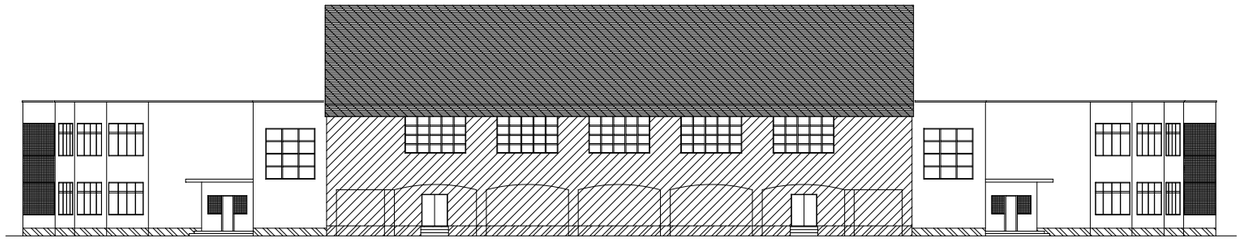
西側立面図



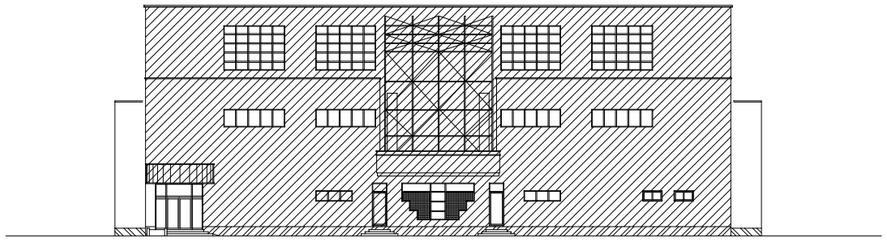
東側立面図



北側立面図



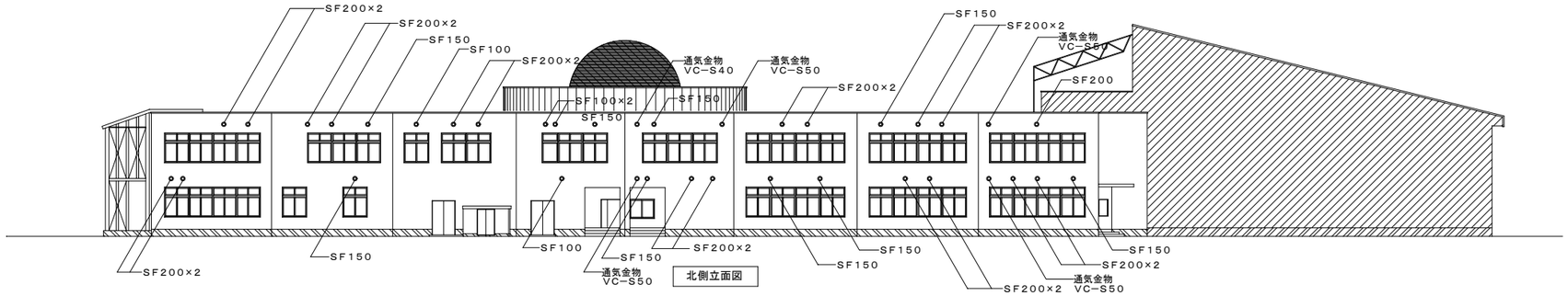
西側立面図



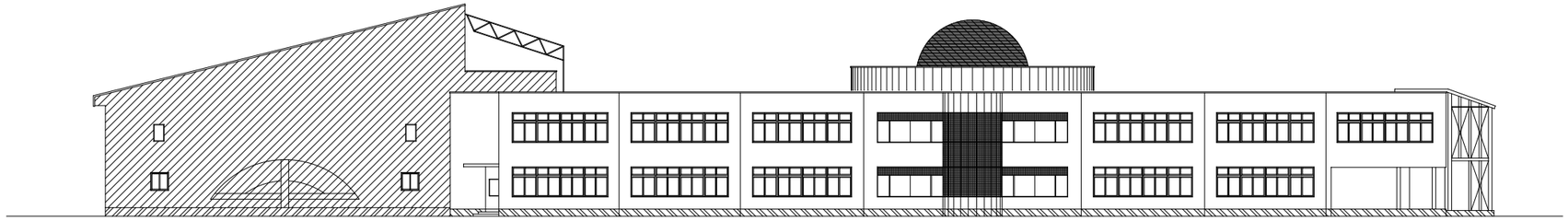
東側立面図

（ 特 記 ）
図示の部分を、撤去する。（再使用しない）

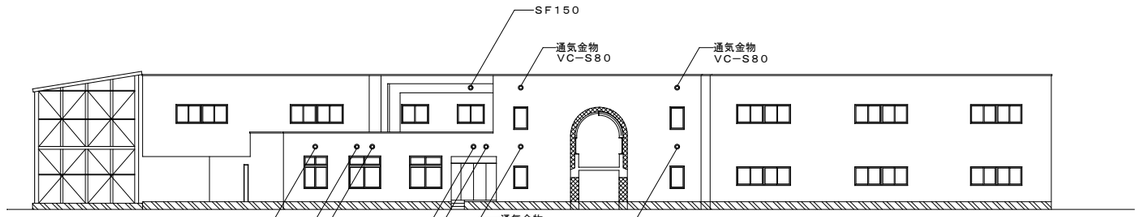
記 事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 . 査 閲 / 校 正 / 担 当	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体） 図面名称 既存 外壁フード撤去立面図	縮 尺 A1:1/200 A3:1/400 図 面 番 号 A－14



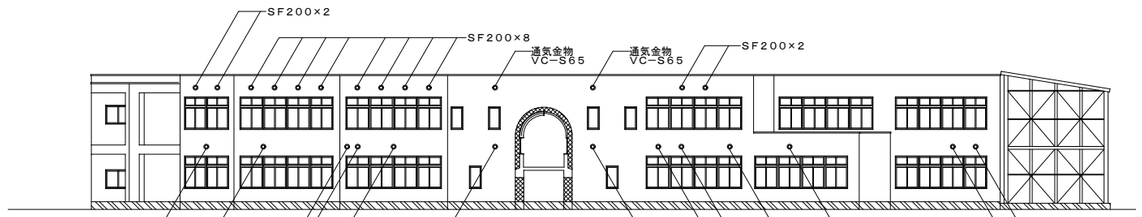
北側立面図



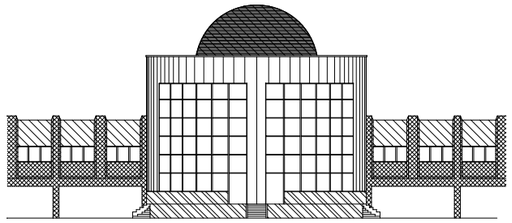
南側立面図



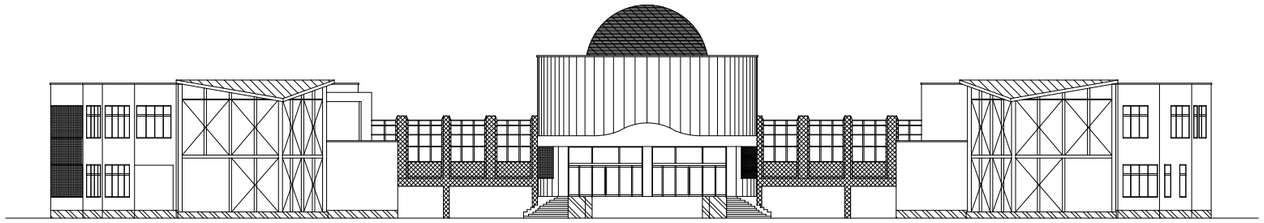
北側立面図



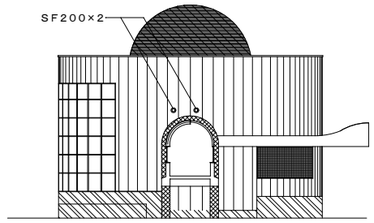
南側立面図



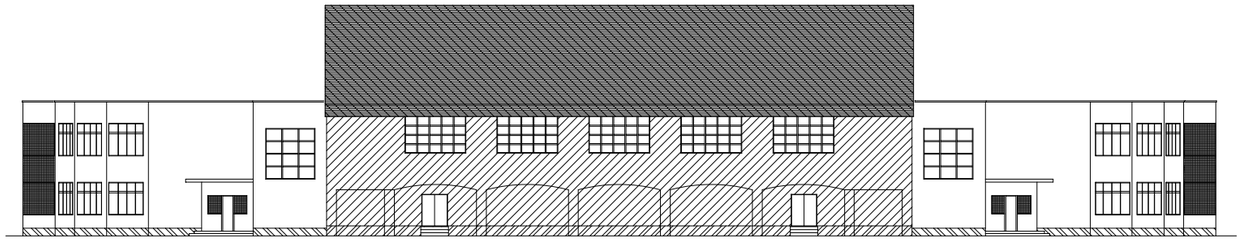
西側立面図



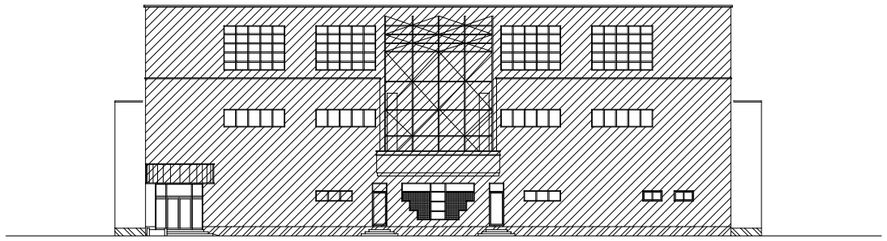
東側立面図



北側立面図



西側立面図

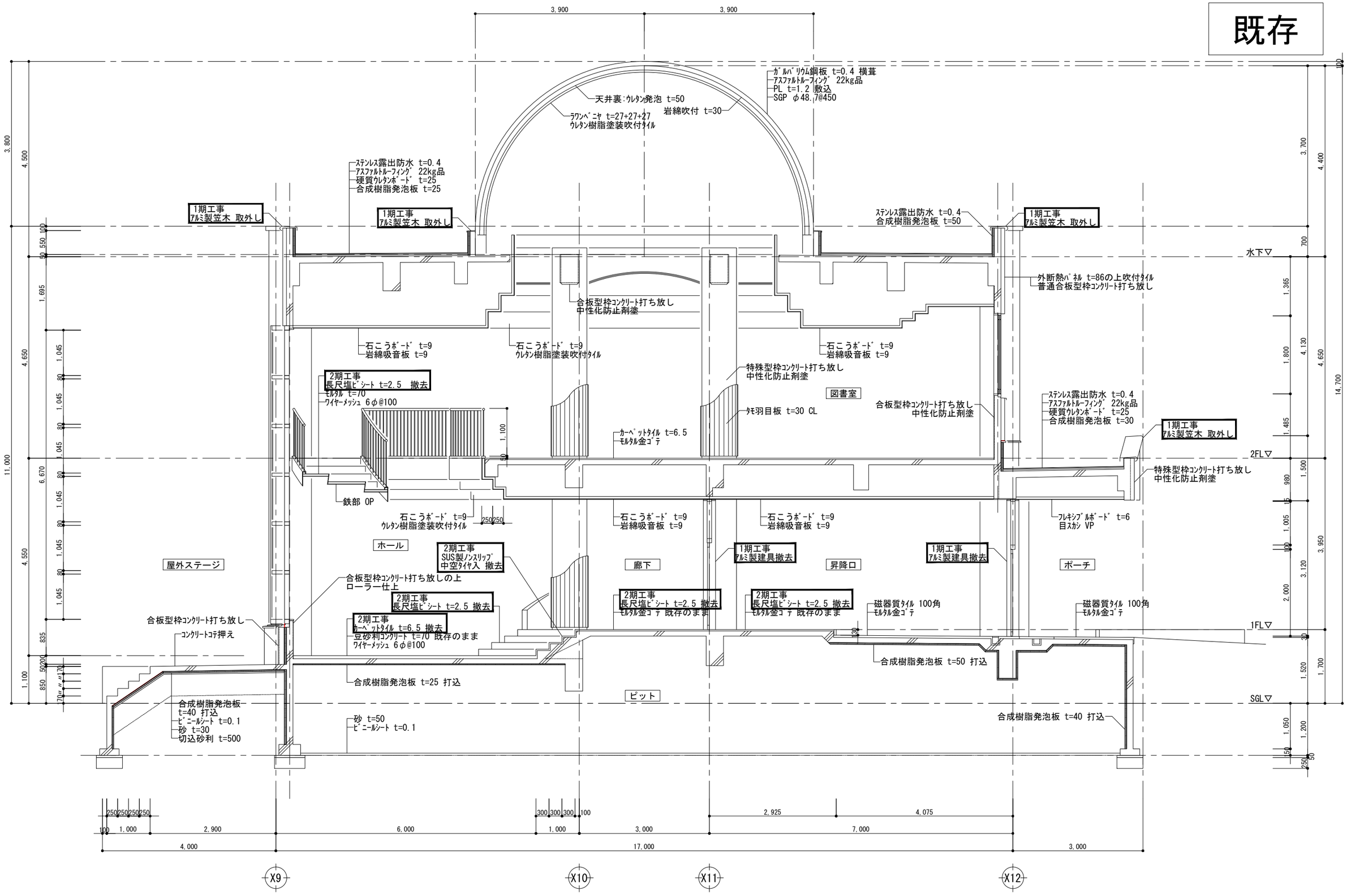


東側立面図

（ 特 記 ）
図示の部分を改修する。

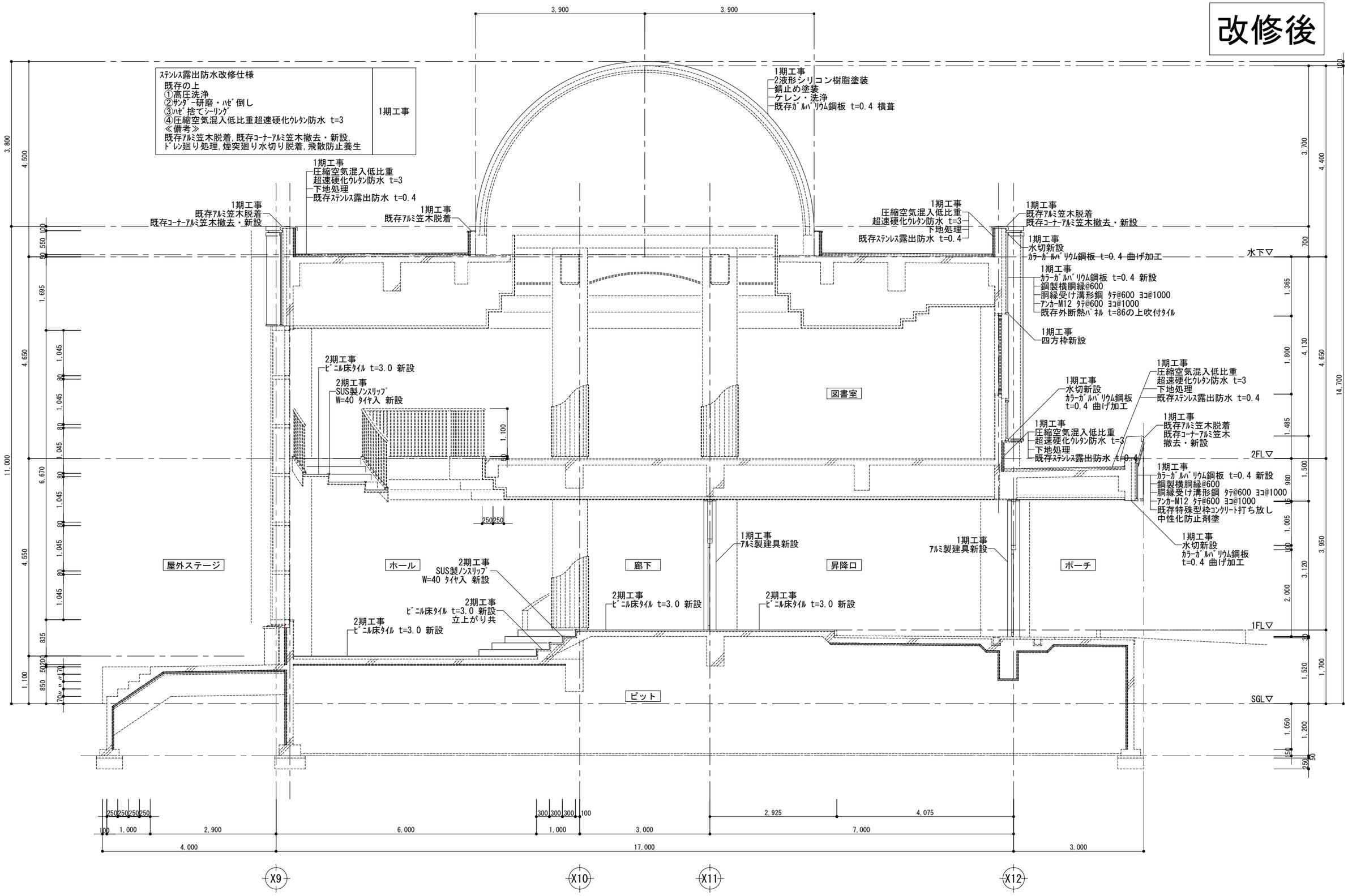
記 事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 . 査 閲 / 校 正 / 担 当	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体） 図面名称 外壁フード改修立面図	縮 尺 A1:1/200 A3:1/400 図 面 番 号 A－15

既存



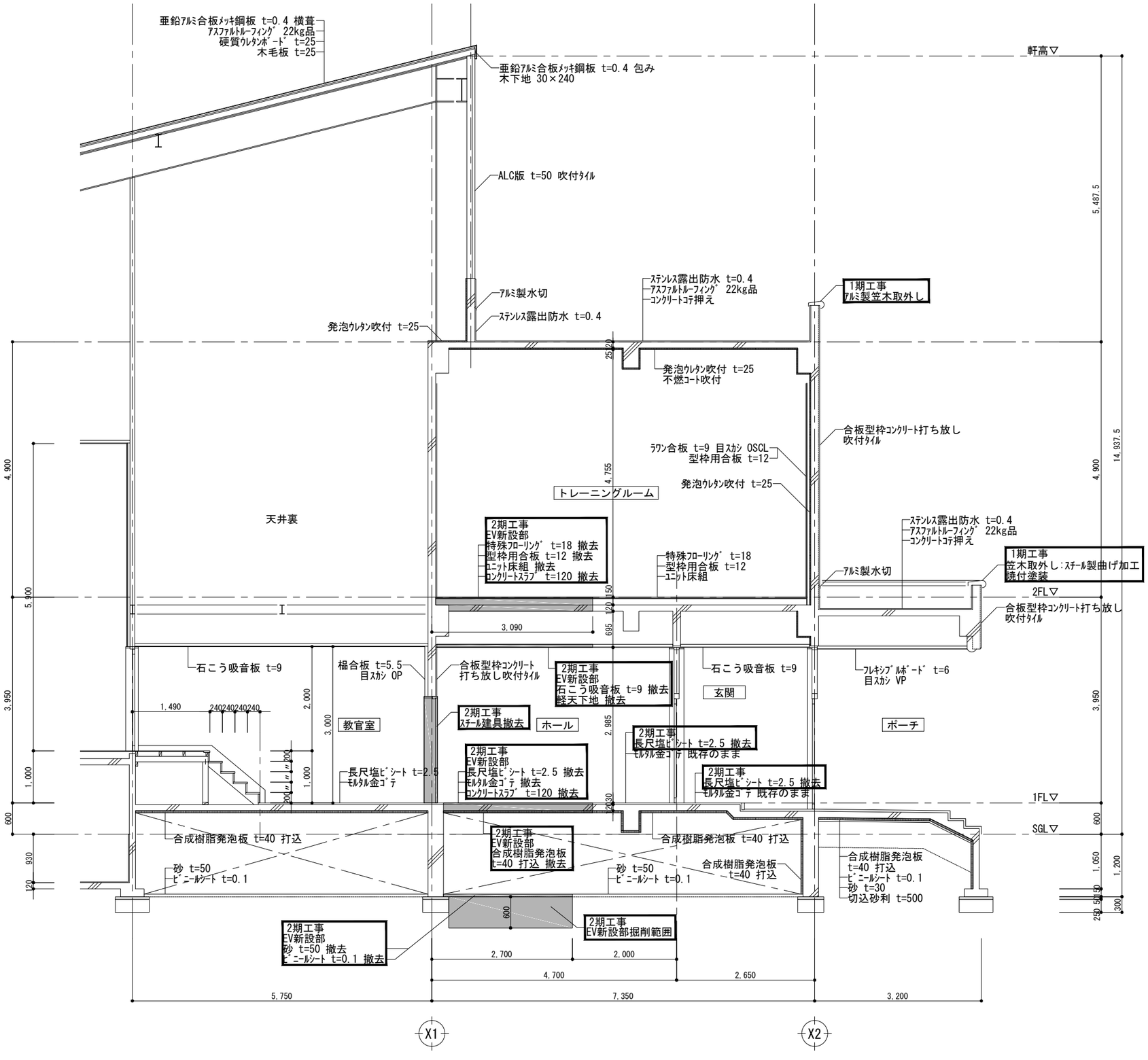
記事	創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 既存・撤去矩計図(校舎棟)	縮尺 A1 1/40 A3 1/80
						図番号 A－16

改修後



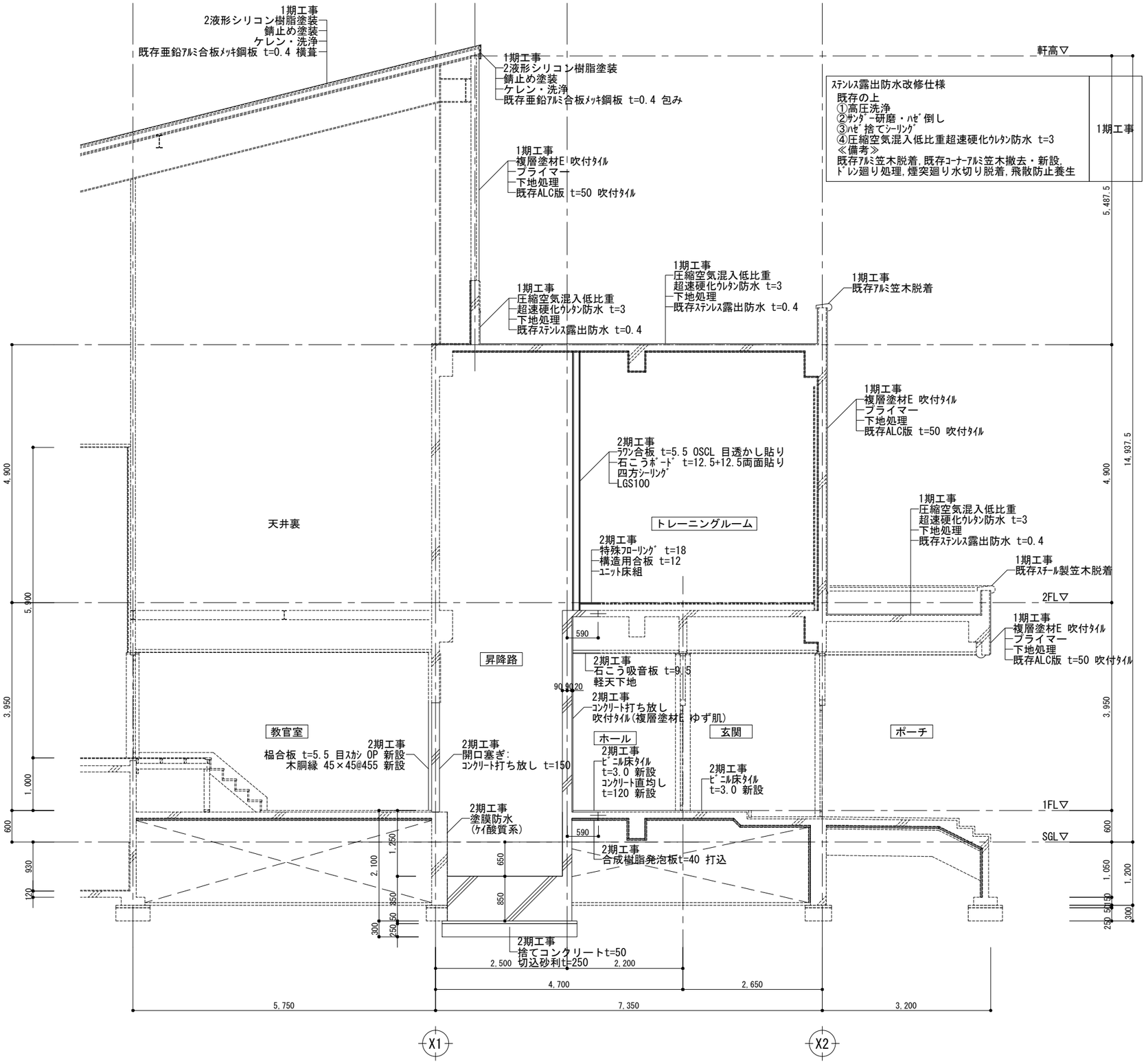
記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（ｋ）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 改修後矩計図(校舎棟)	縮尺 A1 1/40 A3 1/80 / 図番号 A－17

既存



記事	創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 既存・撤去矩計図(屋内体育館棟)	縮尺 A1 1/40 A3 1/80 / 図面番号 A－18

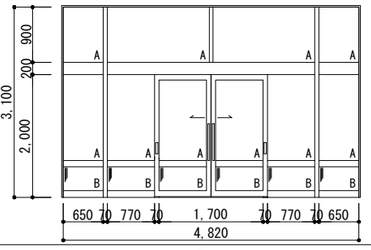
改修後



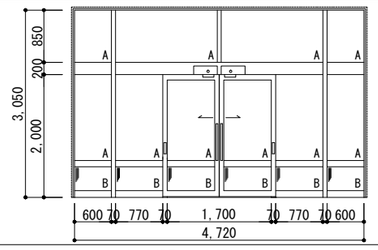
記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 改修後矩計図(屋内体育館棟)	縮尺 A1 1/40 A3 1/80 / 図面番号 A－19

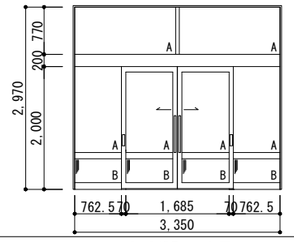
番号	既存・改修	数量	室名
1 AD	撤去	2	1F:昇降口
1 AD	改修	2	1F:昇降口
2 AD	撤去	2	1F:昇降口
2 AD	改修	2	1F:昇降口

姿図

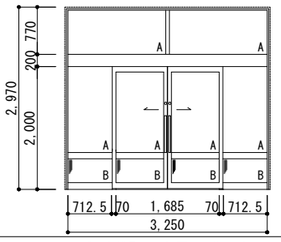


※枠は既存のまま





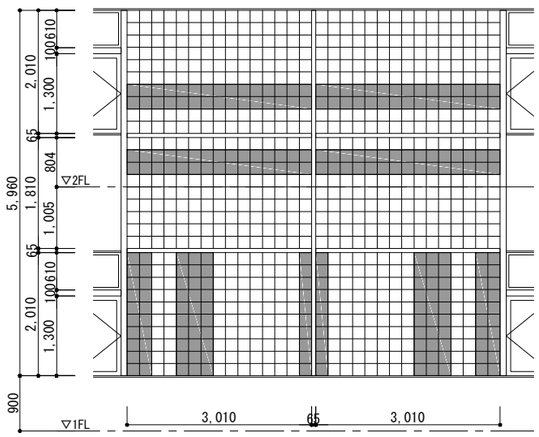
※枠は既存のまま

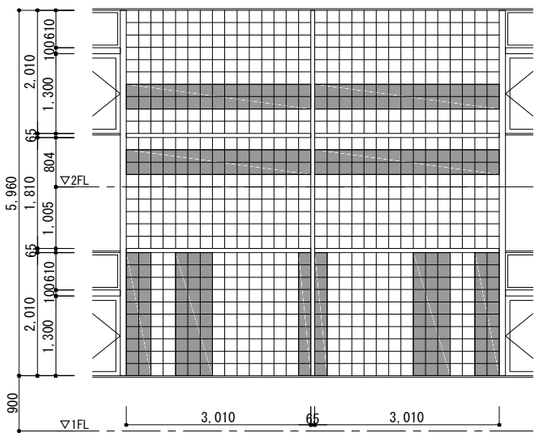


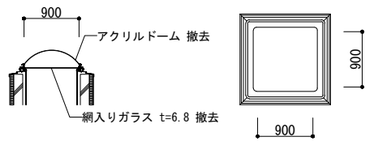
	1 AD	1 AD	2 AD	2 AD
形式	アルミ製引き分け戸	アルミ製引き分け戸(カバー工法)	アルミ製引き分け戸	アルミ製引き分け戸(カバー工法)
仕上	シルバー	シルバー	シルバー	シルバー
硝子	A:強化ガラス t=4 B:アルミパネル t=3	A:強化ガラス t=4 B:アルミパネル t=3	A:強化ガラス t=4 B:アルミパネル t=3	A:強化ガラス t=4 B:アルミパネル t=3
見込	100	100	100	100
備考・金物	引き戸用ドアクローザー, アングルピース, 戸車レール, 引手, シリンダー錠, 付属金物一式	引き戸用ドアクローザー, 押し棒, 電気錠, サムターン, 付属金物一式, 制御盤(職員室に設置)	引き戸用ドアクローザー, アングルピース, 戸車レール, 引手, シリンダー錠, 付属金物一式	引き戸用ドアクローザー, 押し棒, シリンダー錠, サムターン, 付属金物一式

番号	既存・改修	数量	室名
1 GB	撤去	1	1・2F:多目的スペース
1 GB	改修	1	1・2F:多目的スペース
1 TL	撤去	5	RF:北棟屋上
1 TL	改修	5	RF:北棟屋上

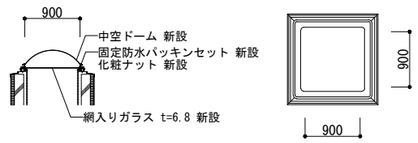
姿図







※撤去はアクリルドームと網入りガラス t=6.8のみ



	1 GB	1 GB	1 TL	1 TL
形式	ガラスブロック窓	ガラスブロック窓		
仕上		シルバー		
硝子	ガラスブロック 150角	ガラスブロック 150角		
見込	100	100		
備考・金物	アングルピース, 結露受け, 水切, 付属金物一式	アングルピース, 結露受け, 水切, 付属金物一式		

	1 TL	1 TL
	アクリルドームトップライト(断熱防露形)	アクリルドームトップライト
	ドーム:アクリル 枠:アルミシルバー	中空ドーム:アクリル
	——— ———	——— ———
	二重水切, 結露受け, 付属金物一式	付属金物一式

番号	既存・改修	数量	室名

姿図

形式			
仕上			
硝子			
見込			
備考・金物			

記事

株式会社 創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL 0155-24-7668
FAX 0155-21-6603
一級建築士事務所登録（＋）第73号
一級建築士登録第216909号
太田 豊

設計年月日	査閲	校正	担当
2018 . 11 .			

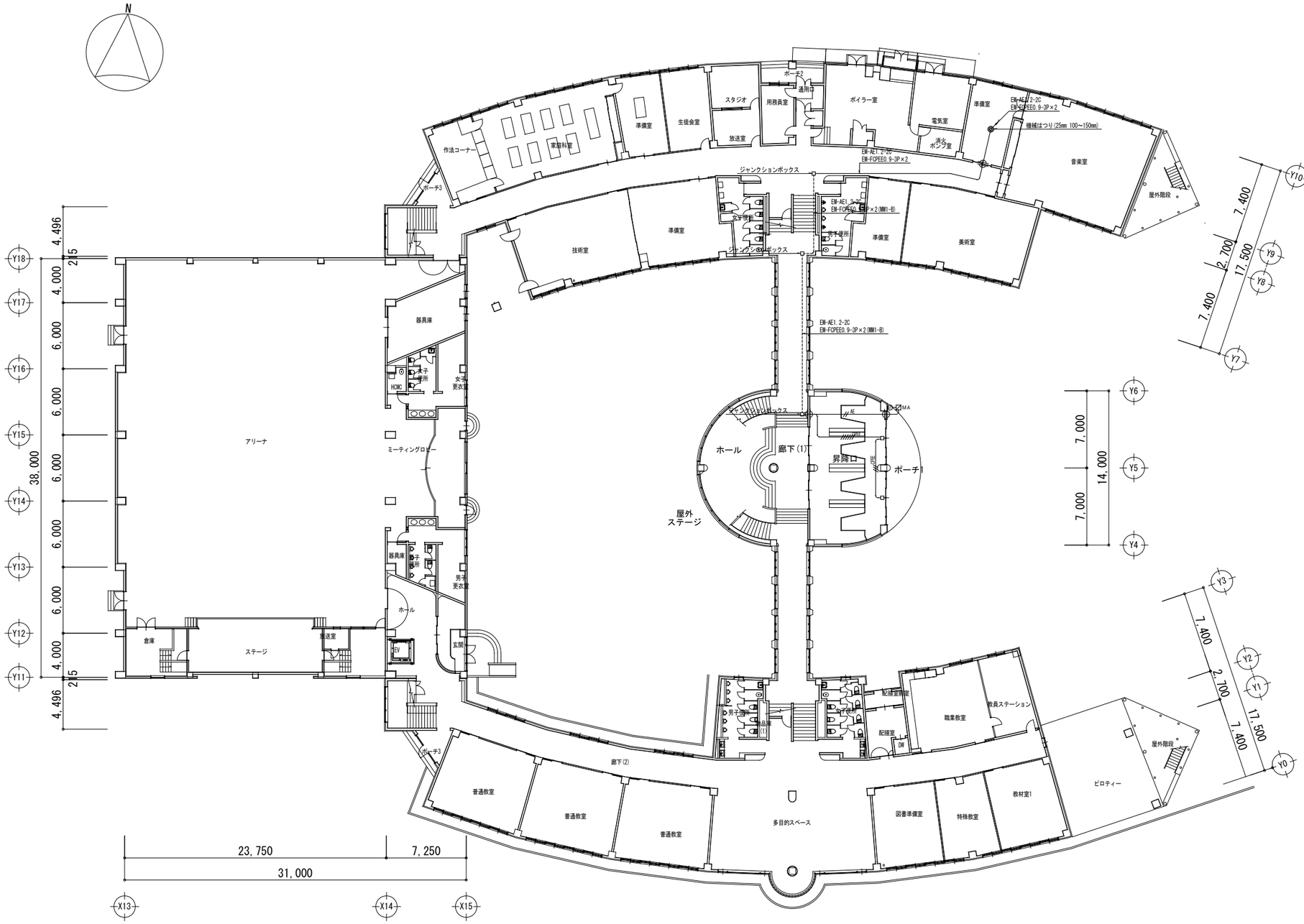
工事名称: 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）

図面名称: 撤去・改修建具表

縮尺: A1 1/50, A3 1/100

総数

図面番号: A — 20



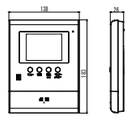
凡 例 表		
記号	名称	備考
火報	火報受信機	既設
LT	電気錠制御盤	別途建築工事
◉	インターホン親機	テレビモニタ付
◉	ドアホン子機	テレビカメラ付
□	アウトレットボックス	金属製 中四角 浅型
⊠MA	1種金属線び配管	A型
⊠MA	メタルモールコーナーボックス	MM1-A
⊠MB	1種金属線び配管	B型
⊠MB	メタルモールコーナーボックス	MM1-B
	既設壁機械はつり補修 及び防火区画貫通処理	既設壁機械はつり補修 25φ L=150 防火区画貫通処理 登録番号 P40 (片側施工) 認定番号 PS060 WL-0435

（特記事項）

1．図中特記なき配線は下記による。

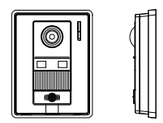
（電灯設備）		保護管
F2	EM-EEF 1.6-2C	(MM1-A)
（インターホン設備）		保護管
AE	EM-AE1.2-2C	(MM1-A)
（電気錠設備）		保護管
FCPEE	EM-FCPEE 0.9-3P	(MM1-A)
FCPEE	EM-FCPEE 0.9-3P×2	(MM1-B)
HP	EM-HP1.2-2C	
2．ケーブルの立上げ引下げ部は、配管にて保護する事。		

◉ テレビインターホン親機



電源	AC100V (50/60Hz) 電源直結式
消費電力	待ち受け時：約1.8 W 動作時：約9W
質量	約460 g
画面表示	3.5型 TFTカラー液晶ディスプレイ

◉ ドアホン子機

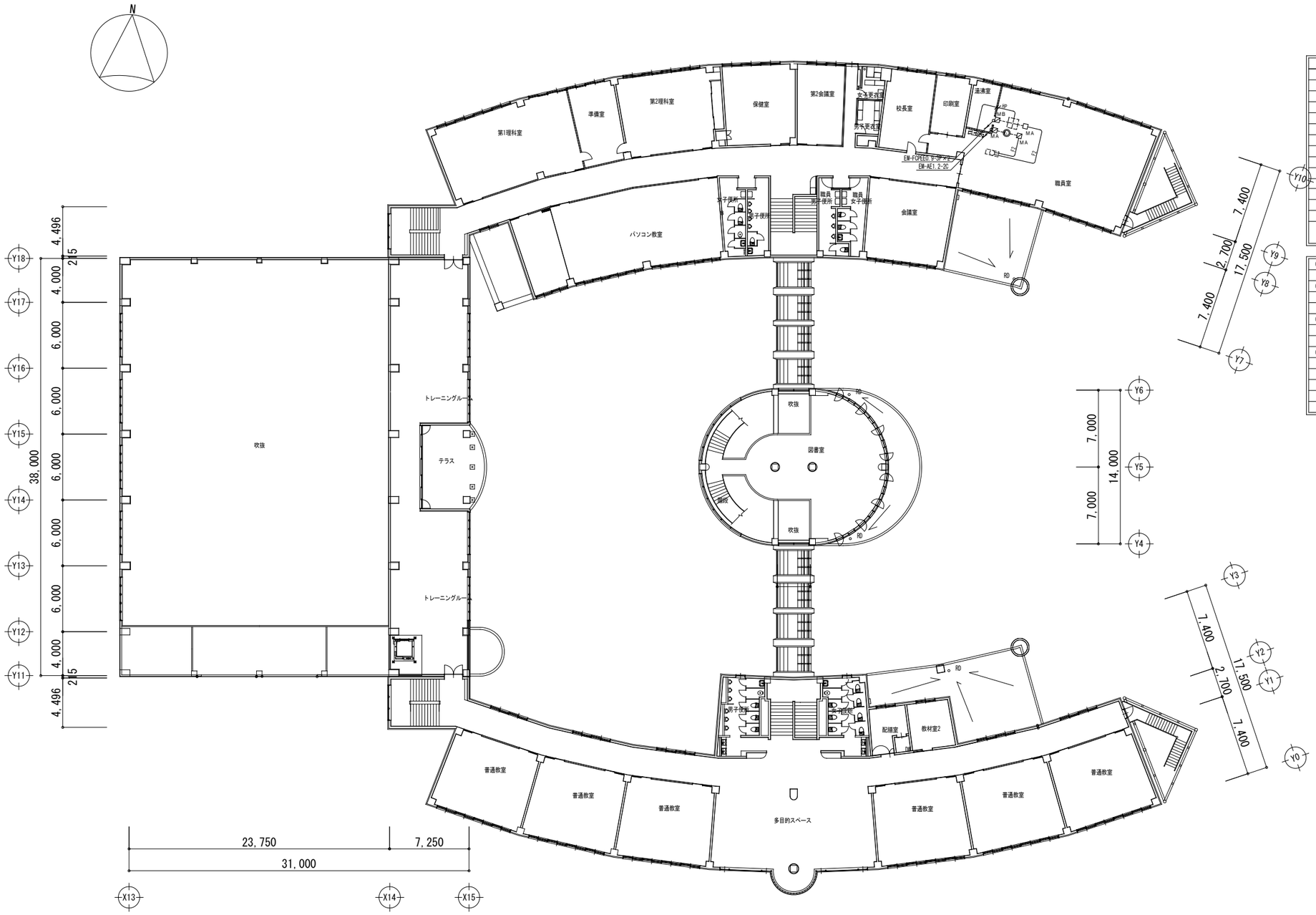


定格	待ち受け時：DC 約5 V 動作時 ：DC 約20 V
消費電力	待受時：DC 約2 mA、動作時：DC約180 mA
質量	約180 g
外観色調	ダークブラウン
取付方法	露出型：JIS1 個用スイッチボックス （カバー付き）適合

記事

株式会社 創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL 0155-24-7668
FAX 0155-21-6603
一級建築士事務所登録（＋）第73号
一級建築士登録第216909号
太田 豊

設計年月日	2018 . 11 .			工事名称	芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		
査閲	校正	担当		図面名称	弱電設備１階平面図（電気錠改修）	縮尺 A1:1/200 A3:1/400	図面番号 A －21



凡　例　表		
記号	名称	備考
	火報受信機	既設
LT	電気錠制御盤	別途建築工事
	インターホン親機	テレビモニタ付
	ドアホン子機	テレビカメラ付
	アウトレットボックス	金属製　中四角　浅型
MA	１種金属線ぴ配管	Ａ型
MA	メタルモールコーナーボックス	ＭＭ１−Ａ
MB	１種金属線ぴ配管	Ｂ型
MB	メタルモールコーナーボックス	ＭＭ１−Ｂ
	既設壁機械はつり補修及び防火区画貫通処理	既設壁機械はつり補修　２５φ　Ｌ＝１５０ 防火区画貫通処理　壁貫通用φ４０（片側施工） 設定番号　ＰＳ０６０　ＷＬ−０４３５

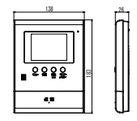
（特記事項）

１．図中特記なき配線は下記による。

（電灯設備）	保護管
F2　ＥＭ−ＥＥＦ　１．６−２Ｃ	(MM1−A)
（インターホン設備）	保護管
IE　ＥＭ−ＡＥ１．２−２Ｃ	(MM1−A)
（電気錠設備）	保護管
DSE　ＥＭ−ＦＣＰＥＥ　０．９−３Ｐ	(MM1−A)
DSE　ＥＭ−ＦＣＰＥＥ　０．９−３Ｐ×２	(MM1−B)
IP　ＥＭ−ＨＰ１．２−２Ｃ	

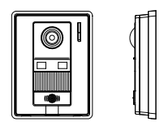
２．ケーブルの立上げ引下げ部は、配管にて保護する事。

	テレビインターホン親機



電　源	AC100V（50/60Hz）電源直結式
消費電力	待ち受け時：約1.8Ｗ　動作時：約9W
質　量	約460ｇ
画面表示	3.5型 TFTカラー液晶ディスプレイ

	ドアホン子機



定　格	待ち受け時：　DC　約5Ｖ　　動作時　：　DC 約20Ｖ
消費電力	待受時：DC 約2mA，動作時：　DC約180 mA
質　量	約180ｇ
外観色調	ダークブラウン
取付方法	露出型：　JIS1 個用スイッチボックス　（カバー付き）適合

記事

㈱創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL　0155-24-7668
FAX　0155-21-6603
一級建築士事務所登録（＋）第73号
一級建築士登録第216909号
太田　豊

設計年月日	2018 . 11 .		
査閲	校正	担当	

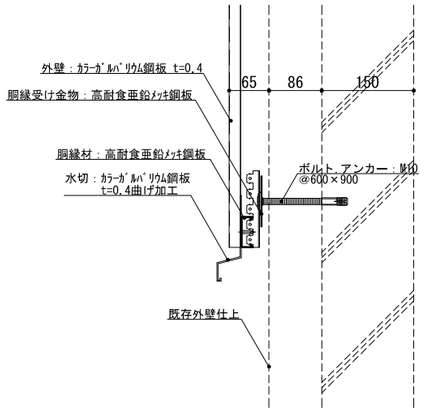
工事名称　芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）

図面名称　弱電設備２階平面図（電気錠改修）

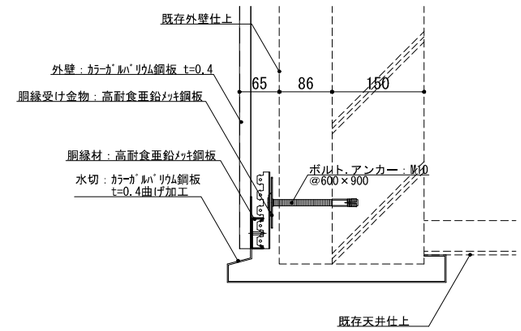
縮尺　A1:1/200　A3:1/400

図面番号　A − 22

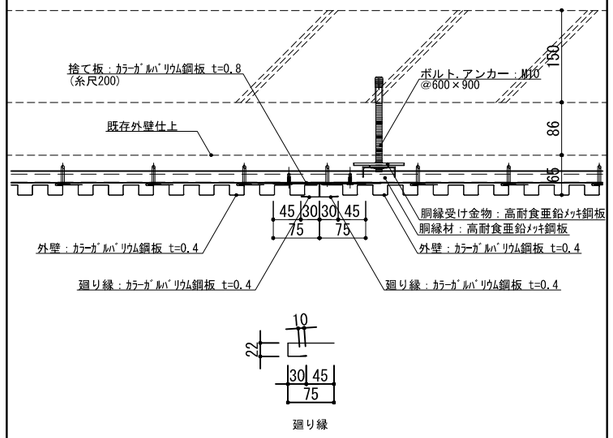
外壁 腰水切詳細図 1/10



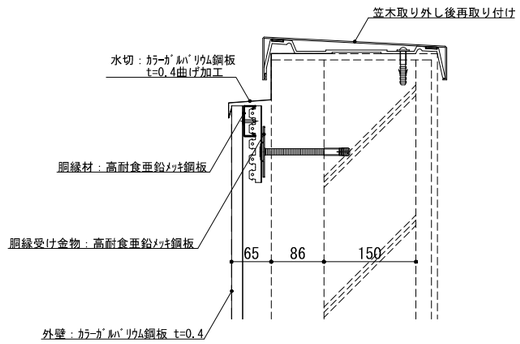
外壁 オーバーハング水切詳細図 1/10



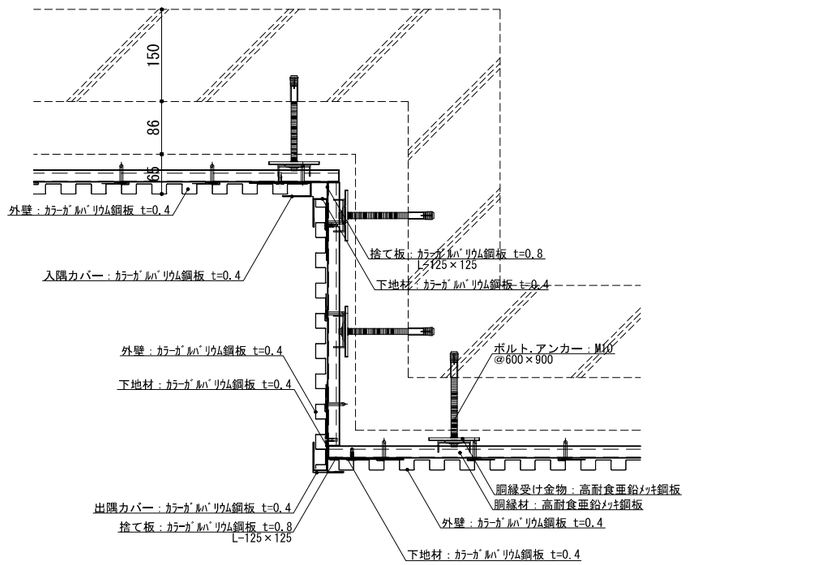
外壁 縦目地切詳細図 1/10



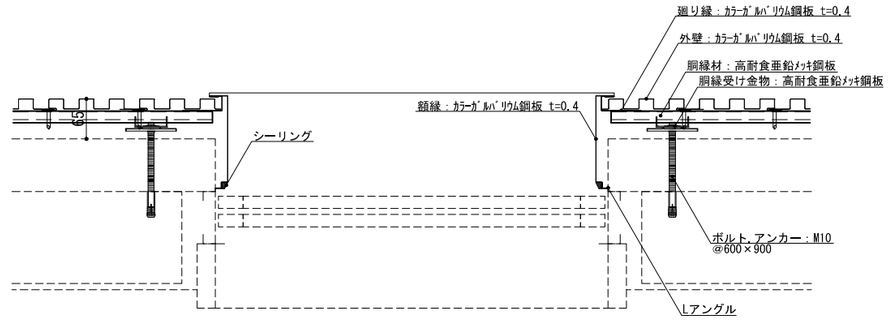
外壁 上端部水切詳細図 1/10



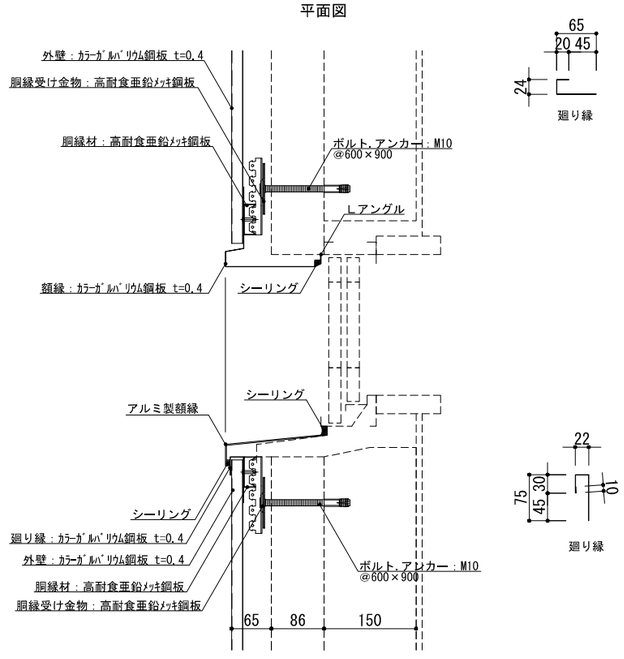
外壁 出隅・入隅詳細図 1/10



開口部 額縁詳細図 1/10

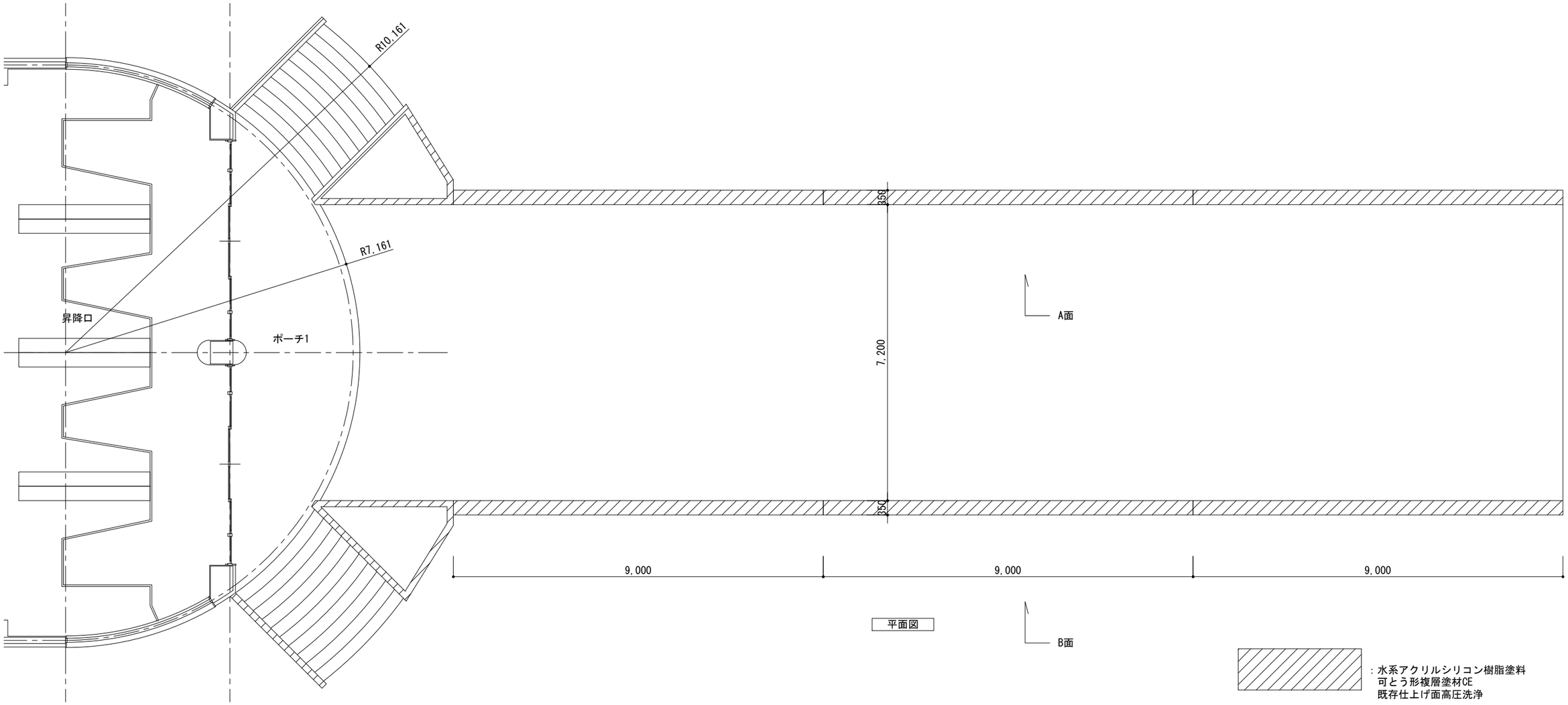


平面図

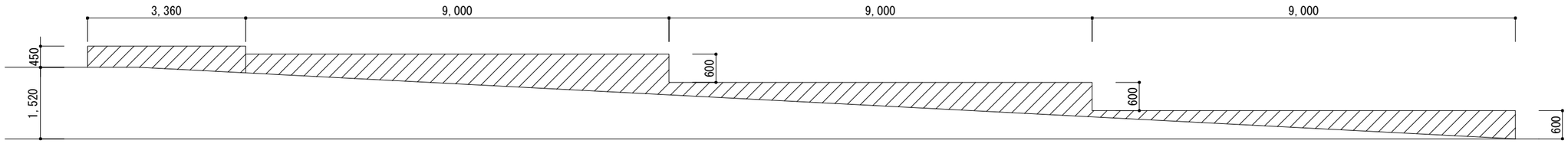


断面図

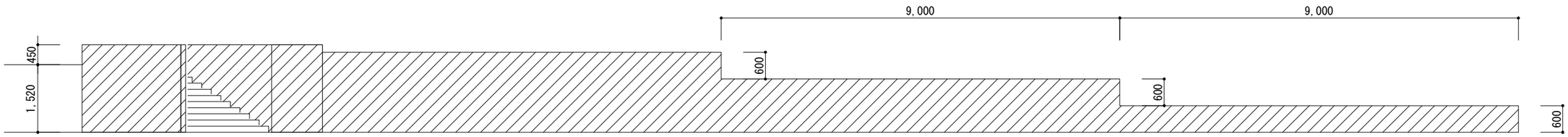
記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	査閲	校正	担当	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	図面名称 部分詳細図(1)	縮尺 A1 1/5 A3 1/10	総数	図面番号 A－23



平面図



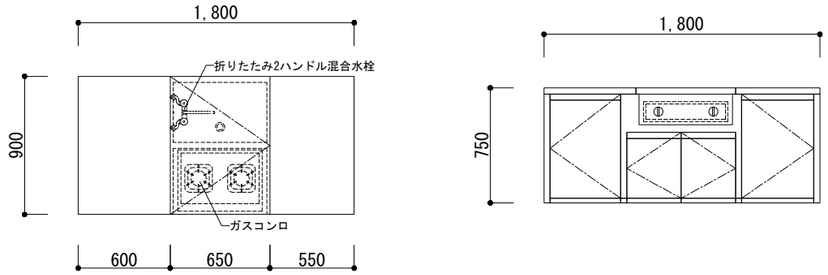
A面立面図



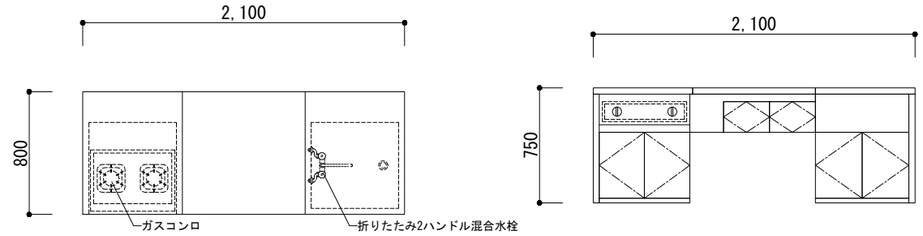
B面立面図

記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 部分詳細図(2)	縮尺 A1 1/50 A3 1/100	図面番号 A－24

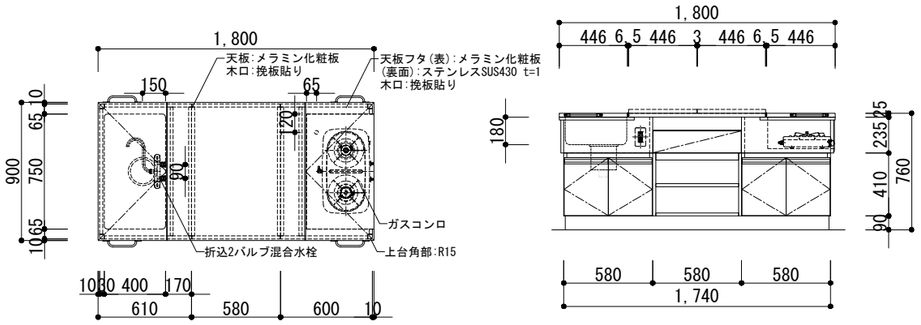
撤去	家庭科室　木製生徒用調理台	8ヶ所
	家庭科準備室　木製生徒用調理台	1ヶ所



撤去	家庭科室　木製教員用調理台	1ヶ所

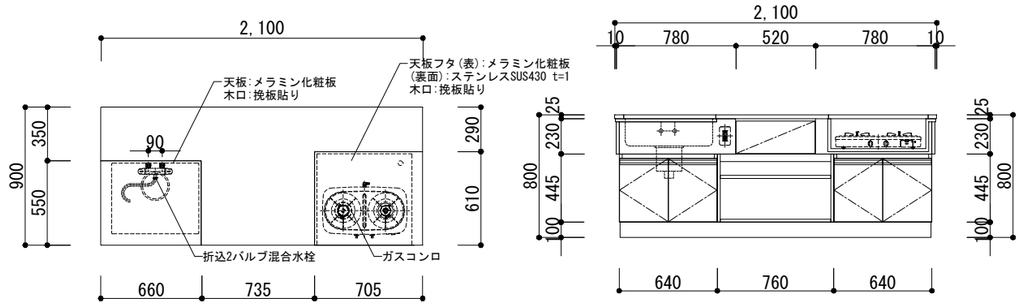


新設	家庭科室　木製生徒用調理台	8ヶ所
	家庭科準備室　木製生徒用調理台	1ヶ所



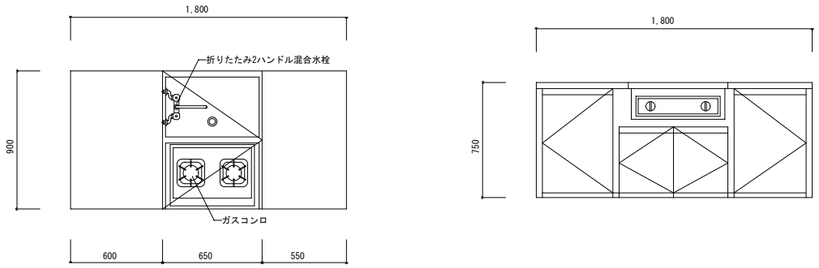
※帝国器材株式会社 KA-2520-331 又は同等品以上とする

新設	家庭科室　木製教員用調理台	1ヶ所



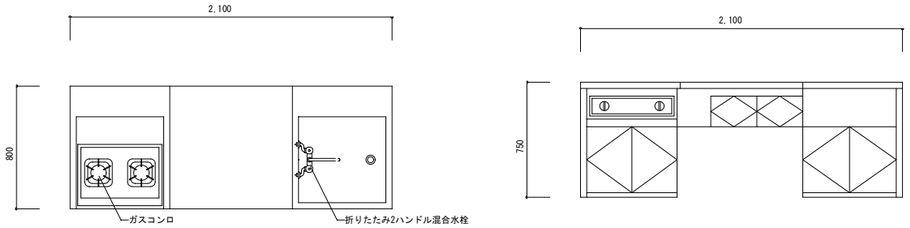
※帝国器材株式会社 KA-2420-231 又は同等品以上とする

記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田　豐	設計年月日 2018 . 11 .	査閲	校正	担当	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
								図面名称 家庭科・準備室 調理台撤去・改修詳細図	縮尺 A1 1/20 A3 1/40	図面番号 A ― 25



家庭科室　木製生徒用調理台

家庭科準備室　木製生徒用調理台



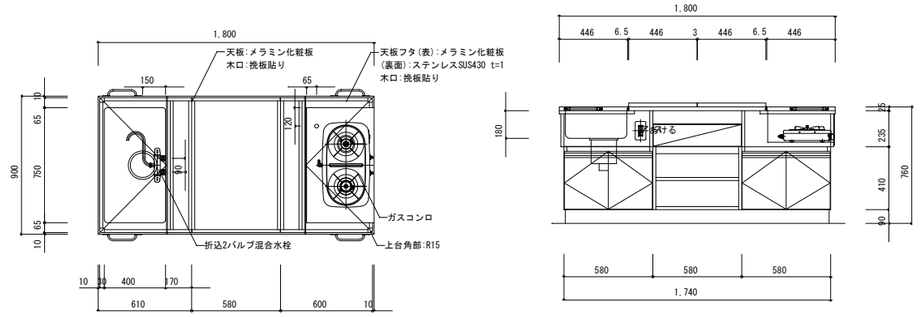
家庭科室　木製教員用調理台

凡　例

★　は既存管の切断及び取外しを示す。

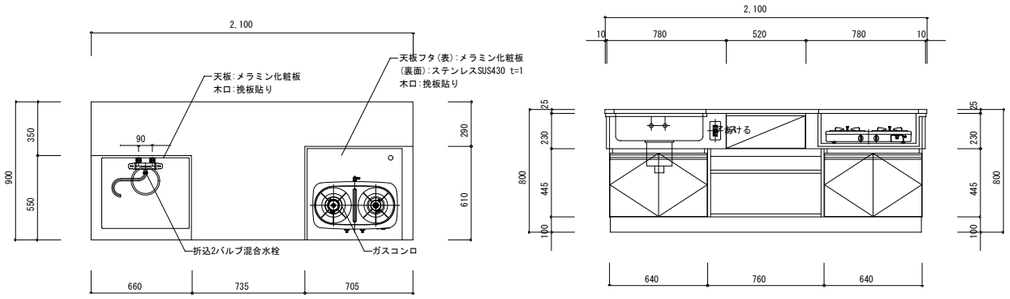
（　特　記　）
図示の太線設備を撤去する。（再使用しない）
図示の細線設備は、既存のままとする。

記　事	創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL　0155-24-7668 FAX　0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田　豐	設計年月日　2018 . 11 . 査閲　校正　担当	工事名称　芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	
					図面名称　既存家庭科室・準備室　設備撤去図	縮尺　A1:1/20,1/50　A3:1/40,1/100
						図面番号　Ａ－２６



家庭科室　木製生徒用調理台

家庭科準備室　木製生徒用調理台



家庭科室　木製教員用調理台

凡　例

☆　は既存管に接続を示す。

▼　は機械はつり（ダイヤモンドカッター）か所を示す。

機械はつり・補修数量表

番　号	口径　×　長さ	数　量
①	88　×　300	―
②	88　×　150	30
③	50　×　150	10

（　特　記　）

図示の太線設備を改修する。

図示の細線設備は、既存のままとする。

記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田　豊	設計年月日 2018 . 11 .	査閲	校正	担当	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		
								図面名称 家庭科室・準備室　設備改修図	縮尺 A1:1/20,1/50 A3:1/40,1/100	図面番号 A－27

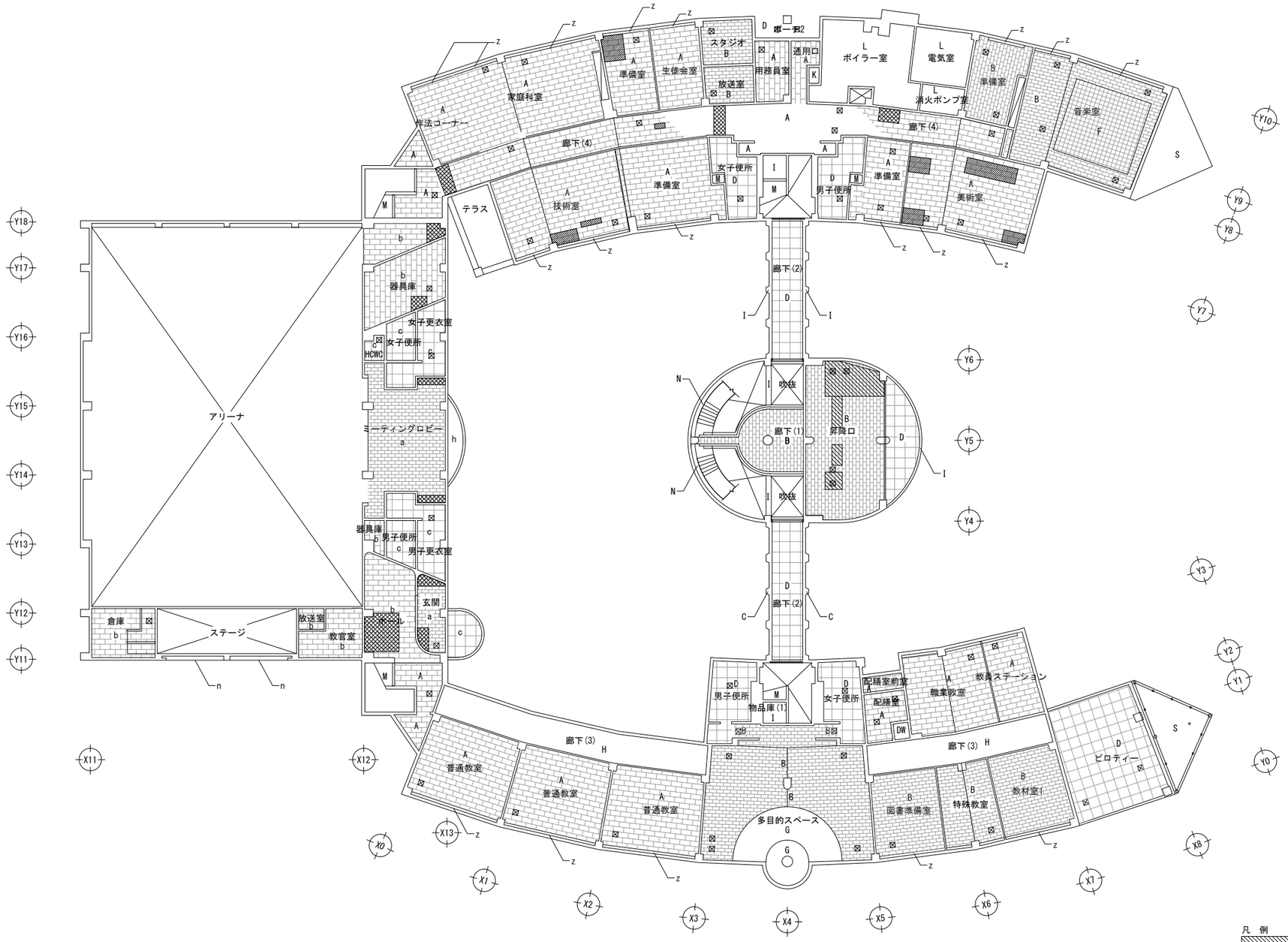
《 屋内体育館棟　凡例 》

記号	仕上	記号	仕上
a	石こうボード t=9の上岩綿吸音板 t=9	i	亜鉛アルミ合金メッキ鋼板 t=0.4
b	石こう吸音板 t=9	j	鉄骨OP
c	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP	k	カーテンボックス
d	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP(一部有孔板)	l	石こうボード t=9
e	ラワン合板 t=9目透かし貼OSCL	m	合板型枠コンクリート打放しの上VP
f	水片化粧毛板 t=25(カラー)	n	合板型枠コンクリート打放しの上着色変性ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ保護剤
g	合成樹脂発泡板 t=40打込	o	立体成型吸音板
h	合板型枠コンクリート打放しの上吹付タイル	⊠	天井点検口(アルミ製 450角)

《 校舎棟　凡例 》

記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上
A	石こう吸音板 t=9	H	繊維強化石こう板 t=5の上ウレタン樹脂塗装	O	吹付タイル
B	石こうボード t=9の上岩綿吸音板 t=9	I	ｺﾝｸﾘｰﾄ内放しの上中性化防止剤塗	P	有孔石こうボード t=9目透かしEP
C	ｺﾝｸﾘｰﾄ内放しの上透湿防水壁外壁仕上材塗	J	石こうボード t=9の上ウレタン樹脂塗装	Q	桧合板 t=5.5目透かし貼OP
D	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP	K	石こうボード t=9	R	木毛板
E	ケイ酸カルシウム板 t=6（有孔無孔交互）	L	木毛板 t=15打込の上グラスウールボード t=25	S	鉄骨ウレタン樹脂塗装
F	成型立体吸音板	M	合板型枠コンクリート打放し現し	T	石こうボード t=12の上EP
G	石こうボード t=9の上ビニールクロス貼	N	鉄骨OP	⊠	天井点検口(アルミ製 450角)

既存



凡 例

	天井仕上、下地共撤去範囲	2期工事
	天井仕上撤去範囲（軽天下地既存のまま）	
	EV改修に伴う天井仕上、下地共撤去範囲（1箇所当たり1㎡）	

記 事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .			工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総 数
			査 閲	校 正	担 当	図面名称 既存・撤去1階天井伏図	縮 尺 A1 1/200 A3 1/400 / 図面番号 A ― 28

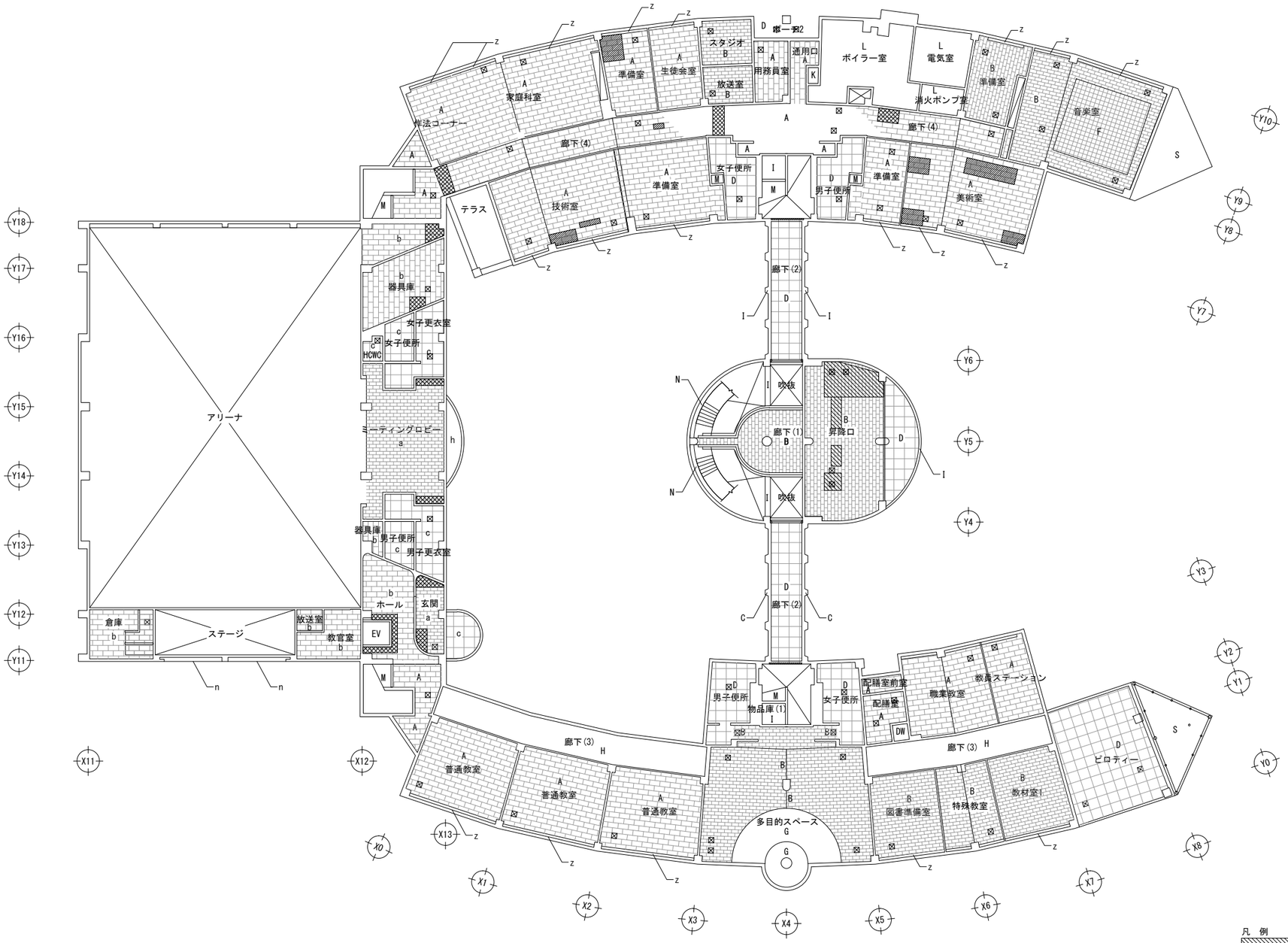
《 屋内体育館棟　凡例 》

記号	仕上	記号	仕上
a	石こうボード t=9.5の上岩綿吸音板 t=9.5	i	亜鉛アルミ合金メッキ鋼板 t=0.4
b	石こう吸音板 t=9.5	j	鉄骨OP
c	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP	k	カーテンボックス
d	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP(一部有孔板)	l	石こうボード t=9.5
e	ラワン合板 t=9目透かし貼OSCL	m	合板型枠コンクリート打放しの上VP
f	水片化粧毛板 t=25(カラー)	n	合板型枠コンクリート打放しの上着色変性ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ保護剤
g	合成樹脂発泡板 t=40打込	o	立体成型吸音板
h	合板型枠コンクリート打放しの上吹付タイル	⊠	天井点検口(アルミ製 450角)

《 校舎棟　凡例 》

記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上
A	石こう吸音板 t=9.5	H	繊維強化石こう板 t=5の上ウレタン樹脂塗装	O	吹付タイル
B	石こうボード t=9.5の上岩綿吸音板 t=9	I	ｺﾝｸﾘｰﾄ内放しの上中性化防止剤塗	P	有孔石こうボード t=9.5目透かしEP
C	ｺﾝｸﾘｰﾄ内放しの上透湿防水壁外壁仕上材塗	J	石こうボード t=9.5の上ウレタン樹脂塗装	Q	桧合板 t=5.5目透かし貼OP
D	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP	K	石こうボード t=9.5	R	木毛板
E	ケイ酸カルシウム板 t=6（有孔無孔交互）	L	木毛板 t=15打込の上グラスウールボード t=25	S	鉄骨ウレタン樹脂塗装
F	成型立体吸音板	M	合板型枠コンクリート打放し現し	T	石こうボード t=12.5の上EP
G	石こうボード t=9.5の上ビニールクロス貼	N	鉄骨OP	⊠	天井点検口(アルミ製 450角)

改修後



凡 例

	天井仕上、下地共新設範囲	2期工事
	天井仕上新設範囲（軽天下地既存のまま）	
	EV改修に伴う天井仕上、下地共新設範囲（1箇所当たり1㎡）	

記 事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		総 数
			査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 改修後1階天井伏図	縮 尺 A1 1/200 A3 1/400	図 面 番 号 A － 29

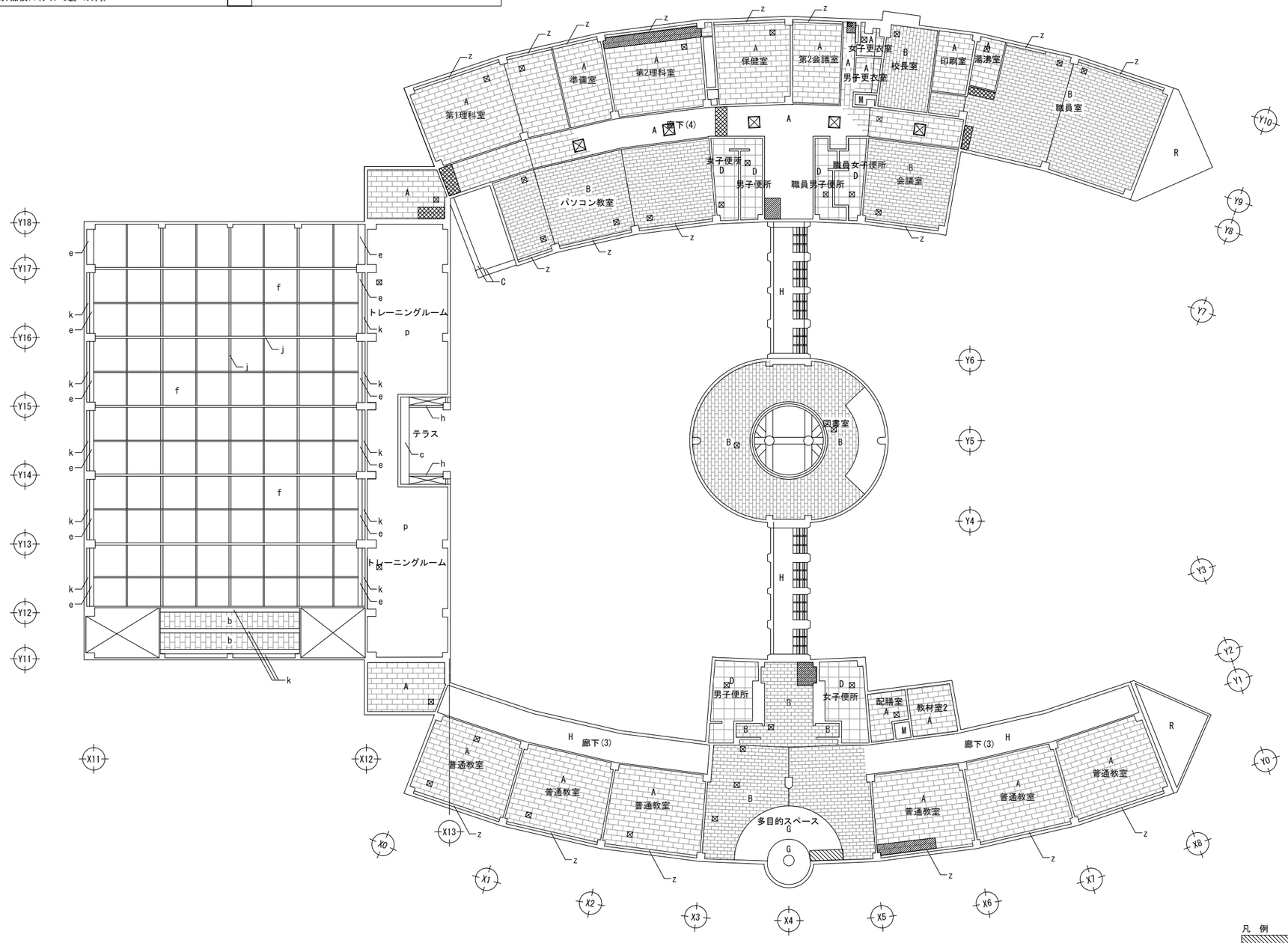
《 屋内体育館棟　凡例 》

記号	仕上	記号	仕上
a	石こうボード t=9の上岩綿吸音板 t=9	i	亜鉛アルミ合金メッキ鋼板 t=0.4
b	石こう吸音板 t=9	j	鉄骨OP
c	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP	k	カーテンボックス
d	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP(一部有孔板)	l	石こうボード t=9
e	ラワン合板 t=9目透かし貼OSCL	m	合板型枠コンクリート打放しの上VP
f	水片化粧毛板 t=25(カラー)	n	合板型枠コンクリート打放しの上着色変性ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ保護剤
g	合成樹脂発泡板 t=40打込	o	立体成型吸音板
h	合板型枠コンクリート打放しの上吹付タイル	p	不燃コート吹付
⊠	天井点検口(アルミ製 450角)		

《 校舎棟　凡例 》

記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上
A	石こう吸音板 t=9	H	繊維強化石こう板 t=5の上ウレタン樹脂塗装	O	吹付タイル
B	石こうボード t=9の上岩綿吸音板 t=9	I	ｺﾝｸﾘｰﾄ内放しの上中性化防止剤塗	P	有孔石こうボード t=9目透かしEP
C	ｺﾝｸﾘｰﾄ内放しの上透湿防水壁外壁仕上材塗	J	石こうボード t=9の上ウレタン樹脂塗装	Q	桧合板 t=5.5目透かし貼OP
D	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP	K	石こうボード t=9	R	木毛板
E	ケイ酸カルシウム板 t=6（有孔無孔交互）	L	木毛板 t=15打込の上グラスウールボード t=25	S	鉄骨ウレタン樹脂塗装
F	成型立体吸音板	M	合板型枠コンクリート打放し現し	T	石こうボード t=12の上EP
G	石こうボード t=9の上ビニールクロス貼	N	鉄骨OP	⊠	天井点検口(アルミ製 450角)

既存



凡　例

	天井仕上、下地共撤去範囲	2期工事
	天井仕上撤去範囲（軽天下地既存のまま）	
	EV改修に伴う天井仕上、下地共撤去範囲（1箇所当たり1㎡）	

記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田　豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 既存・撤去2階天井伏図	縮尺 A1 1/200 A3 1/400	図面番号 A － 30

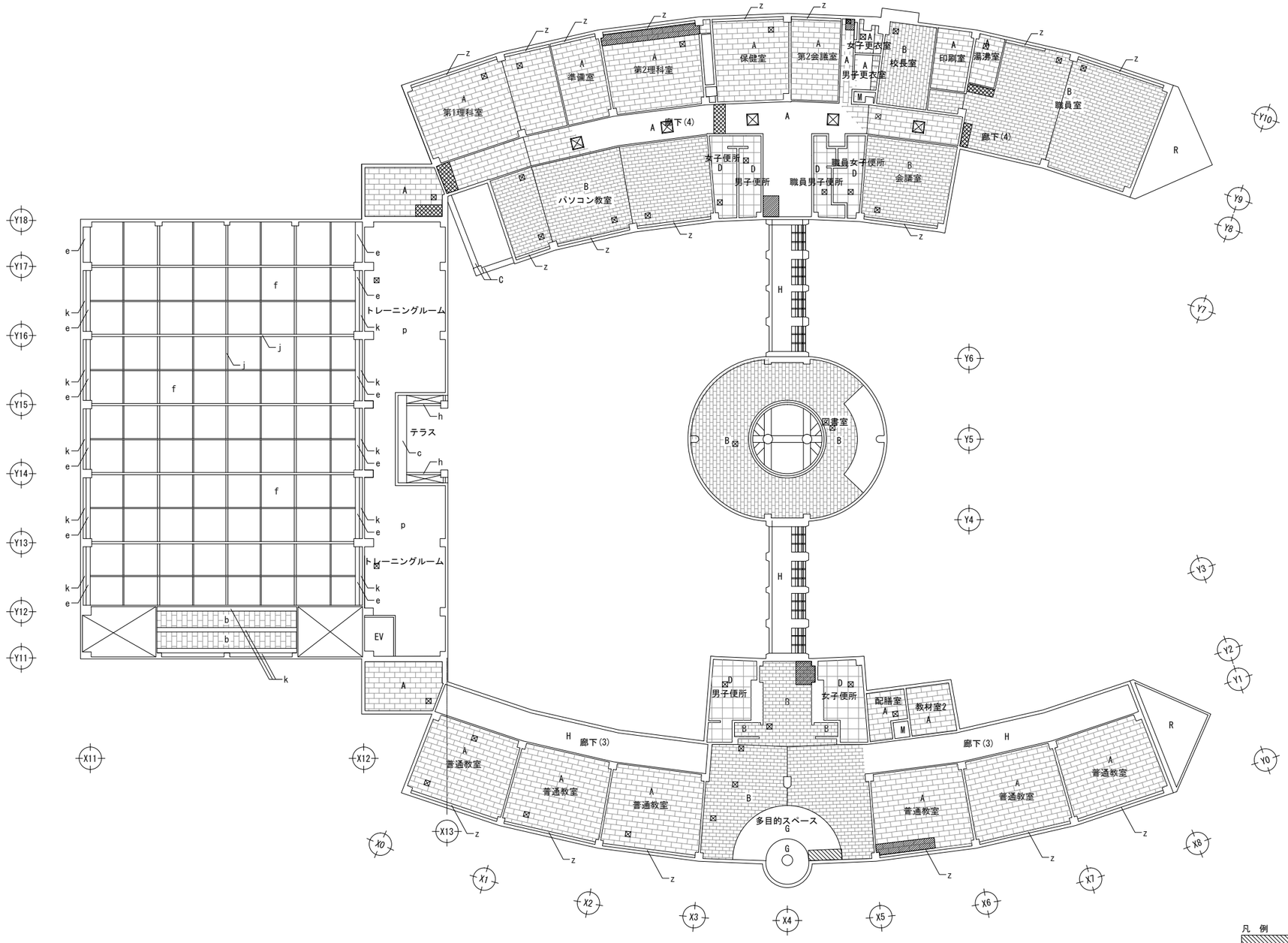
《 屋内体育館棟　凡例 》

記号	仕上	記号	仕上
a	石こうボード t=9.5の上岩綿吸音板 t=9.5	i	亜鉛アルミ合金メッキ鋼板 t=0.4
b	石こう吸音板 t=9.5	j	鉄骨OP
c	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP	k	カーテンボックス
d	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP(一部有孔板)	l	石こうボード t=9.5
e	ラワン合板 t=9目透かし貼OSCL	m	合板型枠コンクリート打放しの上VP
f	水片化粧毛板 t=25(カラー)	n	合板型枠コンクリート打放しの上着色変性ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ保護剤
g	合成樹脂発泡板 t=40打込	o	立体成型吸音板
h	合板型枠コンクリート打放しの上吹付タイル	⊠	天井点検口(アルミ製 450角)

《 校舎棟　凡例 》

記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上
A	石こう吸音板 t=9.5	H	繊維強化石こう板 t=5の上ウレタン樹脂塗装	O	吹付タイル
B	石こうボード t=9.5の上岩綿吸音板 t=9	I	ｺﾝｸﾘｰﾄ内放しの上中性化防止剤塗	P	有孔石こうボード t=9.5目透かしEP
C	ｺﾝｸﾘｰﾄ内放しの上透湿防水壁外壁仕上材塗	J	石こうボード t=9.5の上ウレタン樹脂塗装	Q	桧合板 t=5.5目透かし貼OP
D	フレキシブルボード t=6目透かし貼りの上VP	K	石こうボード t=9.5	R	木毛板
E	ケイ酸カルシウム板 t=6（有孔無孔交互）	L	木毛板 t=15打込の上グラスウールボード t=25	S	鉄骨ウレタン樹脂塗装
F	成型立体吸音板	M	合板型枠コンクリート打放し現し	T	石こうボード t=12.5の上EP
G	石こうボード t=9.5の上ビニールクロス貼	N	鉄骨OP	⊠	天井点検口(アルミ製 450角)

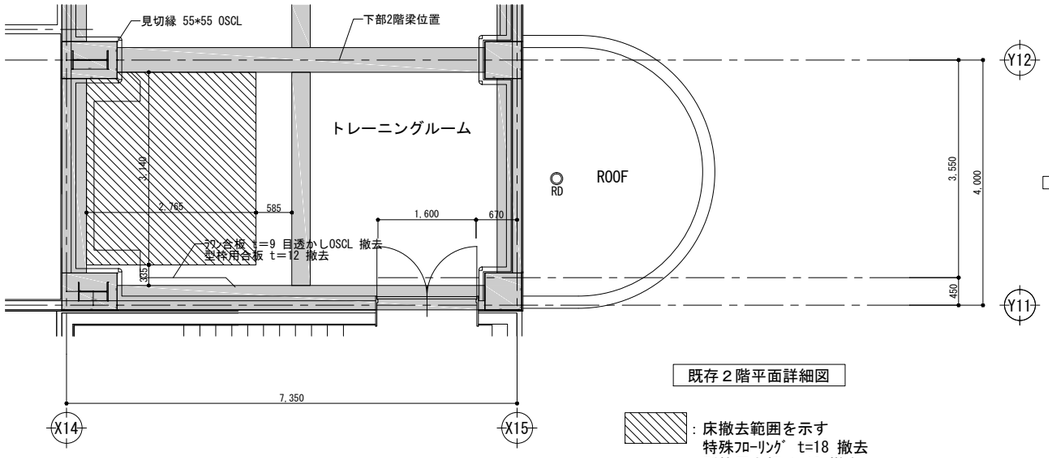
改修後



凡 例

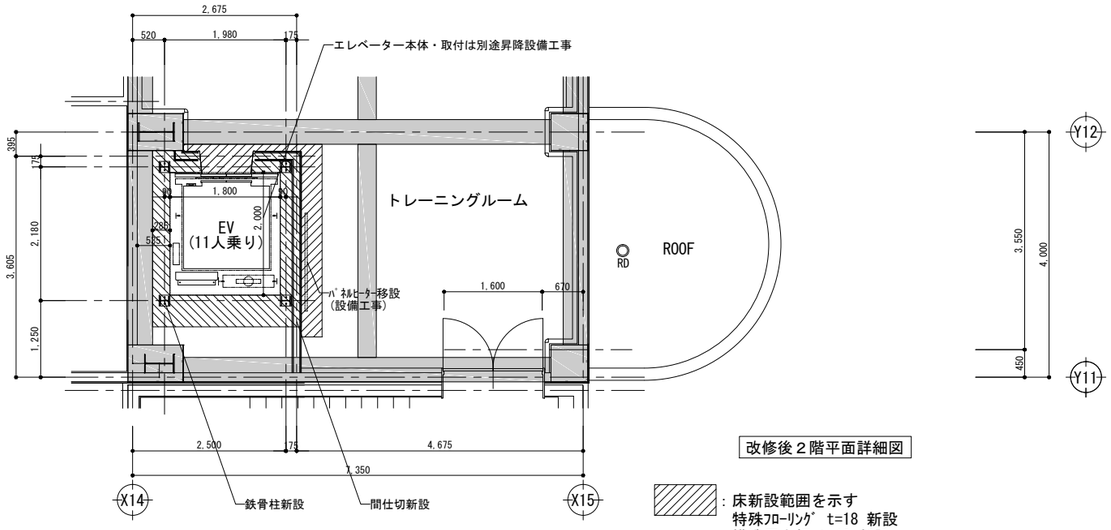
	天井仕上、下地共新設範囲	2期工事
	天井仕上新設範囲（軽天下地既存のまま）	
	EV改修に伴う天井仕上、下地共新設範囲（1箇所当たり1㎡）	

記 事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		総 数
				査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 改修後2階天井伏図	縮 尺 A1 1/200 A3 1/400	図 面 番 号 A － 31



既存２階平面詳細図

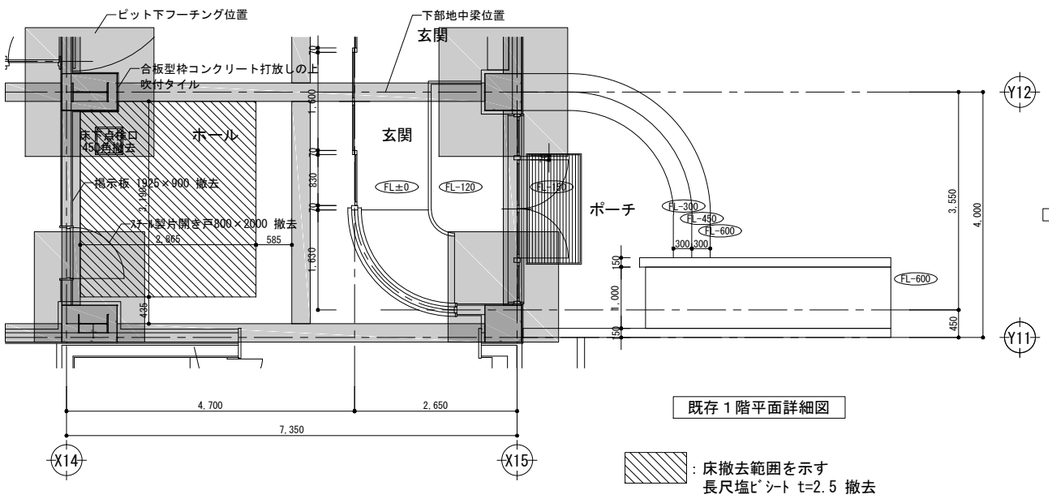
：床撤去範囲を示す
特殊ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ t=18 撤去
型枠用合板 t=12 撤去
ﾕﾆｯﾄ床組 撤去
ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ t=120 撤去



改修後２階平面詳細図

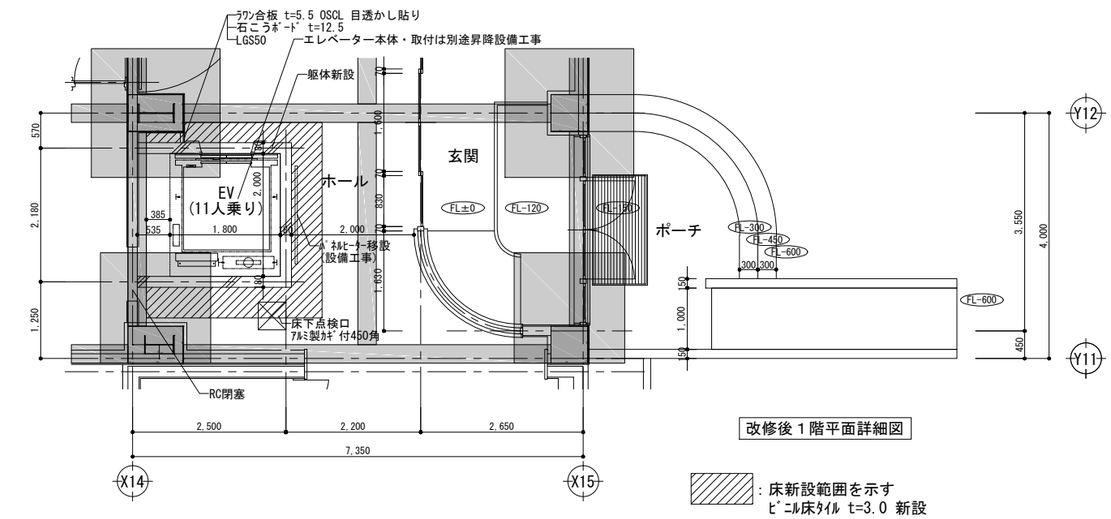
：床新設範囲を示す
特殊ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ t=18 新設
構造用合板 t=12 新設
ﾕﾆｯﾄ床組 新設
ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ t=120 新設

：ｽﾗﾌﾞ新設範囲を示す



既存１階平面詳細図

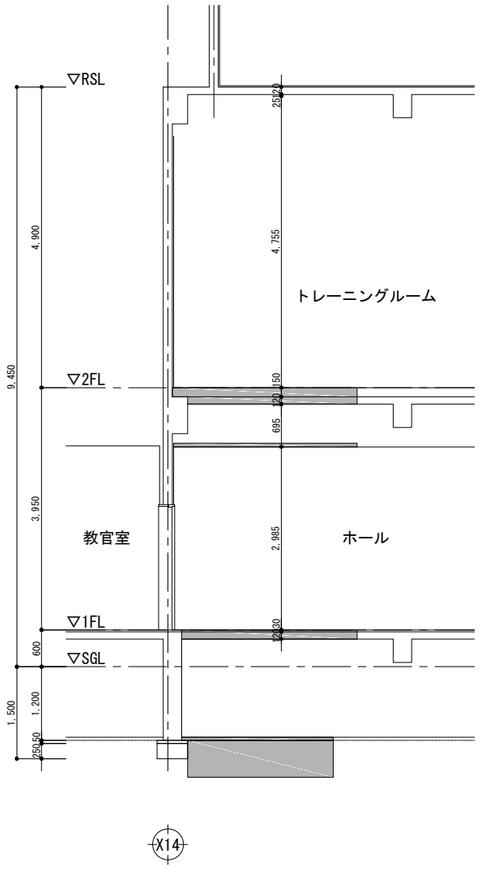
：床撤去範囲を示す
長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ t=2.5 撤去
ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ 撤去
ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ t=120 撤去
合成樹脂発泡板 t=40 打込 撤去



改修後１階平面詳細図

：床新設範囲を示す
ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ t=3.0 新設
ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し t=120 新設
合成樹脂発泡板 t=40 打込 新設

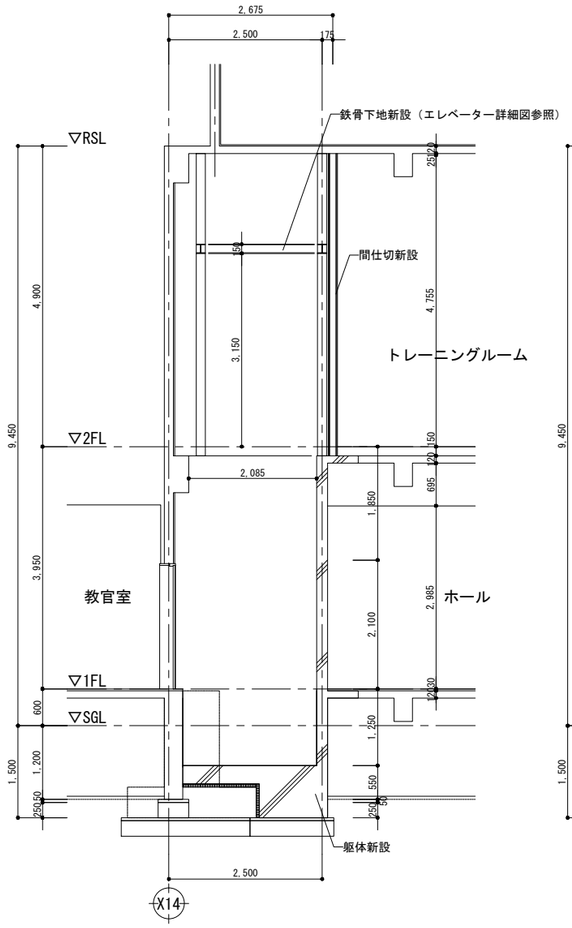
記 事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .			工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総 数
			査 閲	校 正	担 当	図面名称 エレベーター新設部 平面詳細図	縮 尺 A1 1/50 A3 1/100 / 図 面 番 号 A － 32



既存断面詳細図1

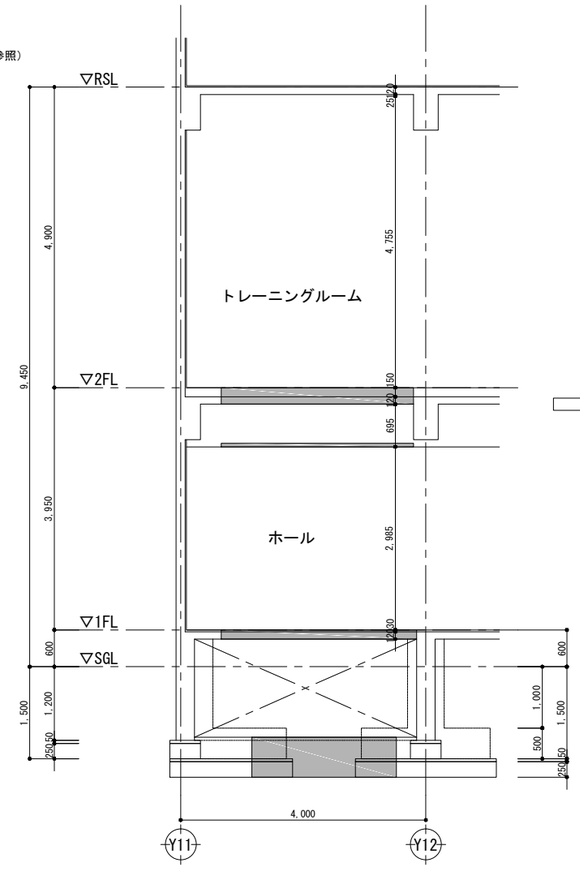
≪凡例≫

: 撤去範囲を示す



改修後断面詳細図1

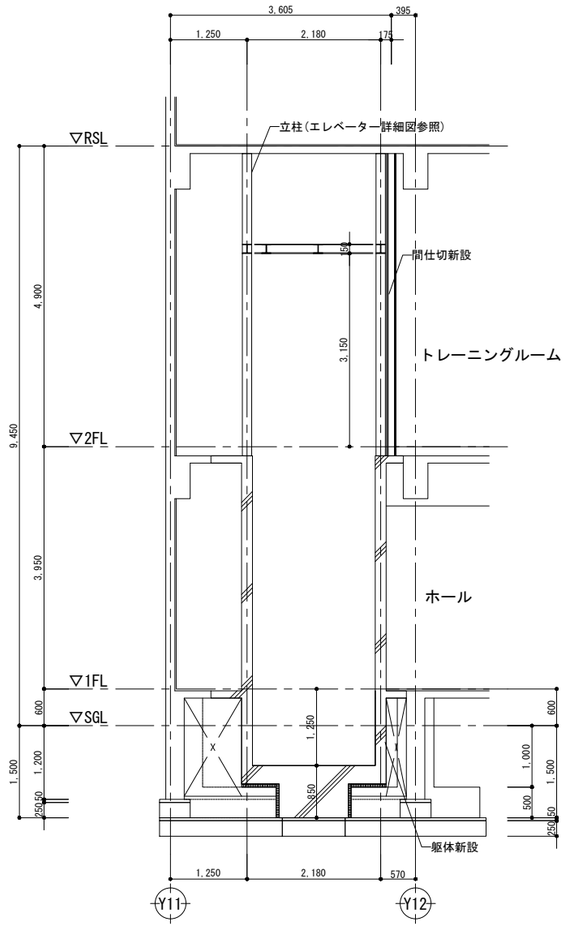
※エレベーター本体・取付は別途昇降設備工事



既存断面詳細図2

≪凡例≫

: 撤去範囲を示す



改修後断面詳細図2

記 事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		総 数
			査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 エレベーター新設部 断面図	縮 尺 A1 1/50 A3 1/100	図 面 番 号 A － 33

エレベーター仕様			
基本仕様	号機名	NO.1	
	型式	機械室レス P-11-CO45	
	用途	乗用兼車いす用	
	定格積載質量／定員	750kg／11人乗	
	定格速度	45m／min	
	運転方式	乗合全自動方式	
	制御方式	インバータ制御方式	
	停止階	2箇所 (1,2階)	
	かご寸法	間口1400mm 奥行1350mm 天井高さ2300mm	
	出入口寸法	幅800mm 高さ2100mm	
	戸型式	2枚戸中央開き	
	電動機	AC 3.5kW	
	動力用電源	AC 3φ 200V 50Hz	
	照明用電源	AC 1φ 100V 50Hz	
	連絡装置 設置場所	同時通話式インターホン 2階職員室	
	リモートメンテナンス用インターフェース （リモートメンテナンスを提供するためには、別途保守契約をしていただく必要があります）		
管制運転	地震	有り（P波およびS波感知）（リスタート機能付）	
	火災	有り（火報と連動した接点による自動式）	
	停電	有り	
	自家発	無し	
乗場仕様	三方枠	1,2階	大枠 ステンレスヘアライン仕上
	乗場戸	1,2階	鋼板塗装仕上
	幕板	1,2階	無し
	敷居	1,2階	硬質アルミ
	ホールランタン	1,2階	無し
	インジケーター	1,2階	縦型デジタル表示 カバー：ステンレスヘアライン仕上
	ホールボタン	1,2階	ストロークボタン インジケーターに組込
かご仕様	天井	標準タイプ	
	前側板	ステンレスヘアライン仕上	
	側板	化粧鋼板	
	戸	化粧鋼板	
	出入口上部	ステンレスヘアライン仕上	
	床	樹脂タイル（2T）	
	幅木	ステンレスヘアライン仕上	
	敷居	硬質アルミ	
	操作盤	ストロークボタン カバー：ステンレスヘアライン仕上	
	インジケーター	カラー液晶表示	
	車いす用操作盤	ストロークボタン カバー：ステンレスヘアライン仕上	
	鏡	ステンレス製	
	ハンドレール	ステンレスパイプ：ステンレスヘアライン仕上	
監視盤		無し	
耐震クラス		A14	
特記仕様	建築基準法適用年度：２０１４年改正		
	戸閉時お知らせ表示付き多光軸光電装置付		
	乗場側利用者検知機能付		
	かご戸袋引き込まれ低減機能付		
	車いす仕様付		
	視覚障がい者仕様付（全てのホールボタン、操作盤ボタンに点字付）		
	音声案内装置付		
	大型防犯窓付（段差無し）（全階）		
	フェッシャープレート付		
	三方枠枠幅350mm超え（600mm以下）（2階）		
	非常放送用スピーカー付（かご天井上）		
	かご内キックプレート付（H=240mm ステンレスヘアライン仕上）		
	かご内操作盤の非常呼びボタンに乱用防止アクリルカバー付（車いす用含む）		
	自己保持型警報ブザー付（かご天井上）		
	リセットボタン付インターホン		
	故障情報の無電圧a接点支給付		
	絶縁トランス付		
	中間ビーム1列付（1階）		
	公共建築工事標準仕様書（平成28年版）		
	防振対策付		
	かご側板保護マット付		
	かご床マット付		
	煙感知器点検用ドアスイッチ付		
			－T－

見積は下記条件に基づき積算を行っております。

工事区分表

号機名 NO.1

範囲	項目	工事名	建屋構造 RC	建屋構造 S	工事区分 建築	工事区分 電気	工事区分 空衛	工事区分 ELV
昇降路	1	昇降路の築造と誤差是正工事 1) 壁または囲いは間隙なきものとする 2) 昇降路の壁又は囲い及び出入口の戸は、任意の5cm²の面にこれと直角な方向の300Nの力が昇降路外から作用した場合において 15mmを超える変形や塑性変形が発生しないこと 3) コンクリート厚さは150mm以上とする 4) コンクリート基準圧縮強度 21N／mm²以上とする	○	○	○			
	2	昇降路内鉄骨構造階の構造耐火処理工事および補修工事		○	○			
	3	各階出入口床の敷居取り付け用かき込みまたは敷居受け持ち出し工事	○		○			
	4	各階出入口まわり壁の穴あけ工事（出入口、押しボタン、かご位置表示灯、ホールモニターなど） ・コンクリートの躯体誤差が30mmを超えないこと	○	○	○			
	5	エレベーター据付後の出入口壁および床その他建築仕上げ及び補修工事	○	○	○			
	6	三方枠、インジケーターなどと壁間の防火区画処理	○	○	○			
	7	三方枠、インジケーターなどと壁間のすきま塞ぎ工事（ふさぎ板またはラス材）	○	○				○
	8	ピット内防水仕上げ工事（ピット仕上げ面の水平度は 1／200 以下）	○	○	○			
	9	併設されたエレベーターの最下階が異なる場合のピット間仕切り工事（H=1800以上）	○	○	○			
	10	オーバヘッド・ピット寸法が図面と異なる場合のはつり・埋め戻し工事	○	○	○			
	11	ピット点検用タラップまたは梯子の設置工事	○	○				○
	12	ピット点検用コンセント設置工事（1ヶ／台）	○	○		○		
	13	インターホンならびにその他の機器（放送（~~一般~~·非常）・~~自家発商用電源識別接点~~・火災時管制用接点・~~防犯カメラ~~等）用配管、配線工事（配線サイズ、本数は電気設備欄による）	○	○		○		
	14	昇降路内の受電制御盤への動力電源、照明用電源およびアース線の引き込みならびにつなぎ込み工事（配線サイズ、本数は電気設備欄による）	○	○		○		
	15	~~監視盤がある場合の監視盤用配管配線工事（監視盤配置場所より昇降路最下階の制御盤位置まで引き込み）~~	○	○		○		
	16	昇降路頂部の煙感知器の設置工事（昇降路外部から保守点検可能な構造）（点検扉は、厚さ1.5mm以上の鉄板製）	○	○		○		
	17	昇降路頂部の煙感知器点検扉ＥＬＶ連動停止スイッチ取付	○	○				○
	18	リモートメンテナンス用として電話端子盤から昇降路までの配管（最小直径25mm）、配線工事（配線サイズ、本数は電気設備欄による）	○	○		○		
	19	昇降路出入口側内壁（敷居下および出入口上部）とかご前端が125mm以上離れる場合のフェッシャープレート取付用下地設置工事	○	○	○			
	20	昇降路出入口側内壁（敷居下および出入口上部）とかご前端が125mm以上離れる場合のフェッシャープレート設置工事	○	○				○
	21	昇降路内配管工事に伴う区画貫通部の耐火処理工事	○	○		○		
	22	~~昇降路頂部への吊りフックの設置工事~~	○		○			
	23	昇降路頂部への吊りビーム設置工事		○	○			
	24	昇降路内の中間ビーム設置工事 （コンクリート階）	○					○
	25	~~昇降路内の中間ビーム及び立柱設置工事（鉄骨階）~~		○	○			
	26	レール・三方枠·敷居·ホールボタン·インジケーターなどの固定用鋼材設置工事および誤差是正工事		○	○			
	27	~~PC構造に於けるインサート埋め込み工事またはプレート設置工事~~	○		○			
	28	~~不停止階の昇降路救出口扉の設置工事（施行令 129条の7の1による）~~	○	○	○			
	29	~~かごドレン式クーラー設置時のピット排水管工事~~	○	○	○			
	30	~~昇降路内温度が４０℃超過の場合のガラリ設置工事~~	○	○	○			
	31	~~昇降路内温度が４０℃超過の場合の換気扇設置工事~~	○	○		○		
	32	~~昇降路内温度が５℃未満又は４０℃超過の場合の空調設備設置工事~~	○	○			○	
その他	1	エレベーター部品搬入経路の確保（必要に応じてコンクリートの穴あけおよび埋め戻し工事）	○	○	○			
	2	エレベーター重量部品搬入の際の仮設揚重機の貸与	○	○	○			
	3	エレベーター据付工事員現場詰所および材料置場の確保	○	○	○			
	4	エレベーター据付工事用電力の供給（動力用および照明用電源）	○	○	○	○		
	5	エレベーター運転調整用電力の供給（動力用および照明用電源ともに本設電源配管経路で引き込み）	○	○	○	○		
	6	医療機器、放送用機器、コンピューター機器などの電源とエレベーター動力用電源およびアース線の系統分離工事	○	○		○		
	7	昇降路と居室が隣接する場合の居室側防音および防振工事	○	○	○			
	8	昇降路内建築工事仮設床（水平養生）用の金網、デッキプレートなどの撤去工事	○	○	○			
	9	エレベーター着工前の各階出入り口開口部の塞ぎ材支給および施工	○	○	○			
	10	~~出入口が直接外気と接する乗場における雨水よけ工事（庇,水切り等）~~	○	○	○			
	11	昇降路内仮設足場の設置および解体工事	○	○	○			
	12	エレベーター承認図と躯体が異なる場合の手直し	○	○	○			
	13	~~昇降路がガラスの場合の養生施工および塗装工事~~	○	○	○			
	14	~~ＡＬＣ継目の補修、セパボルトの撤去~~	○	○	○			
	15	~~非常用エレベーターホール全階の避難経路板設置工事~~	○	○	○			
	16	~~非常用エレベーター乗場水勾配、排水溝、グレーチング施工~~	○	○	○			
	17	~~監視盤用電源の監視盤までの引き込み工事~~	○	○		○		

【注意事項】

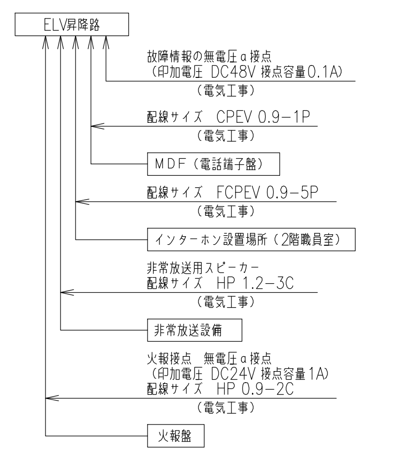
エレベーター設備計画にあたっては、以下の事項にご注意願います。

1.昇降路内にエレベーターに関係のない用途の配管・ダクトなどが露出しないようにしてください。
2.昇降路内温度は最低＋5℃、最高40℃以内とし、湿度は月平均90%、日平均95%を超えないようにしてください。
3.昇降路は有毒ガスや、はなはだしい塵埃などが入らないようにしてください。
4.昇降路内壁や鉄骨部材に使用する塗料、接着剤、モルタルなどはホルムアルデヒドの発散が少ない材料を使用してください。
5.電源電圧の変動は－10～＋10%以内、電圧不平衡率5%以内に保つよう電源を設置願います。

標準型エレベーターの荷役制限について
・軽台車などで荷物を運搬する場合には、250kg以下／回。

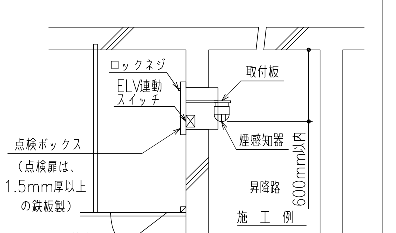
電気設備

項目				
号機名	NO.1			
動力用電源	AC 3φ 200V 50Hz 線サイズ×1回路（CV）			
	線サイズ（mm²）	3.5	5.5	8.0
	最大引込距離（m）	35	55	79
	ＭＣＢ容量	30A		
	トランス容量	4kVA		
	起動KVA	13kVA		
照明用電源	AC 1φ 100V 50Hz 2mmφ × 1回路 2.0kVA			
アース線	2mm²（D種）			
インターホン用配管配線	FCPEV 0.9－5P			
リモートメンテナンス用配管配線	CPEV 0.9－1P，配管サイズφ25			
ピット点検用コンセント	AC 100V 1.5kVA以上 ×1個 （最下階FL＋200の出入口付近に設置）			
火災報知信号無電圧a接点支給及び配管配線	印加電圧 DC24V 接点容量 1A HP 0.9－2C			
故障情報の無電圧a接点支給及び配管配線	印加電圧 DC48V 接点容量 0.1A			
非常放送用スピーカー用配管配線	HP 1.2－3C			
注意事項	上記の配管配線はエレベーター制御盤から各設備ならびに機器の設置場所まで引込み 上記の配管配線はエレベーターの着工前までに本設配線で引込み			



遠隔監視用及びインターホン配線系統図

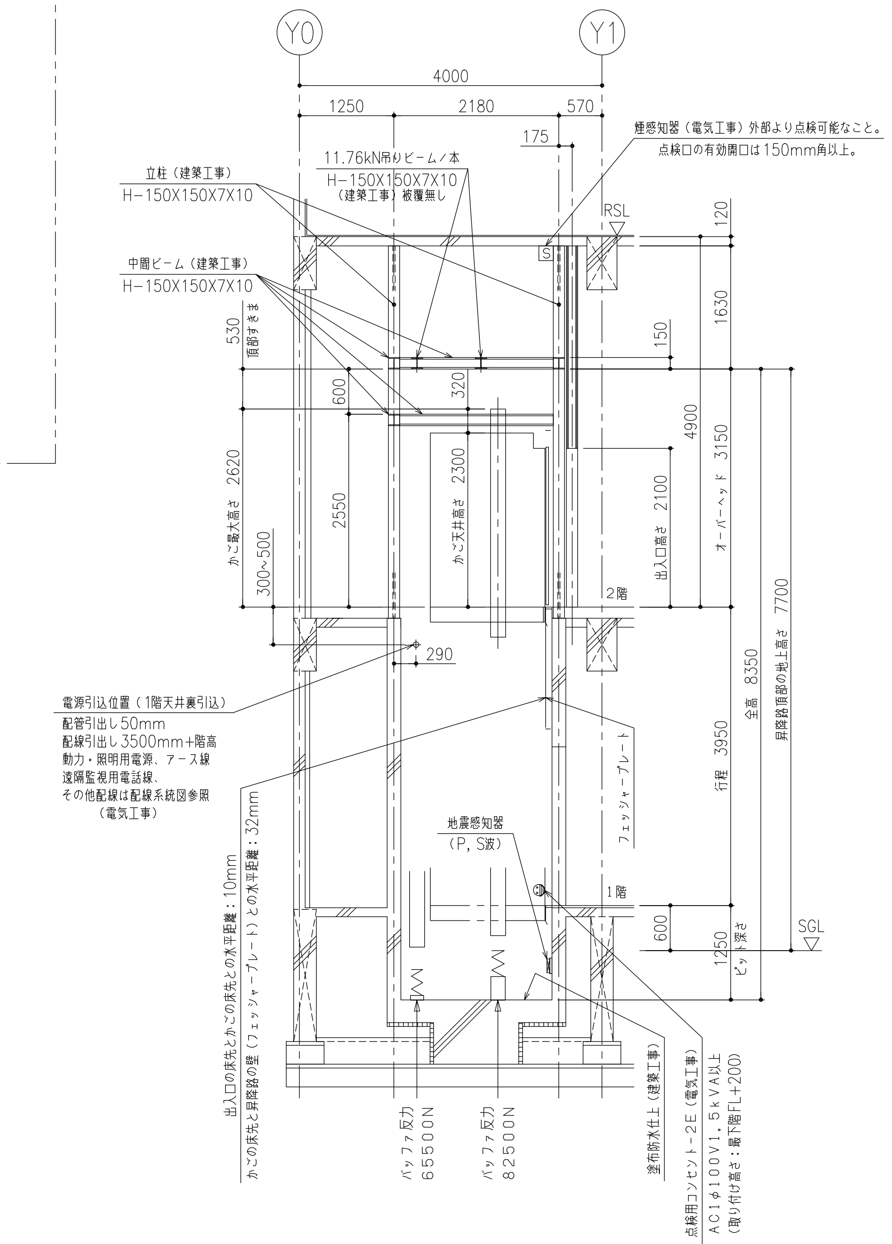
煙感知器施工例



点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品としてください。

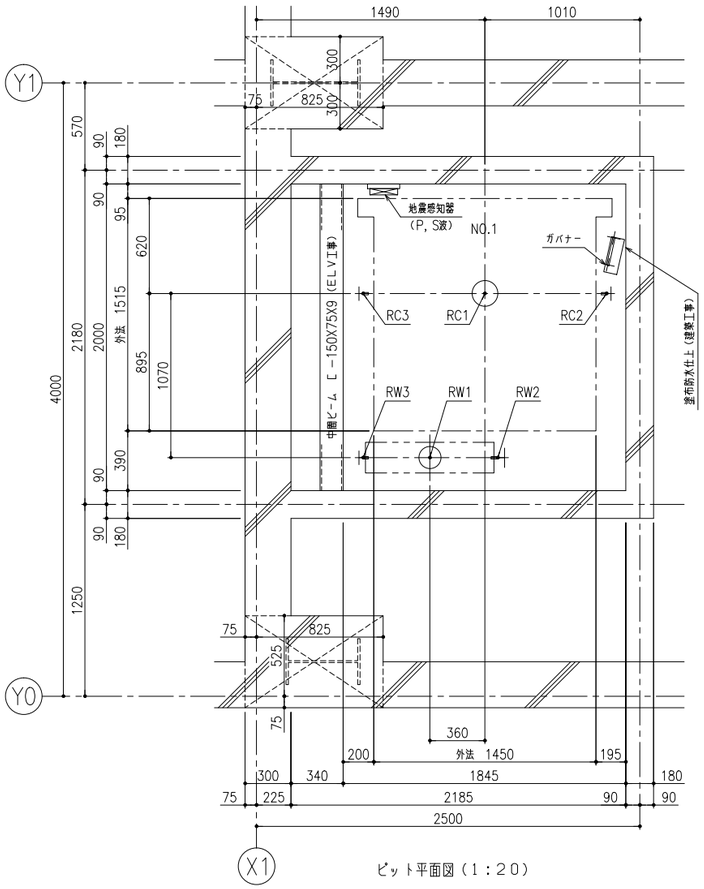
（点検扉を開いた場合はエレベーターは停止します。）

・オーバーヘッドが4400mmを超える場合は当社技術員にご相談ください。
・エレベーター出入口側に煙感知器を設置する場合はカゴ出入口機器と干渉する恐れがあるので事前にご相談ください。



昇降路断面図 （1：50）

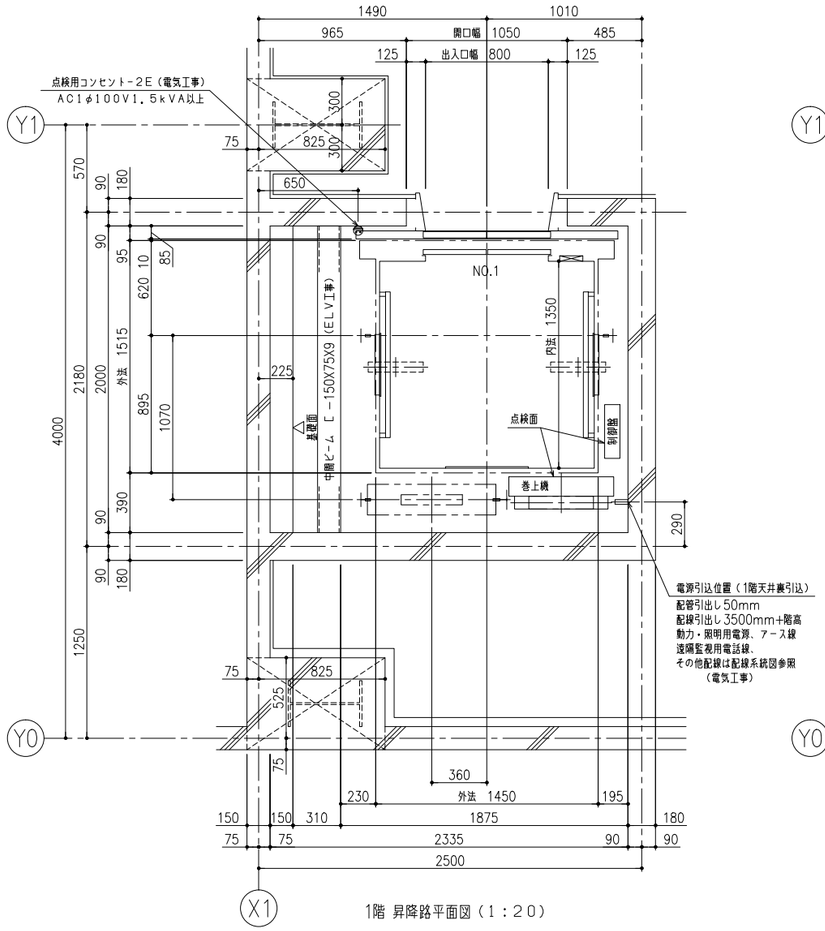
記事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（十）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018．11．	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
			査閲 / 校正 / 担当	図面名称 エレベーター詳細図(1)（本体・取付は昇降設備工事） 縮尺 A1 1/50 A3 1/100	図面番号 A－34



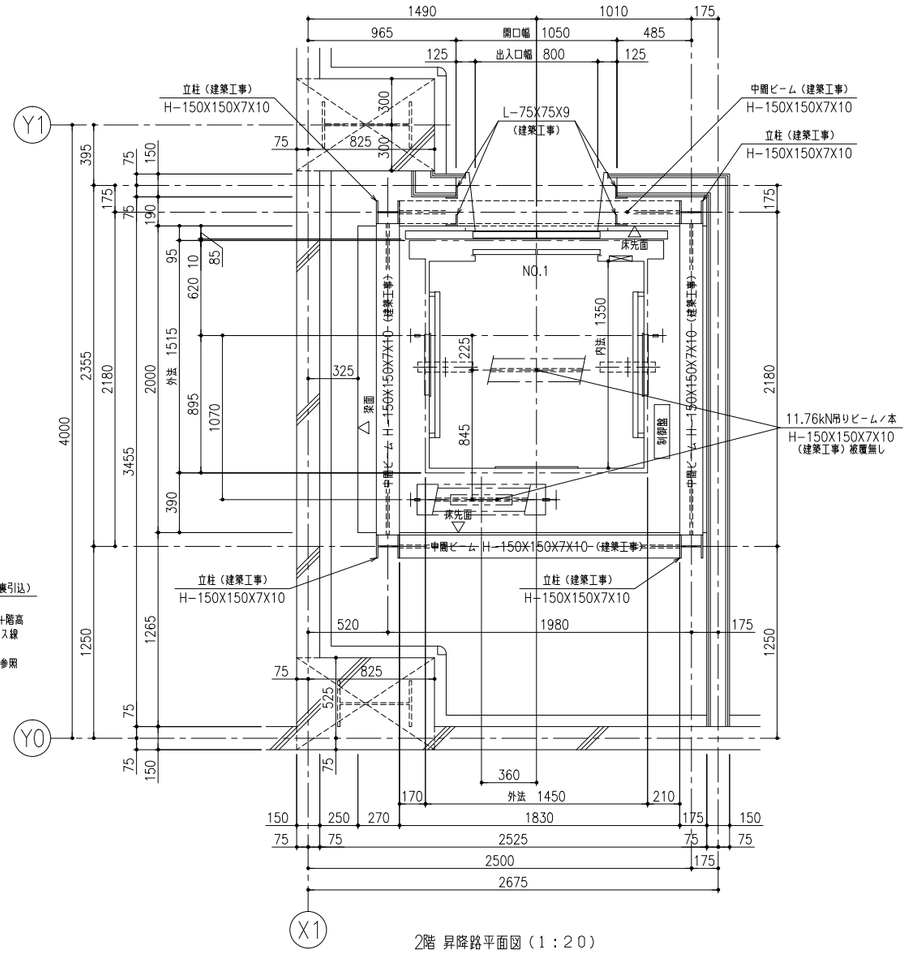
ピット平面図（1：20）

ピット反力値（N）

	短期荷重		長期荷重			
号機名	RC1	RW1	RC2	RC3	RW2	RW3
NO.1	82500	65500	20500	20500	42000	14500



1階 昇降路平面図（1：20）



2階 昇降路平面図（1：20）

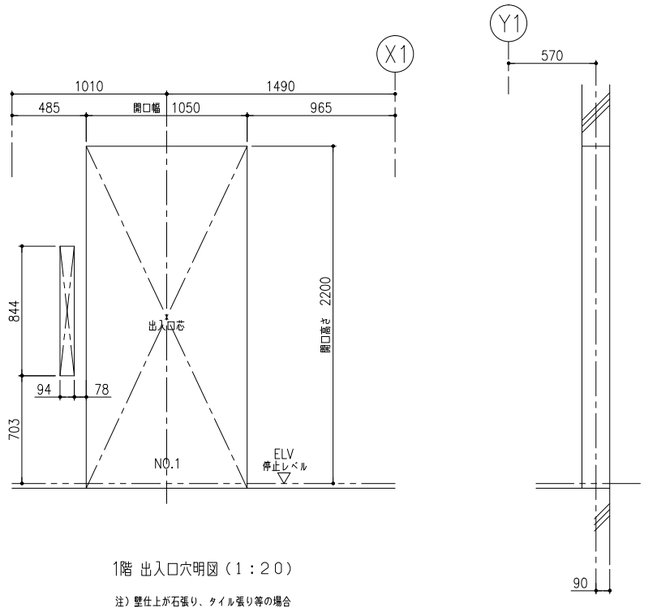
耐震クラス：A14

ガイドレール	かご側		ウェート側	
部分荷重（N）	PX	PY	PX	PY
NO.1	4400	2500	6750	3400

注） 上記荷重により柱及びはりのたわみは
５ｍｍ以下になるよう部材を設計のこと

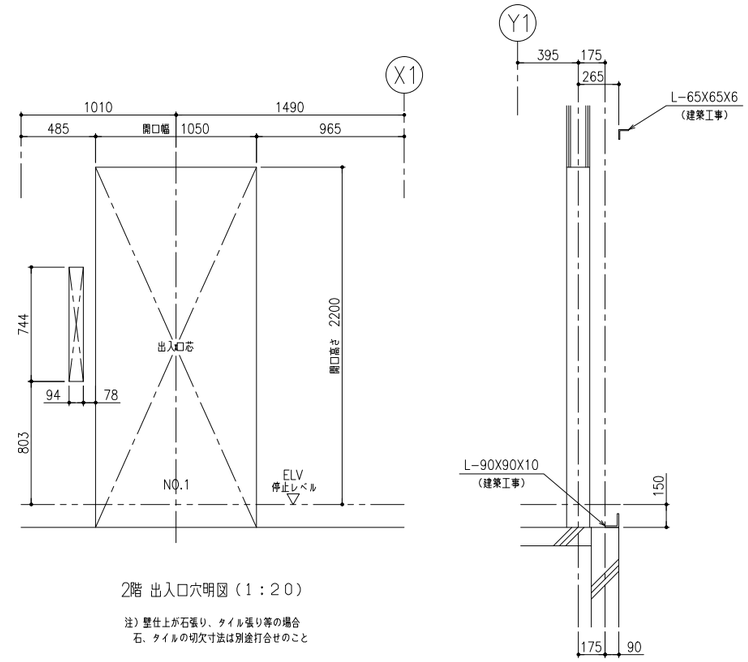
地震時建物に掛る荷重

記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 エレベーター詳細図(2)（本体・取付は昇降設備工事）	縮尺 A1 1/20 A3 1/40 / 図面番号 A－35



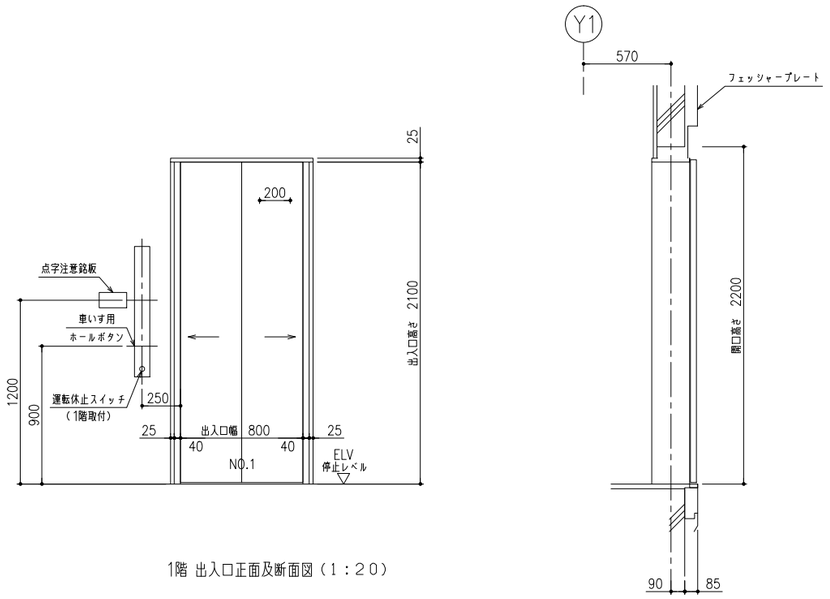
1階 出入口穴明図（1：20）

注）壁仕上が石張り、タイル張り等の場合
石、タイルの切欠寸法は別途打合せのこと

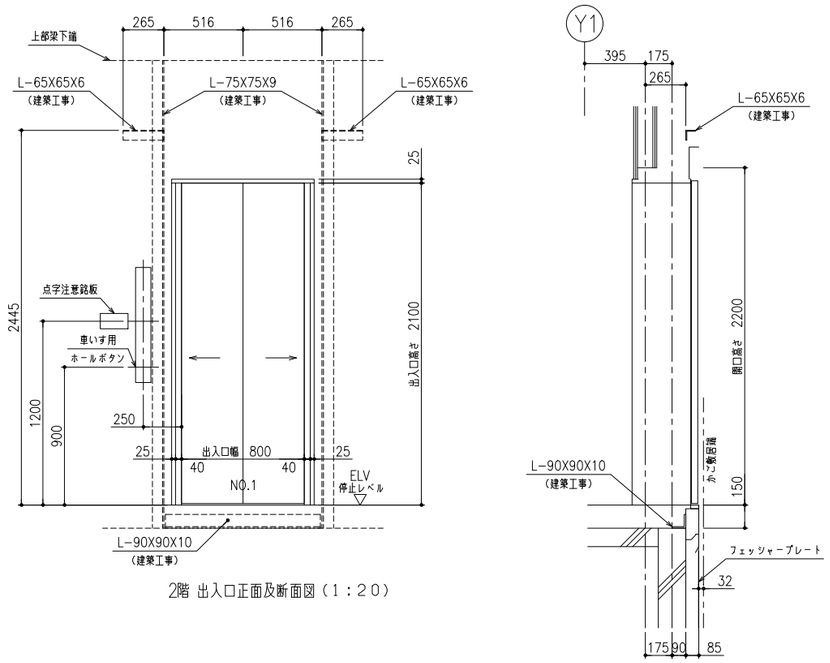


2階 出入口穴明図（1：20）

注）壁仕上が石張り、タイル張り等の場合
石、タイルの切欠寸法は別途打合せのこと

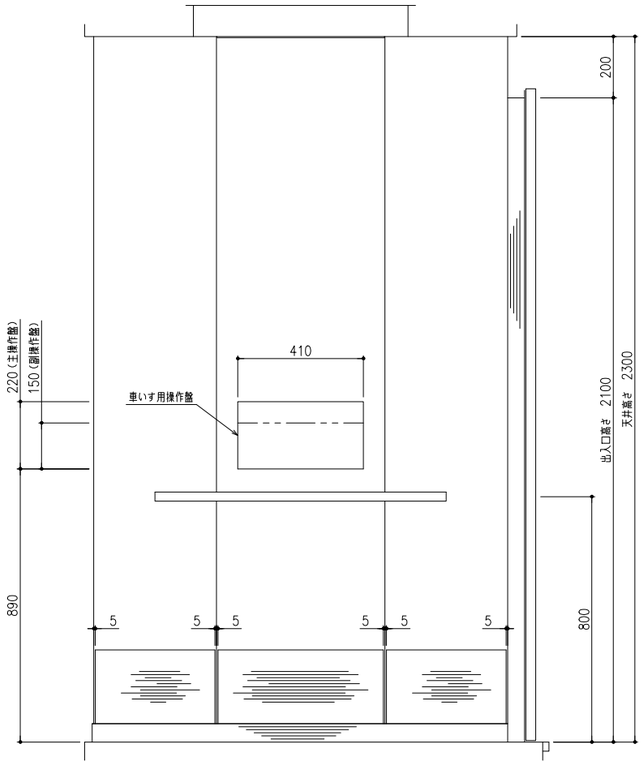


1階 出入口正面及断面図（1：20）

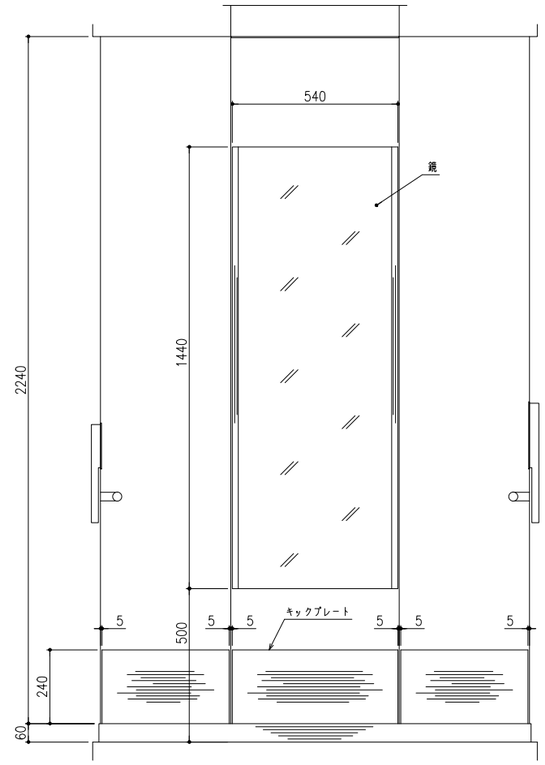


2階 出入口正面及断面図（1：20）

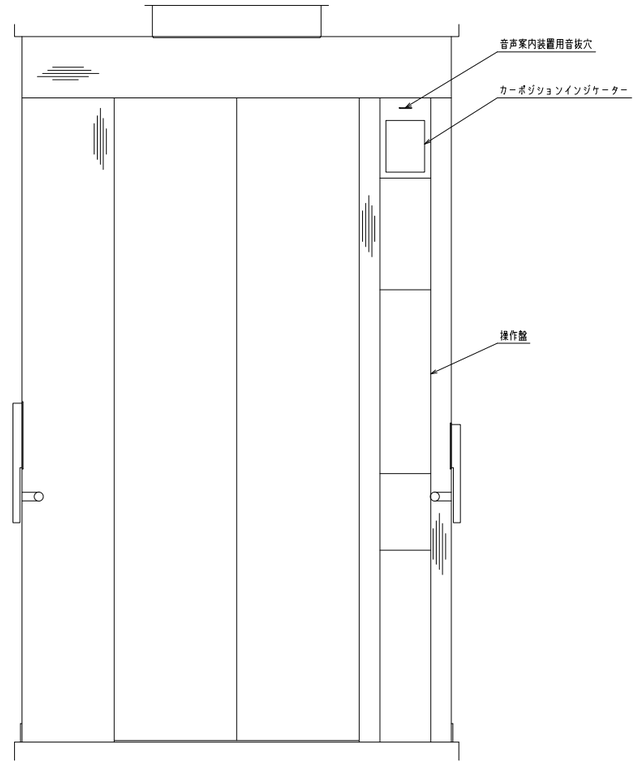
記 事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）			総 数
			査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 エレベーター詳細図(3)（本体・取付は昇降設備工事）	縮 尺 A1 1/20 A3 1/40		図 面 番 号 A － 36



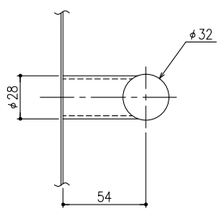
断面AA



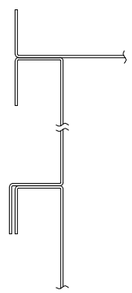
断面BB



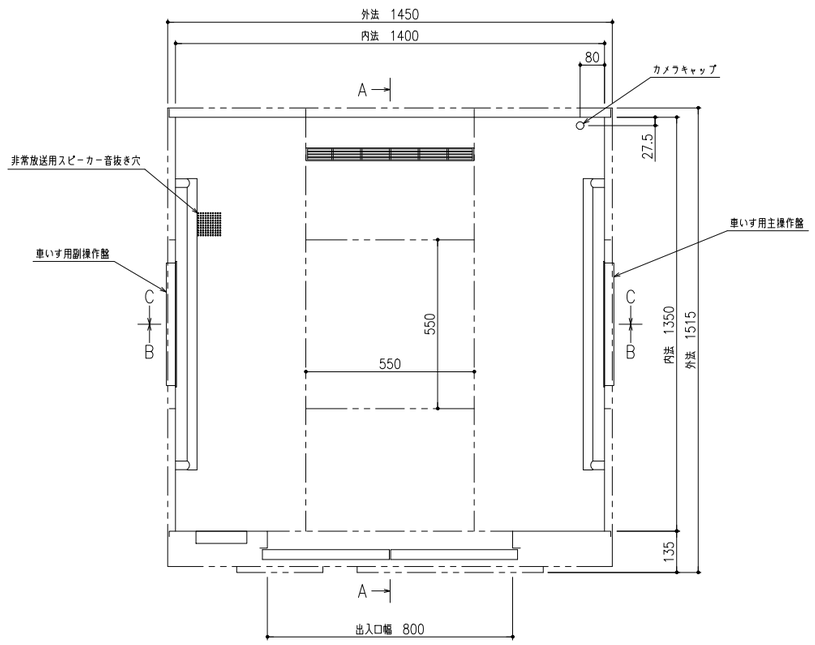
断面CC



ハンドレール取付部詳細（1：2）

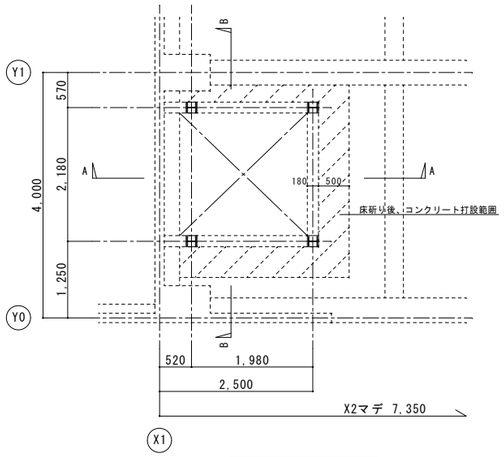


側板コーナー及び中間継目詳細（1：2）

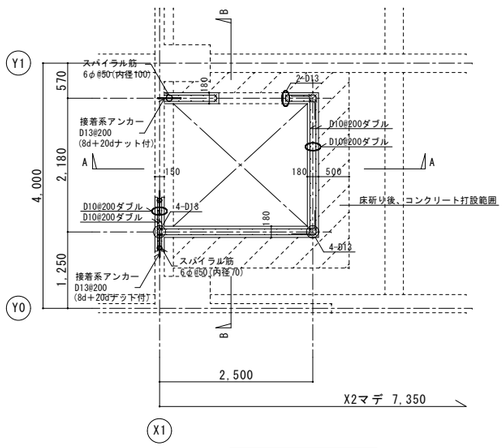


仕　　様	
前側板，柱 出入口上部枠	ステンレスヘアライン仕上
幅　木	ステンレスヘアライン仕上
側板，戸	化粧鋼板
天　井	化粧鋼板
照　明	つや消し乳白色アクリルカバーLED照明
停電灯	LED
床張り	樹脂タイル（2T）
敷　居	硬質アルミ
鏡	ステンレス鏡面仕上（両脇：ヘアライン仕上）
ハンドレール	ステンレスパイプ（ヘアライン仕上）
光電装置	戸閉時お知らせ表示付き多光軸光電装置
天井換気ルーバー，カメラキャップ	樹脂製
キックプレート	ステンレスヘアライン仕上
付属品	乗場側利用者検知機能付
	かご戸袋引き込まれ低減機能付
	音声案内装置付
	非常放送用スピーカー付
	大型防犯窓付（段差無し）
	自己保持型警報ブザー付（かご天井上）
	側板保護マット付
	床マット付

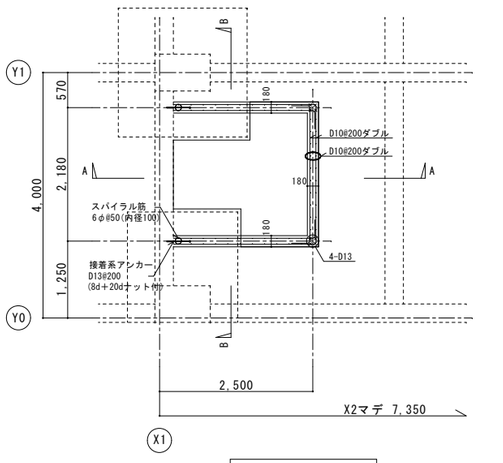
記事								
	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田　豊	設計年月日 2018・11・			工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事	総数
				査閲	校正	担当	図面名称 エレベーター詳細図(4)（本体・取付は昇降設備工事）	縮尺 A1 1/10 A3 1/20	図面番号 A－37



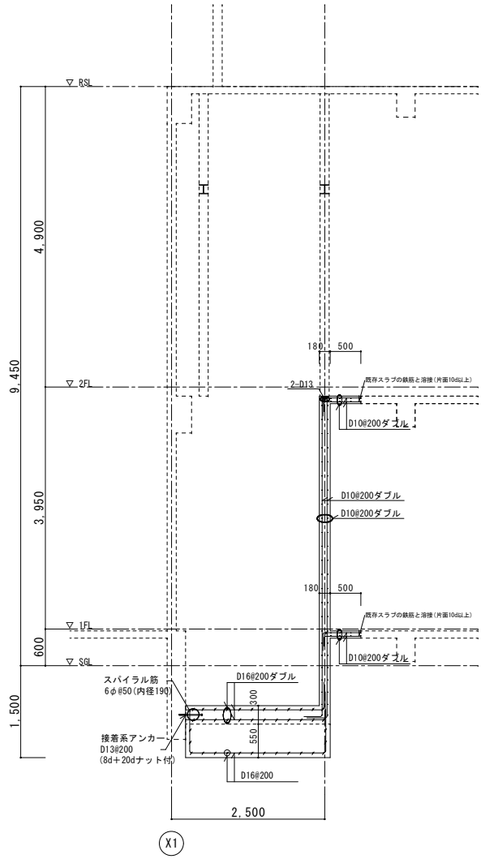
改修２階伏図



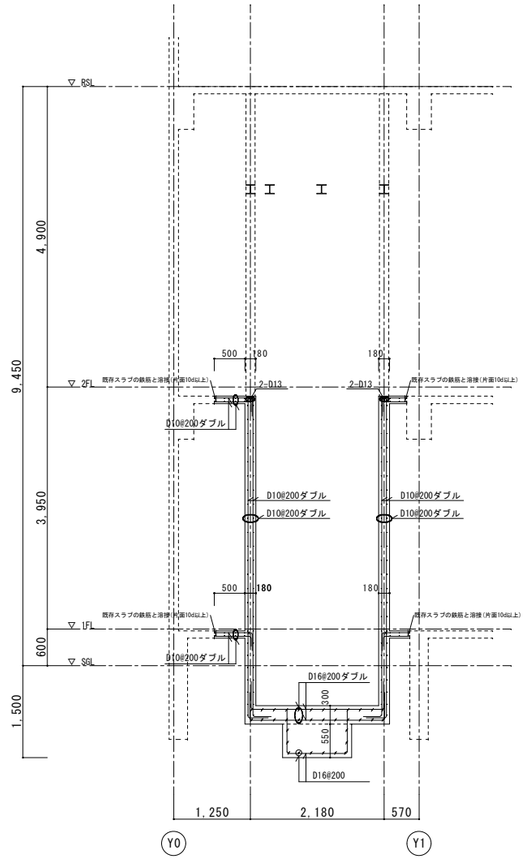
改修１階伏図



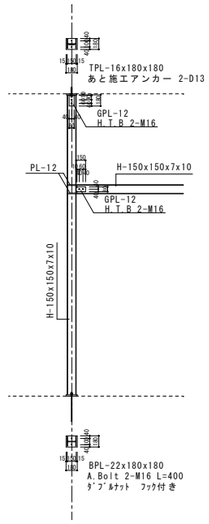
改修基礎伏図



改修A-A 配筋図



改修B-B 配筋図



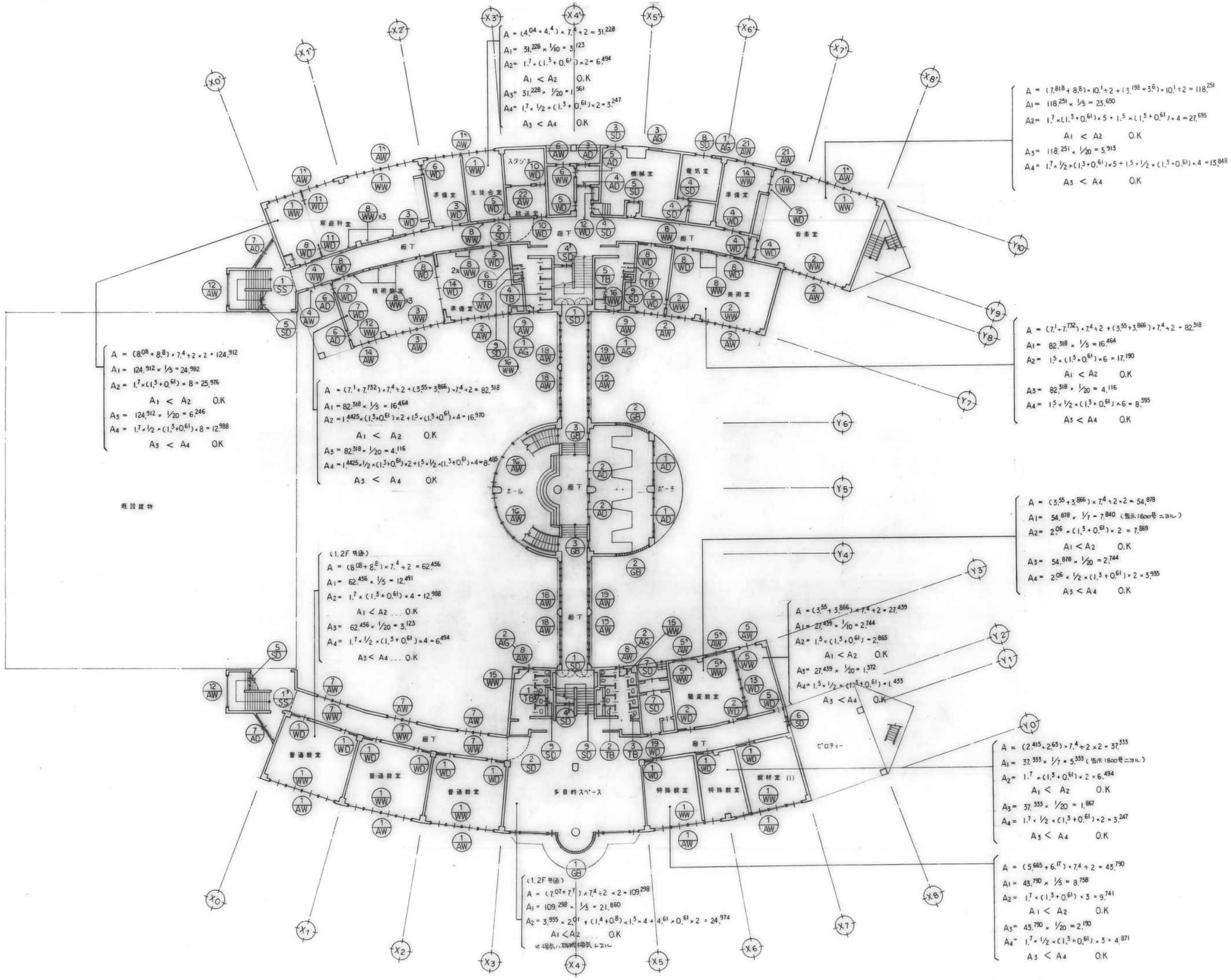
シャフト内立柱取付詳細図

・使用コンクリート：躯体Fc24
・使用鉄筋： SD295A(D16以下)

・新設部材が取り付くアンカー打設面は、深さ5mm程度の十分な目荒らしを行うこと
・あと施工アンカーは、全数の打音検査によりその固着度を確認すること
・既存構造体等の寸法精度は、工事の完成精度に重大な影響を及ぼすので正確な寸法を測量し工作図を作成すること

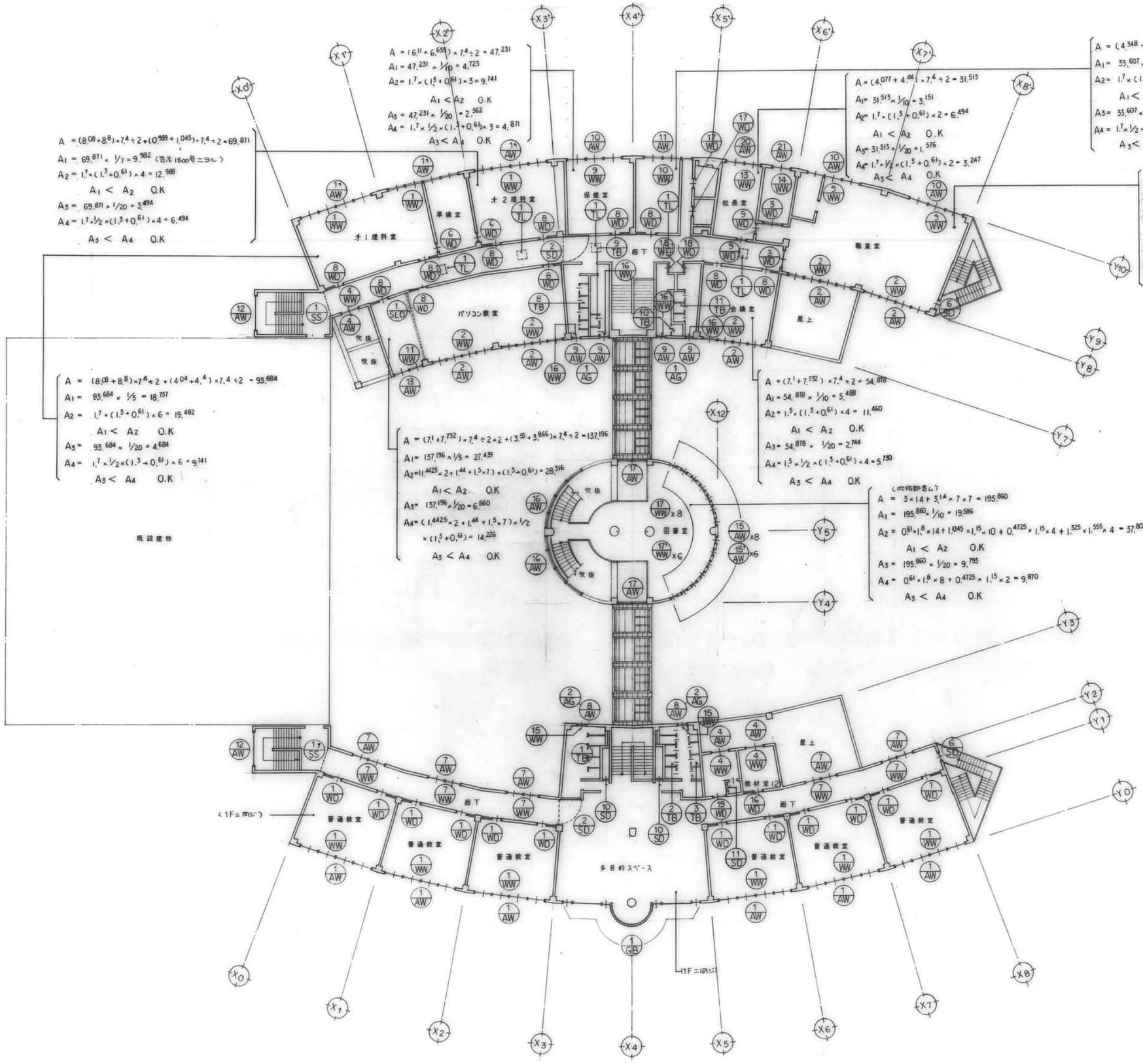
記 事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）		総 数
				査 閲 / 校 正 / 担 当	図面名称 エレベーター新設 構造図	縮 尺 A1 1/50 A3 1/100	図 面 番 号 A —38

既存

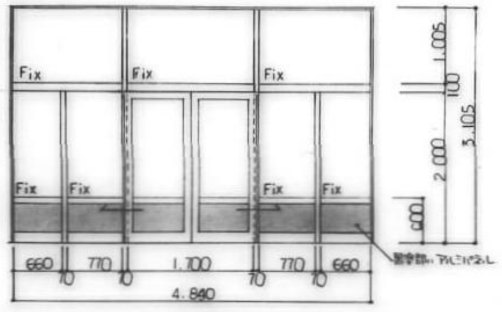
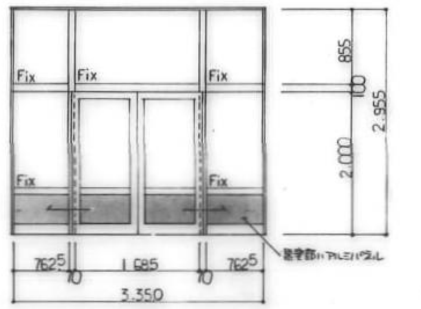
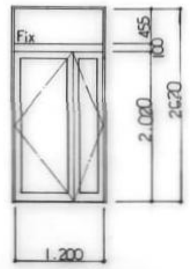
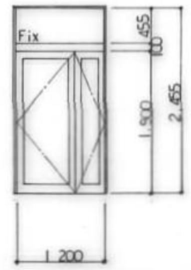
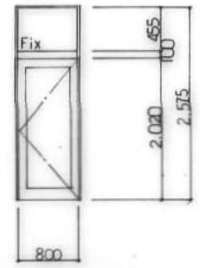
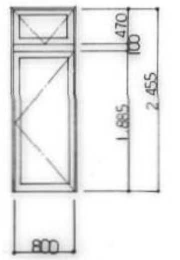
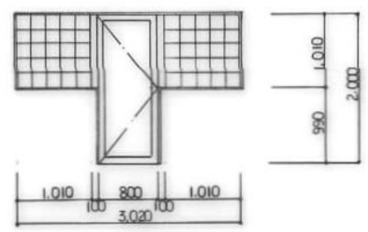


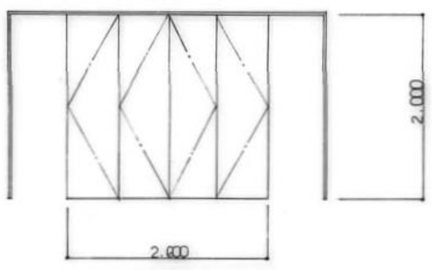
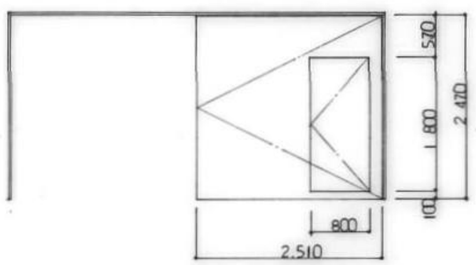
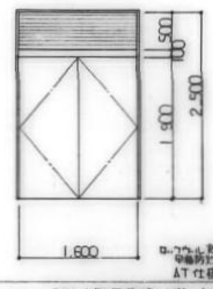
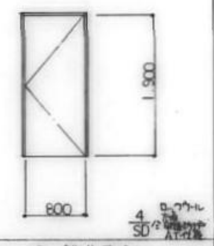
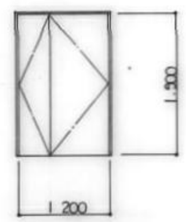
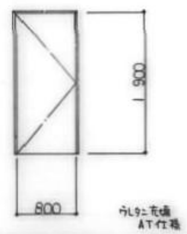
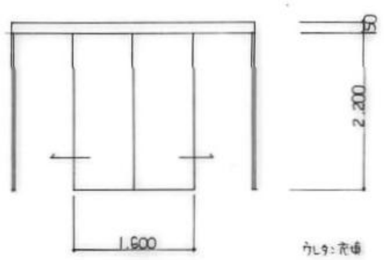
記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
				査閲 / 校正 / 担当	図面名称 既存1階建具キープラン(窓枠改修用)	縮尺 A1 1/200 A3 1/400 / 図面番号 A－39

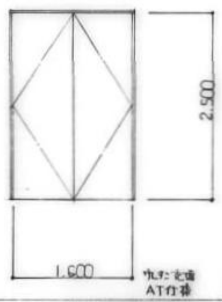
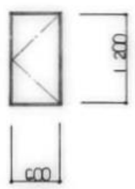
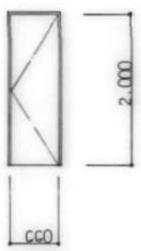
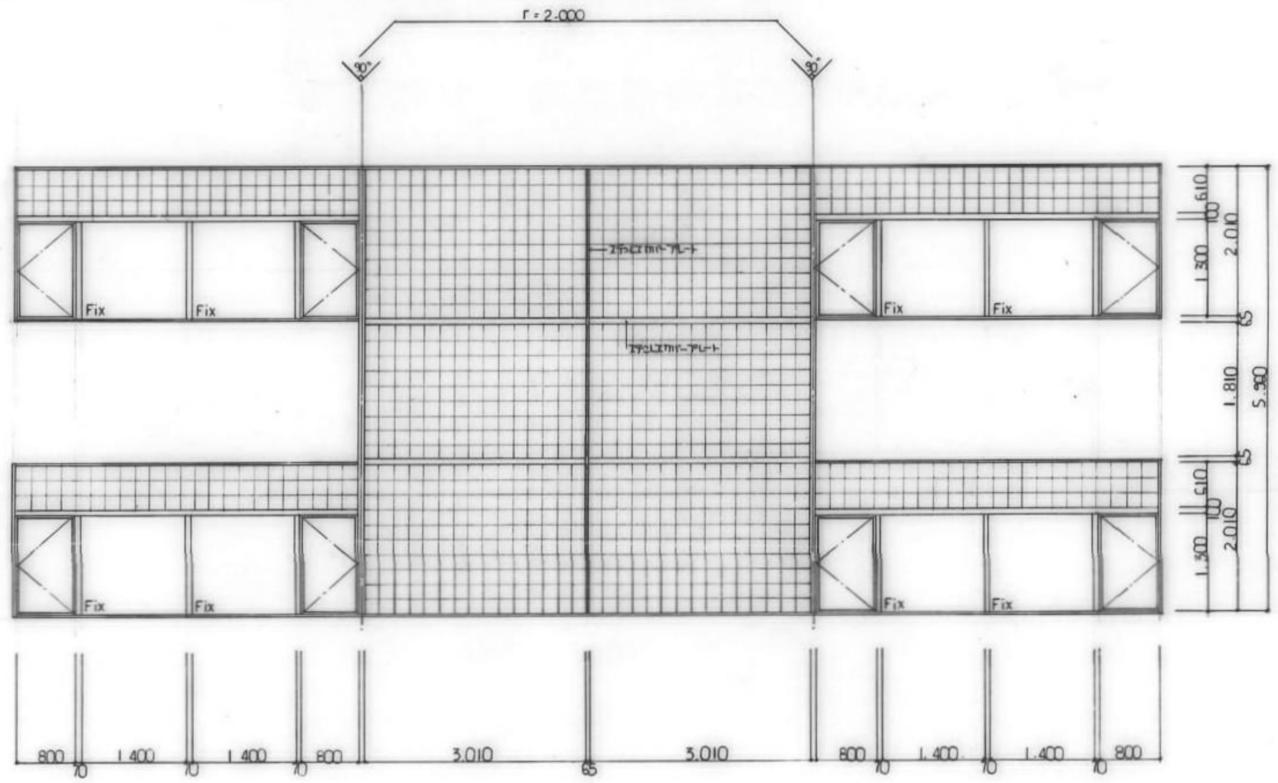
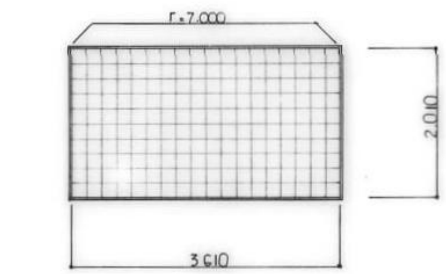
既存

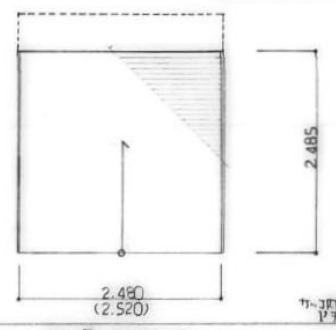
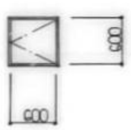
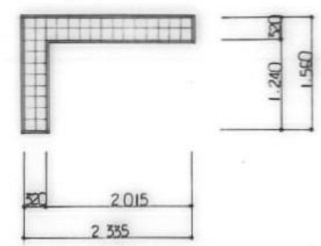


記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（ナ）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	査閲	校正	担当	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	縮尺 A1 1/200 A3 1/400	総数 図面番号 A — 40
								図面名称 既存2階建具キープラン(窓枠改修用)		

符号	①/AD	②/AD	③/AD	④/AD	⑤/AD	⑥/AD	⑦/AD
数量	2	2	1	1	1	2	2
室名	昇降口	昇降口	通用口	通用口	用務員室	技術 教室	階段室前室
参図							
型式	アルミ製 引分戸	仝 左	アルミ製 親子開戸	仝 左	アルミ製 片開戸	仝 左	ガラスブロック窓付 アルミ製片開戸
仕上	シルバー	仝 左	仝 左	仝 左	仝 左	仝 左	仝 左
硝子	腰：アルミパネル, 学校用強化ガラス4%.	仝 左	ドア:FL5, カマチ:FL3	仝 左	仝 左	仝 左	GB 190ᴾ, ドア:FL3-A12-FL3
見込	100	100	100	100	70	70	100
金物	引戸用ドアクローザー, アングルピース, 戸車レール, 引手, シリンダー錠 附属金物一式	仝 左	フロアヒンジ, 押棒, フランス落し, シリンダー錠 附属金物一式	丁番, 押棒, フランス落し, シリンダー錠, 附属金物一式	丁番, ドアチェック, 本締錠, 附属金物一式	丁番, ドアチェック 本締錠, ラッチ錠 附属金物一式	丁番, ドアチェック, 本締錠, 附属金物一式, 水切

符号	①/SD	②/SD	③/SD	④/SD (④'/SD)	⑤/SD	⑥/SD	⑦/SD
数量	2	4	1	3 (2)	3	3	2
室名	廊下	廊下	機械室	機械室電気室 消火ポンプ室 (物品庫)	D.S 物品庫	廊下 職員室	配膳室
参図			 ロックウール充填 甲種防火戸 AT仕様	 4/SD 仕様 ロックウール充填 甲種防火戸 AT仕様		 ウレタン充填 AT仕様	 ウレタン充填
型式	スチール製 煙感連動自動閉鎖甲種防火折たたみ戸	スチール製 煙感連動自動閉鎖甲種防火片開戸	スチール製 両開戸 (ガラリ付)	スチール製 片開戸	スチール製 親子開戸	スチール製 片開戸	スチール製 引分けハンガー戸
仕上	OP	仝 左	ウレタン樹脂塗装	OP	仝 左	ウレタン樹脂塗装	仝 左
硝子	—	—	—	—	—	—	—
見込	145	100	100	100	100	100	100
金物	煙感連動閉鎖ユニット, オートヒンジ, 附属金物一式	煙感連動閉鎖ユニット, 附属金物一式	丁番, ドアチェック(ストッパー付), 本締錠, フランス落し, ステンレス沓摺, 附属金物一式	丁番, ドアチェック(SD4'はストッパー付), 本締錠, ステンレス沓摺, 附属金物一式	丁番, ドアチェック, 本締錠, フランス落し, ステンレス沓摺, 附属金物一式	丁番, ドアチェック, 本締錠, ステンレス沓摺, 附属金物一式	ハンガーユニット, 鎌錠, 中央戸当り, 掘込引手, アオリ止メ, 附属金物一式

符号	⑧/SD	⑨/SD	⑩/SD	①/GB	②/GB
数量	1	4	2	1	2
室名	電気室	PS	PS	多目的ホール	昇降口
参図	 ウレタン充填 AT仕様				
型式	スチール製両開戸	スチール製片開戸	仝 左	アルミ製 両袖 片開断熱窓付 ガラスブロック窓	アルミ製 ガラスブロック窓
仕上	ウレタン樹脂塗装	OP	OP	シルバー	シルバー
硝子	—	—	—	GB: 190ᴾ R精 FL5-A12-FL5	GB: 190ᴾ R精
見込	100	60	100	100	100
金物	丁番, ドアチェック, 本締錠, フランス落し, ステンレス沓摺, 附属金物一式	丁番, ケースハンドル錠, 附属金物一式	丁番, 本締錠, ドアチェック, 附属金物一式	アングルピース, 補強材, 水切, レバーハンドル錠, 附属金物一式, 水密材一式	アングルピース, 補強材, 水切, 附属金物一式

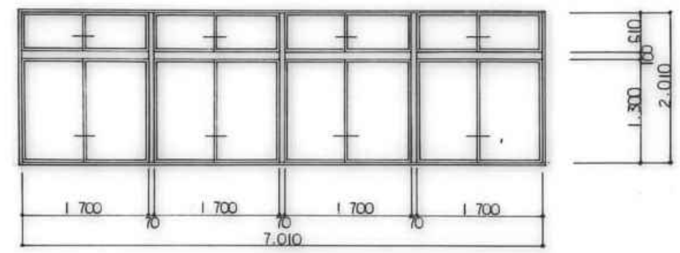
符号	①/SS	①'/SS	⑪/SD	③/GB
数量	2	2	1	2
室名	廊下	廊下	配膳室	ホール
参図				
型式	スチール製 パイプシャッター		スチール製 片開戸	アルミ製 ガラスブロック窓
仕上	ユニクロムメッキ		OP	シルバー
硝子	—	—	—	GB145ᴾ
見込			60	100
金物	ガイドレール SUS304 附属金物一式		丁番, ケースハンドル錠, 附属金物一式	附属金物一式

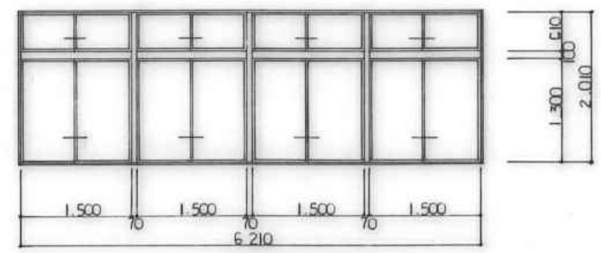
既存

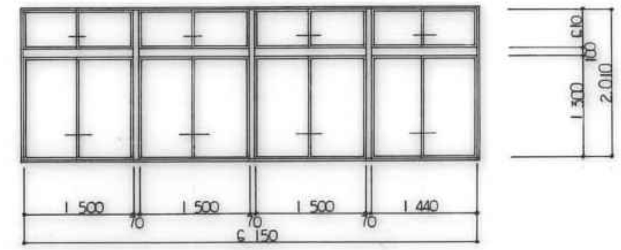
記事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（十）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018.11.	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
			査閲 / 校正 / 担当	図面名称 既存建具表(1)(窓枠改修用) / 縮尺	図面番号 A－41

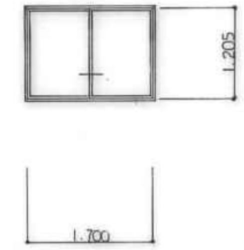
符号	数量	室名	型式	仕上	硝子	見込	金物
1 AW / 1' AW	18	普通教室·家庭科室·音楽室·特殊教室·教材室·理科室·準備室	アルミ製 引違窓（連窓） AW-1'は防音サッシトスル	シルバー	AW-1 ~ FL3 AW-1'~FL5	70	アングルピース クレセント, 結露受, 水切 附属金物一式
2 AW	9	美術室 準備室 職員室 会議室 パソコン教室	アルミ製引違窓（連窓）	仝左	FL3	70	仝左
3 AW	1	技術教室	仝左	仝左	仝左	70	仝左
4 AW	4	配膳室 廊下 教材室	アルミ製引違窓	仝左	仝左	70	仝左
5 AW / 5' AW	1 / 2	教員ステーション / 職員教室	アルミ製引違窓	シルバー	FL3	70	アングルピース, クレセント, 水切, 結露受, 附属金物一式
6 AW	1	用務員室	アルミ製引違防音窓	仝左	FL5	70	仝左
7 AW	8	廊下	アルミ製引違窓（連窓）	仝左	FL3	70	仝左
8 AW	4	便所	アルミ製 片開窓	仝左	仝左	70	アングルピース レバーハンドル錠 水切 結露受 附属金物一式
9 AW	6	便所	仝左	仝左	仝左	70	仝左
10 AW	3	保健室 職員室	アルミ製引違防音窓（連窓）	仝左	FL5	70	アングルピース, クレセント, 水切, 結露受, 附属金物一式
11 AW	1	進路指導室	仝左	仝左	仝左	70	仝左
12 AW	2	階段室	アルミ製ハメ殺 断熱窓	シルバー	FL3-A12-FL3	100	アングルピース 結露受 水切 附属金物一式, オペレーター装置
13 AW	1	パソコン教室	アルミ製 引違窓（連窓）	シルバー	FL3	70	アングルピース クレセント, 結露受 水切 附属金物一式
14 AW	1	技術室	仝左	仝左	仝左	70	仝左
15 AW	8	図書室	アルミ製片開窓	仝左	FL3-A12-FL3	70	アングルピース レバーハンドル錠 結露受 水切 附属金物一式
16 AW	2	ホール	アルミ製 親子開戸付 ハメ殺断熱窓	仝左	a: FL3-A12-FL3 b: 学校用強化ガラス4-A12-FL5		アングルピース 結露受 水切, シリンダー錠 フランス落シ, ドアチェック丁番, 附属金物一式 操作金物一式, オペレーター装置 押棒
17 AW	2	ホール吹抜	仝左	仝左	仝左	70	アングルピース 結露受 水切 附属金物一式
18 AW	8	渡り廊下	アルミ製スベリ出 断熱窓（[illegible]）	仝左	仝左	100	仝左
19 AW	8	廊下2	アルミ製 スベリ出窓付 断熱窓（[illegible]）	仝左	a: FL3-A12-FL3 b: PW6.8-A6-FL5	100	仝左

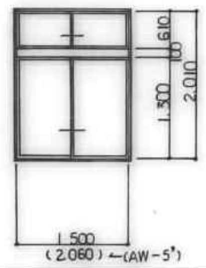
姿図

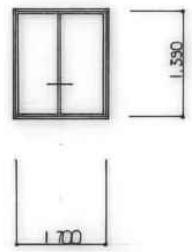
1 AW / 1' AW


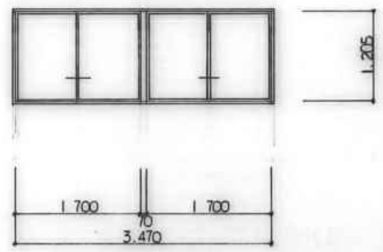
2 AW


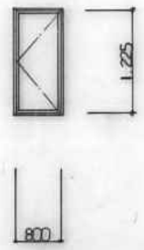
3 AW


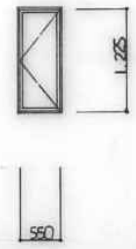
4 AW


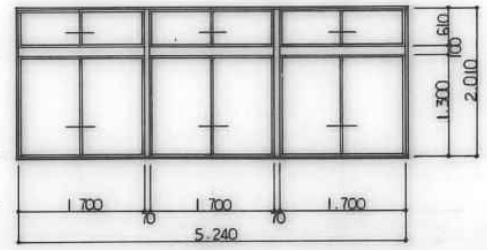
5 AW


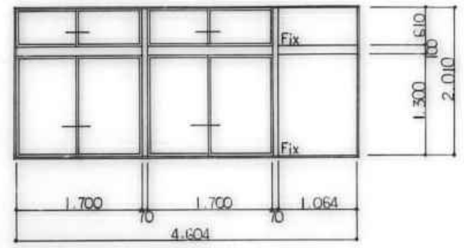
6 AW


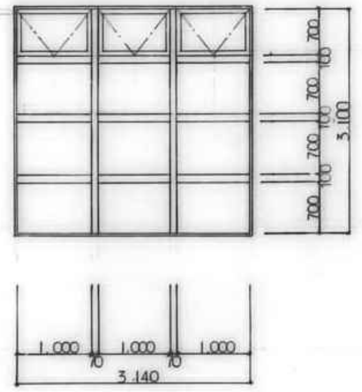
7 AW


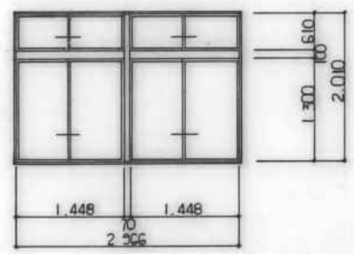
8 AW


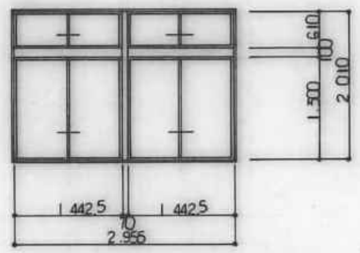
9 AW


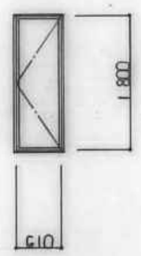
10 AW


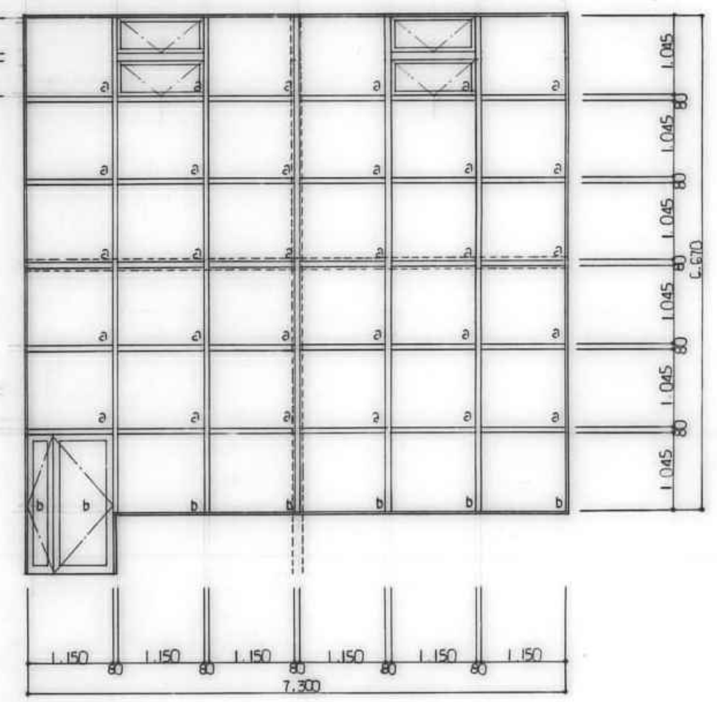
11 AW


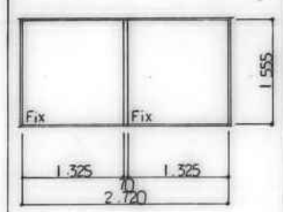
12 AW


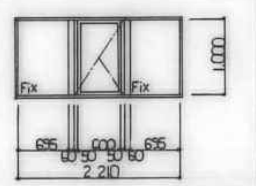
13 AW


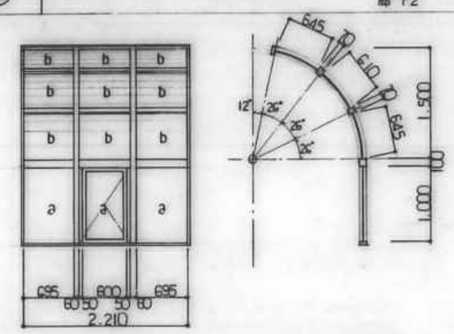
14 AW


15 AW


16 AW


17 AW


18 AW


19 AW


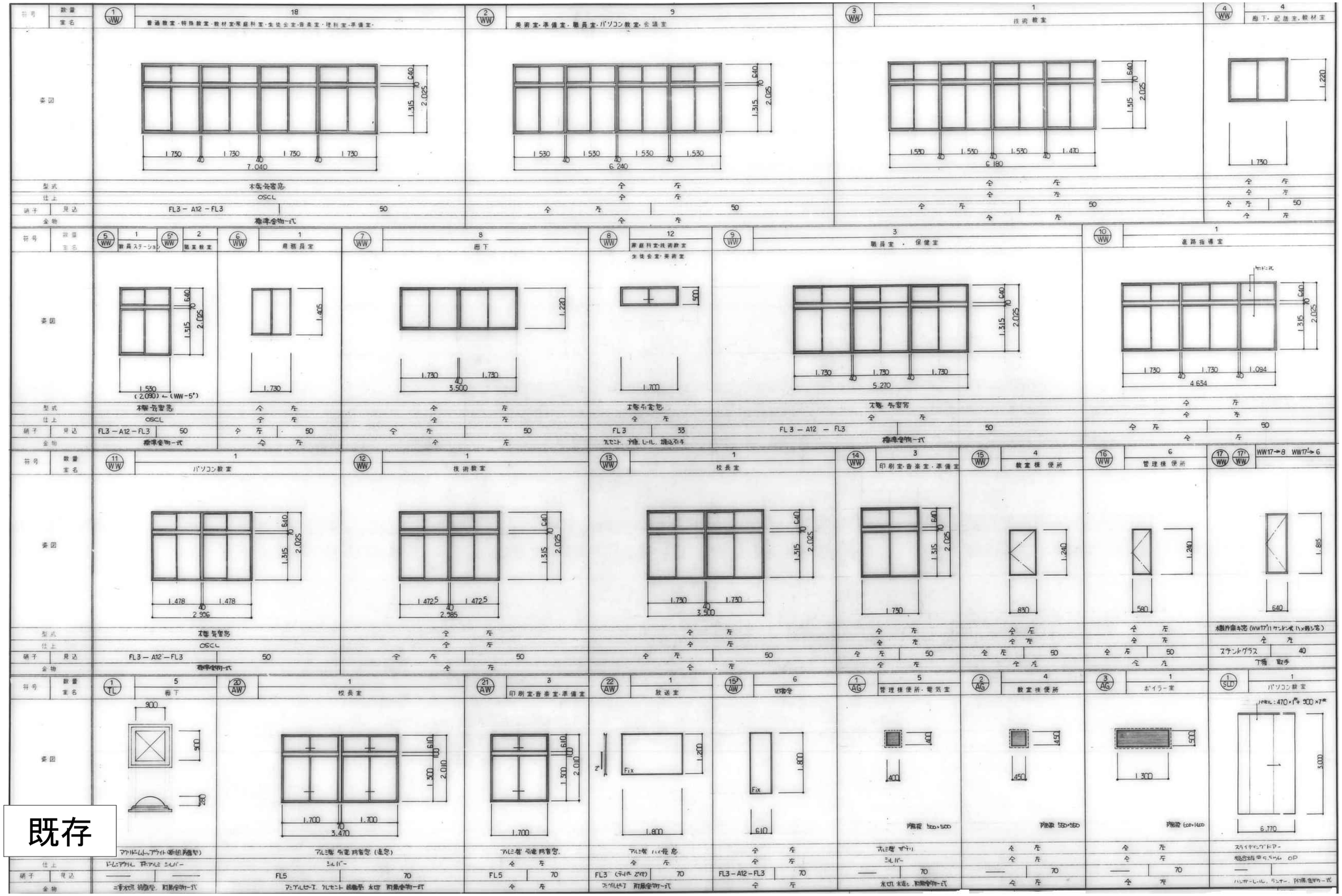
既存

記事

株式会社 創造設計舎
帯広市公園東町1丁目6番地1
TEL 0155-24-7668
FAX 0155-21-6603
一級建築士事務所登録（十）第73号
一級建築士登録第216909号
太田 豊

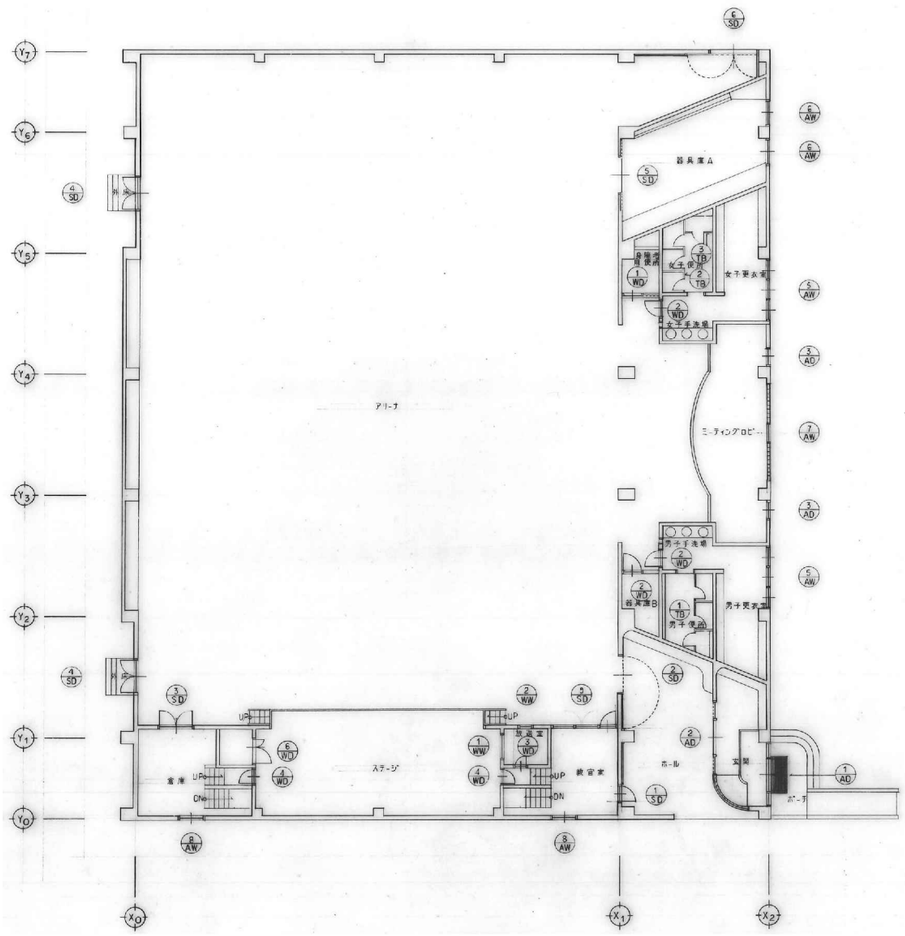
設計年月日	2018．11．	工事名称	芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数	
査閲	校正	担当	図面名称 既存建具表(2)(窓枠改修用)	縮尺	図面番号 A — 42

符号	数量	室名	型式	仕上	硝子	見込	金物
WW 1	18	普通教室・特殊教室・教材室・家庭科室・生徒会室・音楽室・理科室・準備室	木製 片流窓	OSCL	FL3 − A12 − FL3	50	標準金物一式
WW 2	9	美術室・準備室・職員室・パソコン教室・会議室	〃	〃	〃	50	〃
WW 3	1	技術教室	〃	〃	〃	50	〃
WW 4	4	廊下・記録室・教材室	〃	〃	〃	50	〃
WW 5	1	教員ステーション	木製 片流窓	OSCL	FL3 − A12 − FL3	50	標準金物一式
WW 5'	2	職員教室	〃	〃	〃	50	〃
WW 6	1	用務員室	〃	〃	〃	50	〃
WW 7	8	廊下	〃	〃	〃	50	〃
WW 8	12	家庭科室・技術教室・生徒会室・美術室	木製 引違窓	〃	FL3	33	クルセント、ゲ種、レール、施込引手
WW 9	3	職員室・保健室	木製 片流窓	〃	FL3 − A12 − FL3	50	標準金物一式
WW 10	1	進路指導室	〃	〃	〃	50	〃
WW 11	1	パソコン教室	木製 片流窓	OSCL	FL3 − A12' − FL3	50	標準金物一式
WW 12	1	技術教室	〃	〃	〃	50	〃
WW 13	1	校長室	〃	〃	〃	50	〃
WW 14	3	印刷室・音楽室・準備室	〃	〃	〃	50	〃
WW 15	4	教室棟 便所	〃	〃	〃	50	〃
WW 16	6	管理棟 便所	〃	〃	〃	50	〃
WW 17 / WW 17'	WW17→8 WW17'→6		網戸付鋼製窓 (WW17'はケンドン式 ハ×縦3/8)		ステンドグラス	40	下桟 取手
TL 1	5	廊下	アクリドーム・トップライト(断熱防露型)	ドーム:アクリル 枠:アルミ シルバー	―	―	雨水切、結露受、耐風金物一式
AW 20	1	校長室	アルミ製 外倒 防音窓 (遮音)	シルバー	FL5	70	アルミルセット、クレセント 結露受 水切 耐風金物一式
AW 21	3	印刷室・音楽室・準備室	アルミ製 外倒 防音窓	〃	FL5	70	〃
AW 22	1	放送室	アルミ製 ハメ殺窓	〃	FL3 (ライト ゴイ)	70	アルミルセット 耐風金物一式
AW 15'	6	図書室	〃	〃	FL3 − A12 − FL3	70	〃
AG 1	5	管理棟便所・電気室	アルミ製 ガラリ	シルバー	―	70	水切 水返し 耐風金物一式
AG 2	4	教室棟便所	〃	〃	―	70	〃
AG 3	1	ボイラー室	〃	〃	―	70	〃
SCD 1	1	パソコン教室	スライディングドアー	強化透明ガラス5.5mm OP	―		ハンガーレール、ランナー、内部金物一式

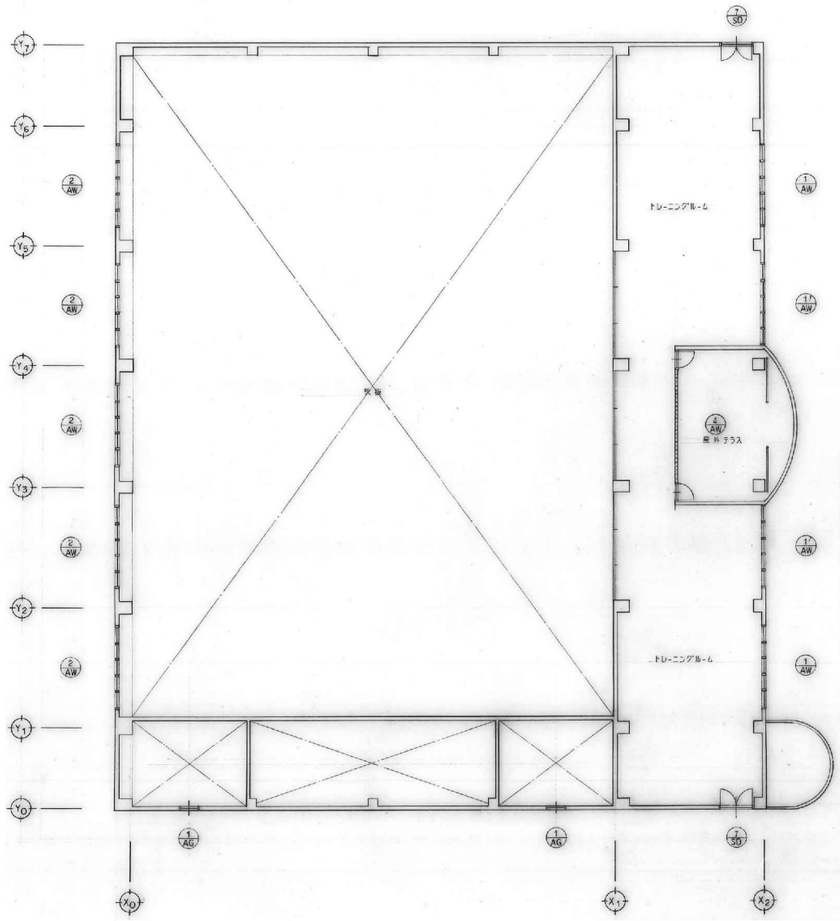


記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018・11・	査閲	校正	担当	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
								図面名称 既存建具表(3)(窓枠改修用)	縮尺
									図面番号 A − 43

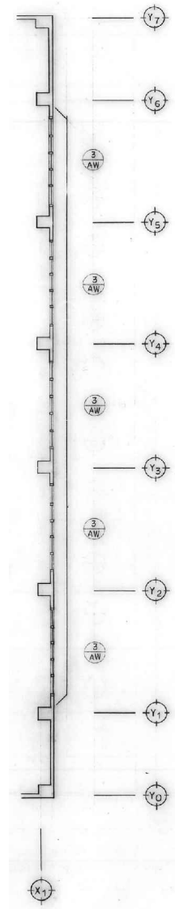
既存



1階建具キープラン

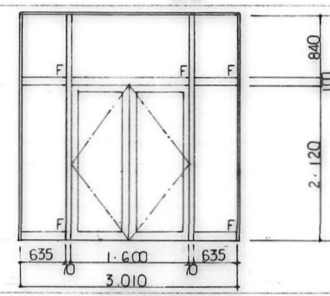


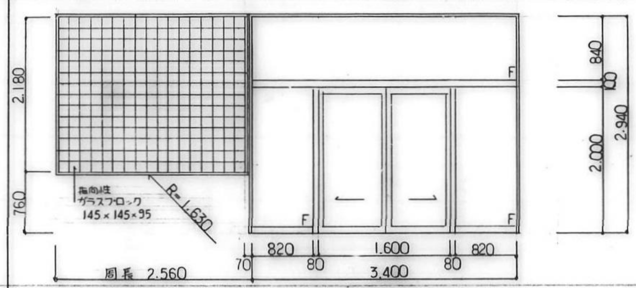
2階建具キープラン

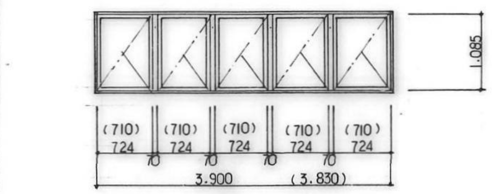


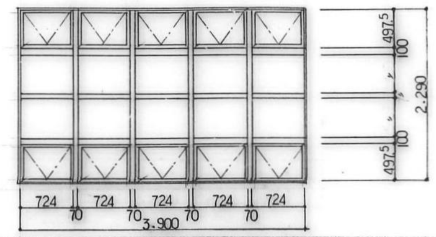
吹き抜け部

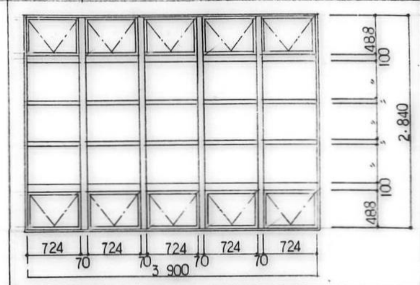
記事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .	査閲	校正	担当	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
						図面名称 屋体 既存建具キープラン（外壁改修面積算定用参考図）	縮尺 A1 1/150 A3 1/300	図面番号 A－44

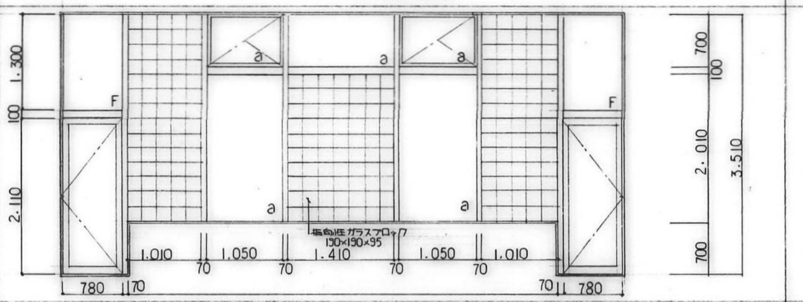
符号	1/AD
数量	1
室名	玄関
姿図	
型式	アルミ製(両開)ドアー
仕上	アルミシルバー
硝子 / 見込	FL-5 / 100
金物	アングルピース、押棒、シリンダー錠、フロアーヒンジ、ステンレス沓摺、附属金物1式

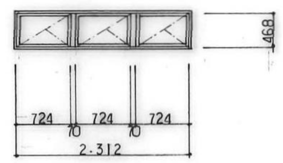
符号	2/AD
数量	1
室名	ホール
姿図	
型式	アルミ製 引分ケ戸
仕上	仝 左
硝子 / 見込	FL-5 / 100
金物	引棒、アングルピース・ステンレスフラットレール、附属金物1式

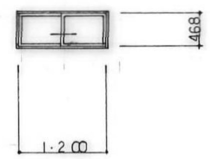
符号	1/AW　1'/AW
数量	AW-1 2　AW-1' 2
室名	トレーニングルーム A.B.
姿図	( )内寸法ハ AW1'ヲ示ス 
型式	アルミ製辷り出シ窓
仕上	仝 左
硝子 / 見込	TP4-S -A12-FL3 / 70
金物	アングルピース・水切・結露受・ハンドル・附属金物1式

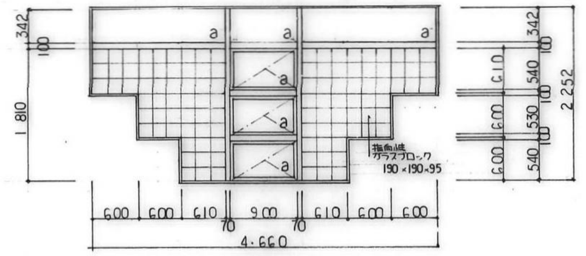
符号	2/AW
数量	5
室名	アリーナ
姿図	
型式	アルミ製嵌殺シ窓+外倒し窓
仕上	仝 左
硝子 / 見込	TP4-S - A12 - FL3 / 70
金物	アングルピース・水切・結露受・オペレーター装置、附属金物一式

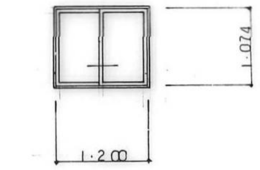
符号	3/AW
数量	5
室名	トレーニングルーム A.B.
姿図	
型式	アルミ製嵌殺シ窓 + 外倒シ窓
仕上	仝 左
硝子 / 見込	TP4-S -A12 - FL3 / 70
金物	仝 左

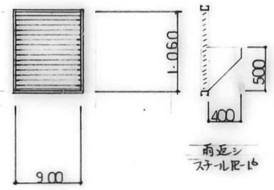
符号	4/AW
数量	1
室名	トレーニングルーム
姿図	
型式	アルミ製 外開き窓 + ガラスブロック枠
仕上	アルミシルバー
硝子 / 見込	TP4-S - A12-FL3 a部 TP4-S - A12-6 (フリンクライト) / 100
金物	水切・アングルピース、結露受・ハンドル・附属金物1式

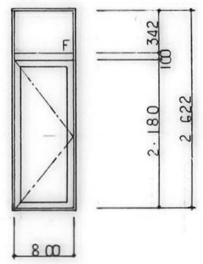
符号	5/AW
数量	2
室名	男子,女子更衣室
姿図	
型式	アルミ製辷り出シ窓
仕上	仝 左
硝子 / 見込	FL3-A12-F4 / 70
金物	アングルピース、水切、結露受、ハンドル、附属金物1式

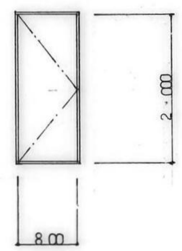
符号	6/AW
数量	2
室名	器具庫 A
姿図	
型式	アルミ製引違窓
仕上	仝 左
硝子 / 見込	FL3-A12-FL3 / 70
金物	水切・アングルピース・クレセント・結露受・附属金物1式

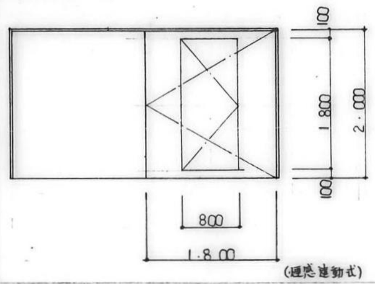
符号	7/AW
数量	1
室名	ミーティングロビー
姿図	
型式	アルミ製辷り出シ窓 + ガラスブロック枠
仕上	仝 左
硝子 / 見込	a部 TP4-S - A12-FL3 TP4-S - A12-6 (フリンクライト) / 100
金物	水切・アングルピース、結露受・ハンドル、附属金物1式

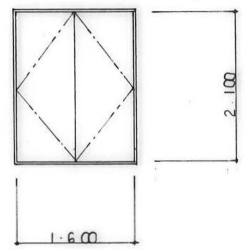
符号	8/AW
数量	2
室名	教官室　倉庫
姿図	
型式	アルミ製引違窓
仕上	仝 左
硝子 / 見込	FL3-A12-FL3 / 70
金物	水切、アングルピース・結露受・クレセント・附属金物1式

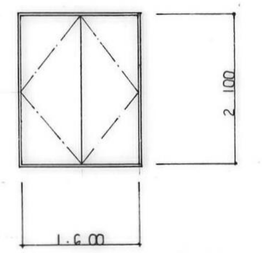
符号	1/AG
数量	2
室名	教官室　倉庫　上部吹抜
姿図	
型式	アルミ製ガラリ
仕上	アルミシルバー
硝子 / 見込	— / 70
金物	水切・アングルピース、結露受、附属金物1式

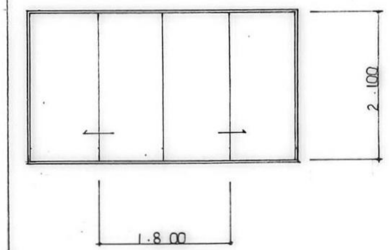
符号	3/AD
数量	2
室名	ミーティングロビー
姿図	
型式	アルミ製片開ドアー
仕上	仝 左
硝子 / 見込	TP4S-A12-FL-3 / 100
金物	押棒、シリンダー錠、フロアーヒンジ、ステンレス沓摺、附属金物1式

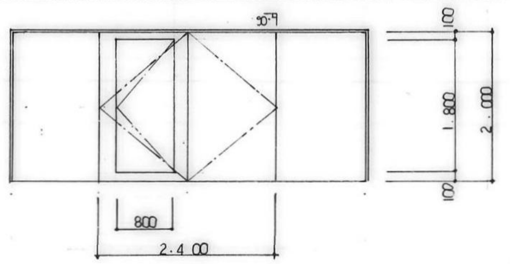
符号	1/SD
数量	1
室名	教官室
姿図	
型式	スチール製片開フラッシュドアー(甲種防火戸)
仕上	O.P
硝子 / 見込	— / 100
金物	本締(サモ)ロック・ピボットヒンジ・DC、ステンレス沓摺、附属金物1式 (5ナン)

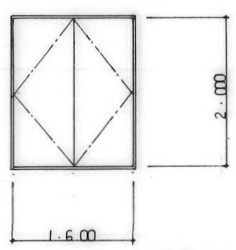
符号	2/SD
数量	1
室名	アリーナ
姿図	 (煙感連動式)
型式	仝 左 (甲種防火戸)
仕上	O.P
硝子 / 見込	— / 100
金物	ケースハンドル・フロアーヒンジ・マグホールド・附属金物1式

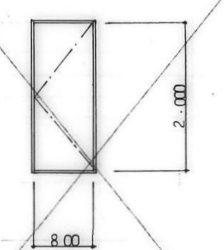
符号	3/SD
数量	1
室名	倉庫
姿図	
型式	スチール製両開フラッシュドアー
仕上	O.P
硝子 / 見込	— / 100
金物	本締(サモ)ロック・ピボットヒンジ.DC、フランス落シ、ステンレス沓摺、附属金物1式

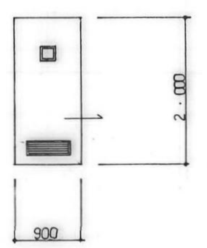
符号	4/SD
数量	2
室名	アリーナ
姿図	 (ウレタン注入)
型式	仝 左
仕上	O.P
硝子 / 見込	— / 100
金物	本締(サモ)ロック ピボットヒンジ、DC、フランス落シ、ステンレス沓摺、水切、附属金物1式

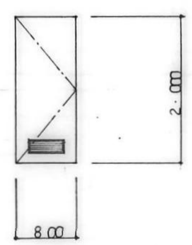
符号	5/SD
数量	1
室名	器具庫A
姿図	
型式	スチール製引分フラッシュドアー
仕上	O.P
硝子 / 見込	— / 100
金物	カマ錠　ステンレスレール、引手、附属金物1式

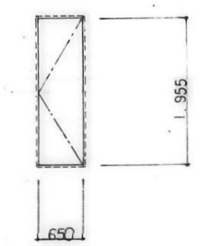
符号	C/SD
数量	1
室名	アリーナ
姿図	 (煙感連動式)
型式	スチール製両開フラッシュドア (甲種防火戸)
仕上	O.P
硝子 / 見込	— / 100
金物	ケースハンドル、フロアーヒンジ、マグホールド、附属金物1式

符号	7/SD
数量	2
室名	トレーニングルーム
姿図	 (塔接止メ)
型式	スチール製両開フラッシュ戸 (甲種防火戸)
仕上	O.P
硝子 / 見込	— / 100
金物	本締(サモ)ロック・ピボットヒンジ・DC・フランス落シ、ステンレス沓摺、附属金物1式

符号	8/SD
数量	1
室名	トレーニングルーム
姿図	
型式	スチール製片開フラッシュ戸
仕上	O.P
硝子 / 見込	— / 100
金物	本締(サモ)ロック・ピボットヒンジ.DC、ステンレス沓摺、附属金物1式

符号	1/WD
数量	1
室名	身障者用便所
姿図	
型式	木製片引フラッシュ戸
仕上	ミーティングロビー側　ラワン合板⑦5.5 OSV.　室側 桐合板⑦5.5 O.P
硝子 / 見込	F-4 / 40
金物	引手、上吊ハンガーレール、振止メ、ステンレスレール、カマ錠(表示付)、戸当りゴム、他附属金物1式

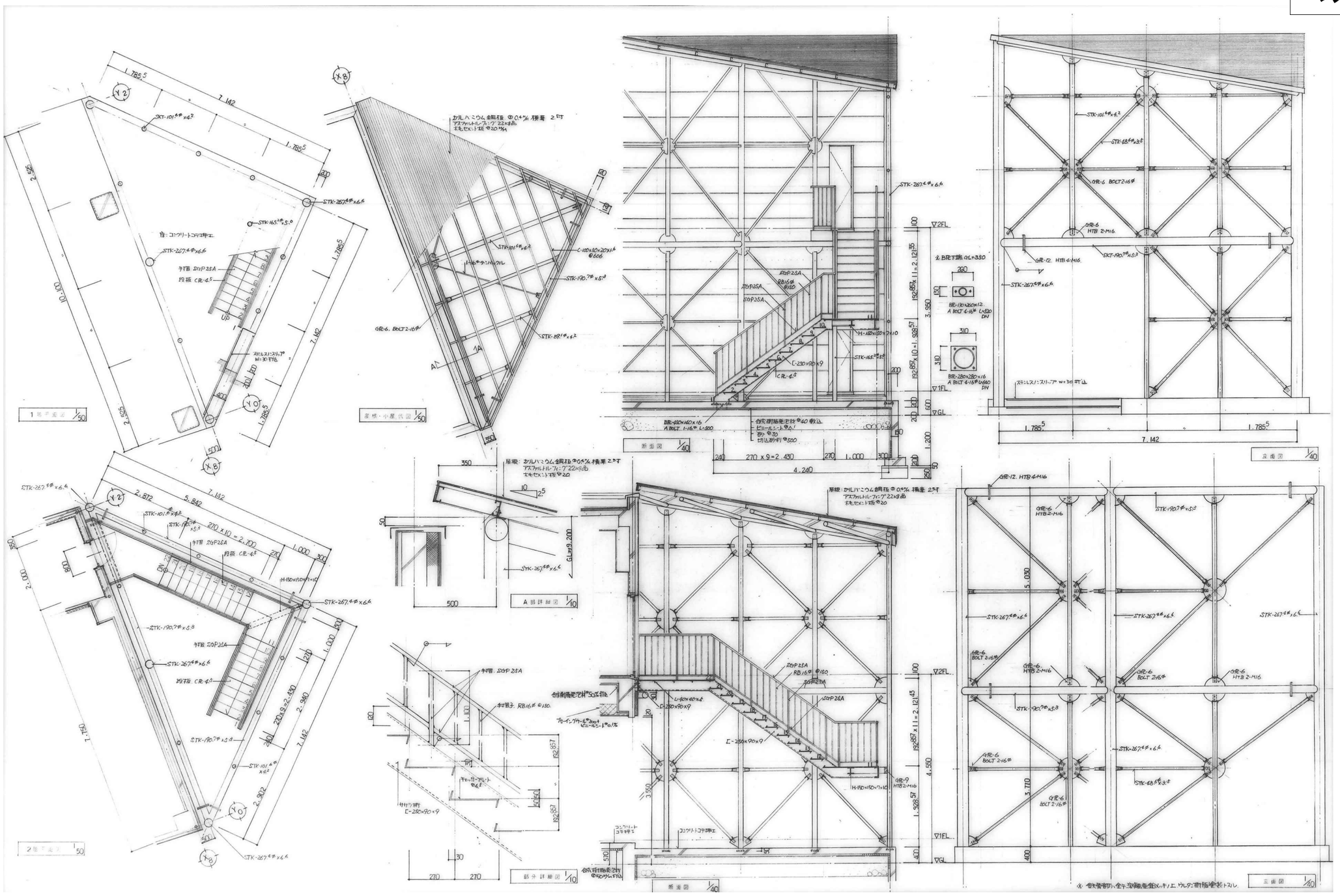
符号	2/WD
数量	3
室名	男子,女子手洗場, 器具庫B
姿図	
型式	木製片開フラッシュドアー
仕上	仝 左
硝子 / 見込	— / 40
金物	モノロック　丁番. DC

符号	3/WD
数量	1
室名	放送室
姿図	
型式	仝 左
仕上	有孔桐合板⑦5.5 O.P (内部グラスウール⑦50充填)
硝子 / 見込	— / 40
金物	モノロック　丁番　DC. ピッチブロック

既存

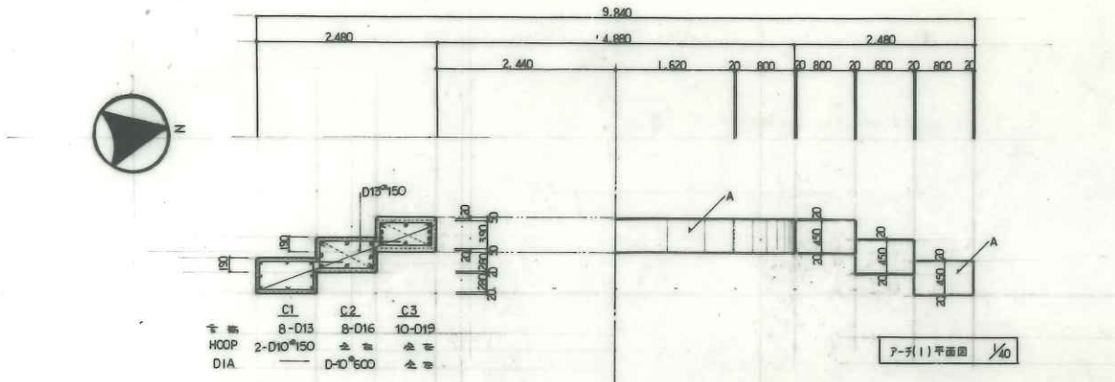
記事	株式会社 創造設計舎 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録(十)第73号 一級建築士登録第216909号 太田　豊	設計年月日 2018．11．	工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事(建築主体)	総数
			査閲 / 校正 / 担当	図面名称 屋体 既存建具表 (外壁改修面積算定用参考図) / 縮尺	図面番号 A — 45

既存

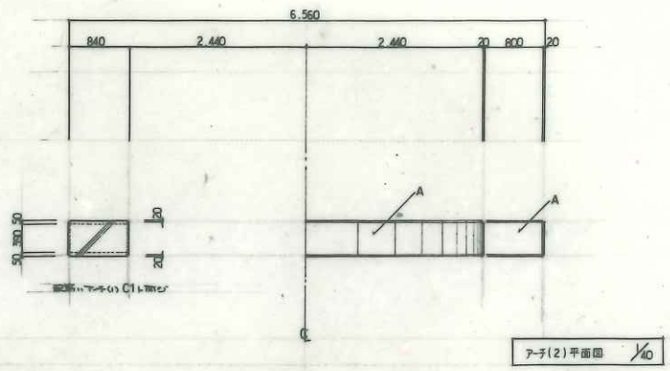


記事	株式会社 創造設計舎	帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7668 FAX 0155-21-6603	一級建築士事務所登録（＋）第73号 一級建築士登録第216909号 太田 豊	設計年月日 2018 . 11 .			工事名称 芽室西中学校校舎・屋内体育館改修工事（建築主体）	総数
				査閲	校正	担当	図面名称 校舎 屋外鉄骨階段詳細図（外壁改修面積算定用参考図）	縮尺 A1 1/50 A3 1/100 / 図面番号 A－46

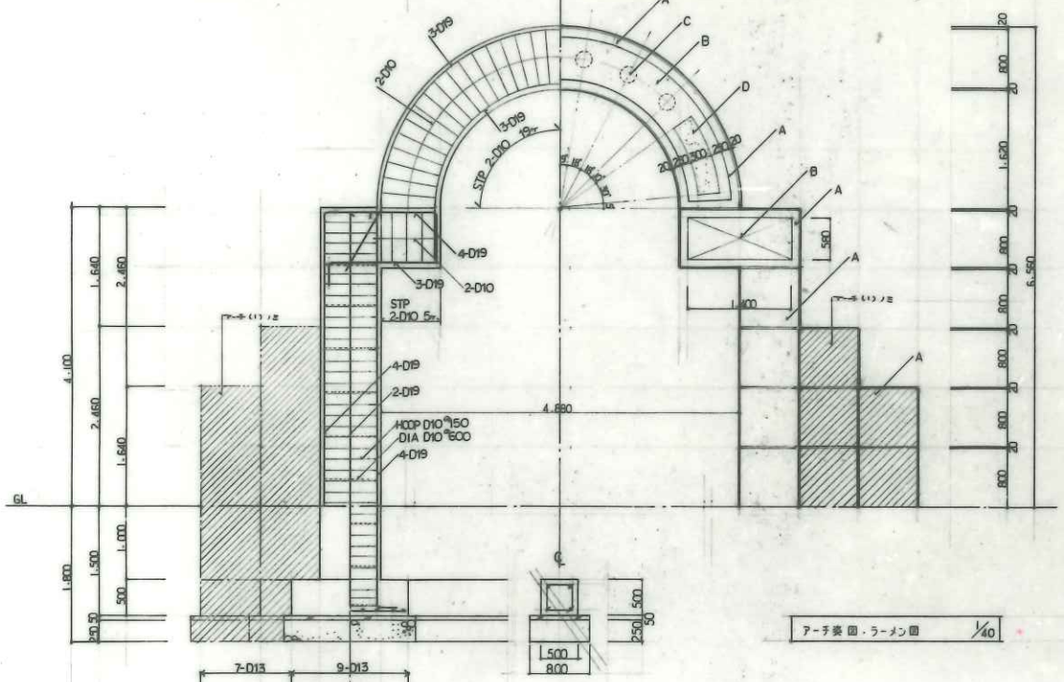
校門構造図



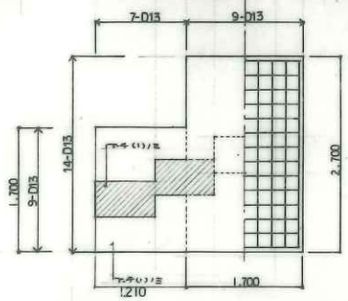
アーチ(1)平面図 1/40



アーチ(2)平面図 1/40



アーチ姿図・ラーメン図 1/40



基礎詳細図 1/10

注記

A：[illegible]

B：レリーフ（[illegible]）取付ノ上パーマシールド 1,400×[illegible]，アーチ(1)(3)背面，[illegible]

C：[illegible]（[illegible]）取付ノ上パーマシールド →アーチ(1)背面ノミ

D：[illegible]コンクリート[illegible]仕上ノ上パーマシールド →アーチ(1)(3)背面，[illegible]

※[illegible]コンクリート FC210 S-18 （[illegible]）

※レリーフ，[illegible]取付物，[illegible]仕上物ハ[illegible]コンセロ [illegible] コントロール

記事	株式会社小野設計 帯広市公園東町1丁目6番地1 TEL 0155-24-7000 FAX 0155-21-0003	一級建築士事務所登録(ヘ)第73号 一級建築士登録第143692号 岡枝 千秋	設計年月日 . .	設計	工事名称 芽室西中学校外構 工事	縮数		
			検図	担当	製図	図面名称 アーチ平面図 アーチ姿図・ラーメン図，基礎詳細図	縮尺 1/40	図面番号 —